

旭川医科大学
研究年報

第 01 集

Annual Report of Research Activities

Asahikawa Medical University

Volume 01

2023

2024 年 1 月



目 次

■旭川医科大学の研究力向上に向けて	4
■旭川医科大学学術研究表彰	5
■業績集計表	7
■医学科	
[基礎医学]	
解剖学講座(機能形態学分野)	12
解剖学講座(顕微解剖学分野)	17
生理学講座(自律機能分野)	21
生理学講座(神経機能分野)	24
生化学講座	31
薬理学講座	37
病理学講座(腫瘍病理分野)	41
病理学講座(免疫病理分野)	48
感染症学講座(微生物学分野)	54
感染症学講座(寄生虫学分野)	57
社会医学講座	62
法医学講座	67
先端医科学講座	72
[臨床医学]	
内科学講座(循環器・腎臓・呼吸器・脳神経内科学分野)	76
内科学講座(呼吸器・脳神経内科学分野)	102
内科学講座(内分泌・代謝・膠原病内科学分野)	105
内科学講座(消化器内科学分野)	109
内科学講座(血液内科学分野)	155
精神医学講座	161
小児科	
学講座	164
外科学講座(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	179
外科学講座(心臓大血管外科学分野)	212
外科学講座(肝胆膵・移植外科学分野)	227
外科学講座(消化管外科学分野)	239
整形外科学講座	249
皮膚科学講座	262

腎泌尿器外科学講座.....	272
眼科学講座.....	285
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座.....	291
産婦人科学講座.....	313
放射線医学講座.....	320
麻酔・蘇生学講座.....	325
脳神経外科学講座.....	337
歯科口腔外科学講座.....	352
救急医学講座.....	357
地域医療教育学講座.....	364
形成・再建外科学講座.....	367
■看護学科	
看護学講座.....	371
■一般教育	
心理学・社会学・数学・数理情報科学・物理学・化学・生物学・生命科学・英語.....	381
■診療科等	
リハビリテーション科.....	389
腫瘍センター.....	397
緩和ケア診療部.....	404
乳腺疾患センター.....	407
■中央診療施設等	
臨床検査・輸血部.....	414
手術部.....	419
放射線部.....	424
病理部.....	429
集中治療部.....	436
周産母子センター.....	440
経営企画部.....	446
臨床研究支援センター.....	450
遺伝子診療カウンセリング室.....	453
透析センター.....	458
医療安全管理部.....	460
薬剤部.....	463
■学内施設等	
国際交流推進センター.....	470
地域共生医育センター.....	473

インスティテューショナル・リサーチ室	475
研究技術支援センター	478
先進医工学研究センター	480

旭川医科大学の研究力向上に向けて —お互いの研究活動を知り合い、連携を強めましょう！

旭川医科大学
学長 西川 祐司

2024年度研究年報の発刊にご協力いただいた本学研究者の皆様、そして膨大なデータをまとめていただいた研究支援課の皆様、大変お疲れ様でした。本学の使命は、北海道の地域医療を支えるとともに、医科大学としてのレベルを高め、独自性の高い研究活動と先進的な医療活動を通して医学・看護学の発展に貢献することにあります。私たちが研究に真摯に取り組むことは、本学の研究レベルを向上させるだけでなく、教育活動および医療活動のレベル向上にも必須であると考えられます。

しかしながら、日本全体の科学研究の国際競争力が急激に低下していることが報道でも頻繁に取り上げられています。国の研究費配分方針としての「選択と集中」は当面変更されない見込みであり、特に医学部においては、診療活動の比重が以前より高まり、働き方改革の浸透とともに医師の研究時間が減少し、さらに厳しい状況になることが予想されます。もちろん本学も例外ではなく、本学としても国立医科大学として存在感を示すためには何としても研究力の維持・向上を目指さなければなりません。

本学の研究力を高めるために、目を外に向け、海外を含めた学外研究者と連携すること、そして科学研究費、AMEDなどを含めた外部資金をより多く獲得することは、これからさらに重要になっていくと思います。しかし、現在、本学においてすぐに私たちが始めることができ、最も効果が大きいと考えられることは、学内の研究者同士が協力し、連携し合うことです。医学科、看護学科の垣根を越えた研究交流、一般教育、基礎医学講座、臨床医学講座、各センター等のそれぞれの強みを生かした共同研究と大学院生・若手研究者の研究支援など学内のあらゆる部署の連携が含まれるべきだと思います。そしてこれらの連携により育まれる大学の雰囲気は学生教育にも良い効果を及ぼすはずです。コロナ禍の影響で学部学生の課外での研究活動が一時期途絶えておりましたが、最近は学部学生が様々な研究室に出入りするようになっており、このような形で教員と学生の良い関係が構築されることは本学の将来にとって大変素晴らしいことだと思います。

学内研究者の連携を深めるためにはまず、お互いが何をやっているかを知ることが重要です。この研究年報の発行はまさにその一歩として始まったわけですが、学内での研究セミナー、研究フォーラム、大学院セミナーなどでの発表や討論もその一環です。先日の研究フォーラムで第2回学術研究賞受賞講演がありましたが、本学にこんなに素晴らしい若手研究者が活躍されていることを知り、私は本当に勇気付けられました。本学には若手、ベテランを問わず、優秀で意欲のある研究者が実際にはたくさんいるはずですよ。

本学を含め、国立大学は厳しい財政状況に置かれていますが、そのような中でも皆さんの研究活動を支援するために最大限の努力をするつもりですので、どうぞよろしく願いいたします。

旭川医科大学学術研究表彰

学術賞受賞者

感染症学講座（寄生虫学分野）
准教授 伴戸 寛徳

研究テーマ

寄生虫トキソプラズマの再活性化機構の解明

対象論文(著者名・タイトル)

Hironori Bando, Yuhō Murata, Yongmei Han, Tatsuki Sugi,
Yasuhiro Fukuda, David J. Bzik, Barbara A. Fox, Kentaro Kato.
“Toxoplasma gondii chitinase-like protein TgCLP1 regulates
the parasite cyst burden.”



学術奨励賞受賞者

社会医学講座
講師 佐藤 遊洋

研究テーマ

口唇口蓋裂の発症リスク要因と口唇口蓋裂が児の健康状態などに与える影響を明らかにする研究

対象論文(著者名・タイトル)

Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y,
“Population Attributable Fractions of Modifiable Risk Factors
for Nonsyndromic Orofacial Clefts: A Prospective Cohort
Study From the Japan Environment and Children’s Study”

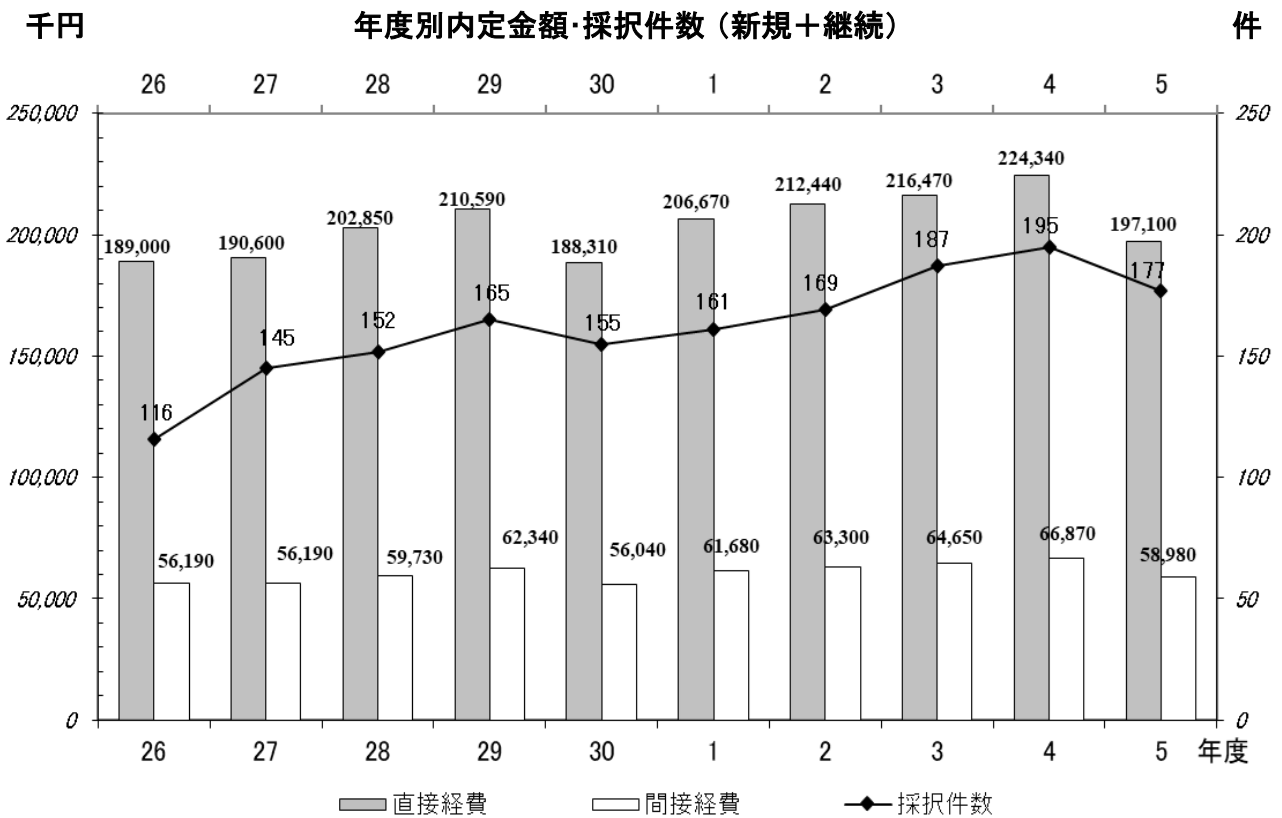
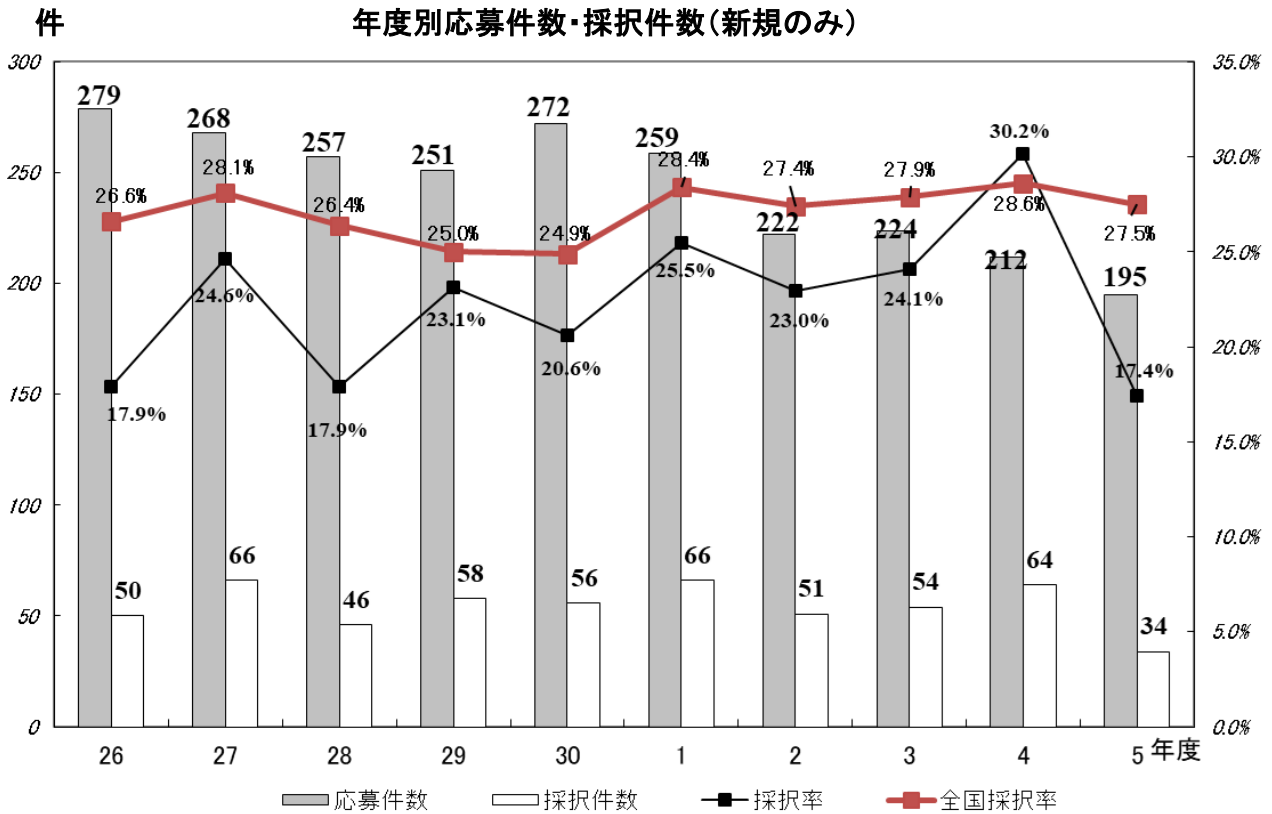


※ 学術研究表彰は、優れた研究成果をあげた旭川医科大学の研究者を表彰することにより「個々の研究者の研究意欲向上」を目的とするとともに、その研究成果とその研究内容を学内外に広め、本学の更なる研究の活性化を図るものとして、令和5年度から導入されました。

業績集計表

科学研究費助成事業(科研費) 推移

令和6年3月31日現在

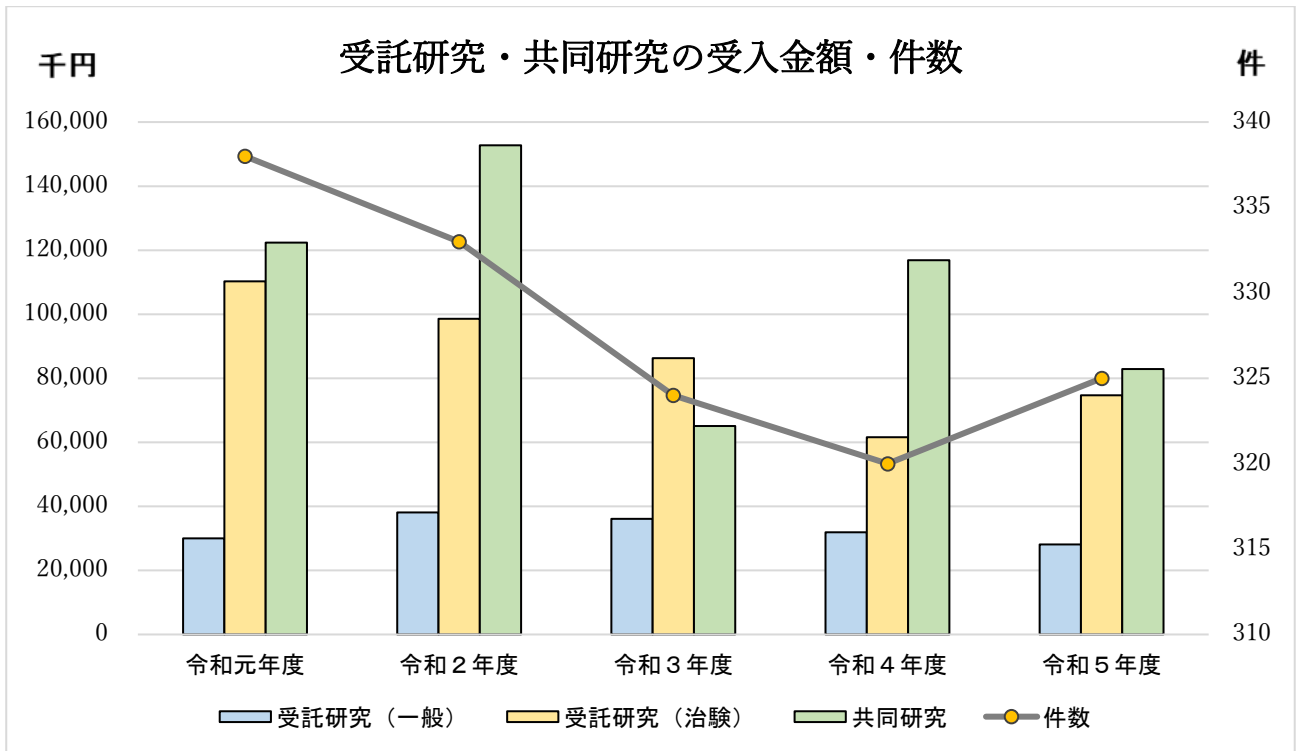


令和5年度 科学研究費助成事業 申請・採択状況

令和6年3月31日現在

(金額単位:千円)

研究種目	新規応募件数		採 択 件 数		配分額(新規+継続)	
	(R4年度 前年度)	R5年度	(R4年度 前年度)	R5年度	(R4年度 前年度)	R5年度
新学術領域研究	1	0	1	1	26,390	26,130
学術変革領域研究(A)	0	2	0	0	0	0
基盤研究(A)	1	1	0	0	0	0
基盤研究(B)	6	8	8	10	38,870	46,540
基盤研究(C)	144	123	114	113	121,290	117,130
挑戦的研究(開拓)	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽)	12	11	1	2	0	3,380
若手研究	24	16	54	43	52,390	49,790
研究活動スタート支援	5	9	7	2	9,100	1,430
国際共同研究加速基金(海外連携研究) (旧:国際共同研究強化(A))	1	3	3	3	31,200	0
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化) (旧:国際共同研究強化(B))	2	1	3	2	8,580	11,180
独立基盤形成支援	1	0	1	0	1,950	0
研究成果公開促進費 (ひらめき☆ときめきサイエンス)	1	1	1	1	500	500
奨励研究	14	20	2	0	940	0
合計	212	195	195	177	291,210	256,080



●その他競争的資金

(単位:千円)

事業名等	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計	件数	経費合計
AMED 橋渡し研究戦略的推進プログラム	1	7,000	1	7,350	1	7,320	2	4,878		
AMED 橋渡し研究プログラム							1	22,810	1	12,813
AMED 官民による若手研究者発掘支援事業 (補助事業)									1	18,174
AMED 医療研究開発推進事業費補助金									1	12,350
AMED 保健衛生医療調査等推進事業費補助金							1	6,500	2	19,500
AMED 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業・e-ASIA					1	2,386	1	3,428		
AMED 革新的医療シーズ実用化研究事業	1	83,900	1	29,750						
AMED 橋渡し研究戦略的推進プログラム・preB			1	12,103						
AMED 国際科学技術共同研究推進事業									1	9,422
AMED 次世代がん医療加速化研究事業									1	5,200
厚生労働省科学研究費補助金					2	9,043	2	8,464	1	6,000
科学技術振興機構 COIプログラム					1	3,900				
科学技術振興機構 CREST					1	390	1	59,020	1	2,600
科学技術振興機構 プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム									1	3,900
科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム (GOI-NEXT)									1	2,600
日本学術振興会 二国間交流事業					1	1,900	1	0	1	2,000
文部科学省 研究拠点形成費等補助金 (人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン)	1	22,716	1	22,937	1	14,862				
経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業									1	3,120
計	3	113,616	4	72,140	8	39,801	9	105,100	13	97,679

令和4年度 基盤的科学研究の自立化支援助成 採択一覧

通番	氏名	所属	研究課題名
1	江口 良二	生化学講座	毛細血管の形成に関与する新規因子の役割の解明
2	宇都宮 嗣了	眼科	水疱性角膜症における虹彩損傷と前房水酸化還元状態の変化の検討
3	後藤 正憲	病理学講座（腫瘍病理分野）	肝細胞癌におけるプロリン代謝酵素PRODH発現の意義
4	工藤 直志	社会学	現代の日本社会における異種移植の社会的認識の把握
5	松田 泰幸	微生物学講座	薬剤耐性アシネトバクター感染治療を目指した炎症病態の解明
6	國岡 信吾	外科学講座（心臓大血管外科学分野）	移植後早期に完全自家血管化する小口径人工血管の開発
7	広藤 愛菜	外科学講座（心臓大血管外科学分野）	Mycによる心筋細胞分裂誘導メカニズムの解明と心筋再生治療の基盤構築
8	眞鍋 貴行	臨床研究支援センター	メロキシカムの新規パーキンソン病進行抑制薬としてのターゲット分子の同定
9	寺澤 武	先進医工学研究センター	ステント付き自己組織心臓弁グラフトの開発
10	野口 智弘	生理学講座（神経機能分野）	中枢性嗅覚障害モデルマウスにおける呼吸強化による嗅覚代償機構の解明
11	伴戸 寛徳	寄生虫学講座	人体エキノコックス症に対する新規治療薬開発を見据えた薬剤スクリーニング系の開発
12	安藤 勝祥	内科（代謝・免疫・消化器・血液）（旧3内）	炎症性腸疾患におけるCircular RNA-RNA結合蛋白の相互作用の解析
13	九里 優輝	社会医学講座	ストレスチェック制度による休業予測における労働環境の影響
14	佐藤 遼介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Pentraxin-3特異的T細胞とEGFR阻害薬による新規複合免疫療法の開発
15	脇坂 理紗	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	TRK阻害薬を用いた頭頸部癌およびその神経浸潤と免疫逃避に対する新規治療法の開発
16	矢田 しずえ	看護学講座	医療的ケア児のインクルージョンに向けた保育士および幼稚園教諭による支援の検討
17	牧野 志津	看護学講座	オンラインを活用したアクションリサーチによる看看連携プログラムの開発
18	神田 浩路	社会医学講座	“狂犬病ゼロ”を維持するための公衆衛生対策に関する研究
19	古部 瑛莉子	解剖学講座（機能形態学分野）	成体延髄神経幹細胞ニッチに着目した摂食抑制メカニズムの解明
20	船山 拓也	内科学講座（病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野）（旧3内）	中枢性腸管バリア機能制御作用における脾臓の役割の解明
21	日野 千紘	教育研究推進センター	誰でも簡単にできるラット性周期同期化法の検討～フェロモンの嗅覚刺激による同期化～

助成期間：令和4年11月28日～令和5年8月31日 助成金額計995千円

解剖学講座
(機能形態学分野)

Department of Anatomy
(Functional Anatomy and Neuroscience)

I. 所属教員等

解剖学講座（機能形態学分野）

教 授	吉田 成孝
講 師	扇谷 昌宏
助 教	古部 瑛莉子
助 教	田中 佑典

II. 研究業績紹介

解剖学講座機能形態学分野は主に中枢神経のグリア細胞の機能について研究を行っている。ミクログリアは免疫のはたらきがあるグリア細胞であるが、中枢神経疾患に多様に関連していることが知られている。扇谷昌宏は独自開発したヒト単球からミクログリアに分化 (iMG) させる技術を用いて、共同研究者と共にこの iMG の機能解析を行っている。この細胞は、単球を採取した時の患者の脳のミクログリアの状態を再現できる可能性があることに着目して様々な疾患における iMG の解析を行っている。また、金属の神経細胞毒性を *in vitro* で見た場合、神経細胞単独培養時とミクログリアとの共培養を行った時には細胞毒性が異なることも見出した。

古部瑛莉子は共同研究者と共に、マウス成獣における神経幹細胞の機能解析を行っている。当研究室においても、高脂肪食投与による延髄における神経幹細胞の変化を検討しており、学会発表に続き、論文投稿中である。さらに、オリゴデンドロサイトに発現するプロテアーゼと脳虚血の関連についても研究している。

田中佑典は前の所属先で動物病理に関する研究発表をまとめると共に、当研究室においても。中枢神経でのプロテアーゼに関しての研究を細胞レベルと個体レベルにおいて進めている。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Tsuneoka Y, Nishikawa T, <u>Furube</u> E, Okamoto K, Yoshimura R, Funato H, Miyata S.	Characterization of TRPM8-expressing neurons in the adult mouse hypothalamus	Neuroscience Letters	2023.9
2) <u>Tanaka Y</u> , Watanabe K, Morita Y, Kobayashi Y	Multiple endocrine neoplasia in a sheep: insulinoma, adrenocortical carcinoma with myxoid	Journal of Veterinary Diagnostic Investigation	2023.7

- differentiation, and thyroid C-cell carcinoma
- 3) Yamazaki A, Suganuma K, Tanaka Y, Watanabe K, Kawazu S, Kita K, Inoue N Efficacy of oral administration of ascofuranone with and without glycerol against *Trypanosoma congolense* Experimental Parasitology 2023.9
 - 4) Tanaka Y, Watanabe K, Takeyama A, Tagami M, Hamano H, Fukumoto N, Nambo Y, Kobayashi Y Non-suppurative and necrotizing testicular arteritis in the male reproductive organs of a heavy draft horse Journal of Equine Science 2024.3
 - 5) Mineshige T, Tanaka Y, Watanabe K, Tagawa M, Tomihari M, Kobayashi Y Histologic, immunohistochemical, and in situ hybridization study of myxoid stroma in feline oral squamous cell carcinoma Journal of Veterinary Medical Science 2024.3
 - 6) Ohgidani M, Furube E, Tanaka Y, Yoshida S Neurotoxicity Assessment System for Metals Using Mixed Cultures of Neural and Glial Cell Lines Alternatives to Animal Testing and Experimentation 2023.9
 - 7) K Yonemoto, F Fujii, R Taira, M Ohgidani, K Eguchi, S Okuzono, Y Ichimiya, Y Sonoda, P Fee Chong, H Goto, H Kanemasa, Y Motomura, M Ishimura, Yi Koga, K Tsujimura, T Hashiguchi, H Torisu, R Kira, TA Kato, Y Sakai, S Ohga Heterogeneity and mitochondrial vulnerability configurate the divergent immunoreactivity of human induced microglia-like cells. Clinical immunology 2023.10
 - 8) N Shirozu, M Ohgidani, N Hata, S Angiogenic and inflammatory responses in Scientific reports 2023.9

Tanaka, S Inamine, N
Sagata, T Kimura, I
Inoue, K Arimura, A
Nakamizo, A
Nishimura, N
Maehara, S Takagishi,
K Iwaki, T Nakao,
Keiji Masuda, Y Sakai,
M Mizoguchi, K
Yoshimoto, TA Kato

human induced microglia-
like (iMG) cells from
patients with Moyamoya
disease.

- 9) S Li, K Sakurai, M Ohgidani, TA Kato, T Hikida
Ameliorative effects of Fingolimod (FTY720) on microglial activation and psychosis-related behavior in short term cuprizone exposed mice. Molecular brain 2023.7

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Eriko Furube, Masahiro Ohgidani, Yusuke Tanaka, Shigetaka Yoshida	Systemic inflammation leads to changes in the intracellular localization of KLK6 in oligodendrocytes in spinal cord	第 66 回 日本神経化学学会大会	2023.7
2) 古部 瑛莉子	マウス中大脳動脈閉塞再灌流モデルにおける KLK6 の発現変化と虚血脳損傷に及ぼす影響	第 69 回東北・北海道連合支部学術集会	2023.9
3) Eriko Furube	Analysis the time-dependent changes in KLK6 expression and its effects on motor function in the mouse tMCAO model	第 27 回 グリア研究会	2023.12

- | | | | | |
|----|------------------------------------|---|------------------------|---------|
| 4) | 古部瑛莉子、扇谷昌宏、田中佑典、吉田成孝 | 高脂肪食摂取が延髄最後野/中心管に存在する神経幹細胞および前駆細胞の増殖に与える影響 | 第 129 回日本解剖学会総会・全国学術集会 | 2024.3 |
| 5) | 前澤誠希、竹澤詩穂、前澤加奈、田中佑典、渡邊健一、古林与志安、猪熊壽 | 牛伝染性リンパ腫ウイルスが異なる 2 ヶ所に組込まれて B 細胞が腫瘍化する事例がある | 第 13 回家畜感染症学会学術集会 | 2023.12 |
| 6) | 田中佑典、扇谷昌宏、古部瑛莉子、吉田成孝 | 中枢神経系で発現するカリクレイン 8 がグリア細胞の機能に与える影響 | 第 129 回日本解剖学会総会・全国学術集会 | 2024.3 |
| 7) | 扇谷昌宏、田中佑典、古部瑛莉子、吉田成孝 | カリクレイン (Klk) のグリア細胞での発現とその機能的意義 | 第 129 回日本解剖学会総会・全国学術集会 | 2024.3 |
| 8) | 扇谷昌宏、古部瑛莉子、田中佑典、吉田成孝 | 神経毒性評価におけるグリア細胞の重要性：マウス由来の株化細胞を用いた基礎的検討 | 第 66 回日本神経化学学会大会 | 2023.7 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 扇谷 昌宏	継続	基盤研究 (B)	精神神経疾患におけるミクログリア活性化とは何か？ヒト細胞を用いた疾患横断的研究
2) 古部 瑛莉子	新規	若手研究	成体延髄神経幹細胞ニッチに着目した摂食抑制メカニズムの解明

解剖学講座
(顕微解剖学分野)

Department of Anatomy
(Microscopic Anatomy and Cell Biology)

I. 所属教員等

解剖学講座（顕微解剖学分野）

教 授 渡部 剛
准教授 甲賀 大輔
助 教 春見 達郎
助 教 森永 涼介

II. 研究業績紹介

解剖学講座顕微解剖学分野は、生命現象の礎となる生体の「構造」に焦点を絞り、様々な器官、組織、細胞の微細構造・分子構築の特徴やその生理的意義について、主に顕微鏡を使った解析方法で検討しています。特にこの10年間は、甲賀大輔准教授を中心として、複合的な組織中の特定の細胞を同定した上で標的細胞内における分子局在と微細構造を正確に対応付ける技術の開発に取り組んでおります。なかでも、走査型電子顕微鏡観察と免疫組織化学染色を有機的に連携させた新しい解析技法（CLEM法；光－電子相関顕微鏡法）や半自動化された連続超薄切片の観察・撮像・立体再構築技法（array tomography）に対する評価は高く、開発者の甲賀准教授は日本解剖学会や日本顕微鏡学会を中心に様々な学会でシンポジストをつとめております。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kobayashi A, Hirata T, Shimazaki T, Munesue Y, Aoshima K, Kimura T, Nio-Kobayashi J, Hasebe R, Takeuchi A, Matsuura Y, Kusumi S, Koga D, Iwasaki Y, Kinoshita T, Mohri S, Kitamoto T.	A point mutation in GPI-attachment signal peptide accelerates the development of prion disease.	Acta Neuropathol.	2023年5月
2) Ishida-Yamamoto A, Yamanishi H, Igawa S, Kishibe M, Kusumi S, Watanabe T, Koga D.	Secretion Bias of Lamellar Granules Revealed by Three-Dimensional Electron Microscopy.	J Invest Dermatol.	2023年7月

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 甲賀 大輔	走査型電子顕微鏡の表面観察・切片観察（動物）	顕微鏡学会第 79 回学術講演会	2023 年 6 月
2) 甲賀 大輔	走査電子顕微鏡によるゴルジ装置の 3D 形態解析	ExCELLS セミナー(第 31 回)	2023 年 7 月
3) 甲賀 大輔	下垂体前葉細胞の 3D 細胞学-3D 電子顕微鏡法の開発と応用-	第 37 回日本下垂体研究会学術集会	2023 年 8 月
4) 甲賀 大輔	走査電顕によるオルガネラ研究の最前線	第 69 回 日本解剖学会東北・北海道連合支部学術集会	2023 年 9 月
5) 甲賀 大輔	走査電子顕微鏡によるオルガネラの 3D 構造解析	第 96 回日本生化学会大会	2023 年 10 月
6) 平島優花、河田秋音、五味浩司、渡部剛、穂坂正博	インスリン分泌でセクレトグラニンが果たす役割	第 96 回日本生化学会大会	2023 年 11 月
7) 河田秋音、平島優花、五味浩司、渡部剛、穂坂正博	セクレトグラニンが制御する下垂体前葉ホルモンの分泌 / 産生	第 96 回日本生化学会大会	2023 年 11 月
8) 甲賀 大輔	走査電子顕微鏡によるオルガネラの 3D イメージング	弘前大学 令和 5 年度共用機器セミナー	2023 年 11 月
9) 甲賀 大輔	医学・生物学領域における SEM の新展開	第 7 回腎生検 LVSEM 研究会	2023 年 11 月
10) 穂坂正博、五味浩司、渡部剛	分泌顆粒へのホルモン輸送機構が冗長性を持つ意義：生活習慣病の危	先端モデル動物支援プラットフォーム成果発表	2024 年 2 月

	險因子としてのグラニ ンタンパク質不全	会	
11) 甲賀 大輔	CLSEM 法(Correlative light and scanning electron microscopy)の 新展開	ABiS シンポジ ウム～バイオイ メージングの未 来：モダリティ を超えて～	2024 年 2 月
12) 森永涼介, 甲賀大 輔, 久住聡, 穂坂正 博, 渡部剛	徳安法を組み合わせた CLEM 法によるラット 下垂体後葉微細構造と グラニン蛋白局在の解 析	第 129 回日本解 剖学会総会・全 国学術集会	2024 年 3 月
13) 甲賀 大輔、久住 聡、森永 涼介、渡 部 剛	オスミウム浸軟法 –新 たな可能性を求めて–	第 129 回日本解 剖学会総会・全 国学術集会	2024 年 3 月

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
渡部 剛	継続	基盤研究 (B)	負荷で顕在化するホルモン分泌不全の 謎：グラニン蛋白欠損マウスから生活習 慣病に迫る
甲賀 大輔	再延長	基盤研究 (C)	先端的 3D イメージング技術で解き明か す下垂体前葉細胞に特異な一次線毛の存 在意義
森永 涼介	継続	若手研究	視床下部-下垂体後葉系の神経分泌細胞で 発現するグラニン蛋白の機能的意義の解 明

生理学講座
(自律機能分野)

Department of Physiology
(Autonomous Function)

I. 所属教員等

生理学講座（自律機能分野）

教授 入部 玄太郎
助教 金子 智之
助教 千葉 弓子

II. 研究業績紹介

生理学講座自律機能分野では現在は主に心臓の機械刺激に対する反応の生理的・病態生理的意義を解明する研究に取り組んでいる。現在の教員数は教授1名、助教2名である。

2022年度は、前年度から継続している科研費研究課題（基盤研究C×3題、研究活動スタート支援）に加え、若手研究（「課題名：心臓の生理的 ROS シグナリングと心不全の過剰酸化ストレスの関係」2022～2024、研究代表 千葉弓子）が採択され、心臓機械感受性研究が大きく進んだ。論文成果として、生理学研究所との共同研究の論文および岡山大学との共同研究による論文が発表となった。

学会発表としては、岡山大学との共同研究によるヒト心筋細胞を用いた研究、高静水圧を用いた研究など、多施設研究ならではの独自の標本・手法を用いた独創的研究結果を発表することができた。また最近の教室のメインテーマである糖尿病性心筋症と伸展誘発性酸化ストレスに関する研究結果について国際学会を含めて3つの学会で発表することができた。また、第43回循環制御医学会においては教育講演を行い、心臓力学・機械感受性研究のおもしろさを広くアピールすることができた。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
Keiko Kaihara, Hiroaki Kai, Yumiko Chiba, Keiji Naruse, Gentaro Iribe	Stretch-induced reactive oxygen species contribute to the Frank–Starling mechanism	The Journal of Physiology	2023.4

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 山口陽平、金子智之、入部玄太郎	Suppression of TRPC6 augments Frank–Starling	第100回日本生理学会大会	2023.3

		mechanism in mouse cardiomyocyte		
2)	小松 弘明、小谷 恭 弘、貝原 恵子、成瀬 恵治、笠原 真悟、入 部 玄太郎	ヒト単離心筋細胞における長 さ張力関係を用いた力学機能 評価	第 100 回日本生 理学会大会	2023.3
3)	千葉弓子、金井秀 太、板倉正道、入部 玄太郎	SGLT2 阻害薬は心臓の機械 的負荷由来の酸化ストレスを 抑制する	第 44 回日本循 環制御医学会	2023.6
4)	千葉弓子、入部玄太 郎	高脂肪食負荷マウスでは臓器 間ネットワークを介して心筋 の機械的負荷誘発性 ROS 産 生を増強する	第 103 回日本生 理学会北海道地 方会	2023.9

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 入部 玄太郎	継続	基盤研究 (C)	心筋機械感受性制御における ROS シグナリ ングの役割とその心不全治療への展開
2) 千葉 弓子	継続	若手研究	心臓の生理的 ROS シグナリングと心不全の 過剰酸化ストレスの関係

生理学講座
(神経機能分野)

Department of Physiology
(Neuroscience)

I. 所属教員等

生理学講座（神経機能分野）

教 授 高草木 薫

准教授 千葉 龍介

講 師 野口 智弘

助 教 高橋 未来

II. 研究業績紹介

昨年度の研究業績は、①本講座における独自の研究、②他の講座との共同研究、③他研究機関との共同研究、の3つがあります。これらの研究成果である英文原著論文、著書、研究発表を以下、報告させていただきます。

① 本講座における独自の研究

本講座では動物やヒトの運動機能（主に、姿勢制御と歩行運動）に関する研究を展開しております。本内容に関しては同講座では、これ迄 80 編を超える英文原著・総説論文と 70 編を超える邦文解説論文を報告して参りました。2023 年度は、パーキンソン病における姿勢と歩行障害のメカニズムに関して、世界中の神経学者の教科書である Handbook of Clinical Neurology に、前頭葉による歩行制御（Gate control by the frontal lobe）とのタイトルで、本講座の研究成果に基づく「二足歩行のメカニズム」について 1 chapter を記すことができました。

② 他講座との共同研究

内科学講座（旧第三内科）ならびに地域医療教育学講座との共同研究において、脳と消化管機能の連関に関する共同研究を約 20 年に渡って実施しております。脳神経系の様々な異常が、消化器の機能障害を誘発することを証明する毎年 3-4 編のペースで原著論文として報告しております。

③ 他研究機関との共同研究

東京大学大学院（工学系研究科）と「姿勢と歩行の調節に關与する脳-身体連関」の共同研究を 20 年間に渡り実施しております。2023 年度は、パーキンソン病における姿勢異常に関する数理モデル研究の成果を含む数編の原著論文を提出するに至りました。また、高草木は、国際運動障害学会の Executive member も務めており、パーキンソン病等における歩行障害に関する国際共同研究論文の執筆にも貢献しております。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yuichiro Omura, Hiroki Togo, Kohei Kaminishi, Tetsuya Hasegawa, Ryosuke Chiba, Arito Yozu, Kaoru Takakusaki, Mitsunari Abe, Yuji Takahashi, Takashi Hanakawa, Jun Ota	Analysis of abnormal posture in patients with Parkinson's disease using a computational model considering muscle tones	Frontiers in Computational Neuroscience	2023.10
2) Yuichiro Omura, Hiroki Togo, Kohei Kaminishi, Tetsuya Hasegawa, Ryosuke Chiba, Arito Yozu, Kaoru Takakusaki, Mitsunari Abe, Yuji Takahashi, Takashi Hanakawa, Jun Ota	Analysis of the Relationship Between Muscle Tones and Abnormal Postures in a Computational Model	2023 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC)	2023.7
3) Rui Huang, Kohei Kaminishi, Tetsuya Hasegawa, Arito Yozu, Ryosuke Chiba, Jun Ota	Estimation of center of pressure information by smartphone sensors for postural control training	2023 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC)	2023.7
4) Tetsuya Hasegawa, Tomoki Mori, Kohei Kaminishi, Ryosuke Chiba, Jun Ota, Arito Yozu	Effect of Sway Frequency on the Joint Angle and Center of Pressure in Voluntary Sway	Journal of Motor Behavior	2023.7
5) Arito Yozu, Kohta Sonoda, Tetsuya Hasegawa, Kohei Kaminishi, Michihiro	Effect of experimentally induced plantar pain on trunk posture during gait	Journal of Physical Therapy Science	2023.9

Osumi, Masahiko
Sumitani, Ryosuke
Chiba, Jun Ota

- 6) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, Takakusaki K, Okumura T. Phlorizin attenuates postoperative gastric ileus in rats. Neurogastroenterol Motil 2023.11
- 7) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, Takakusaki K, Okumura T. J Imeglimin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in irritable bowel syndrome rat model. Pharmacol Sci. 2023.9

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) Takakusaki K	Handbook of Clinical Neurology (Chapter 5-Gait control by the frontal lobe.)	Elsevier	2023.8

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 野口智弘, 笹島仁, 宮園貞治, 高橋未来, 佐藤元, 志賀英明, 高草木薫	匂い嗅ぎ中のマウス呼吸波形の特微量抽出	第101回日本生理学会大会	2024.3
2) 野口智弘, 笹島仁, 宮園貞治, 高橋未来, 佐藤元, 志賀英明, 高草木薫	嗅覚運動系によって制御される呼吸波形パラメータの探索	日本味と匂学会 第57回大会	2023.9
3) 野口 智弘, 笹島仁, 宮園 貞治, 高橋未来, 高草木 薫	匂い刺激下における呼吸波形の特微量抽出の試み	第103回北海道医学大会生理系分科会	2023.9
4) 藤原 悠平, 長谷川 哲也, 上西 康平, 千葉 龍介, 太田 順, 四津	パーキンソン病患者の二重課題	2024年度精密工学会春季大会学術講演会	2024.3

- 有人
- 5) 石川 茂一, 長谷川 哲也, 上西 康平, 千葉 龍介, 太田 順, 四津 有人
パーキンソン病の症状改善に寄与する歩行要素の特定
2024 年度精密工学会春季大会学術講演会
2024.3
- 6) 千葉 龍介, 江藤 人拓, 尾村 優一郎, 上西 康平, 高草木 薫, 太田 順
三次元筋骨格モデルにおける歩行最適化手法の検討
第 35 回自律分散システム・シンポジウム
2024.2
- 7) 尾村 優一郎, 東口 大樹, 上西 康平, 長谷川 哲也, 千葉 龍介, 四津 有人, 高草木 薫, 阿部 十也, 高橋 祐二, 花川 隆, 太田 順
ドーパミン情報に基づく神経筋骨格モデルの筋緊張制御パラメータ推定
第 35 回自律分散システム・シンポジウム
2024.2
- 8) 上西 康平, 石川 茂一, 長谷川 哲也, 千葉 龍介, 四津 有人, 高草木 薫, 太田 順
説明可能 AI を利用した DAT SPECT 画像と運動機能との関係の解析
第 37 回日本大脳基底核研究会
2023.8
- 9) Takakusaki K.
Posture-gait control by the basal ganglia – brainstem system.
International Symposium on Brain Science (Messages to the Next Generation). (Symposium speaker)
2024.3
- 10) Takakusaki K
Functional Neuroanatomy of Human Movements.
International Rehabilitation Conference 2023. (Invited WEB Lecture).
2023.11
- 11) 高草木 薫
姿勢と歩行の神経科学
第 53 回 日本臨床神経生理学学会学術大会 (教育特別講演)
2023.11

- | | | | |
|---|---|---|---------|
| 12) Takakusaki K,
Fukuyama S,
Takahashi M,
Noguchi T. | Role of dopaminergic and
cholinergic interaction at the
brainstem in posture-gait
control. | 2nd International
Symposium on
Hyper-
adaptability
(HypAd2023).
(Symposium
speaker) | 2023.10 |
| 13) 高草木 薫 | 姿勢と歩行の科学（転倒を誘
発する要因とは） | 第 103 回北海道
医学大会各科ト
ピックス. | 2023.10 |
| 14) 高草木 薫, 福山秀
青, 高橋未来, 野口
智弘, 千葉龍介. | 大脳基底核は脚橋被蓋核のコ
リン作動性ニューロンを介し
て筋緊張を制御する. | 第 103 回北海道
医学大会・生理
系分科会 | 2023.9 |
| 15) Takakusaki K,
Fukuyama S,
Takahashi M,
Noguchi T. Chiba R. | Regulation of posture and gait
by dopaminergic system in the
brainstem. | 46th JNS annual
meeting | 2023.8 |
| 16) 高草木 薫, 高橋未
来, 野口智弘, 千葉
龍介. 太田順. | 超適応と姿勢制御（網様体脊
髄路の機能）. | 日本リハビリテ
ーション学会,
合同シンポジウ
ム「リハビリテ
ーションにおけ
る超適応」 | 2023.6 |
| 17) Mirai Takahashi,
Toshi Nakajima,
Shusei Fukuyama,
Tomohiro Noguchi,
Ryosuke Chiba,
Kaoru Takakusaki | The roles of the posterior
parietal cortex on postural
control during forelimb
reaching movement in the cat. | 2nd International
Symposium on
Hyper-
Adaptability | 2023.10 |
| 18) 高橋 未来, 谷口 大祐,
Cioffi Ettore, 船山
学, 福山 秀青, 伊藤
拓哉, 中島 敏, 石子
智士, 知見 聡美, 中島
明日香, 波田野 琢, 田
崎 嘉一, 長谷川 一子, | 30 年以上の長期飼育後に安静
時振戦を呈し L-DOPA 製剤が
奏効したカンクイザルの 1 例 | 第 103 回北海道
医学大会生理系
分科会 | 2023.9 |

下 泰司, 南部 篤, 服
部 信孝, 高草木 薫

- 19) 高橋 未来, 谷口 大祐, 30 年以上の飼養後に振戦を呈 第 37 回日本大脳 2023.8
Cioffi Ettore, 船山 した カニクイザルの 1 症例 基底核研究会
学, 福山 秀青, 伊藤
拓哉, 中島 敏, 石子
智士, 知見 聡美, 中島
明日香, 波田野 琢, 田
崎 嘉一, 長谷川 一子,
下 泰司, 南部 篤, 服
部 信孝, 高草木 薫

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 高草木 薫	繰越	新学術領域研究 (研究領域提案型)	神経伝達物質の異常に伴う超適応を誘発する脳活動ダイナミクスの変容
2) 千葉 龍介	新規	基盤研究 (C)	筋骨格モデルによる筋緊張に着目したヒトの歩行開始・停止動作のメカニズム解明
3) 千葉 龍介	再々延長	基盤研究 (C)	数理モデルによる姿勢制御における表面体性感覚の付与の効果の解析
4) 野口 智弘	新規	基盤研究 (C)	中枢性嗅覚障害における嗅球ドーパミン神経細胞死と匂い嗅ぎ呼吸調節の因果関係
5) 野口 智弘	再延長	基盤研究 (C)	中枢性嗅覚障害の機能回復期における嗅球ドーパミン神経更新とシナプス形成の時空間制御
6) 高橋 未来	延長	若手研究	姿勢制御の最適化を実現する高次脳機能メカニズムの解明

生化学講座

Department of Biochemistry

I. 所属教員等

生化学講座

教 授	川辺 淳一
准 教 授	矢澤 隆志
講 師	山崎 和生
講 師	中島 恵一
助 教	安田 哲
助 教	鹿原 真樹
助 教	渡辺 裕伍

II. 研究業績紹介

従来の生化学講座の教官である大保先生や山崎先生の「Ca ポンプ蛋白機能解析研究」や、矢澤先生の「ステロイド産生機構研究」に加え、川辺らを中心とした「毛細血管研究」が、これまでの心血管再生先端医療講座の総合研究棟 5F から生化学講座の 8F に移ってきた形になる。毛細血管の形成を制御する分子や新規の毛細血管幹細胞の発見といった研究成果を基軸に、虚血、糖代謝異常、炎症、さらに組織再生や老化と多岐にわたるプロジェクトを展開し、Translational Research も見据えた専門分野や講座の枠をこえた学内外の連携研究活動を進めている。これまで、さまざまな臨床講座から集ってくれた 20 名の大学院生が巣立ち、海外留学も含め各フィールドで活躍している。現在も 5 名の大学院生が忙しい臨床業務の傍ら研究を進めている。（「脈管研究クラスター」ホームページ参照 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/biochem2/>）

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Watanabe Y, Fisher LC, Campbell RE, Jasoni CL	Defining potential targets of prenatal androgen excess: expression analysis of androgen receptor on hypothalamic neurons in the fetal female mouse brain	Journal of Neuroendocrinology	2023.5
2) Decourt C, Watanabe Y, Evans MC, Inglis MA, Fisher LC, Jasoni CL,	Deletion of androgen receptors from kisspeptin neurons prevents PCOS features in a letrozole mouse model	Endocrinology	2023.5

Rebecca CE,
Anderson GM

- 3) Nara A, Inoue A, Aoyama Y, Yazawa T The ultrastructural function of MLN64 in the late endosome-mitochondria membrane contact sites in placental cells Experimental Cell Research 429(2) 2023.5
- 4) Masunaga Y, Tanikawa W, Nakashima S, Ueda D, Sano S, Fukami M, Saitsu H, Yazawa T, Ogata T Serum steroid metabolite profiling by LC-MS/MS in two phenotypic male patients with HSD17B3 deficiency: implications for hormonal diagnosis. Disease The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology 234 2023.8
- 5) Tatsukawa T, Kano K, Nakajima KI, Yazawa T, Eguchi R, Kabara M, Horiuchi K, Hayasaka T, Matsuo R, Hasebe N, Azuma N, Kawabe JI. NG2-positive pericytes regulate homeostatic maintenance of slow-type skeletal muscle with rapid myonuclear turnover. Stem Cell Research and Therapy. 2023.8
- 6) Yazawa T, Imamichi Y, Sato T, Ida T, Umezawa A, Kitano T Diversity of Androgens; Comparison of Their Significance and Characteristics in Vertebrate Species Zoological Science 41(1) 2024.2

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

1) 川辺淳一	シンポジウム アカデミア創薬研究の未来創造 「毛細血管からみる再生・老化研究の展望」	日本心脈管作動物質学会	2024.02
2) 川辺淳一	シンポジウム 脈管形成と機能獲得の時空間ダイナミクス Role of perivascular cells in cellular dynamic equilibrium for muscular homeostatic maintenance	日本分子生物学会	2023.11
3) 川辺淳一	招待講演 Role of pericytes in multi-cellular organisms	H I G O最先端研究セミナー（熊本大学リエゾンラボ研究会）	2023.04
4) 佐藤栄晃	「NG2 陽性周細胞は迅速な筋核のターンオーバーを介して遅筋の恒常性維持に寄与する」	骨格筋生物学研究会	2024.03
5) 山崎和生	筋小胞体 Ca ²⁺ -ATPase のリン酸化中間体形成過程に対する脂質の違いによる影響	日本生体エネルギー研究会 第 49 回討論会	2023.12
6) 大保貴嗣	筋小胞体 Ca ポンプのリン酸化中間体の反応と A-ドメインのはたらきについて	日本生体エネルギー研究会 第 49 回討論会	2023.12
7) 山崎和生	筋小胞体 Ca ²⁺ -ATPase のリン酸化中間体形成過程に対する脂質の違いによる影響	第 9 6 回日本生化学会大会	2023.10
8) 大保貴嗣	筋小胞体 Ca ポンプのヘリックス M2/M6/M4 の Ca 輸送における役割	第 9 6 回日本生化学会大会	2023.10
9) 矢澤隆志	胎盤における性ステロイドと産生酵素遺伝子発現の種差	第 3 回 RCHAT セミナー	2023.4
10) 矢澤隆志	幹細胞の多能性維持と分化におけるニコチン受容体の役割	令和 4 年度喫煙科学財団報告会	2024.7

11) 矢澤隆志	ステロイドおよびステロイド受容体の活性評価システムの開発	COI-NEXT セミナー	2024.1
12) 矢澤隆志	PAHs が生殖腺ステロイドホルモン産生に及ぼす新たな分子機序の解明	2023 年度共同研究成果報告会 金沢大学環日本海域環境研究センター	2024.3
13) 矢澤隆志、セIFル・イスラム	胎盤における HSD17B1 遺伝子の発現メカニズムと意義の解明	日本動物学会北海道支部第 68 回大会	2024.3
14) Watanabe Y	Prenatal androgenization causes lifelong changes in androgen receptor expression in the female mouse arcuate nucleus	20th Anniversary Centre for Neuroendocrinology Symposium	2023.11

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 川辺 淳一	継続	基盤研究 (C)	毛細血管周細胞化する組織内の真の間葉系幹細胞の同定と組織再生における役割の解明
2) 大保 貴嗣	延長	基盤研究 (C)	カルシウムポンプとフリッパーゼ; 触媒部位から輸送部位への構造変化の伝達機構
3) 山崎 和生	延長	基盤研究 (C)	筋小胞体カルシウムポンプの脱共役モードの解析
4) 鹿原 真樹	継続	基盤研究 (C)	血糖調節および腓島神経網の維持における毛細血管幹細胞の役割
5) 中島 恵一	新規	基盤研究 (C)	新たな遅筋特異的幹細胞の発見と骨格筋維持における役割の解明
6) 中島 恵一	延長	研究活動スタート支援	毛細血管幹細胞による骨格筋分化の証明と分子メカニズムの解明
7) 平井 理子	延長	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(A))	肺癌タンパク多量体化阻害ペプチドの実用化を目指した安定性と細胞内デリバリーの探究

8) 堀内 至	継続	若手研究	糖尿病病態下の大血管リモデリングに対する継続血管形成因子 Ninjurin1 の役割
9) 蓑島 暁帆	継続	若手研究	冠動脈プラーク内血管の三次元解析によるプラーク不安定化に関わる血管形成因子の同定
10) 鹿野 耕平	継続	若手研究	骨格筋組織維持における毛細血管幹細胞の多分化能を規定する Ninjurin1 の役割
11) 松尾 梨沙	継続	若手研究	糖尿病の創傷治癒遅延における Ninjurin-1 の役割解明

薬理学講座

Department of Pharmacology

I. 所属教員等

薬理学講座

教 授	中山 恒
准 教 授	結城 幸一
助 教	谷内 秀輔
助 教	小林 之乃

II. 研究業績紹介

私たちの研究室では「低酸素」に焦点を当てた研究を進めています。空気中の酸素濃度(21%)と比べて、体内は一般に低酸素状態にあります。さらに、心筋梗塞・脳梗塞・がんなどの疾患では、時に無酸素に近い厳しい低酸素環境にさらされます。私たちは特にがんに着目した研究を展開しています。がんはそれ自身が高い増殖能を保持しているのみならず、がんを取り巻く体内微小環境に適応し、それを巧みに利用しながら、自身の生存・増殖に利用しています。がんが低酸素環境に応答する時には、さまざまな遺伝子の発現が上昇します。この時に、中心的な働きをするのが転写因子 Hypoxia-Inducible Factor (HIF) です。さらに遺伝子発現が変化する時には、クロマチンの構造が変化することも知られています。そこで私たちは、低酸素応答時の遺伝子発現にもクロマチン構造変化が関与するのかを検証し、低酸素に応答して多数の遺伝子領域でクロマチン構造変化が起こることを明らかにしました。現在はこの解析を低酸素の異なるタイミングで行い、クロマチン構造変化がどのタイミングで起こり、どのような遺伝子の発現を制御しているのか、その全体像を明らかにすることをめざしています。さらに、長期的な低酸素環境が、がんの性質やがん幹細胞性に与える影響を、分子レベルで解析しています(小林助教)。この研究は、島根大学医学部のグループとの共同研究で進めています。腫瘍内のがん微小環境では、低酸素に加えてさまざまなストレスが生じますが、これらのストレス応答のシグナル伝達の解析も行っています(谷内助教)。また、がんに加えて精巣捻転時の個体での低酸素応答の役割の研究を進めており(結城准教授)、分子、細胞からマウス個体を用いた幅広いアプローチで、低酸素応答の全容を明らかにすることを目指しています。さらに、社会貢献活動の一環として、夏休み期間に中学生向けの実験講座を学内で開催し(科研費：研究成果公開発表B)、次代を担う若者たちに研究の楽しさを伝える取り組みを実施しました。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kanno T, Nakagawa N, Aonuma T, Kawabe J, Yuhki K, Takehara N, Hasebe N, Ushikubi F	Prostaglandin E2 mediates the late phase of ischemic preconditioning in the heart via its receptor subtype EP4.	Heart Vessels	2023.4

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等 の名称	発表年月
1) 中山 恒	Regulation of gene expression during early and late phase of hypoxic response	第 74 回日本薬理学 会北部会	2023.9
2) 中山 恒	早期と長期の低酸素応答 を制御する分子機構	第 96 回日本生化学 会大会	2023.11
3) Satoshi Sueoka, Azusa Kai, Yukino Kobayashi, Shinsuke Sasada, Akiko Emi, Koh Nakayama, Morihito Okada, Takayuki Kadoya	Establishment of a selective culture method for breast cancer stem cells derived from patient tissue and a subgroup analysis of cancer stem cells	San Antonio Breast Cancer Symposium 2023	2023.12
4) Koh Nakayama, Elizabeth Finn and Tom Misteli	Induction of Nuclear Gene Repositioning in response to Hypoxia -a Large Scale Analysis of Hypoxia-Responsive Genes-	CellBio23 (American Society for Cell Biology and EMBO joint meeting)	2023.12
5) 中山 恒	長期低酸素下における低 酸素応答シグナルと小胞 体ストレス応答シグナル の相互作用	第 46 回日本分子生 物学会年会	2023.12

- 6) 小林之乃、中山 恒 Suppression of tumor spheroid formation by matrix metalloproteinase 19 (MMP19) in pyruvate dehydrogenase-E1b (PDH-E1b) knockdown (KD) cells 第 97 回日本薬理学 会年会 2023.12

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 中山 恒	新規	ひらめき☆ ときめきサ イエンス	「作って、見て、測る」実験で体感しよう！ 私たちの体が酸素を感知するしくみ
2) 中山 恒	継続	基盤研究 (C)	代謝酵素 PDH の新たな機能—代謝と遺伝子 発現の連携によるがん促進機構の解明
3) 小林 之乃	新規	若手研究	低酸素急性期から慢性期でスイッチングする 乳がん幹細胞維持機構の解明

病理学講座
(腫瘍病理分野)

Department of Pathology
(Tumor Pathology)

I. 所属教員等

病理学講座（腫瘍病理分野）

教 授	高澤 啓
助 教	後藤 正憲
助 教	藤井 裕美子
助 教	田中 宏樹

II. 研究業績紹介

腫瘍病理分野では、2023年8月より、高澤啓教授が着任し、腫瘍病理学を中心に新たなテーマを含めた研究を進めています。2023年度、当研究室からは総説が1報、論文が11報掲載され、学会発表は10回行われました。

病理検体を用いたプロテオーム解析による疾患バイオマーカー探索、質量分析装置を用いたインタラクトーム解析、病理検体を用いた免疫組織学的な解析、電子顕微鏡を用いた疾患の微細構造解析、COVID-19解剖症例の病理組織学的解析、マウス発癌モデルを用いた肝発癌メカニズム解析、血小板によるDDSの検討など、多彩な手法を用いた研究を行い、成果を上げています。学会活動として、日本病理学会、肝細胞研究会、日本癌学会学術総会、北海道病理談話会にて、口頭またはポスター発表を行いました。各スタッフが、マウス発癌モデルを用いた解析、脂質ホスファターゼ SHIP2 の細胞内局在解析、腫瘍関連血小板に着目した解析などの研究成果を発表しました。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Takasawa A, Takasawa K, Murata M, Osanai M, Sawada N.	Emerging roles of transmembrane-type tight junction proteins in cancers.	Pathology International	2023.8

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yuji Uno, Hiroki Tanaka, Keita Miyakawa, Naoko Akiyama, Yuki Kamikokura, Sayaka Yuzawa, Masahiro Kitada, Hidehiro Takei, Mishie Tanino	Subcellular localization of hTERT in breast cancer: insights into its tumorigenesis and drug resistance mechanisms in HER2-immunopositive breast cancer	Human pathology	2023.4

- 2) Nishikawa Y, Matsuo Y, Watanabe R, Miyazato M, Matsuo M, Nagahama Y, Tanaka H, Ooshio T, Goto M, Okada Y, Fujita S. Hepatocyte-specific damage in acute toxicity of sodium ferrous citrate: Presentation of a human autopsy case and experimental results in mice. *Toxicol Rep* 2023. 5
- 3) Kitajima H, Maruyama R, Niinuma T, Yamamoto E, Takasawa A, Takasawa K, Ishiguro K, Tsuyada A, Suzuki R, Sudo G, Kubo T, Mitsuhashi K, Idogawa M, Tange S, Toyota M, Yoshido A, Kumegawa K, Kai M, Yanagihara K, Tokino T, Osanai M, Nakase H, Suzuki H. TM4SF1-AS1 inhibits apoptosis by promoting stress granule formation in cancer cells. *Cell Death and Disease* 2023.8
- 4) Sato M, Inoue A, Takasawa A, Takasawa K, Kyuno D, Ono Y, Magara K, Osanai M. Elevated expression of endocan in the development of cervical squamous neoplasia of the uterus. *Medical Molecular Morphology* 2023.8

- 5) Sekiguchi S, Yorozu A, Okazaki F, Niinuma T, Takasawa A, Yamamoto E, Kitajima H, Kubo T, Hatanaka Y, Nishiyama K, Ogi K, Dehari H, Kondo A, Kurose M, Obata K, Kakiuchi A, Kai M, Hirohashi Y, Torigoe T, Kojima T, Osanai M, Takano K, Miyazaki A, Suzuki H. ACLP Activates Cancer-Associated Fibroblasts and Inhibits CD8+ T-Cell Infiltration in Oral Squamous Cell Carcinoma. *Cancers (Basel)* 2023.8
- 6) Kyuno D, Tateno M, Ono Y, Magara K, Takasawa K, Takasawa A, Osanai M. Common pathological findings in the heart in COVID-19-related sudden death cases: An autopsy case series. *Heliyon* 2023.10
- 7) Hidemi Hayashi, Koji Sawada, Hiroki Tanaka, Kazuki Muro, Takumu Hasebe, Shunsuke Nakajima, Toshikatsu Okumura, Mikihiro Fujiya. The effect of heat-killed *Lactobacillus brevis* SBL88 on improving selective hepatic insulin resistance in non-alcoholic fatty liver disease mice without altering the gut microbiota. *Journal of gastroenterology and hepatology* 2023.10
- 8) Emori M, Nakahashi N, Takasawa A, Murata K, Murahashi Y, Shimizu J, Tsukahara T, Sugita S, Takada K. Establishment and characterization of a novel dedifferentiated chondrosarcoma cell line, SMU-DDCS, harboring an IDH1 mutation. *Human Cell* 2023.11

Hasegawa T, Osanai
M, Iba K.

- 9) Magara K, Takasawa A*, Kikuchi K, Sugawara T, Murakami T, Kyuno D, Ono Y, Takasawa K, Numata Y, Sasaki S, Nakase H, Hasegawa T, Osanai M. A novel approach to diagnosing crystal-storing histiocytosis: utility of scanning electron microscopy for formalin-fixed paraffin-embedded tissue specimens. Medical Molecular Morphology 2023.12
- 10) Aoki H, Takasawa A, Yamamoto E, Niinuma T, Yamano HO, Harada T, Kubo T, Yorozu A, Kitajima H, Ishiguro K, Kai M, Katanuma A, Shinohara T, Nakase H, Sugai T, Osanai M, Suzuki H. Downregulation of SMOC1 is associated with progression of colorectal traditional serrated adenomas. BMC Gastroenterology 2024.1
- 11) Ijaz Ahmad, Seiichi Omura, Fumitaka Sato, Ah-Mee Park, Sundar Khadka, Felicity N E Gavins, Hiroki Tanaka, Motoko Y Kimura, Ikuo Tsunoda Exploring the Role of Platelets in Virus-Induced Inflammatory Demyelinating Disease and Myocarditis International journal of molecular sciences 2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 後藤正憲、山本雅大、田中宏樹、藤井裕美子、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	活性化された Notch 経路と Myc によって誘導されるマウス肝腫瘍：Myc と N-Myc の比較	第 112 回日本病理学会総会	2023.4
2) 藤井裕美子、後藤正憲、田中宏樹、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	肝内胆管細胞における脂質ホスファターゼ SHIP2 の核内機能	第 112 回日本病理学会総会	2023.4
3) 田中宏樹、堀岡希衣	De novo protein synthesis capacity of Tumor-educated platelets	国際血栓止血学会	2023.6
4) 後藤正憲、田中宏樹、藤井裕美子、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	プロリン代謝酵素 proline dehydrogenase 発現亢進によるマウス肝腫瘍の自然破裂頻度の増加	第 30 回肝細胞研究会	2023.8
5) 田中宏樹、堀岡希衣、後藤正憲、藤井裕美子、上小倉佑機、西川祐司	Tumor-educated platelets の蛋白質合成能の増強による肝がん進展の促進	第 30 回肝細胞研究会	2023.8
6) 後藤正憲、田中宏樹、藤井裕美子、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	活性型 Notch1 細胞内ドメイン (NICD) と Myc または Mycn 遺伝子の導入により誘導したマウス肝癌の特徴：肺転移における分子メカニズムの検討	第 56 回北海道病理談話会	2023.9
7) 藤井裕美子、後藤正憲、田中宏樹、上小倉佑機、岡田陽子、西川祐司	肝内胆管細胞における脂質ホスファターゼ SHIP2 の細胞核内機能	第 56 回北海道病理談話会	2023.9

- 8) 田中宏樹、堀岡希衣、
後藤正憲、藤井裕美
子、上小倉佑機、小川
勝洋、西川祐司 Tumor-educated
platelets の蛋白質合成
能の増強による肝がん
進展の促進 第 82 回日本癌学会 2023.9
学術総会
- 9) 後藤正憲、山本雅大、
田中宏樹、藤井裕美
子、上小倉佑機、岡田
陽子、西川祐司 マウス肝腫瘍における
Myc と N-Myc の機能的
違い：肺転移能に対す
る影響 第 82 回日本癌学会 2023.9
学術総会
- 10) 後藤正憲、田中宏樹、
藤井裕美子、上小倉佑
機、岡田陽子、高澤久
美、西川祐司、高澤
啓 プロリンデヒドロゲナ
ーゼの発現亢進はマウ
ス肝腫瘍の破裂頻度を
上昇させる 第 113 回日本病理学 2024.3
会総会

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 田中 宏樹	継続	基盤研究 (C)	自己血小板を利用した DDS—肝癌・血 小板相互作用を逆手にとった新たな治 療戦略—
2) 藤井 裕美子	継続	基盤研究 (C)	胆管上皮細胞における SHIP2 脂質ホス ファターゼの核内機能とその発がんへ の関与
3) 高澤 久美	新規	基盤研究 (C)	高深度プロテオーム解析を用いたがん におけるタイト結合タンパク質局在制 御因子の探索
4) 堀岡 希衣	新規	若手研究	血小板由来微小胞による新たな骨格筋 修復機構—低体温症に伴うシバリング との関連—

病理学講座
(免疫病理分野)

Department of Pathology
(Immunology)

I. 所属教員等

病理学講座（免疫病理分野）

教授 小林 博也

准教授 大栗 敬幸

講師 長門 利純

講師 小坂 朱

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yajima Y, Kosaka A, Ohkuri T, Hirohashi Y, Li D, Nagasaki T, Nagato T, Torigoe T, Kobayashi H.	SARS-CoV-2 spike protein-derived immunogenic peptides that are promiscuously presented by several HLA-class II molecules and their potential for inducing acquired immunity.	Heliyon	2023 Sep 20 ;9(9):e20192.
2) Nagato T, Komatsuda H, Hayashi R, Takahara M, Kishibe K, Yasuda S, Yajima Y, Kosaka A, Ohkuri T, Oikawa K, Harabuchi S, Kono M, Yamaki H, Wakisaka R, Hirata-Nozaki Y, Ohara K, Kumai T, Katada A, Hayashi T, Harabuchi Y, Kobayashi H.	Expression of soluble CD27 in extranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type: potential as a biomarker for diagnosis and CD27/CD70-targeted therapy.	Cancer Immunol Immunother.	2023 Jul ;72(7):2087-2098.
3) Kosaka A, Yajima Y, Yasuda S, Komatsuda H, Nagato T, Oikawa	Celecoxib promotes the efficacy of STING-targeted therapy by increasing antitumor	Int J Cancer.	2023 Apr 15 ;152(8):1685-1697.

- K, Kobayashi H, Ohkuri T. CD8+ T-cell functions via modulating glucose metabolism of CD11b+ Ly6G+ cells.
- 4) Yamaki H, Kono M, Wakisaka R, Komatsuda H, Kumai T, Hayashi R, Sato R, Nagato T, Ohkuri T, Kosaka A, Ohara K, Kishibe K, Takahara M, Hayashi T, Kobayashi H, Katada A. Brachyury-targeted immunotherapy combined with gemcitabine against head and neck cancer. *Cancer Immunol Immunother.* 2023 Aug ;72(8):2799-2812.
- 5) Kono M, Wakisaka R, Komatsuda H, Hayashi R, Kumai T, Yamaki H, Sato R, Nagato T, Ohkuri T, Kosaka A, Ohara K, Kishibe K, Kobayashi H, Hayashi T, Takahara M. Immunotherapy targeting tumor-associated antigen in a mouse model of head and neck cancer. *Head Neck.* 2024 Feb 23.
- 6) Murai A, Kubo T, Ohkuri T, Yanagawa J, Yajima Y, Kosaka A, Li D, Nagato T, Murata K, Kanaseki T, Tsukahara T, Nagasaki T, Hirohashi Y, Kobayashi H, Torigoe T. NF9 peptide specific cytotoxic T lymphocyte clone cross react to Y453F mutation of SARS-CoV-2 virus spike protein. *Immunol Med.* 2024 Jun ;47(2):93-99.

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

- | | | | | |
|----|--|---|-----------------------|--------------------|
| 1) | 小林博也、矢島優己、小坂 朱、長門利純、廣橋良彦、鳥越俊彦、大栗敬幸 | SARS-CoV-2 スパイ
ク蛋白に対するヘル
パーT細胞活性化ペ
プチドの同定と評価 | 第 112 回 日本病理学
会総会 | 2023.4.13-15 |
| 2) | 大栗敬幸、小坂
朱、安田俊輔、小松
田浩樹、長門利純、
及川賢輔、小林博也 | 担がんマウスの所属
リンパ節における
CD11b+Ly6Chigh
単球由来樹状細胞の
機能解析 | 第 112 回 日本病理学
会総会 | 2023.4.13-15 |
| 3) | 大栗敬幸、小坂
朱、安田俊輔、小松
田浩樹、長門利純、
及川賢輔、小林博也 | 腫瘍微小環境の炎症
誘導により所属リン
パ節に遊走する単球
由来樹状細胞の性状
解析 | 第 27 回 日本がん免
疫学会総会 | 2023.7.19-21 |
| 4) | 大栗敬幸、小坂
朱、氏家菜々美、小
松田浩樹、長門利
純、小林博也。Nod
様受容体と STING を
標的とした腫瘍免疫
療法の可能性評価 | Nod 様受容体と
STING を標的とし
た腫瘍免疫療法の可
能性評価 | 第 56 回 北海道病理
談話会 | 2023.9.16 |
| 5) | 長門利純、小松田浩
樹、林 隆介、安田
俊輔、小坂 朱、大
栗敬幸、及川賢輔、
小林博也 | 上咽頭癌における
CD74 と MIF の発
現 | 第 112 回 日本病理学
会総会 | 2023.4.13-15 |
| 6) | 長門利純、小松田浩
樹、小坂 朱、大栗
敬幸、及川賢輔、小
林博也 | 節外性 NK/T 細胞リ
ンパ腫、鼻型におけ
る可溶性 CD27 の発
現とバイオマーカー
としての可能性 | 第 27 回 日本がん免
疫学会総会 | 2023.7.19-21 |
| 7) | 長門利純、小松田浩
樹、林 隆介、高原
幹、岸部 幹、小坂
朱、大栗敬幸、及川
賢輔、河野通久、山 | 節外性 NK/T 細胞リ
ンパ腫、鼻型におけ
る可溶性 CD27 の発
現 | 第 82 回 日本癌学会
学術総会 | 2023.9.21-
9.23 |

木英聖、脇坂理紗、
大原賢三、熊井琢
美、片田彰博、原渕
保明、小林博也

- | | | | | |
|-----|--|---|--------------------------------|----------------|
| 8) | 長門利純、小松田浩樹、林 隆介、高原 幹、岸部 幹、野崎 結、大原賢三、熊井琢美、片田彰博、林達哉、原渕保明 | 鼻性 NK/T 細胞リンパ腫における可溶性 CD27 の発現とバイオマーカーとしての可能性 | 第 62 回 日本鼻科学会総会・学術講演会 | 2023.9.28-9.30 |
| 9) | 小坂 朱、大栗敬幸、安田俊輔、小松田浩樹、長門利純、及川賢輔、小林博也 | コルヒチン腫瘍内投与の腫瘍血管破綻により誘導される単球由来樹状細胞の性状解析 | 第 82 回 日本癌学会学術総会 | 2023.9.21-9.23 |
| 10) | 小松田浩樹、熊井琢美、佐藤遼介、脇坂理紗、山木英聖、大原賢三、長門利純、岸部 幹、高原 幹、片田彰博、林達哉 | 頭頸部癌における PEG10 の機能解析 | 第 124 回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 | 2023.5.17-20 |
| 11) | 小松田浩樹、長門利純、小林博也 | HOXB7 を標的としたペプチドワクチン療法 | 第 56 回 北海道病理談話会 | 2023.9.16 |
| 12) | 小松田浩樹、長門利純、熊井琢美、大原賢三、山木英聖、小坂 朱、大栗敬幸、小林博也 | 頭頸部癌における PEG10 を標的としたペプチドワクチン療法の開発 | 第 82 回 日本癌学会学術総会 | 2023.9.21-9.23 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択 種目	研究課題名
1) 小林 博也	継続 基盤研究 (B)	cGAS/STING/I 型 IFN 経路を基軸とした癌免疫微小環境のホット化治療戦略

- 2) 大栗 敬幸 新規 基盤研究 (B) がん免疫治療の奏効率向上を目指した腫瘍微小環境内の良質な炎症状態の誘導戦略
- 3) 長門 利純 継続 基盤研究 (C) 頭頸部癌における MHC クラス II インバリアント鎖 CD74 の機能解析と新規治療法開発
- 4) 小坂 朱 継続 基盤研究 (C) STING アゴニストを用いた TNBC に対する効果的ながん免疫療法の開発

感染症学講座
(微生物学分野)

Department of Infectious Diseases
(Microbiology and Immunochemistry)

I. 所属教員等

感染症学講座（微生物学分野）

教 授 原 英樹

助 教 松田 泰幸

助 教 山内 肇

II. 研究業績紹介

2022年4月の教授着任にともない、新しい研究をスタートした。主な研究業績は以下の3つとなる。本年度は助教（松田）が第88回細菌学会支部会優秀賞に選出された。また、教授（原）が第30回日本免疫毒性学会年会賞を授与された。

1. Sumida K, Doi T, Obayashi K, Chiba Y, Nagasaka S, Ogino N, Miyagawa K, Baba R, Morimoto H, Hara H, Terabayashi T, Ishizaki T, Harada M, Endo M. Caspase-4 has a role in cell division in epithelial cells through actin depolymerization. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2024, 695, 149394.
2. Matsuda Y, Yamauchi H, Hara H. Activation of inflammasomes and mechanisms for intracellular recognition of *Listeria monocytogenes*. *Microbiology and Immunology* 2023, 67, 429-437.
3. 原 英樹. インフラマソームの活性化と疾患病態. 「臨床免疫・アレルギー科」、2023年、Vol.80、76-82.

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Sumida K, Doi T, Obayashi K, Chiba Y, Nagasaka S, Ogino N, Miyagawa K, Baba R, Morimoto H, Hara H, Terabayashi T, Ishizaki T, Harada M, Endo M.	Caspase-4 has a role in cell division in epithelial cells through actin depolymerization.	Biochemical and Biophysical Research Communications	2024
2) Matsuda Y, Yamauchi H, Hara H.	Activation of inflammasomes and mechanisms for intracellular recognition of <i>Listeria monocytogenes</i> .	Microbiology and Immunology	2023

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 原 英樹	インフラマソームの活性化と疾患病態	「臨床免疫・アレルギー科」	2023

VI. 研究発表

VII. 科研費採択状況

感染症学講座
(寄生虫学分野)

Department of Infectious Diseases
(Parasitology)

I. 所属教員等

感染症学講座（寄生虫学分野）

教授 迫 康仁

准教授 伴戸 寛徳

II. 研究業績紹介

迫 康仁

1. ヒトの寄生虫症（条虫症：裂頭条虫症およびテニア症）の鑑別診断を臨床現場あるいは流行現場で行うために、特殊な装置を使用せずに実施でき複数の寄生虫を同時に鑑別診断できる DNA 検出に基づいた検出方法の基盤を構築している。（科研費基盤 C 研究課題「裂頭条虫症とテニア症の革新的な鑑別診断法の開発」）
2. 住血吸虫の撲滅戦略策定のために必要な環境中の病原体汚染度の監視システムの構築を目的として、環境検体（水や土壌など）から日本住血吸虫ならびにその中間宿主であるオンコメラニア属員の DNA を検出する方法を開発し、その評価をフィリピンのレイテ島で実施している。（e-ASIA 共同研究プログラム「アジアの住血吸虫症撲滅を目指した革新的ポイント・オブ・ケア検査法ならびに環境汚染監視ツールの開発」）

伴戸 寛徳

2023 年度には、3 報の論文の作成に携わった。ナイジェリアに自生する植物の抗マラリア効果を評価した研究は、Parasitology International に掲載された。また、ヒトの抗菌あるいは抗トキソプラズマ宿主免疫応答に関する研究は、Science に掲載された。そして、ナノパーティクルの抗トキソプラズマ効果に関する研究は、Pharmaceutics に掲載された。これらの成果を、学会等で報告することに加え、専門家に向けた講演会や、一般の方や高校生に向けた講演会を行うことで社会に広く発信した。フィールド研究では、タイに訪れ、蚊がどのような寄生虫を保有しているかを調査した。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Lakkhana Sadaow, Patcharaporn Boonroumkaew, Rutchanee	Development and evaluation of an immunochromatography-based point-of-care test kit for a rapid diagnosis of human cysticercosis	Food Waterborne Parasitol .	2023.10

Rodpai,
Penchom
Janwan, Oranuch
Sanpool, Tongjit
Thanchomnang,
Yasuyuki
Morishima,
Marcello Otake
Sato, Yasuhito
Sako, Kaoru
Kobayashi,
Misako Iwai,
Wanchai
Maleewong,
Hiroshi
Yamasaki,
Pewpan M
Intapan

- 2) Fisch D, PIM1 controls GBP1 activity to Science 2023.10
Pfleiderer MM, limit self-damage and to guard
Anastasakou E, against pathogen infection.
Mackie GM,
Wendt F, Liu X,
Clough B, Lara-
Reyna S,
Encheva V,
Snijders AP,
Bando H,
Yamamoto M,
Beggs AD,
Mercer J, Shenoy
AR, Wollscheid
B, Maslowski
KM, Galej WP,
Frickel EM.
- 3) Jeje TO, Bando Antiplasmodial and interferon- Parasitology 2023.12

	H, Azad MTA, Fukuda Y, Oluwafemi IE, Kato K.	gamma-modulating activities of the aqueous extract of stone breaker (<i>Phyllanthus niruri</i> Linn.) in malaria infection.	International	
4)	Hiroshi Yamasaki, Hiromu Sugiyama, Yasuyuki Morishima, Yasuhito Sako	Molecular identification of <i>Spirometra</i> infections in companion animals and wildlife in Japan	J Vet Med Sci	2024.03
5)	Ishii K, Akahoshi E, Adeyemi OS, Bando H, Fukuda Y, Ogawa T, Kato K.	Goethite and hematite nanoparticles show promising anti- <i>Toxoplasma</i> properties.	Pharmaceutics	2024.03

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 伴戸 寛徳、迫 康 仁	多包虫由来物質による肝臓の 細胞死制御機構の解明	第 166 回日本獣 医学会学術集会	2023.09
2) 伴戸 寛徳	私たちの脳に寄生する生物～ 寄生虫トキソプラズマ～	日本科学振興協 会 年次大会 2023	2023.10
3) 伴戸 寛徳、迫 康 仁	エキノコックスによる宿主細 胞制御メカニズムの解明	第 46 回日本分子 生物学会年会	2023.12
4) ヴァレンシア ジ ョセフ、サトウ マルセロ オオタ ケ、パブロアー チャー、キムソン マリオ、セルバ ンテス エレノア	環境 DNA 手法を用いたフィリ ピン、レイテ島、エキラン村 における日本住血吸虫症の感 染リスク評価	第 93 回日本寄生 虫学会大会	2024.03

一、ジズマリオ、
迫 康仁、
サトウ 恵

- 5) レヴォルテアド
マーク ジュー
ン、サトウ マル
セロ オオタケ、
ジズマリオ、セ
ルバンテス エレ
ノアー、パブロ
アーチャー、キム
ソンマリオ、迫
康仁、サトウ 恵
- 環境 DNA 手法を用いたフィリ
ピン、レイテ島、エキラン村
における日本住血吸虫中間宿
主 *Oncomelania hupensis*
quadrasi のハザードマップ作
成
- 第 93 回日本寄生 2024.03
虫学会大会
- 6) 伴戸 寛徳、迫 康
仁
- 多包虫由来物質がヒトの肝細
胞に及ぼす影響の解明
- 第 93 回日本寄生 2024.03
虫学会大会

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
迫 康仁	延長	基盤研究 (C)	裂頭条虫症とテニア症の革新的な鑑別診 断法の開発

社会医学講座

Department of Social Medicine

I. 所属教員等

社会医学講座	
教授	西條 泰明
准教授	吉岡 英治
講師	神田 浩路
講師(学内)	佐藤 遊洋
助教	金谷 智子
助教	九里 優輝

II. 研究業績紹介

本講座の研究は疫学手法を用いる研究を中心としており、公衆衛生、産業医学、環境医学、国際保健、臨床疫学が該当する。全国規模の出生コホートである環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」では北海道ユニット内の旭川サブユニットセンターの運営を行い、全国データを用いた研究成果発表を行っている。その他、職域での循環器疾患の疫学研究、職業ストレスやメンタルヘルス、自殺予防のための研究、小児の環境曝露に関する疫学調査、地域医療、国際保健などの研究を実施している。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦	COVID-19 下の本学におけるアフリカ保健人材育成のための JICA 研修	旭川医科大学研究フォーラム	2023.6
2) 西條泰明	かかりつけ医機能推進にかう経緯と課題	北海道公衆衛生学雑誌	2024.3

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kunori Y.	Factors related to the resignation and migration of physicians in public health administration agencies using nationwide survey data in Japan.	BMC Health Serv Res.	2023.10
2) Yukihiro Sato ,Kakuhiro Fukai,Yuki Kunori,Eiji Yoshioka,Yasuaki Saijo	Trends in dental expenditures in Japan with a universal health insurance system	PLOS ONE	2023.10

- 3) Iwata H, Kobayashi S, Itoh M, Itoh S, Mesfin Ketema R, Tamura N, Miyashita C, Yamaguchi T, Yamazaki K, Masuda H, Ait Bamai Y, Saijo Y, Ito Y, Nakayama SF, Kamijima M, Kishi R; Japan Environment, Children's Study JECS Group
The association between prenatal per-and polyfluoroalkyl substance levels and Kawasaki disease among children of up to 4 years of age: A prospective birth cohort of the Japan Environment and Children's study. Environ Int. 2024.1
- 4) Yukihiro Sato, Eiji Yoshioka, Yasuaki Saijo, Yasuhito Kato, Ken Nagaya, Satoru Takahashi, Yoshiya Ito, Sumitaka Kobayashi, Yu Ait Bamai, Keiko Yamazaki, Sachiko Itoh, Chihiro Miyashita, Atsuko Ikeda-Araki, Reiko Kishi, Japan Environment and Children's Study (JECS) Group
Null Association Between Isolated Orofacial Clefts and Sleep Duration: A Cohort Study From the Japan Environment and Children's Study The Cleft Palate Craniofacial Journal 2024.3

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) Kanda K (pp.235-247, Maintenance of Rabies-free Status in Japan for 65 Years and Application of Lessons Learned to Other	In: Slack V et al, editors. One Health for Dog-mediated Rabies Elimination in Asia: A Collection of Local Experiences.	Wallingford, CAB International	2023.7

Countries Working
Towards Zero Human
Deaths.), Jayasinghe A,
Jayasinghe C, Yoshida
T.

- 2) 西條泰明：14 章疫学研究と倫理(P141-148)、15 章-12 メンタルヘルス（『15 章：領域別疫学』内、P189-188） はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂 2024.3
(改定第 4 版)

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 神田浩路, 伊藤俊弘, 吉田貴彦	短時間曝露実験研究によるローズマリー揮発成分の健康増進効果の検証	第 96 回日本産業衛生学会	2023.5
2) 仁位清丸, 宇高彩, 吉田貴彦, 神田浩路	香港 vs 日本 長寿の 2 強対決 – 長寿要因の比較研究 / 政策への示唆 –	第 73 回日本東洋医学会学術総会	2023.6
3) 神田浩路, 伊藤俊弘, 藤井智子, 塩川幸子, 吉田貴彦	COVID-19 流行にかかる本邦への入国制限緩和後に実施したアフリカ地域保健人材育成研修	第 82 回日本公衆衛生学会	2023.10
4) Kanda K, Itoh T, Fujii T, Shiokawa S, Yoshida T	A 15-year history of the JICA-KCCP “Health System Management for Regional and District Health Management Officers” at Asahikawa Medical University	グローバルヘルス合同大会 2023	2023.11
5) 西條泰明, 佐藤遊洋, 吉岡英治, 伊藤善也, 小林澄貴, 湊屋街子, 岸玲子	住環境（カビの発生、暖房、芳香剤使用）と 3 歳児の喘鳴・喘息との関連：エコチル調査	第 82 回日本公衆衛生学会学術総会	2023.11
6) 西原進吉, 小林澄貴, 伊藤真利子, 西	妊婦のカフェイン摂取量と生後 12 ヶ月までの子どもの発	第 82 回日本公衆衛生学会学術総会	2023.11

- 條泰明、伊藤善也、岸玲子. 達との関連：環境省エコチル調査.
- 7) 佐藤遊洋, 吉岡英治, 西條泰明, 宮本敏伸, 東寛, 棚橋祐典, 伊藤善也, 小林澄貴, 湊屋街子, アイツバマイゆふ, 山崎圭子, 伊藤佐智子, 宮下ちひろ, 池田敦子, 岸玲子. 口唇口蓋裂を有する1歳児の下気道感染症罹患リスク：エコチル調査より 第94回日本衛生学会学術総会 2024.3
- 8) 西條泰明, 吉岡英治, 佐藤遊洋, 九里優輝. 公衆衛生医の辞職と入職する要因：医師・歯科医師・薬剤師調査データを用いた縦断研究. 第94回日本衛生学会学術総会 2024.3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 吉岡 英治	再々延長	基盤研究 (C)	市町村別自殺率の地域格差に関する空間疫学研究
2) 西條 泰明	延長	基盤研究 (C)	地域医療における医師確保と医療職の負担軽減に関する総合的研究
3) 吉岡 英治	延長	基盤研究 (C)	市町村別自殺のパネルデータ解析：経済的不況に特に脆弱であるのはどのような地域か？
4) 佐藤 遊洋	延長	若手研究	日本の全労働者の約20%が行っている夜間勤務と歯科疾患の関連を明らかにする研究
5) 吉田 貴彦	再々延長	挑戦的研究 (萌芽)	アフリカ地域の健康課題の把握と対策立案に資する健康リスク情報収集システムの構築

法医学講座

Department of Legal Medicine

I. 所属教員等

法医学講座

教 授	清水 恵子
准 教 授	浅利 優
講師（学内）	奥田 勝博
助 教	高橋 悠太
名誉教授	塩野 寛

II. 研究業績紹介

薬物鑑定など法医実務に関する事例の検討や法医実務への応用を目指した中毒学的・遺伝学的な研究を進めており、学会発表および論文発表を行っている。薬毒物に関する事例報告では、性被害者の事件当時のアルコールによる行動能力の鈍化を検討した。アルコール感受性遺伝子の型を調べ、飲酒量と個人差を考慮した血中濃度推定を行い、被害当時は酩酊状態にあり、抗拒不能であったことを科学的に証明した。この他にも、口腔内 3D スキャナーを用いて歯科所見を採取することで、災害時の身元特定の効率化が行えるか否かの検討や実験的アプローチに基づいたアルコール・薬毒物と性犯罪について報告している。基礎的研究では、DNA のメチル化と年齢推定に関する検討を継続して行っており、実年齢と相関が高いメチル化部位を 4 領域組み合わせることで、日本人集団において精度の高い年齢推定が可能であることを見出した。メチル化解析において生じる DNA 分解をリアルタイム PCR により定量的に評価する方法を構築するとともに、高度な DNA の分解は年齢推定の精度へ影響を及ぼすことを明らかにした。また、次世代シーケンサーを活用した大規模な DNA 解析に基づいて広範囲な血縁者識別法を構築した。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 森 香苗, 奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 難波 亮, 清水恵子.	アルコール感受性遺伝子 型を考慮した血中アルコ ール濃度推定による事件 遭遇時の被害者の行動能 力	法医学の実際と研 究	2023.11
2) 斉藤久子, 中久木康 一, 石井名実子, 飯田 哲也, 山田良広, 岩瀬 博太郎, 清水恵子.	遺体の歯科所見採取にお けるスキャン画像の有用 性の検討－災害時身元確 認における口腔内スキャ ナーの活用－	日本災害医学雑誌	2023.12

- 3) 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優
アルコール・薬物と性犯罪 – 不同意性交等罪とデートレイプドラッグに関する実験的アプローチ Acta Crim.Japon. 2023.12
- 4) Shiga M, Asari M, Takahashi Y, Isozaki S, Hoshina C, Mori K, Namba R, Okuda K, Shimizu K.
DNA methylation-based age estimation and quantification of the degradation levels of bisulfite-converted DNA Legal Med (Tokyo). 2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Takahashi Y, Okuda K, Asari M, Mori K, Namba R, Ochiai W, Shimizu K	Evaluation of the effects on the dopaminergic reward system and the blood-brain barrier permeability of diphenidine derivatives using rat brain microdialysis.	Neuroscience 2023.	2023.11
2) 清水恵子, 奥田勝博, 浅利 優, 高橋悠太, 森 香苗, 難波 亮, 松原和夫.	アルコール及び医薬品のデートレイプドラッグとしての不正使用に関する法医学的アプローチ.	第 107 次日本法医学学会学術全国集会.	2023.6
3) 浅利 優, 高橋悠太, 難波 亮, 森 香苗, 保科千里, 奥田勝博, 清水恵子.	次世代シーケンサーを用いた 2000 座位の SNP 解析と血縁判定への応用.	第 107 次日本法医学学会学術全国集会.	2023.6
4) 高橋悠太, 奥田勝博, 浅利 優, 森 香苗, 難波 亮, 清水恵子.	ブレインマイクロダイアリシスを用いたジフェニジン誘導体の作用および脳移行メカニズム解析.	第 107 次日本法医学学会学術全国集会.	2023.6

- | | | | | |
|-----|--|--|-------------------------------------|---------|
| 5) | 難波 亮, 浅利 優,
志賀美紘, 高橋悠太,
森 香苗, 保科千里,
奥田勝博, 清水恵子. | DNA methylation-based
age estimation and
detection of degradation
levels using Japanese
individuals. | 第 107 次日本法医学
学会学術全国集会. | 2023.6 |
| 6) | 森 香苗, 奥田勝博,
保科千里, 浅利 優,
高橋悠太, 難波 亮,
清水恵子. | A study on tissue
distribution of
diphenhydramine to
predict blood
concentration in mice. | 第 107 次日本法医学
学会学術全国集会. | 2023.6 |
| 7) | 奥田勝博, 浅利 優,
高橋悠太, 清水恵子. | 法医学における薬学出身者
の役割と現状. | フォーラム 2023 :
衛生薬学・環境ト
キシコロジー. | 2023.9 |
| 8) | 難波 亮, 浅利 優,
高橋悠太, 山田ひろ
み, 森 香苗, 奥田勝
博, 清水恵子. | 24 座位の DNA 型に基づ
いた確率計算と追加検査に
よる身元確認への協力. | 第 24 回日本法医学
学会学術北日本地
方集会. | 2023.11 |
| 9) | 保科千里, 奥田勝博,
森 香苗, 高橋悠太,
難波 亮, 浅利 優,
清水恵子. | パラコート低濃度長期曝露
によるオートファジー誘導
の検討. | 第 24 回日本法医学
学会学術北日本地
方集会. | 2023.11 |
| 10) | 森 香苗, 奥田勝博,
難波 亮, 保科千里,
高橋悠太, 浅利 優,
清水恵子. | 症状出現時間から疑われた
野草誤食によるコルヒチン
中毒死の 1 例. | 第 24 回日本法医学
学会学術北日本地
方集会. | 2023.11 |
| 11) | 森 香苗, 奥田勝博,
難波 亮, 保科千里,
高橋悠太, 浅利 優,
清水恵子. | 症状出現時間から疑われた
植物誤食によるコルヒチン
中毒の 1 例. | 第 37 回日本中毒
学会・東日本地方
会. | 2024.2 |
| 12) | 斉藤久子, 山本伊左
夫, 大平 寛, 中川貴
美子, 藤田紗英子, 長
谷川巖, 山田良広, 石
井名実子, 中久木康
一, 奥田勝博, 清水恵
子. | 今後の災害に備えた歯科所
見による身元確認システ
ムの展開. | 第 29 回日本災害
医学会総会・学術
集会. | 2024.2 |

- 13) 奥田勝博, 榎野陽介, 知床遊覧船沈没事故における検案の実情報告. 第 29 回日本災害医学会総会・学術集会. 2024.2
- 森 香苗, 難波 亮,
浅利 優, 清水恵子.

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 奥田 勝博	継続	基盤研究 (C)	Orbitrap LC-MS/MS を用いた薬毒物スクリーニングとメタボローム解析
2) 浅利 優	継続	基盤研究 (C)	タッチサンプルからの単一細胞やヒト常在微生物叢を標的とした個人識別法の開発

先端医科学講座

Department of Advanced Medical Science

I. 所属教員等

先端医科学講座	
教授	船越 洋
准教授	上田 潤
講師(学内)	橋本 理尋
助教	南 竜之介
客員助教	島田 若菜
客員助教	金井 将昭

II. 研究業績紹介

本講座の研究目標は、治療に難渋している疾患に対して、基礎研究を基盤とした新しい治療法を開発し臨床応用に繋げることです。本講座の主要な研究テーマ4つを以下に記します。

1つ目は、船越・島田らで進めてきた肝細胞増殖因子（HGF）による神経再生治療研究です。これは再生因子である HGF の神経疾患治療応用研究を進めてきたもので、筋萎縮性側索硬化症、脊髄損傷をはじめとした各種神経疾患への治療応用研究です。2つ目は、エピゲノム編集法を用いた神経難病への治療法の開発研究です。本プロジェクトは北里大学との共同研究により、上田、船越らを中心に動物レベルでの概念実証取得に向けて現在解析を進めています。3つ目はトリプトファン代謝異常を伴う遺伝性疾患についてです。患者のゲノム情報をもとに、金井、船越らが原因遺伝子のミスセンス変異を特定しました。その後、船越らが特定した原因遺伝子変異をゲノム編集法により導入したノックインマウスの作出に成功しました。現在はこのマウスを新規の疾患モデル動物と位置付けて、藤田医科大学及び中部大学との共同研究により代謝物解析を進めています。そして最後の4つ目としては、自己免疫疾患のモデルマウスを用いて、その疼痛機序の解明と治療を目指した研究も進めています。

本講座は、今後も、基礎研究の成果に立脚した新規治療法を開発し、研究成果を発信していきます。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 小西菜普子、平井由里子、彦田裕司、宮原聡子、藤沢明德、本橋秀之、上田潤、井上正康、福島雅典	COVID-19 ワクチンの副作用：日本における学会発表と世界における論文報告の現状	臨床評価	2024.1

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kohei Tanaka, Ryunosuke Minami, and Ken-ichi Kimura	A narrow gene encoding an extracellular matrix is involved in the formation of the footpad hairs in <i>Drosophila melanogaster</i>	MicroPub lication Biology	2023.4
2) Ryusuke Sin, Naoki Sotogaku, Yoshinori N Ohnishi, Takahide Shuto, Mahomi Kuroiwa, Yukie Kawahara, Keita Sugiyama, Yuki Murakami, Masaaki Kanai, Hiroshi Funakoshi, Ayanabha Chakraborti, James A Bibb, Akinori Nishi	Inhibition of STAT-mediated cytokine responses to chemically-induced colitis prevents inflammation-associated neurobehavioral impairments	Brain Behav Immun	2023.11

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Minami Ryunosuke , Young-Mi Lim , Tsuda Leo	Molecular mechanisms of synaptic dysfunction induced by amyloid- β	第46回日本分子生物学会年会	2023.12

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 上田 潤	継続	基盤研究 (C)	クロマチン制御による遺伝性神経変性疾患の治療法の開発
2) 南 竜之介	延長	基盤研究 (C)	アルツハイマー病と加齢性難聴に共通するシナプス機能低下の分子メカニズム解析

- 3) 橋本 理尋 新規 基盤研究 (C) ヒト型 CDKN2A エクソン導入マウスを用いたヒトとマウスの老化制御機構の差異の解明

内科学講座

(循環器・腎臓・呼吸器・脳神経内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology)

I. 所属教員等

内科学講座（循環・腎臓内科学内科学分野）

教授 中川 直樹
講師（学内） 田邊 康子
助教 木谷 祐也
特任助教 佐久間 寛史

内科（循環器・腎臓）

講師 竹内 利治
助教 青沼 達也
助教 河端 奈穂子
講師（学内） 蓑島 暁帆
診療助教 徳野 翔太

教育センター

教授 佐藤 伸之

透析センター

教授 中川 直樹
講師（学内） 松木 孝樹

リハビリテーション科

助教 伊達 歩

内科学講座（呼吸器・脳神経内科学分野）

特任教授 長内 忍
特任助教 志垣 涼太

内科学講座（呼吸器・脳神経）

講師 澤田 潤
講師（学内） 南 幸範
講師（学内） 佐々木 高明
診療助教 菊地 史織

感染制御部

助教 梅影 泰寛

II. 研究業績紹介

2023年10月の内科再編に伴い、循環器・腎臓内科学分野と呼吸器・脳神経内科学分野に再編されたが、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科の各グループが精力的に学会発表および論文発表を行っている。

<循環器内科>

循環器内科では、竹内利治講師を中心に若手医師による学会発表を精力的に行い、青沼達也助教が、SPRR1AはMiR-150の主要な下流エフェクターであり、マウスにおける不適応な心臓リモデリングとヒトの心臓線維芽細胞の活性化の両方に関与する (Cell Death Discov. 14:446, 2023)、等の留学中の仕事を報告した。また塩飽優大医員が、関連病院における皮下植込み型除細動器の初期成績を報告した(心臓. 2023年11月)。

<腎臓内科>

中川直樹教授を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候群に関する報告を行っている (Clin Exp Nephrol. 27:928-935, 2023; Sci Rep. 13:14771, 2023)。また佐久間寛史特任助教が、全国レジストリーを用いた日本人透析患者における血圧値の経年変化について報告した (J Clin Hypertens. 25:1163-1171, 2023)。

<呼吸器内科>

佐々木高明学内講師を中心に先進的な教育と研究活動を通じて、これまでに6人の医学博士を輩出し、それぞれが臨床および研究の現場でリーダーとして活躍している。肺癌の分子標的治療やがん免疫療法に焦点を当て、これらの研究分野では、多施設共同研究や観察研究、医師主導治験、企業治験など、多岐にわたるアプローチでクリニカルクエスチョンを追求している。特に、がんゲノム解析やデジタルPCRを用いた遺伝子解析、薬物血中動態の解析と副作用の関連研究に力を入れ、より効果的で安全な治療法の開発を目指しており、佐々木高明学内講師が、リキッドバイオプシーによる未分化リンパ腫キナーゼ再配列肺癌患者における耐性変異の検出を報告した (Transl Lung Cancer Res. 12:1445-1453, 2023.)。

<神経内科>

澤田潤講師を中心に、脳卒中診療の変遷についての検討、悪性腫瘍に合併した脳梗塞における腫瘍マーカーとD-dimerとの関連性に関する検討等を報告した。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 佐々木 高明、木田 涼太郎、南 幸範、大崎 能伸	肺癌に対する光線力学療法の現状と課題	光アライアンス	2023.6
2) 松木孝樹、中川直樹	CKD患者における降圧療法について	腎臓内科	2023.10

- 3) 菊地信介、内田大貴、田丸祐也、土井田務、鎌田啓輔、大平成真、栗山直也、竜川貴光、吉田有里、日野岡蘭子、工藤紘子、成田孝行、田中和幸、加藤一哉、村谷拓、藤城貴教、松木孝樹、中川直樹、東信良
レオカーナの台頭と活用法 血管外科 2023.11
- 4) 中川直樹
Membranoproliferative glomerulonephritis(MPGN) 腎と透析 2023.12

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kanno T, Nakagawa N, Aonuma T, Kawabe JI, Yuhki KI, Takehara N, Hasebe N, Ushikubi F	Prostaglandin E2 mediates the late phase of ischemic preconditioning in the heart via its receptor subtype EP4	Heart Vessels	2023.4
2) Nakagawa N	Fatty liver index has potential as a predictor of hypertension in the Japanese general population	Hypertens Res	2023.4
3) Nakagawa N, Sato N	Potential impact of non-dipping pulse rate pattern and nocturnal high pulse rate variability on target organ damage in patients with cardiovascular risk	Hypertens Res	2023.4
4) Osanai S	Clinical Question: Can CPAP suppress	Hypertens Res	2023.4

- cardiovascular events
in resistant
hypertension patients
with obstructive sleep
apnea?
- 5) Koizumi A, Tamura Y, Yoshida R, Mori C, Ono Y, Tanino M, Mizukami Y, Sasaki T Two Cases of SMARCA4-Deficient Non-small Cell Lung Cancer (NSCLC) with Improved Performance Status (PS) after Treatment with Immune Checkpoint Inhibitors (ICIs) Cureus 2023.4
 - 6) Katayama T, Takahashi K, Yahara O, Sawada J, Ishida KI, Asanome A, Endo H, Saito T, Hasebe N, Kishibe M, Kanno H, Ishiko S, Sone J NOTCH2NLC mutation-positive neuronal intranuclear inclusion disease with retinal dystrophy: A case report and literature review Medicine (Baltimore) 2023.5
 - 7) Tokuno S, Miyamoto K, Usui R Non-Iatrogenic Localized-Reentrant Figure of Eight Atrial Tachycardias in the Superior Vena Cava Case Rep Cardiol 2023.5
 - 8) 梅影泰寛、奈良岡妙佳、志垣涼太、木田涼太郎、森千恵、佐々木高明 侵襲性肺炎球菌感染症を合併した COVID-19 の 2 例 日本呼吸器学会誌 2023.5
 - 9) Katayama T, Takahashi K, Yahara O, Yamada T 超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA) で診断した肺内神経鞘腫の 1 例 気管支学 2023.5
 - 10) 植村友裕、澤田潤、大橋一慶、廣瀬文 急性心筋梗塞を契機に呼吸不全が増悪した 臨床神経学 2023.6

- 吾、山内理香 Lambert-Eaton 筋無力
症候群の 1 例
- 11) Kawaguchi S, Moukette B, Sepúlveda MN, Hayasaka T, Aonuma T, Haskell AK, Mah J, Liangpunsakul S, Tang Y, Conway SJ, Kim IM
SPRR1A is a key downstream effector of MiR-150 during both maladaptive cardiac remodeling in mice and human cardiac fibroblast activation
Cell Death Dis 2023.7
- 12) Sasaki T, Yoshida R, Nitana K, Watanabe T, Tenma T, Kida R, Mori C, Umekage Y, Hirai N, Minami Y, Okumura S
Detection of resistance mutations in patients with anaplastic lymphoma kinase-rearranged lung cancer through liquid biopsy
Transl Lung Cancer Res 2023.7
- 13) Sasaki T, Yoshida R, Nitana K, Watanabe T, Tenma T, Kida R, Mori C, Umekage Y, Hirai N, Minami Y, Okumura S,
Detection of resistance mutations in patients with anaplastic lymphoma kinase-rearranged lung cancer through liquid biopsy.
Translational Lung Cancer Research. Vol.12 No.7 2023,7
- 14) Tokimatsu I, Matsumoto T, Tsukada H, Fujikura Y, Miki M, Morinaga Y, Sato J, Wakamura T, Kiyota H, Tateda K, Yanagisawa H, Sasaki T, Ikeda H, Horikawa H, Takahashi H, Seki M, Mori Y, Takeda H, Kurai D, Hasegawa N, Uwamino Y, Kudo M, Yamamoto M,
Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of the Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2019-2020: General view of the pathogens'
J Infect Chemother 2023.8

Nagano Y, Nomura S, Tetsuka T, Hosokai M, Aoki N, Yamamoto Y, Iinuma Y, Mikamo H, Suematsu H, Maruyama T, Kawabata A, Sugaki Y, Nakamura A, Fujikawa Y, Fukumori T, Ukimura A, Kakeya H, Niki M, Yoshida K, Kobashi Y, Tokuyasu H, Yatera K, Ikegami H, Fujita M, Matsumoto T, Yanagihara K, Matsuda J, Hiramatsu K, Shinzato T

- 15) Tokimatsu I, Matsumoto T, Sasaki T, et al. Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of the Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2019-2020: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility. *Journal of Infection and Chemotherapy* 29 2023,8

16) Nakagawa N, Kimura T, Sakate R, Wada T, Furuichi K, Okada H, Isaka Y, Narita I	Demographics and treatment of patients with primary nephrotic syndrome in Japan using a national registry of clinical personal records	Sci Rep	2023.9
17) Mitsui N, Kinoshita M, Sawada J, Fujiya M, Furukawa H	Stroke risk related to intentional discontinuation of antithrombotic therapy for invasive procedures	Neurosurg Focus	2023.10
18) Sakuma H, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N	Real-world trends in pre-dialysis blood pressure levels of patients undergoing dialysis in Japan using a web-based national database	J Clin Hypertens(Greenwich)	2023.10
19) Nakagawa N, Kimura T, Sakate R, Isaka Y, Narita I	Demographics and treatment of patients with primary membranoproliferative glomerulonephritis in Japan using a national registry of clinical personal records	Clin Exp Nephrol	2023.11
20) 塩泡優大、杉木良平、久保勇進、大津圭介、加藤瑞季、高橋雅之、本間恒章、藤田雅章、佐藤実、竹中孝	当院における皮下植込み型除細動器の初期成績	心臓	2023.11

- 21) Shigaki R, Yoshida R, Yagita A, Nagasue K, Naraoka T, Nitanaï K, Yanada H, Tenma T, Kida R, Umekage Y, Mori C, Minami Y, Sato H, Iwayama K, Hashino Y, Fukudo M, Sasaki T Case Report: Case series: association between blood concentration and side effects of sotorasib. *Front Oncol* 2023.11
- 22) M Furuta, E Miyauchi, A Suzuki, H Ashinuma, D Arai, A Shimonishi, S Hosokawa, T Hotta, M Inomata, S Morita, R Ko, Y Okuma, T Sasaki, K Kaira, K Kobayashi, H Sugiura Efficacy of whole brain radiotherapy for patients with leptomeningeal metastasis of non-small cell lung cancer: NEJ049 *Annals of Oncology* 2023, 11 34:S1431
- 23) Li H, Liu J, Lan S, Zhong R, Cui Y, Christopoulos P, Schenk EL, Sasaki T, Cheng Y An advanced NSCLC patient with ALK-RNF144A and HIP1-ALK fusions treated with ALK-TKI combination therapy: a case report *Transl Lung Cancer Res* 2023.12
- 24) Komatsuda H, Kumai T, Kishibe K, Sawada J, Kanaya T. Sensory trick in patients with opsoclonus–myoclonus syndrome *Acta Neurol Belg* 2023.12
- 25) Sakuma H, Ikeda M, Nakao S, Suetsugu R, Matsuki M, Hasebe N, Nakagawa N Regional variation in pre-dialysis blood pressure and its association with cardiovascular mortality rates in Japanese patients *Hypertens Res* 2024.1

undergoing dialysis

26) Komatsu Y, Nogami A, Hocini M, Morita H, Sato N, Marijon E, Arentz T, Yli-Mäyry S, Onishi Y, Kowase S, Duchateau J, Benali K, Takase T, Hosaka Y, Takei A, Nakajima I, Kawamura M, Inden Y, Ieda M, Aonuma K, Haïssaguerre M Triggers of Ventricular Fibrillation in Patients With Inferolateral J-Wave Syndrome JACC Clin Electrophysiol 2024.1

27) Yano Y, Nagasu H, Kanegae H, Nangaku M, Hirakawa Y, Sugawara Y, Nakagawa N, Wada J, Sugiyama H, Nakano T, Wada T, Shimizu M, Suzuki H, Komatsu H, Nakashima N, Kitaoka K, Narita I, Okada H, Suzuki Y, Kashihara N Kidney outcomes associated with haematuria and proteinuria trajectories among patients with IgA nephropathy in real-world clinical practice: The Japan Chronic Kidney Disease Database Nephrology (Carlton) 2024.2

28) Morimoto K, Yamada T, Hirai S, Katayama Y, Fukui S, Sawada R, Tachibana Y, Matsui Y, Nakamura R, Ishida M, Kawachi H, Kunimasa K, Sasaki T, Nishida M, Furuya N, Watanabe S, AXL signal mediates adaptive resistance to KRAS G12C inhibitors in KRAS G12C-mutant tumor cells. Cancer letters.587 2024,2

Shiotsu S, Nishioka
N, Horinaka M, Sakai
T, Uehara H, Yano S,
Son BK, Tokuda S,
Takayama K.

- | | | | |
|--|---|------------|--------|
| 29) Katayama T,
Takahashi K, Yahara
O, Matuura I, Fukuda
Y, Kawasaki SI,
Kuroda K, Kimura T,
Sawada J. | Relationship between
the Tortuosity of the
Extracranial Internal
Carotid and Vertebral
Arteries on Magnetic
Resonance
Imaging/Angiography
and Vascular Risk
Factors in a Japanese
Population | Intern Med | 2024.3 |
| 30) Tarisawa M,
Matsushima M, Kudo
A, Sakushima K,
Kanatani Y,
Nishimoto N, Sawada
J, Matsuoka T,
Hisahara S, Uesugi H,
Minami N, Sako K,
Takei A, Tamakoshi
A, Sato N, Sasaki H,
Yabe I; HoRC-MSA
study group. | The Movement
Disorder Society
Criteria: Its Clinical
Usefulness in Multiple
System Atrophy | Intern Med | 2024.3 |

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 中川直樹	こんなときどうする？腎疾患 診療の悩みを解決する 腎疾患テキスト	株式会社 総合医学社	2023.12

2) 中川直樹	腎臓内科レジデントマニュアル改訂第9版	株式会社 診断と治療社	2024.1
3) 中川直樹	今日の治療指針 私はこう治療している Vol.66	株式会社 医学書院	2024.1
4) 川村祐一郎	学生の健康白書 2021		2024.3

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 藤原和美、坂本央、澤田潤、蓑島暁帆、西野一三、後藤雄一、池田善彦、畠山金太、竹内利治、中川直樹	心不全を契機に診断された成人ミトコンドリア心筋症の一例	第120回日本内科学会総会 医学生研修医の日本内科学会ことはじめ 2023 東京	2023.4
2) 似内貴一、吉田遼平、奈良岡妙佳、志垣涼太、天満紀之、木田涼太郎、梅影泰寛、森千恵、南幸範、奥村俊介、佐々木高明	Sotorasib が奏功した KRAS G12C 変異陽性の浸潤性粘液性腺癌の2例	第63回日本呼吸器学会学術講演会	2023.4
3) 似内 貴一	Sotorasib が奏功した KRAS G12C 変異陽性の浸潤性粘液性腺癌の2例	第63回日本呼吸器学会学術講演会	2023.4
4) Katayama T, Takahashi K, Yahara O, Kuroda K, Kimura T, Sawada J, Fukuda Y, Kawasaki S	Vertebral artery tortuosity on magnetic resonance imaging/angiography and vascular risk factors	第64回日本神経学会学術大会	2023.5

5)	Sawada J, Suzuki N, Kamiya H, Uemura T, Kikuchi S, Saito T, Sawada T, Nakamura K, Nakagawa N	Prevalence of cerebral small vessel disease in Adult Japanese Patients with Fabry	第 64 回日本神経学会学術大会	2023.5
6)	徳野翔太	当院における Block HF 適応 CRT 症例報告	第 3 回日本不整脈心電学会北海道支部地方会	2023.5
7)	田邊康子	心房細動 (AF) ・頻拍 (AT) のカテーテルアブレーション (CA) で、左心耳への一方向性ブロックを生じ、洞調律維持しえた 1 症例	第 3 回日本不整脈心電学会北海道支部地方会	2023.5
8)	田邊康子	CRT の適正化を目指して～ non responder を減らすための試み～	第 3 回日本不整脈心電学会北海道支部地方会	2023.5
9)	中川直樹、水野正司、猪阪善隆	膜性増殖性糸球体腎炎と C3 腎症の診断・治療	第 66 回日本腎臓学会学術総会	2023.6
10)	中川直樹、藤井秀毅、上田誠二、大矢昌樹、松木孝樹、河野圭志	ここが変わった!CKD 診療ガイドライン 2023 (第 2 章)高血圧・CVD	第 66 回日本腎臓学会学術総会	2023.6
11)	中川直樹	ファブリー病ハイリスクスクリーニングと包括的全身管理の実践	第 66 回日本腎臓学会学術総会	2023.6
12)	大島恵、遠山直志、辰元為仁、俣田亮平、中川直樹、田口博基、浅沼克彦、和田隆志	ここが変わった!CKD 診療ガイドライン 2023 (第 3 章)高血圧性腎硬化症・腎動脈狭窄症	第 66 回日本腎臓学会学術総会	2023.6

- | | | | | |
|-----|---|--|----------------------|--------|
| 13) | 島田美智子、奈川大輝、富田泰史、中川直樹、橋口明典、丸山彰一 | 日本における HCV 抗体陽性患者の腎生検結果の実態調査 | 第 66 回日本腎臓学会学術総会 | 2023.6 |
| 14) | 祖父江理、中川直樹、長洲一、柏原直樹 | リアルワールドデータを CKD 診療に活かす J-CKD-DB の成果 | 第 66 回日本腎臓学会学術総会 | 2023.6 |
| 15) | 佐久間寛史、松木孝樹、中川直樹 | PDGFR β 陽性細胞特異的 Dicer 欠損マウスは腎間質線維化を増悪させる | 第 66 回日本腎臓学会学術総会 | 2023.6 |
| 16) | 藤野貴行、倉麻里香、山田一紀、堂野隆史、窪田将司、中川直樹、石井良直 | 心電図変化および心エコーを用いた血液透析における左室障害評価 | 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 | 2023.6 |
| 17) | 木田涼太郎、奈良岡妙佳、志垣涼太、似内貴一、天満紀之、梅影泰寛、森千恵、吉田遼平、南幸範、奥村俊介、佐々木高明、長内忍 | 肺サルコイドーシス疑い症例に対する気管支鏡 162 例の検討 | 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 | 2023.6 |
| 18) | 志垣涼太、奈良岡妙佳、似内貴一、天満紀之、木田涼太郎、梅影泰寛、森千恵、吉田遼平、南幸範、長内忍、佐々木高明 | 浸潤性粘液性腺癌に対し気管支鏡検査を施行した 26 例の臨床的検討 | 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 | 2023.6 |

- | | | | |
|---|--|--------------------|--------|
| 19) 奈良岡妙佳、似内貴一、志垣涼太、天満紀之、木田涼太郎、梅影泰寛、森千恵、吉田遼平、南幸範、奥村俊介、長内忍、佐々木高明 | 小児気道異物の摘出において極細径気管支鏡が有用であった2例 | 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 | 2023.6 |
| 20) 伊達歩 | 高齢心不全診療の現状と課題 | 第129回日本循環器学会北海道地方会 | 2023.6 |
| 21) 竹内利治 | 知ってもらいたい大動脈弁狭窄症のお話 | 第129回日本循環器学会北海道地方会 | 2023.6 |
| 22) 徳野翔太、田邊康子、竹内利治、川村祐一郎 | 三尖弁輪-下大静脈間峡部の焼灼で右冠動脈の虚血を誘発した発作性上室性頻拍症例 | 第129回日本循環器学会北海道地方会 | 2023.6 |
| 23) 藤原和美、坂本央、澤田潤、徳野翔太、青沼達也、木谷祐也、河端奈穂子、伊達歩、蓑島暁帆、田邊康子、西野一三、後藤雄一、池田義彦、畠山金太、竹内利治、中川直樹 | 心不全治療が奏功した成人ミトコンドリア心筋症の一例 | 第129回日本循環器学会北海道地方会 | 2023.6 |
| 24) 木田涼太郎 | 肺サルコイドーシス疑い症例に対する気管支鏡162例の検討 | 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 | 2023.6 |

25) 奈良岡妙佳	小児気道異物の摘出において極細径気管支鏡が有用であった2例	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2023.6
26) 志垣涼太	浸潤性粘液性腺癌に対し気管支鏡検査を施行した26例の臨床的検討	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2023.6
27) Sakamoto N, Sato N, Tokuno S, Tanabe Y, Takeuchi T, Nakagawa N, Kawamura Y	A Case of Transthyretin Cardiac Amyloidosis Requiring a Pacemaker After Tafamidis Treatment	第69回日本不整脈心電学会学術大会	2023.7
28) Otsu K, Sato M, Sugiki R, Kubo Y, Shiwaku Y, Kato M, Takahashi M, Homma T, Fujita M, Takenaka T	Study on the usefulness of subcutaneous implantable cardioverter defibrillator in our hospital	第69回日本不整脈心電学会学術大会	2023.7
29) 伊達歩、三田村信雄、呂隆徳、大田哲生	当院における心リハエントリー患者の復職状況	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2023.7
30) 澤田潤	当院における脳卒中診療の変遷	第55回北海道脳卒中研究会	2023.7
31) 臼田実男、井上達哉、土田敬明、中井俊之、佐々木高明、池田徳彦	SDGs:産業と技術革新の基盤を作ろう 産学連携・医工連携-アイデアを医療に生かす- 新しい医療機器開発の進め方 患者さんに新しい医療を届けるために	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023.7
32) 佐久間寛史、松木孝樹、中川直樹	都道府県別にみた平均透析前収縮期血圧値と心血管死亡率との関連についての調査	第45回日本高血圧学会総会	2023.9
33) 太田久宣、川村祐一郎	高血圧発症における自律神経系の関与—Holter心電図による年齢群別心拍変動解	第45回日本高血圧学会総会	2023.9

析一

- | | | | |
|---|---|-------------------------|--------|
| 34) 池崎美智子、篠原由紀子、船越駿介、阿部真紀子、川添美紀、佐藤敦、高田耕平、小川正浩、門上俊明、冨永光裕、大屋祐輔、三浦伸一郎、福田佑介、中川直樹、有馬久富 | 無作為化比較試験 CRAFT の進捗 2023 | 第 45 回日本高血圧学会総会 | 2023.9 |
| 35) 末次令奈、池田みのり、中尾汐里、山田一紀、佐久間寛史、松木孝樹、中川直樹 | 顕微鏡的多発血管炎の再燃に対しアバコパンを導入した一例 | 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 | 2023.9 |
| 36) 藤野貴行、倉麻里香、林潤希、中川直樹、高田明生 | 腎生検が鑑別に有用であった免疫チェックポイント阻害薬誘発性急性腎障害 | 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 | 2023.9 |
| 37) 中川直樹 | ビッグデータを用いた臨床研究 | 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 | 2023.9 |
| 38) 中川直樹 | MPGN の多様性－病理と臨床からの考究－ | 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 | 2023.9 |
| 39) 山田一紀、末次令奈、松田正大、和田篤志、平山智也、石田裕則、中川直樹 | Mycobacterium abscessus(M.abscessus)による腹膜透析関連腹膜炎の一例 | 第 29 回日本腹膜透析医学会 学術集会・総会 | 2023.9 |

40) 植村友裕、相馬純、鈴木奈々、紙谷ひかる、菊地史織、齋藤司、澤田潤、中川直樹	非アンモニア血症性バルプロ酸脳症と診断した1例	第112回日本神経学会北海道地方会	2023.9
41) 片山隆行、高橋佳恵、箭原修、松浦一生、福田泰之、川崎伸一、黒田健司、木村隆、澤田潤	頭蓋外椎骨動脈の蛇行と血管危険因子に関する検討 (第2報)	第112回日本神経学会北海道地方会	2023.9
42) 河端奈穂子	Aortic rim 欠損の malalignment 症例に対して、Amplatzer Septal Occluder を選択した一例	SLDC2023	2023.9
43) 佐々木高明	ALK・ROS1 陽性肺癌の分子生物学と治療戦略	第82回日本癌学会	2023.9
44) 佐々木高明	ALK 陽性肺癌における耐性機序の解明と臨床への応用 (2)進化する ALK 陽性肺癌治療戦略と克服すべき課題	第82回日本癌学会	2023.9
45) 中川直樹	ファブリー病の概要とアガルシダーゼベータ後続品の有用性	第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会	2023.10
46) 鈴木勇太、坂本央、豊嶋更紗、木谷祐也、蓑島暁帆、田邊康子、竹内利治、植田光晴、佐藤伸之、中川直樹	重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術後に疾患修飾療法を導入した高齢アミロイドーシス症例	日本老年医学会第34回北海道地方会	2023.10

- | | | | |
|--|--|--------------------------------|---------|
| 47) 木田涼太郎、八木田あかり、奈良岡妙佳、渡邊皐嗣、似内貴一、志垣涼太、梁田啓、天満紀之、梅影泰寛、森千恵、吉田遼平、南幸範、佐々木高明、長内忍 | 気管狭窄のため覚醒下 EUS-B-FNA で診断した非小細胞性肺癌の一例 | 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会北海道支部会 | 2023.10 |
| 48) 塩泡優大、鈴木勇太、丸山康介、三好優史、久保勇進、樋口隼太郎、徳野翔太、木谷祐也、青沼達也、河端菜穂子、伊達歩、斎藤江里香、蓑島暁帆、坂本央、田邊康子、竹内利治、國岡信吾、紙谷寛之 | 重症大動脈弁狭窄症に対し SAPIEN3 留置後、遅発性大動脈解離を発症した一例 | 第 57 回日本心血管インターベンション治療学会北海道地方会 | 2023.10 |
| 49) 久保勇進、塩泡優大、徳野翔太、木谷祐也、青沼達也、河端奈穂子、伊達歩、蓑島暁帆、坂本央、田邊康子、竹内利治 | ガイドワイヤー (GW) による冠動脈穿孔を生じた症例に対する自己省察 | 第 57 回日本心血管インターベンション治療学会北海道地方会 | 2023.10 |
| 50) 澤田潤 | 脳卒中診療の変遷についての検討 | 第 41 回日本神経治療学会学術集会 | 2023.11 |

51) 徳野翔太、田邊康子、川村祐一郎	ウイルス性心筋炎による重症低左心機能を背景とし、6回の切開と縫合を要した右房切開線を isthmus とした心房頻拍の1例	カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023	2023.11
52) 相馬純、鈴木奈々、紙谷ひかる、植村友裕、菊地史織、齋藤司、澤田潤、中川直樹	ステロイドパルス療法により長期寛解を維持できた小児期発症眼筋型重症筋無力症の1例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
53) 中尾汐里、池田みのり、末次令奈、林望美、山田一紀、松木孝樹、中川直樹、高橋直生、岩野正之	少量ステロイドとシクロスポリンを併用した IgM 陽性形質細胞浸潤を主体とする尿細管間質性腎炎 (IgMPC_TIN) の1例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
54) 鈴木勇太、徳野翔太、木谷祐也、伊達歩、蓑島暁帆、中川直樹、坂本央、田邊康子、竹内利治	重症大動脈弁狭窄症に心アミロイドーシスを合併した2症例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
55) 安藤玲、林潤希、相馬純、植村友裕、菊地史織、澤田潤、中川直樹	高リポ蛋白 (Lp) (a) 血症が原因と考えられた全身性静脈性血栓症の1例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
56) 藤野貴行、倉麻里香、山田一紀、中川直樹、石井良直、高田明生	腎生検が鑑別に有用であった免疫チェックポイント阻害薬誘発性急性腎障害	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11

57)	三好優史、樋口隼太郎、徳野翔太、木谷祐也、伊達歩、蓑島暁帆、中川直樹、坂本央、田邊康子、竹内利治	特発性冠動脈解離による急性冠症候群を発症した9番染色体トリソミーの1例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
58)	番場真珠美、相馬純、安藤玲、植村友裕、菊地史織、澤田潤、中川直樹、川幡智樹	開口障害で初発し、当初破傷風が疑われた巨細胞性動脈炎の1例	第299回日本内科学会北海道地方会	2023.11
59)	塩泡優大、竹内利治、田邊康子、坂本央、蓑島暁帆、齊藤江里香、伊達歩、河端奈穂子、青沼達也、木谷祐也	経皮的僧帽弁接合不全修復術後3年後より著明な左室リバーズリモデリングを認めた一例	第130回日本循環器学会北海道地方会	2023.11
60)	三好優史、木谷祐也、伊達歩、青沼達也、河端奈穂子、蓑島暁帆、坂本央、田邊康子、竹内利治、紙谷寛之	Heyde症候群が疑われた重症大動脈弁狭窄症の一例	第130回日本循環器学会北海道地方会	2023.11
61)	小尾基記、小泉雄人、高橋文彦、蓑島暁帆	肺血管拡張薬3系統先行投与後にCa拮抗薬を追加した急性肺血管反応性試験陽性肺動脈性肺高血圧の一例	第130回日本循環器学会北海道地方会	2023.11
62)	河端奈穂子	大動脈弁IEの心エコー診断と治療	第9回北海道弁膜症カンファレンス	2023.11

63) 竹内利治	右鼠径アプローチの TF-TAVI なのに急性左下肢虚血が左下肢に生じた一例	第 9 回北海道弁膜症カンファレンス	2023.11
64) 森 千恵	一般演題 (ポスター) 1 が ん免疫・腫瘍微小環境 1	第 64 回日本肺癌学会	2023.11
65) 梁田 啓	浸潤性胸腺腫に対する ADOC 療法後, 著明な腫瘍縮小とともに重症筋無力症クリーゼに至った一例	第 64 回日本肺癌学会	2023.11
66) 似内貴一	治療関連白血病の治療中に完全奏功を認めた胸腺癌の 1 例	第 64 回日本肺癌学会	2023.11
67) 平田 晋朗	上皮間葉転換による Sotorasib に耐性を獲得した浸潤性粘液性腺癌の一例	第 64 回日本肺癌学会	2023.11
68) 木村 千紘	Sotorasib の血中濃度と副作用との関連性	第 64 回日本肺癌学会	2023.11
69) 福士明里、佐藤貴彦、天内雅人、山崎大輔、宗万孝次、徳野翔太、田邊康子、川村祐一郎	問診票で得られた運動内容とアクティビティ時間の関係の検討	第 16 回植込みデバイス関連冬季大会	2024.2
70) 天内雅人、山崎大輔、福士明里、佐藤貴彦、宗万孝次、徳野翔太、田邊康子、川村祐一郎	スクリーインリード留置時の障害電流と閾値の推移についての検討	第 16 回植込みデバイス関連冬季大会	2024.2
71) 梅影 泰寛	血球貪食症候群を伴った播種性 BCG 症の 1 例	第 127 回日本呼吸器学会北海道支部学術集会 第 79 回日本結核・非結核性抗酸菌症北海道支部学会 第 30 回日本サルコ	2024.2

72) 志垣 涼太	中枢気道病変に対し診断および気道狭窄解除目的にクライオ生検を施行した3例	イドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部 合同学会 第127回日本呼吸器学会北海道支部学術集会 第79回日本結核・非結核性抗酸菌症北海道支部学会 第30回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部 合同学会	2024.2
73) 稲邊まや	日本最北端の抗Trichosporon asahii抗体陽性の夏型過敏性肺炎の1例	第127回日本呼吸器学会北海道支部学術集会 第79回日本結核・非結核性抗酸菌症北海道支部学会 第30回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部 合同学会	2024.2
74) 似内貴一	当院における気管支喘息症例の包括的分析：治療ステップ、重症度、タイプ2炎症の指標の検討	第127回日本呼吸器学会北海道支部学術集会 第79回日本結核・非結核性抗酸菌症北海道支部学会 第30回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部	2024.2

- | | | | |
|---|---|-------------------|--------|
| 75) 澤田潤、菊地史織、齊藤仁十、三井宣幸、広島覚、木下学 | 悪性腫瘍に合併した脳梗塞における腫瘍マーカーと D-dimer との関連性に関する検討 | 第 49 回日本脳卒中学会学術集会 | 2024.3 |
| 76) 中川直樹、木谷祐也、坂本央、竹内利治、高橋文彦 | Effect of Migalastat on Reducing Plasma Lyso-Gb3 and Left Ventricular Mass Index in Heterozygous Fabry Disease after 2-year Treatment | 第 88 回日本循環器学会学術集会 | 2024.3 |
| 77) 伊達歩、鈴木勇太、丸山康介、三好優史、樋口隼太郎、久保勇進、塩泡優大、徳野翔太、木谷祐也、蓑島暁帆、田邊康子、竹内利治 | In Patients Participating in Cardiac Rehabilitation, Short-term Return to Work after Discharge may cause Exacerbation of Cardiac Disease | 第 88 回日本循環器学会学術集会 | 2024.3 |
| 78) 竹内利治、木谷祐也、蓑島暁帆、中川直樹、石井良直、長谷部直幸 | Potential Effects of Ischemic Postconditioning and Changes in HSP72 in Patients with Acute Myocardial Infarction without Prodromal Angina | 第 88 回日本循環器学会学術集会 | 2024.3 |
| 79) 笹木理恵、坂本央、西中麻里奈、小林朝香、二階堂麻悠子、伊藤栄祐、河端奈穂子、齊藤江里香、中川直 | 心電図記録解析の時点で緊急対応を鹿野とするチーム医療構築の重要性 | 第 88 回日本循環器学会学術集会 | 2024.3 |

樹、奥村利勝、
佐藤伸之

- 80) 植村友裕、相馬
純、安藤玲、菊
地史織、澤田
潤、中川直樹
リンパ増殖性疾患と鑑別を
要した無皮疹性帯状疱疹性
脳脊髄炎の1例
第113回日本神経
学会北海道地方会
2024.3
- 81) 塩泡優大
心原性ショック合併急性心
筋梗塞における Impella の
初期成績と短期予後予測因
子の検討
第58回日本心血管
インターベンショ
ン治療学会北海道
地方会
2024.3
- 82) 三好優史
左鎖骨下動脈狭窄症に対し
てステント留置術を行った
一例
第58回日本心血管
インターベンショ
ン治療学会北海道
地方会
2024.3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 中川 直樹	継続	基盤研究 (C)	急性腎障害から慢性腎臓病進展における Dicer の役割解明と継続治療標的の探索
2) 青沼 達也	継続	若手研究	乳癌患者におけるトラスツズマブ関連心毒性の継続バイオマーカー lncRNA の探索
3) 堀内 至	継続	若手研究	糖尿病病態下の大血管リモデリングに対する継続血管形成因子 Ninjurin1 の役割
4) 蓑島 暁帆	継続	若手研究	冠動脈プラーク内血管の三次元解析によるプラーク不安定化に関わる血管形成因子の同定
5) 安田 俊輔	継続	基盤研究 (C)	コルヒチン腫瘍内投与による抗腫瘍効果の機序解明と免疫学的併用療法の開発
6) 長谷部 直 幸	継続	基盤研究 (C)	ウイルス性心筋傷害の診断指標および治療標的分子としての APE1 の意義に関する研究
7) 奥村 俊介	継続	基盤研究 (C)	肺炎・肺線維症におけるミトコンドリア DNA ダメージ関連分子パターンの機能解

析

- | | | |
|------------------|----------|--|
| 8) 佐々木 高 延長
明 | 基盤研究 (C) | がんゲノム構造異常による、がん遺伝子の活性化メカニズムに関する研究 |
| 9) 岡崎 智 継続 | 若手研究 | アミノレブリン酸を利用したトリプルネガティブ乳癌における早期再発診断に関する検討 |
| 10) 吉田 遼平 継続 | 若手研究 | EGFR 遺伝子変異陽性肺癌におけるアデノシン経路を活用した免疫療法の開発 |
| 11) 鹿野 耕平 継続 | 若手研究 | 骨格筋組織維持における毛細血管幹細胞の多分化能を規定する Ninjurin1 の役割 |

内科学講座

(呼吸器・脳神経内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Respiratory Medicine and Neurology)

I. 所属教員等

内科学講座（呼吸器・脳神経内科学分野）

特任教授 長内 忍
特任助教 志垣 涼太

内科（呼吸器・脳神経）

講 師 澤田 潤
講師（学内） 南 幸範
講師（学内） 佐々木 高明
診療助教 菊地 史織

感染制御部

助 教 梅影 泰寛

II. 研究業績紹介

循環・呼吸・神経内科学分野は、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科の各グループが精力的に学会発表および論文発表を行っている。

循環器内科では、竹内利治講師を中心に若手医師による学会発表を精力的に行い、青沼達也助教が 1) MiR-150 は、ロングノンコーディング RNA MIAT が介在する不適応な心臓リモデリングを抑制し、プロフィブロティック Hoxa4 を直接抑制する (Circ Heart Fail. 15:e008686)、2) MiR-150 は、 β 1-アドレナリン受容体/ β -アレスチンシグナル伝達を失った心筋細胞の心機能障害を抑制し、ユニークなトランスクリプトームを制御する (Cell Death Discov. 8:504, 2022)、等の留学中の仕事を報告した。

呼吸器内科では、佐々木高明学内講師を中心に、咯血を呈する右冠動脈からの気管支動脈起始異常に対し気管支動脈塞栓術を施行した 1 例、化学療法中に慢性骨髄性白血病を発症した肺腺癌の 1 例の症例報告がされた。

神経内科では、澤田潤講師を中心に、悪性腫瘍に合併した脳血管障害の臨床的特徴、当院で経験した血管内リンパ腫 3 症例の臨床的検討、当院で経験した封入体筋炎 6 症例に関する臨床的検討を報告した。

腎臓内科では、中川直樹准教授を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候群に関する報告を行っている。ファブリー病における効率的なスクリーニング方法や尿中のアルブミン排泄量が正常でも尿中の桑の実細胞がみられるという 2 例の姉妹のケースを報告し、尿沈渣検査の重要性を報告した (Mol Genet Metab Rep. 31:100874, 2022)。また、COVID-19 ワクチン後に発症または再発するネフローゼ症候群に関する全国調査を行い、COVID-19 ワクチン接種後にネフローゼ症候群が生じる可能性を報告した (Clin Exp Nephrol. 26:909-916, 2022)。

Ⅲ. 総説・解説

Ⅳ. 論文

Ⅴ. 著書

Ⅵ. 研究発表

Ⅶ. 科研費採択状況

内科学講座

(内分泌・代謝・膠原病内科学分野)

Department of Internal Medicine

(Division of Endocrinology, Metabolism and Rhumatology)

I. 所属教員等

内科学講座（内分泌・代謝・膠原病内科学分野）

教授 奥村 利勝
准教授 滝山 由美
講師 岡本 健作

内科（内分泌・代謝・膠原病）

教授 牧野 雄一 （兼務）
助教 橘内 博哉
診療助教 藤代 大介

II. 研究業績紹介

2023年度は、各教員・大学院生はそれぞれの研究内容を国内外に広く発信し、さらに各グループ員は各種学会において、症例検討を中心に日々の診療からの知見を積極的に発表した。内分泌・代謝疾患ならびに膠原病のいずれの領域においても、日常診療で看過される病態を適切に診断し、しっかりと精査を行い発表していくことは肝要である。希少な病態については論文化を目指し、一方で日々の診療から生まれた課題や疑問を、今後の臨床研究やトランスレーショナルリサーチの基盤とすべく、鋭意尽力していきたい。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Suratsawadee Promsuwan, Kazuki Sawamoto, Liang Xu, Mayumi Nagashimada, Naoto Nagata & Yumi Takiyama	A natural Nrf2 activator glucoraphanin improves hepatic steatosis in high- fat diet-induced obese male mice associated with AMPK activation	Diabetology International	2023 Aug 29 ;15(1):86-98
2) Tomoki Kawahata, Kitaru Tanaka, Kyohei Oyama, Jun Ueda, Chiro Hino, Seiji Matsumoto, Kensaku Okamoto, and Yuichi Makino	HIF3A gene disruption causes abnormal alveoli structure and early neonatal death	PLOS ONE	2024 May 8 ;19(5)

- 3) 神田 真聡, 永幡 研, 遠藤 知之, 岡本 健作, 高田 弘一, 久保 輝文, 真柄 和史, 松本 正孝, 原田 拓 CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～ Sjögren 症候群の加療中、発熱と血球減少を生じ死亡した 1 例 日本内科学会雑誌 1786-1801, 112(9),2023

V. 著書

VI. 研究発表

題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Linagliptin attenuates albuminuria in streptozotocin-induced diabetic nephropathy independent of Nrf2 signaling	第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会	2023.5.13
2) 新たな糖尿病腎症画像診断法としての MRI 拡散強調画像法の可能性	第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会	2023.5.13
3) Fetal Renal Hypoxia Response To Maternal Overnutrition	American Diabetes Association 83rd Scietific Sessions	2023.6.23
4) 重症心不全の併発により治療に難渋した Basedow 病の 1 例	第 23 回 日本内分泌学会北海道支部学術集会	2023.10.22
5) 2 型糖尿病の経過中に抗 GAD 抗体が陽転化した多腺性自己免疫症候群 3 型の一例	第 57 回 日本糖尿病学会北海道地方会	2023.10.22
6) Renal Proximal Tubular Metallothionein 3 Contributes to Diabetic Kidney Lesion	American Diabetes Association 83rd Scietific Sessions	2023.6.26
7) 近位尿細管細胞特異的ヒト Metallothionein 3 トランスジェニックマウスにおける脂肪毒性腎病変	第 38 回 日本糖尿病合併症学会	2023.10.20
8) 長期間の低血糖症状から耐糖能異常の診断に至った一例	第 57 回 日本糖尿病学会北海道地方会	2023.10.22
9) 難治性吃逆を契機に診断された ACTH 分泌不全症の一例	第 33 回 臨床内分泌代謝 Update	2023.11.4

10) 低 LDL-C 血症を契機に診断し得た視床下部性副腎皮質機能低下症の一症例	第 23 回 日本内分泌学会北海道支部学術集会	2023.10.22
11) 選択的静脈サンプリングにより局在診断に至った無症候性原発性副甲状腺機能亢進症の一例	第 300 回 日本内科学会北海道地方会	2024.2.10
12) シェーグレン症候群の加療中、発熱と血球減少を生じ死亡した 1 例	第 120 回 日本内科学会総会・講演会	2023.4.16
13) 当科で経験した限局性筋炎の 2 症例	第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会	2023.4.26
14) 関節リウマチの治療中、COVID-19 に罹患し大動脈炎を発症した 1 例	第 298 回 日本内科学会 北海道地方会	2023.7.1
15) 成人 Still 病に対するトシリズマブ投与下に発症したマクロファージ活性化症候群を早期に診断し得た一例	第 33 回 日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会	2023.10.1
16) 右脛骨骨髓炎を契機に紹介され多発骨病変を認めた慢性再発性多発骨髄炎の一例	第 22 回 関節疾患カンファランス	2024.1.20
17) 自己免疫性好中球減少症を合併した IgG4 関連疾患の一例	第 15 回 道北臨床リウマチ研究会	2024.2.2
18) 初診時に成人 Still 病(ASD)と類似した臨床像を示した感染性心内膜炎(IE)の 1 例	第 300 回 日本内科学会 北海道地方会	2024.2.10
19) 左総頸動脈に限局した一過性動脈炎の一例	第 48 回 北海道リウマチ研究会	2024.3.23

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 滝山 由美	継続	基盤研究 (C)	糖尿病循環障害：血流動態的変動指標の確立
2) 橘内 博哉	再々延長	若手研究	MRI 拡散強調画像法を用いた糖尿病腎症診断法の開発
3) 牧野 雄一	新規	基盤研究 (C)	低酸素応答性転写因子が関わる肺高血圧症と肺血管リモデリング異常の分子病態の解明

内科学講座
(消化器内科学分野)

Department of Internal Medicine
(Division of Gastroenterology)

I. 所属教員等

内科学講座（消化器内科学分野）

教 授	藤谷 幹浩
教 授	水上 裕輔
准 教 授	盛一 健太郎
講 師	北野 陽平
助 教	河端 秀賢
助 教	高橋 慶太郎

内科（消化器）

准 教 授	麻生 和信
講 師	澤田 康司
講師（学内）	嘉島 伸
助 教	安藤 勝祥
助 教	長谷部 拓夢
助 教	高橋 賢治

腫瘍センター

准 教 授	田邊 裕貴
-------	-------

総合診療部

講師（学内）	上野 伸展
--------	-------

寄附講座（消化器疾患病態学講座）

特任助教	坂谷 慧
------	------

共同研究講座（消化器先端医学講座）

特任助教	小西 弘晃
------	-------

II. 研究業績紹介

消化器内科は、消化管・胆膵・肝臓の各グループにおいて日常診療を精力的に行い、数多くの臨床研究を進めている。また基礎研究を幅広く行っており、そこから得られた知見を臨床の現場に役立たせることができるよう日夜研究を進めている。得られたデータは国際

学会や全国学会を中心に幅広く行っており、また早急に論文を公表している。2023年度は講座全体で英語論文は40編であり、十分に研究成果を公表することができた。また若手医師の指導を精力的に行い、国内外の学会で発表ができる体制を整えている。今後も臨床・基礎研究を継続して行っていく。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 藤谷幹浩, 坂谷慧	治療法のアップデートのために 専門家による私の治療 虚血性大腸炎	日本医事新報	2023年7月

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Nakase H, Esaki M, Hirai F, Kobayashi T, Matsuoka K, Matsuura M, Naganuma M, Saruta M, Tsuchiya K, Uchino M, Watanabe K, Hisamatsu T on behalf of the TRADE consensus group	Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021	J Gastroenterol Hepatol	2023 Apr
2) Goto T, Sato H, Fujibayashi S, Okada T, Hayashi A, Kawabata H, Yuzawa S, Ishitoya S, Yamashina M,	The Effectiveness of the Combination of Arterial Infusion Chemotherapy and Radiotherapy for Biliary Tract Cancer: A Prospective Pilot Study	Cancers	2023 May

- Fujiya M.
- 3) Sugiyama Y, Ueno N, Tachibana S, Kobayashi Yu, Murakami Y, Sasaki T, Sakatani A, Takahashi K, Ando K, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M. The safety of vedolizumab in a patient with Crohn's disease who developed anti-TNF-alpha agent associated latent tuberculosis infection reactivation: A case report. *Medicine (Baltimore)* 2023 Jul
- 4) Ueno N, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Tanaka K, Serikawa S, Ando K, Kashima S, Muto M, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M. Concomitant pharmacologic medications influence the clinical outcomes of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis: A multicenter retrospective cohort study. *J Clin Apher* 2023 Aug
- 5) Hirayama D, Motoya S, Ashida T, Ando K, Fujiya M, Ito T, Furukawa S, Effectiveness and Factors Associated with Response to Golimumab in Japanese Patients with Ulcerative Colitis in Real Clinical *Inflamm Intest Dis* 2023 Aug

Maemoto A, Katsurada T, Hinotsu S, Sato N, Mizuno N, Ikawa Y, Nakase H.

Practice: The Phoenix Study.

- 6) Kazama T, Ando K, Ueno N, Fujiya M, Ito T, Maemoto A, Ishigami K, Nojima M, Nakase H. Long-term effectiveness and safety of infliximab-biosimilar: A multicenter Phoenix retrospective cohort study. PloS One 2023 Sep
- 7) Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Sato T, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Moriya K, Maemoto A, Shiotani A, Ohmiya N, Tsuchiya K, Shinzaki S, Kato S, Uraoka T, Tanaka N, Takatsu N. Trajectory analyses to identify persistent low responders to COVID-19 vaccination in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicenter controlled study, J-COMBAT. J Gastroenterol 2023 Oct

Nishida A,
 Umeno J,
 Nakamura M,
 Ishihara S,
 Fujiya M,
 Tsuchida K,
 Hiraoka S,
 Yamamoto S,
 Saruta M,
 Matsuoka K,
 Ando A, Hirota
 Y*, and
 Hisamatsu T*:
 on behalf of the
 J-COMBAT
 study group

- 8) Mitsui N, Kinoshita M, Sawada J, Fujiya M, Furukawa H. Stroke risk related to intentional discontinuation of antithrombotic therapy for invasive procedures. *Neurosurg Focus* 2023 Oct
- 9) Hayashi H, Sawada K, Tanaka H, Muro K, Hasebe T, Nakajima S, Okumura T, Fujiya M. The effect of heat-killed *Lactobacillus brevis* SBL88 on improving selective hepatic insulin resistance in non-alcoholic fatty liver disease mice without altering the gut microbiota. *J Gastroenterol Hepatol* 2023 Oct
- 10) 佐藤允洋, 上野伸展, 杉村浩二郎, 岩間 琢哉, 田中一之, 坂谷慧, 芹川真哉, 安藤勝祥, 嘉島伸, 石川千里, 武藤桃太郎, 稲場勇平, 盛一健 北海道道北・道東圏内における炎症性腸疾患患者の医療連携構築に向けた課題 *日本消化器病学会 雑誌* 2023 Jul

太郎, 田邊裕
貴, 奥村利勝,
藤谷幹浩.

- | | | | |
|--|---|------------------|----------|
| 11) Sato H,
Kawabata H,
Fujiya M. | The Lambda stenting
technique: A new approach
to address endoscopic
ultrasonography-guided
biliary drainage-associated
adverse events. | VideoGIE | 2023 Oct |
| 12) Naganuma M,
Kobayashi T,
Kunisaki R,
Matsuoka K,
Yamamoto S,
Kawamoto A,
Saito D, Nanki
K, Narimatsu K,
Shiga H, Esaki
M, Yoshioka S,
Kato S, Saruta
M, Tanaka S,
Yasutomi E,
Yokoyama K,
Moriya K,
Tsuzuki Y, Ooi
M, Fujiya M,
Nakazawa A,
Abe T,
Hisamatsu T,
the Japanese UC
Study Group | Real-world efficacy and
safety of first and second
advanced therapies in
hospitalized patients with
ulcerative colitis. | J Gastroenterol | 2023 Dec |
| 13) Ueda T, Koyama
F, Sugita A,
Ikeuchi H,
Futami K,
Fukushima K, | Endoscopic lesions of
postoperative anastomotic
area in patients with Crohn's
disease in the biologic era: A
Japanese multi-center | J Crohns Colitis | 2023 Dec |

Nezu R, Iijima nationwide cohort study.
 H, Mizushima
 T, Itabashi M,
 Watanabe K,
 Hata K,
 Shinagawa T,
 Matsuoka K,
 Takenaka K,
 Sasaki M,
 Nagayama M,
 Yamamoto H,
 Shinozaki M,
 Fujiya M, Kato J,
 Ueno Y, Tanaka
 S, Okita Y,
 Hashimoto Y,
 Kobayashi T,
 Koganei K,
 Uchino M, Fujii
 H, Suzuki Y,
 Hisamatsu T.

- 14) Moriichi K, Kashima S, Kobayashi Y, Sugiyama Y, Murakami Y, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Tanabe H, Date A, Yuzawa S, Fujiya M. Cardiac sarcoidosis in a patient with ulcerative colitis: a case report and literature review. *Medicine (Baltimore)* 2024 Jan
- 15) Kashima S, Moriichi K, Kamikokura Y, Fujiya M. A case of steroid-refractory chronic diarrhea in a patient undergoing chemotherapy with immune checkpoint *J Gastroenterol Hepatol* 2024 Feb

- inhibitor for lung cancer.
- 16) Ota Y, Aso K, Yokoo H, Fujiya M. Noninvasive visualization of tumor blood vessels within hepatocellular carcinoma by application of superb microvascular imaging to contrast-enhanced ultrasonography
Diagnostics 2024 Mar
- 17) Kunogi T, Konishi H, Sakatani A, Moriichi K, Yamamura C, Yamamoto K, Kashima S, Ando K, Ueno N, Tanaka H, Okumura T, Fujiya M. Probiotic-derived ferrichrome induces DDIT3-mediated antitumor effects in esophageal cancer cells
Heliyon 2024 Mar
- 18) Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, Sasagawa H, Kamanaka T, Kuroda S, Sato H, Sarashina T, Mizukami Y, Makita Y, Okumura T. Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability
Hum Genome Var. 2024 Mar
- 19) Nakajima N, Takeuchi T, Hokari R, Narimatsu K, Iijima K, Koizumi S, Kasugai K, Ebi Background factors of idiopathic peptic ulcers and optimal treatment methods: a multicenter retrospective Japanese study.
J Clin Biochem Nutr. 2024 Jan

M, Nagahara A,
Takeda T,
Tomita T,
Shinzaki S,
Mizukami K,
Murakami K,
Yagi N, Mukai
R, Okumura T,
Tanabe H,
Tanaka K,
Iwamoto J,
Irisawa A,
Fukushi K,
Kataoka H,
Nishie H,
Fujiwara Y,
Otani K, Handa
O, Maruyama Y,
Uraoka T,
Hosaka H,
Furuta T,
Takagi T,
Nakamura M,
Nyumura Y,
Hakoda A,
Sugawara N,
Iwatubo T, Ota
K, Kawaguchi S,
Higuchi K,
Nishikawa H.

- 20) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, Takakusaki K, Okumura T. Phlorizin attenuates postoperative gastric ileus in rats. Neurogastroenterol Motil. 2023 Nov

- 21) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, Takakusaki K, Okumura T. Imeglimin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in irritable bowel syndrome rat model. J Pharmacol Sci 2023 Sep
- 22) Igarashi S, Nozu T, Ishioh M, Funayama T, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T. Ghrelin prevents lethality in a rat endotoxemic model through central effects on the vagal pathway and adenosine A2B signaling : Brain ghrelin and anti-septic action. J Physiol Biochem. 2023 Aug
- 23) Funayama T, Nozu T, Ishioh M, Igarashi S, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T. Centrally administered GLP-1 analogue improves intestinal barrier function through the brain orexin and the vagal pathway in rats. Brain Res. 2023 Jun
- 24) Takahashi K, Takeda Y, Ono Y, Isomoto H, Mizukami Y. Current status of molecular diagnostic approaches using liquid biopsy. J Gastroenterol 2023.9
- 25) Takahashi K, Inuzuka T, Shimizu Y, Sawamoto K, Taniue K, Ono Y, Asai F, Koyama K, Sato. Liquid biopsy for pancreatic cancer by serum extracellular vesicle-encapsulated long non-coding RNA HEVEPA. Pancreas 2024.1

H, Kawabata H,
Iwamoto H,
Yamakita K,
Kitano Y,
Teramoto T,
Fujiya M, Fujii
S, Mizukami Y,
Okumura T

- 26) Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, Sasagawa H, Kamanaka T, Kuroda S, Sato H, Sarashina T, Mizukami Y, Makita Y, Okumura T Genomic Insights into Familial Adenomatous Polyposis: Unraveling a Rare Case with Whole APC Gene Deletion and Intellectual Disability Human Genome Variation 2024.1
- 27) Sato H, Kawabata H, Iwamoto H, Okada T, Fujibayashi S, Takahashi K, Kitano Y, Goto T, Mizukami Y, Okumura T, Fujiya M New Gel Immersion Endoscopic Ultrasonography Technique for Accurate Periampullary Evaluation Surgical Endoscopy 2024.1
- 28) Kenji Takahashi, Tatsutoshi Inuzuka, Fumi Asai, Kazuya Koyama, Yusuke Ono, Kenzui Taniue, Mami Kajiura, Hiroki Sato, Tetsuhiro Circulating extracellular vesicle-encapsulated long non-coding RNAs obtained via liquid biopsy are potential biomarkers for pancreatic ductal adenocarcinoma UEG Journal 2023.10

Okada, Hidemas
a Kawabata,
Hidetaka
Iwamoto, Yohei
Kitano, Takashi
Teramoto,
Mikihiro Fujiya,
Yusuke
Mizukami,
Toshikatsu
Okumura

- 29) Shuichi Mitsunaga, Makoto Ueno, Masahiro Tsuda, Takamichi Kuwahara, Yukiko Takayama, Keiji Hanada, Hitoshi Yoshida, Kenji Takahashi, Kohei Nakata, Masafumi Ikeda, Satoshi Kobayshi, Ikuya Miki, Kasuo Hara, Ryota Higuchi, Akinori Shimizu, Tomohiro Nomoto, Hidetaka Iwamoto, Masafumi Nakamura, Tumor suppressor miRNA-665 based serum biomarker for detecting pancreatobiliary cancer Cancer Research 2023.4

Hiroko Sudo,
Satoko
Takizawa,
Atsushi Ochiai

- 30) Hideki Fujii , Multicenter, retrospective, Hepatol Res 2023.5
Makoto Fujii, cohort study shows platelet
Michihiro Iwaki, counts predict hepatocellular
Hideki Hayashi, carcinoma development in
Hidenori patients with nonalcoholic
Toyoda, Satoshi fatty liver disease
Oeda, Hideyuki
Hyogo, Miwa
Kawanaka,
Asahiro
Morishita,
Kensuke
Munekage,
Kazuhito
Kawata, Tsubasa
Tsutsumi, Koji
Sawada, Tatsuji
Maeshiro,
Hiroshi Tobita,
Yuichi Yoshida,
Masafumi Naito,
Asuka Araki,
Shingo Arakaki,
Takumi
Kawaguchi,
Hidenao
Noritake,
Masafumi Ono,
Tsutomu
Masaki, Satoshi
Yasuda, Eiichi
Tomita, Masato

Yoneda,
 Norifumi
 Kawada, Akihiro
 Tokushige,
 Yoshihiro
 Kamada,
 Hirokazu
 Takahashi,
 Shinichiro Ueda,
 Shinichi
 Aishima, Yoshio
 Sumida, Atsushi
 Nakajima,
 Takeshi
 Okanoue; Japan
 Study Group of
 Nonalcoholic
 Fatty Liver
 Disease (JSG-
 NAFLD)

- | | | | | |
|-----|--|--|-----------|--------|
| 31) | Hirokazu
Takahashi,
Miwa Kawanaka,
Hideki Fujii 3,
Michihiro Iwaki,
Hideki Hayashi,
Hidenori
Toyoda, Satoshi
Oeda, Hideyuki
Hyogo, Asahiro
Morishita,
Kensuke
Munekage,
Kazuhito
Kawata, Tsubasa
Tsutsumi, Koji | Association of Serum
Albumin Levels and Long-
Term Prognosis in Patients
with Biopsy-Confirmed
Nonalcoholic Fatty Liver
Disease | Nutrients | 2023.4 |
|-----|--|--|-----------|--------|

Sawada, Tatsuji
 Maeshiro,
 Hiroshi Tobita,
 Yuichi Yoshida,
 Masafumi Naito,
 Asuka Araki,
 Shingo Arakaki,
 Takumi
 Kawaguchi,
 Hidenao
 Noritake,
 Masafumi Ono,
 Tsutomu
 Masaki, Satoshi
 Yasuda, Eiichi
 Tomita, Masato
 Yoneda, Akihiro
 Tokushige,
 Yoshihiro
 Kamada,
 Shinichiro Ueda,
 Shinichi
 Aishima, Yoshio
 Sumida, Atsushi
 Nakajima,
 Takeshi
 Okanoue and
 Japan Study
 Group of
 Nonalcoholic
 Fatty Liver
 Disease (JSG-
 NAFLD)

32)	Hidenori Toyoda; Hideki Fujii; Michihiro	Validation of noninvasive markers for HCC risk stratification in 1,389	Gastro Hep Advances	2023.7
-----	--	--	------------------------	--------

Iwaki; Hideki patients with biopsy-proven
Hayashi; Satoshi NAFLD
Oeda; Hideyuki
Hyogo; Miwa
Kawanaka;
Asahiro
Morishita;
Kensuke
Munekage;
Kazuhito
Kawata; Sakura
Yamamura; Koji
Sawada; Tatsuji
Maeshiro;
Hiroshi Tobita;
Yuichi Yoshida;
Masafumi Naito;
Asuka Araki;
Shingo Arakaki;
Takumi
Kawaguchi;
Hidenao
Noritake;
Masafumi Ono;
Tsutomu
Masaki; Satoshi
Yasuda; Eiichi
Tomita; Masato
Yoneda;
Norifumi
Kawada; Akihiro
Tokushige;
Yoshihiro
Kamada;
Hirokazu
Takahashi;

Shinichiro Ueda;
Shinichi
Aishima; Yoshio
Sumida; Atsushi
Nakajima;
Takeshi
Okanoue

33) Hideki Fujii, Yuichiro Suzuki, Kouji Sawada, Miwa Tatsuta, Tatsuji Maeshiro, Hiroshi Tobita, Tsubasa Tsutsumi, Takemi Akahane, Chitomi Hasebe, Miwa Kawanaka, Takaomi Kessoku, Yuichiro Eguchi, Hayashi Syokita, Atsushi Nakajima, Tomoari Kamada, Hitoshi Yoshiji, Takumi Kawaguchi, Hiroshi Sakugawa, Asahiro Morishita, Tsutomu Masaki, Takumi

Prevalence and associated metabolic factors of nonalcoholic fatty liver disease in the general population from 2014 to 2018 in Japan: a large-scale multicenter retrospective study

Hepatol Res 2023.11

Omura, Toshio
 Watanabe,
 Norifumi
 Kawada, Yoshiki
 Ida, Nobuyuki
 Enomoto,
 Masafumi Ono,
 Kanako Fuyama,
 Kazufumi
 Okada, Naoki
 Nishimoto,
 Yoichi Ito,
 Yoshihiro
 Kamada,
 Hirokazu
 Takahashi,
 Yoshio Sumida,
 Japan Study
 Group of
 Nonalcoholic
 Fatty Liver
 Disease (JSG-
 NAFLD) .

34) Takanori Ito, Hikaru Morooka, Hirokazu Takahashi, Hideki Fujii, Michihiro Iwaki, Hideki Hayashi, Hidenori Toyoda, Satoshi Oeda, Hideyuki Hyogo, Miwa Kawanaka,	Identification of clinical phenotypes associated with poor prognosis in patients with nonalcoholic fatty liver disease via unsupervised machine learning	J Gastroenterol Hepatol	2023.10
--	---	----------------------------	---------

Asahiro
Morishita,
Kensuke
Munekage,
Kazuhito
Kawata, Tsubasa
Tsutsumi, Koji
Sawada, Tatsuji
Maeshiro,
Hiroshi Tobita,
Yuichi Yoshida,
Masafumi Naito,
Asuka Araki,
Shingo Arakaki,
Takumi
Kawaguchi,
Hidenao
Noritake,
Masafumi Ono,
Tsutomu
Masaki, Satoshi
Yasuda, Eiichi
Tomita, Masato
Yoneda, Akihiro
Tokushige,
Masatoshi
Ishigami,
Yoshihiro
Kamada,
Shinichiro Ueda,
Shinichi
Aishima, Yoshio
Sumida, Atsushi
Nakajima,
Takeshi
Okanoue; Japan

Study Group of
Nonalcoholic
Fatty Liver
Disease (JSG-
NAFLD)

- 35) Michihiro Iwaki, Prognosis of biopsy- Clinical and 2024.1
Hideki Fujii, confirmed MASLD: a sub- Molecular
Hideki Hayashi, analysis of the CLIONE Hepatology
Hidenori study
Toyoda, Satoshi
Oeda, Hideyuki
Hyogo, Miwa
Kawanaka,
Asahiro
Morishita,
Kensuke
Munekage,
Kazuhito
Kawata, Tsubasa
Tsutsumi, Koji
Sawada, Tatsuji
Maeshiro,
Hiroshi Tobita,
Yuichi Yoshida,
Masafumi Naito,
Asuka Araki,
Shingo Arakaki,
Takumi
Kawaguchi,
Hidenao
Noritake,
Masafumi Ono,
Tsutomu
Masaki, Satoshi
Yasuda, Eiichi
Tomita, Masato

Yoneda, Akihiro
 Tokushige,
 Yoshihiro
 Kamada,
 Hirokazu
 Takahashi,
 Shinichiro Ueda,
 Shinichi
 Aishima, Yoshio
 Sumida, Atsushi
 Nakajima,
 Takeshi
 Okanoue, Japan
 Study Group of
 Nonalcoholic
 Fatty Liver
 Disease (JSG-
 NAFLD)

- 36) Tsusumi, Hepatic Inflammation and Aliment 2024.1
 Tsubasa; Fibrosis are Profiles Related Pharmacol Ther
 Kawaguchi, to Mid-Term Mortality in
 Takumi; Fujii, Biopsy-Proven MASLD: A
 Hideki; Kamada, Multicenter Study in Japan
 Yoshihiro;
 Takahashi,
 Hirokazu;
 Kawanaka,
 Miwa; Sumida,
 Yoshio; Iwaki,
 Michihiro;
 Hayashi,
 Hideki ; Toyoda,
 Hidenori ; Oeda,
 Satoshi; Hyogo,
 Hideyuki ;
 Morishita,

Asahiro;
Munekage,
Kensuke;
Kawata,
Kazuhito;
Sawada, Koji;
Maeshiro,
Tatsuji; Tobita,
Hiroshi;
Yoshida, Yuichi;
Naito,
Masafumi;
Araki, Asuka;
Arakaki, Shingo;
Noritake,
Hidenao; Ono,
Masafumi;
Masaki,
Tsutomu;
Yasuda, Satoshi;
Tomita, Eiichi;
Yoneda, Masato;
Tokushige,
Akihiro; Ueda,
Shinichiro;
Aishima,
Shinichi;
Nakajima,
Atsushi;
Okanoue,
Takeshi

- 37) Maeda C, Ono Y, Hayashi A, Takahashi K, Taniue K, Kakisaka R, Multiplex digital PCR assay to detect multiple KRAS and GNAS mutations associated with pancreatic carcinogenesis from minimal *Journal of Molecular Diagnostics.* 2023.6

Mori M, Ishii T, specimen amounts.
 Sato H, Okada
 T, Kawabata H,
 Goto T,
 Tamamura N,
 Omori Y,
 Takahashi K,
 Katanuma A,
 Karasaki H,
 Andrew Scott
 Liss, Mizukami
 Y.

- 38) Sato H, Fujii S, Small Insulinoma Followed- Intern Med. 2024.3
 Okada T, up as an Indolent Pancreatic
Kawabata H, Tumor: A Case Report.
 Kamikokura Y,
 Fujiya M.
- 39) Yu Ota , Contrast-enhanced Radiology Case 2023.1
 Kazunobu Aso , ultrasonography for the Reports 18 173-
 Shin Otake , diagnosis of spontaneous 181
 Mitsuyoshi necrosis of hepatocellular
 Okada , carcinoma: A report of 2
 Kounosuke cases
 Shukuda , Koji
 Sawada , Hideki
 Yokoo , Mishie
 Tanino ,
 Mikihiro Fujiya ,
 Toshikatsu
 Okumura
- 40) Teiichi Sugiura, Randomized phase II trial of Journal of 2023.11
 Hirochika chemoradiotherapy with S-1 Hepato-Biliary-
 Toyama, Akira versus combination Pancreatic
 Fukutomi, chemotherapy with Sciences
 Hirofumi gemcitabine and S-1 as
 Asakura, Yuriko neoadjuvant treatment for

Takeda, Kouji resectable pancreatic cancer
 Yamamoto, (JASPAC 04)
 Satoshi Hirano,
 Sohei Satoi,
 Ippei
 Matsumoto,
 Shinichiro
 Takahashi,
 Soichiro
 Morinaga,
 Makoto Yoshida,
 Yasunaru
 Sakuma,
 Hidetaka
 Iwamoto,
 Yasuhiro
 Shimizu,
 Katsuhiko
 Uesaka

- | | | | | |
|-----|--|----------------------------|------------------------|---------|
| 41) | 宿田耕之介,麻生和信,大竹 晋, 太田 雄, 岡田 充巧, 室 和希, 林 秀美, 中嶋 駿介, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 横尾 英樹, 湯澤 明夏 | 若年者に発症した巨大肝エ
キノコックス症の一例 | Rad
Fan21(8)P14-17 | 2023.6 |
| 42) | 麻生和信,岡田 充巧, 太田 雄, 大竹 晋, 宿田 耕之介, 室 和希, 林 秀美, 中嶋 駿介, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝 | 肝腫瘍診断における造影
3DSMI の臨床応用 | Rad
Fan21(8)P46-48 | 2023.6 |
| 43) | 大竹晋, 麻生 和信, 太田 雄, 岡田 | FNH-like nodule の 1 例 | Rad
Fan21(14)P23-26 | 2023.11 |

充巧, 林 秀美, 中
嶋 駿介, 長谷部
拓夢, 澤田 康司,
藤谷 幹浩, 奥村
利勝, 上小倉 佑
機, 谷野 美智枝

- 44) Lee AQ, Konishi H, Helmke E, Ijiri M, Lerot JMA, Hicks E, Chien JR, Gorin FA, Satake N. Cmpd10357 to treat B-cell acute lymphoblastic leukemia Exp Hematol 2023.4

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 小野裕介、高橋賢治、水上裕輔	胆と膵：新時代の KRAS 変異 ～診断の主役から治療の標的 へ～ IPMN 発癌における KRAS 変異	医学図書出版	2023.7
2) 佐藤 允洋, 上野 伸展, 杉村 浩二郎, 岩間 琢哉, 田中 一之, 坂谷 慧, 芹川 真哉, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 石川 千里, 武藤 桃太郎, 稲葉 勇平, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 奥村 利勝, 藤谷 幹浩	北海道道北・道東圏内における炎症性腸疾患患者の医療連携構築に向けた課題	日本消化器病学会 雑誌	2023.8
3) 久万田 優佳, 石井 大介, 石井 聖也, 元木 恵太, 土川 颯, 上	低位鎖肛術後糞便性腸閉塞により腹部コンパートメント症候群を呈した 1 例	日本小児外科学会 雑誌	2023.12

野 伸展, 庄中 達
也, 宮城 久之

- 4) 上野伸展 IBD (特定疾患、小児特定疾患、身体障害者認定) HOKUTO 2023.12
- 5) 上野伸展, 藤谷 幹浩 潰瘍性大腸炎の内視鏡分類 東京医学社 2024.1

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 嘉島伸、盛一健太郎、藤谷幹浩	消化器疾患の遠隔医療の現状と課題 IBD 診療における通院距離が臨床所見・入院や治療に及ぼす影響の解析	第 109 回日本消化器病学会総会	2023.4
2) 嘉島伸、小林裕、坂谷慧、高橋慶太郎、安藤勝祥、上野伸展、盛一健太郎、藤谷 幹浩	当院における PET-CT による悪性リンパ腫消化管病変の診断能の解析	第 52 回日本消化器がん検診学会北海道地方会	2023.7
3) 高橋賢治	「膵胆道癌診療 最新 Topics」講演 1: 膵胆道癌の個別化治療とがん遺伝子診療	第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会 専門医セミナー	2024.3
4) 高橋賢治、小山一也、梶浦麻未、佐藤裕基、岡田哲弘、河端秀賢、岩本英孝、北野陽平、藤谷幹浩、水上裕輔、奥村利勝	細胞外小胞 EVs とノンコーディング RNA を用いた新規膵癌リキッドバイオプシー体系の構築	第 8 回 Gastro-PLUS	2023.12
5) 小山一也、高橋賢治、梶浦麻未、岡田哲弘、河端秀賢、岩本	循環 EVs 中 miR-425 による膵癌進展制御機構およびリキッドバイオプシー標的としての有用性の検討	第 31 回日本消化器関連学会週間 (2023)	2023.11

英孝、北野陽
平、藤谷幹浩、
水上裕輔、奥村
利勝

- 6) 小山一也、高橋 細胞外小胞内包型ノンコード 第 31 回 若手膵臓研 2023.11
賢治、梶浦麻 イング RNA の膵癌リキッド 究会
未、岡田哲弘、 バイオプシー標的としての有
河端秀賢、岩本 用性
英孝、北野陽
平、藤谷幹浩、
水上裕輔、奥村
利勝
- 7) Kenji Circulating extracellular United European 2023.10
Takahashi, vesicle-encapsulated long Gastroenterology
Tatsutoshi non-coding RNAs obtained Week 2023
Inuzuka, Fumi via liquid biopsy are potential
Asai, Kazuya biomarkers for pancreatic
Koyama, Yusuke ductal adenocarcinoma
Ono, Kenzui
Taniue, Mami
Kajiura, Hiroki
Sato, Tetsuhiro
Okada, Hidemas
a Kawabata,
Hidetaka
Iwamoto, Yohei
Kitano, Takashi
Teramoto,
Mikihiro Fujiya,
Yusuke
Mizukami,
Toshikatsu
Okumura
- 8) Tomomi Serum miRNA signature for 第 82 回日本癌学会 2023.9
Hamaguchi, detecting pancreatobiliary 学術総会
Shuichi cancer

Mitsunaga,
 Makoto Ueno,
 Masafumi Ikeda,
 Seiya Miki,
 Takamichi
 Kuwahara,
 Yukiko
 Takayama, Keiji
 Hanada, Hitoshi
 Yoshida, Kenji
 Takahashi,
 Kohei Nakata,
 Hideaki Iwama,
 Satoko Takizawa

- 9) 高橋賢治、梶浦 細胞外小胞 EV 内 RNA に着 第 54 回日本膵臓学 2023.7
 麻未、小杉英 目した膵癌バイオマーカー探 会大会
 史、岡田哲弘、 索
 河端秀賢、岩本
 英孝、北野陽
 平、藤谷幹浩、
 奥村利勝、水上
 裕輔
- 10) 岩本英孝、高橋 DIC 合併重症急性膵炎の臨 第 54 回日本膵臓学 2023.7
 賢治、梶浦麻 床的アウトカムに関する検討 会大会
 未、小杉英史、
 佐藤裕基、岡田
 哲弘、河端秀
 賢、
 北野陽平、藤谷
 幹浩、水上裕
 輔、奥村利勝
- 11) 河端秀賢、高橋 IPMN 関連膵癌における 第 54 回日本膵臓学 2023.7
 賢治、梶浦麻 GNAS 遺伝子の病態解明か 会大会
 未、小杉英史、
 佐藤裕基、岡田
 哲弘、岩本英

孝、
北野陽平、藤谷
幹浩、奥村利
勝、水上裕輔 v

- | | | | | |
|-----|--|--|--------------------------|--------|
| 12) | 高橋賢治、水上裕輔、奥村利勝 | 膵液由来遊離核酸を用いた膵癌 liquid biopsy の取り組みについて | 第 109 回日本消化器病学会総会 | 2023.4 |
| 13) | 河端秀賢、高橋賢治、水上裕輔 | IPMN 関連膵癌における変異型 GNAS による腫瘍悪性度の制御 | 第 109 回日本消化器病学会総会 | 2023.4 |
| 14) | Shuichi Mitsunaga, Makoto Ueno, Masahiro Tsuda, Takamichi Kuwahara, Yukiko Takayama, Keiji Hanada, Hitoshi Yoshida, Kenji Takahashi, Kohei Nakata, Masafumi Ikeda, Satoshi Kobayshi, Ikuya Miki, Kasuo Hara, Ryota Higuchi, Akinori Shimizu, Tomohiro Nomoto, Hidetaka Iwamoto, Masafumi Nakamura, | Tumor suppressor miRNA-665 based serum biomarker for detecting pancreatobiliary cancer | AACR Annual Meeting 2023 | 2023.4 |

Hiroko Sudo,
Satoko
Takizawa,
Atsushi Ochiai

- | | | | | |
|-----|--|---|------------------|---------|
| 15) | Hidemi Hayashi,
Koji Sawada,
Hiroki Tanaka,
Takumu
Hasebe,
Mikihiro Fujiya | Heat-killed Lactobacillus
brevis SBL88 improves
glucolipid metabolism in
MAFLD liver and intestine
without altering the gut
microbiota | APASL Kyoto | 2024.3 |
| 16) | 田村ゆき穂, 澤
田康司, 室和
希, 大竹晋, 林
秀美, 太田雄,
中嶋駿介, 岡田
充巧, 麻生和
信, 藤谷幹浩,
奥村利勝 | 肝細胞癌に対する
Atezolizumab + Bevacizumab
併用療法中の COVID19 感染
後に発症した irAE 肺障害の
1 例 | 第 59 回肝臓学会総
会 | 2023.6 |
| 17) | 林 秀美、澤田
康司、室 和
希、中嶋 駿
介、大竹 晋、
太田 雄、岡田
充巧、麻生 和
信、藤谷 幹
浩、本田 宗
也、長谷部 拓
夢、助川 隆
士、横浜 吏
郎、奥村 利勝 | 道北医療圏の 5 基幹病院にお
ける肝硬変の成因と推移 | 第 59 回肝臓学会総
会 | 2023.6 |
| 18) | 澤田康司、室和
希、林秀美、中
嶋駿介、大竹
晋、太田雄、岡
田充巧、麻生和
信、藤谷幹浩、 | 当院における化学療法時の
HBV 再活性化対策の現状 | JDDW 2023 | 2023.11 |

奥村利勝

- | | | | |
|--|---|--|-----------|
| 19) 澤田 康司、長谷部 拓夢、奥村 利勝 | 肝癌合併肝硬変症例に対するL-カルニチン長期投与による骨格筋低下抑制作用とそのメカニズムの解析 | 第45回日本肝臓学会西部会 | 2023.12 |
| 20) 田村 ゆき穂, 澤田 康司, 大竹 晋, 林 秀美, 太田 雄, 長谷部 拓夢, 中嶋 駿介, 岡田 充巧, 麻生 和信, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝 | 肺病変を伴わないマイコプラズマ感染による急性肝炎の1例 | 第45回日本肝臓学会西部会 | 2023.12 |
| 21) <u>河端秀賢</u> 、水上裕輔. | EUS-BDにおけるステント迷入への対処法. | 第105回日本消化器内視鏡学会総会ワークショップ8; 胆膵内視鏡診察におけるトラブルシューティング | 2023.6.10 |
| 22) <u>河端秀賢</u> . | Fielder25の新たな可能性 | 北海道胆膵ガイドワイヤーセミナー | 2024.1.12 |
| 23) <u>河端秀賢</u> . | TOPAZ-1 | TOPAZ-1 1 st Anniversary Workshop in Hokkaido | 2024.2.1 |
| 24) <u>河端秀賢</u> . | 胆管（膵管）挿管のストラテジ- | 北海道WEBinar2023 | 2023.6.30 |
| 25) 宿田 耕之介, 岡田 充巧, 室 和希, 大竹 晋, 林 秀美, 太田 雄, 中嶋 駿介, 澤田 康司, 麻生 和信, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝 | 重症アルコール性肝炎に対して顆粒球除去療法(GCAP)を施行した1例 | 第132回日本消化器病学会北海道支部例会 | 2023.3.1 |
| 26) 麻生和信, 岡田 | 肝臓疾患の血流診断の最前線 | 日本超音波医学会 | 2023.5 |

- 充巧, 太田 雄, 大竹 晋, 宿田 耕之介, 林 秀美, 中嶋 駿介, 澤田 康司, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝
- 肝腫瘍診断における造影 3D 超音波の臨床応用 第 96 回学術集会
- 27) 大竹 晋, 麻生和信, 宿田耕之介, 太田 雄, 岡田充巧, 林 秀美, 中嶋駿介, 澤田康司, 藤谷幹浩, 奥村利勝
- 高次元モードの実質的効果を検証する:二次元 vs 三-四次元肝良性腫瘍の造影 3D 超音波による血行動態評価 日本超音波医学会 第 96 回学術集会 2023.5
- 28) 麻生和信
- 肝腫瘍診療における造影超音波の進歩 臨床応用の実際 第 25 回日本消化器病学会北海道支部 専門医セミナー 2023.9
- 29) 田邊裕貴, 井尻学見, 笹川穂の花, 鎌仲知美, 黒田祥平, 水上裕輔, 蒔田芳男, 奥村利勝
- がん遺伝子パネル検査では指摘されずマイクロアレイ染色体検査で診断しえた APC 遺伝子欠失を伴う家族性大腸腺腫症進行大腸癌の 1 例 第 29 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2023 年 6 月 17 日
- 30) 田邊裕貴, 佐藤広崇, 大竹 晋, 小林 進, 高橋裕之, 山本昌代, 高橋慶太郎, 田中宏樹, 佐々木高明, 高橋賢治, 水上裕輔, 菊地順子, 大原克仁, 木下一郎
- 当院における大腸癌に対するがんゲノムプロファイリング検査の現状 第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会 2024 年 3 月 2 日
- 31) 坂谷 慧, 安藤 勝祥, 藤谷 幹浩
- 潰瘍性大腸炎における 5-ASA 不耐の臨床像と内視鏡所見 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会 2023 年 5 月

32) 坂谷 慧, 安藤 勝 祥, 藤谷 幹浩	5-ASA 不耐症の臨床像と内 視鏡所見の検討	第 6 回アレルギー 消化器疾患研究会	2023 年 8 月
33) 坂谷 慧、安藤 勝祥、立花 史 音、佐藤 允洋、 小林 裕、杉山 雄哉、佐々木 貴 弘、 高橋 慶太郎、上 野 伸展、嘉島 伸、盛一 健太 郎、田邊 裕貴、 藤谷 幹浩	炎症性腸疾患における 5- ASA 不耐症の臨床像と内視 鏡像	第 14 回日本炎症性 腸疾患学会学術集 会	2023 年 12 月
34) 坂谷慧、佐藤允 洋、安藤勝祥、 上野伸展、藤谷 幹浩	炎症性腸疾患の診断と感染性 腸炎との鑑別	第 6 回日本大腸検 査学会北海道支部 例会	2024 年 2 月
35) 北野 陽平	胆道癌診療における新たなク リニカルクエスション	Biliary Cancer Symposium in Hokkaido	2023.9
36) Hiroyuki Asama, Hiroyuki Okuyama, Yasuyuki Kawamoto, Kumiko Umemoto, Takuo Yamai, Satoshi Kobayashi, Masafumi Watanabe, Yasuo Hamamoto, Takaaki Furukawa,	Safety and efficacy of chemotherapy for patients (pts) with unresectable pancreatic cancer (uPC) concomitant with collagen disease: A multicenter retrospective observational study	ASCO GI	2024.1

Yohei Kitano,
 Masayo Motoya,
 Yuko Suzuki,
 Akihiro Ohba,
 Kazuo
 Watanabe,
 Naohiro Okano,
 Kazuhiko Shioji,
 Noritoshi
 Kobayashi,
 Hiroshi Imaoka,
 Takeshi
 Terashima,
 Makoto Ueno.

- | | | | | |
|-----|---|---|-----------------------------------|--------|
| 37) | 石黒 達也, 河端
秀賢, 小山 一也,
梶浦 麻未, 佐藤
裕基, 岡田 哲弘,
岩本 英孝, 高橋
賢治, 北野 陽平,
藤谷 幹浩, 奥村
利勝, 水上 裕輔 | EUS 下胆道ドレナージにお
けるステント迷入への対策 | 第 127 回 日本消
化器内視鏡学会北
海道支部例会 | 2023.9 |
| 38) | 馬場 佑介, 河端
秀賢, 小山 一
也, 梶浦 麻未, 佐
藤 裕基, 岡田 哲
弘, 岩本 英孝, 高
橋 賢治, 北野 陽
平, 藤谷 幹浩, 奥
村 利勝, 水上 裕
輔 | ERCP でのガイドワイヤ操作
が難しい症例に対する新規ガ
イドワイヤの使用経験 | 第 127 回 日本消
化器内視鏡学会北
海道支部例会 | 2023.9 |
| 39) | 小山 一也, 梶浦
麻未, 佐藤 裕
基, 岡田 哲弘, 河
端 秀賢, 岩本 英 | エストレクチニブの投与によ
り重篤な認知障害・運動失調
をきたした NTRK1 融合遺伝
子陽性肝内胆管癌の 1 例 | 第 133 回 日本消
化器病学会北海道
支部例会 | 2023.9 |

孝, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 水上 裕輔

- | | | | | |
|-----|--|---|---------------------------|---------|
| 40) | 小山 一也, 高橋 賢治, 梶浦 麻未, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 水上 裕輔, 奥村 利勝 | 循環 EVs 中 miR-425 による膵癌進展制御機構およびリキッドバイオプシー標的としての有用性の検討 | 第 65 回 日本消化器病学会大会 | 2023.11 |
| 41) | 梶浦 麻未, 佐藤 裕基, 石黒 達也, 関口 竣也, 小山 一也, 後藤 聖樹, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 水上 裕輔 | 当院における神経内分泌腫瘍に対する PRRT の初期治療経験 | 第 134 回 日本消化器病学会北海道支部例会 | 2024.3 |
| 42) | 後藤 聖樹, 岡田 哲弘, 佐藤 裕基, 梶浦 麻未, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 高橋 賢治, 北野 陽平, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 水上 裕輔 | 切除可能な胆道癌における N 因子の予後への影響 | 第 134 回 日本消化器病学会北海道支部例会 | 2024.3 |
| 43) | 関口 竣也, 梶浦 麻未, 石黒 達也, 後藤 聖樹, 小山 一也, 岡田 哲弘, 河端 秀賢, 岩本 英孝, 高橋 賢 | 感染性大動脈瘤への人工血管置換術後に発症した膵液瘻に対して、経乳頭的処置が著効した 1 例 | 第 128 回 日本消化器内視鏡学会北海道支部例会 | 2024.3 |

治, 北野 陽平, 藤
谷 幹浩, 奥村 利
勝, 水上 裕輔

- 44) 石黒 達也(旭川 医科大学 内科学 講座消化器内科 学分野), 河端 秀 賢, 後藤 聖樹, 小 山 一也, 関口 峻 也, 梶浦 麻未, 佐 藤 裕基, 岡田 哲 弘, 岩本 英孝, 高 橋 賢治, 北野 陽 平, 藤谷 幹浩, 奥 村 利勝, 水上 裕 輔 非拡張膵管に対する EUS- PD re-puncture technique の有用性 第 128 回 日本消 化器内視鏡学会北 海道支部例会 2024.3
- 45) 佐藤 允洋, 上野 伸展, 西川 浩司, 杉村浩二郎, 岩 間 琢哉, 田中一 之, 芹川真哉, 石川千里, 武藤 桃太郎, 藤谷 幹 浩 北海道地域中核病院における IBD 病診連携の特徴と課題 について 第 109 回日本消化 器病学会総会 2023.4
- 46) 渡邊 啓夢, 上野 伸展, 湯澤 明 夏, 安藤 勝祥, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 谷野 美 智枝, 奥村 利 勝, 藤谷 幹浩 抗 EGFR 抗体が奏功した潰 瘍性大腸炎に発生した Colitis associated cancer の一 例 第 298 回 内科学 会 北海道地方会 2023.7

47)	佐藤允洋、上野 伸展、立花史 音、小林裕、杉 山雄哉、佐々木 貴弘、坂谷慧、 高橋慶太郎、安 藤勝祥、嘉島 伸、盛一健太 郎、田邊裕貴、 奥村利勝、藤谷 幹浩	短腸症候群のクローン病 (CD)に対する GLP-2 アナ ログ製剤長期投与の一例	第 133 回 日本消化 器病学会北海道支 部例会	2023.9
48)	上野伸展、安藤 勝祥、藤谷幹浩	無症候期クローン病に対する カプセル内視鏡を用いたモニ タリングの有用性（中間解 析）	JDDW2023	2023.11
49)	岩山訓典、上野 伸展、眞鍋貴 行、菅野諒太、 石川良太、山本 譲、安藤勝祥、 藤谷幹浩、田崎 嘉一	炎症性腸疾患の薬物療法の質 向上を目指した薬剤師外来の 効果	第 14 回日本炎症性 腸疾患学会学術集 会	2023.12
50)	原城湧太、江口 卓也、業天洋 美、上野伸展、 藤谷幹浩	炎症性腸疾患患者に対する就 労支援の実態調査と看護師の 役割	第 14 回日本炎症性 腸疾患学会学術集 会	2023.12
51)	佐藤 允洋、上野 伸展、齊藤成 亮、杉村浩二 郎、岩間 琢哉、 田中一之、坂谷 慧、芹川真哉、 安藤勝祥、石川 千里、武藤桃太 郎、藤谷 幹浩	北海道道北・道東圏内におけ る炎症性腸疾患患者の病病連 携構築に向けた課題	第 14 回日本炎症性 腸疾患学会学術集 会	2023.12
52)	上野伸展、佐藤	クローン病に対する顆粒球吸	第 14 回日本炎症性	2023.12

	允洋、齊藤成亮、杉山雄哉、杉村浩二郎、岩間 琢哉、田中一之、坂谷慧、芹川真哉、安藤勝祥、武藤桃太郎、藤谷 幹浩	着除去療法（GMA）の有効性と安全性の検討	腸疾患学会学術集会	
53)	寺澤賢、上野伸展、田中一之、安藤勝祥、武藤桃太郎、稲場勇平、鈴木康秋、奥村利勝、藤谷 幹浩	潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法(GMA)の臨床効果に与える併用薬剤の影響に関する多施設後ろ向き研究	第 134 回 日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	2024.3
54)	小山一也, 河端秀賢, 梶浦 麻未, 佐藤 裕基, 岡田哲弘, 岩本 英孝, 高橋 賢治, 北野陽平, 藤谷 幹浩, 奥村 利勝, 水上裕輔	膵癌に対する EUS-FNB 後、胃壁穿刺部位からデスマイド腫瘍が生じた 1 例	日本消化器内視鏡学会北海道支部例会	2024.3
55)	Murakami Y, Konishi H, Tepper C, McPherson J, Satake N	Targeting the spliceosome in high-risk B-cell acute lymphoblastic leukemia	American Association for Cancer Research	2024.3
56)	Konishi H, Murakami Y, Helmke E, Lerot JMA, Satake N	Probiotic-derived heptelidic acid demonstrates therapeutic efficacy against pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia	American Hematopoietic Society	2023.12
57)	Konishi H, Murakami Y, Yamamoto K,	Probiotic derived heptelidic acid is cytotoxic in pediatric B-cell acute lymphoblastic	第 96 回日本薬理学会年会	2023.12

- Yamamura C, leukemia
Satake N, Fujiya
M
- 58) Konishi H, RAB3GAP1-mediated 第 81 回日本癌学会 2023.9
Murakami Y, mitosis and growth due to a 学術総会
Ando K, tumor-specific status of RNA
Sakatani A, binding protein
Sasaki T,
Takahashi K,
Ueno N,
Kashima S,
Tanaka H,
Moriichi K,
Fujiya M
- 59) 関口 峻也、安藤 生物学的製剤の変更に伴い腸 第 133 回日本消化 2023.9
勝祥、立花 史 管外合併症が出現した難治性 器病学会北海道支
音、佐藤 允洋、 潰瘍性大腸炎の 2 例 部例会
小林 裕、杉山
雄哉、佐々木 貴
弘、坂谷 慧、高
橋 慶太郎、上野
伸展、嘉島 伸、
盛一 健太郎、田
邊 裕貴、奥村
利勝、藤谷 幹浩
- 60) 久住 悠梨子、 保存的加療にて改善した分節 第 134 回日本消化 2024.3
関口 峻也、安藤 性動脈中膜融解症による腹腔 器病学会北海道支
勝祥、立花 史 内出血の 1 例 部例会
音、佐藤 允洋、
小林 裕、杉山
雄哉、佐々木 貴
弘、坂谷 慧、高
橋 慶太郎、上野
伸展、嘉島 伸、
盛一 健太郎、田
邊 裕貴、奥村

- 利勝、藤谷 幹浩
- 61) 松永 滉平、安藤 勝祥、立花 史音、佐藤 允洋、小林 裕、杉山 雄哉、佐々木 貴弘、坂谷 慧、高橋 慶太郎、上野 伸展、嘉島 伸、盛一 健太郎、田邊 裕貴、奥村 利勝、藤谷 幹浩
- イピリムマブ+ニボルマブ投与中に多彩な免疫関連有害事象を呈した MSI-high 大腸癌の一例
- 第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会
- 2024.3
- 62) 松田佳樹、小杉 英史、青木 惇、嶋田英資、籾本 恵介、森本英 雄、中島功雄、岡山大志、水上 周二、新居利 英、安藤勝祥
- レジオネラ肺炎加療中に出血性十二指腸潰瘍を発症した一例の検討
- 第 128 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会
- 2024.3
- 63) 安藤勝祥
- 難治性腸管・肛門病変を有するクローン病の一例から内科・外科的マネジメントを考える
- 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会
- 2023/12/1
- 64) 安藤 勝祥, 佐藤 允洋, 小林 裕, 杉山 雄哉, 佐々木 貴弘, 坂谷 慧, 高橋 慶太郎, 上野 伸展, 嘉島 伸, 盛一 健太郎, 田邊 裕貴, 奥村 利勝, 藤谷 幹浩
- 骨格筋筋肉量・脂肪量や内科治療変遷からみたクローン病術後長期経過
- 第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会
- 2023/12/1
- 65) 石黒達也, 林 秀
- 肝細胞癌の
- 第 299 回 日本内科
- 2023/11/18

- 美, 長谷部 拓夢, Atezolizumab+Bevacizumab 学会 北海道地方会
大竹 晋, 太田 雄, 療法後に副腎皮質機能低下
中嶋 駿介, 澤田 症を来した 3 例
康司, 岡田 充巧,
麻生 和信, 奥村
利勝
- 66) 長谷部拓夢, 奥 大建中湯による消化器症状調 第 25 回日本神経消 2023/9/29
村利勝 整作用の機序に関する基礎的 化器病学会
- 67) 中嶋駿介, 澤田 一般内科クリニックにおける 第 53 回日本超音波 2023/9/9
康司, 山縣一夫, 超音波を用いた線維化高リス 医学会北海道地方
林秀美, 大竹晋, ク脂肪肝の拾い上げ 会
太田雄, 長谷部
拓夢, 岡田充巧,
麻生和信, 奥村
利勝
- 68) 佐藤 允洋, 上野 短腸症候群のクローン病に対 第 133 回日本消化 2023/9/2
上伸展, 立花 史 する GLP-2 アナログ[®] 製剤 器病学会 北海道支
音, 小林 裕, 杉山 長期投与の 1 例 部例会
雄哉, 佐々木貴
弘, 坂谷 慧, 高橋
慶太郎, 安藤 勝
祥, 嘉島 伸, 盛一
健太郎, 田邊 裕
貴, 奥村 利勝, 藤
谷 幹浩
- 69) ムチル, 嘉島 伸, Infliximab から infliximab-BS 第 133 回日本消化 2023/9/2
立花 史音, 佐藤 への変更により薬剤性肝障害 器病学会 北海道支
允洋, 小林 裕, 杉 を発症したクローン病患者の 部例会
山 雄哉, 佐々木 1 例
貴弘, 坂谷 慧, 高
橋慶太郎, 安藤
勝祥, 上野 伸展,
盛一健太郎, 田
邊 裕貴, 奥村 利
勝, 藤谷 幹浩

70) 後藤 聖樹, 立花 史音, 高橋慶太郎, 盛一健太郎, 奥村 利勝, 藤谷 幹浩	重複癌への化学放射線療法後、ESD で治癒切除した cT1b 食道癌の 1 例	第 127 回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会	2023/9/2
71) 立花 史音, 高橋慶太郎, 佐藤 允洋, 小林 裕, 杉山雄哉, 佐々木貴弘, 坂谷 慧, 安藤勝祥, 上野 伸展, 嘉島 伸, 盛一健太郎, 田邊 裕貴, 奥村 利勝, 藤谷 幹浩	胃底腺型腺癌と胃底腺ポリープの鑑別診断には white ring structure が新指標として有用である	第 127 回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会	2023/9/2
72) 渡邊 啓夢, 高橋慶太郎, 藤谷 幹浩	食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術 (Per Oral Endoscopic Myotomy : POEM) の治療成績	第 127 回日本消化器内視鏡学会 北海道支部例会	2023/9/2
73) 藤谷 幹浩	RNA 結合蛋白および細菌由来分子に着目した消化器癌治療	第 126 回北海道癌談話会シンポジウム	2023/7/8
74) 盛一健太郎, 小林裕, 杉山雄哉, 佐々木貴弘, 坂谷慧, 高橋慶太郎, 安藤勝祥, 上野伸展, 嘉島伸, 田邊裕貴, 藤谷 幹浩	全大腸内視鏡検査による適切な大腸がん検診の検討	第 62 回日本消化器がん検診学会総会	2023/6/30
75) 佐藤 泉, 長谷部拓夢, 上田ゆき子, 竹内 肇, 井尻えり子, 及川 欧, 加藤 育民	コロナ禍における漢方教育と腹診シミュレータを用いた漢方教育の効果	第 73 回日本東洋医学会学術総会	2023/6/16
76) 中原里有 (6 年)	高位鎖肛に対し臍部人工肛門	第 60 回日本小児外	2023 年 6 月

生)、石井大 介、石井聖也、 元木恵太、久万 田優佳、宮城久 之	造設下に腹腔鏡下鎖肛根治術 を施行した1例	科学会定期学術集 会、大阪国際会議 場(大阪)	1日(木)-3 日(土)(要 望演題)
77) 久万田優佳(初 期研修医)、石 井大介、石井聖 也、元木恵太、 宮城久之	低位鎖肛術後、糞便性腸 閉塞により腹部コンパー トメント症候群を呈した 1例	第60回日本小児外 科学会定期学術集 会、大阪国際会議 場(大阪)	2023年6月 1日(木)-3 日(土)(要 望演題)
78) 久万田優佳(初 期研修医)、石 井大介、石井聖 也、元木恵太、 上野直美、日野 岡蘭子、宮城久 之	鎖肛根治術21年後に腹部コ ンパートメント症候群を合併 した糞便性腸閉塞を呈した1 例	第37回日本小児ス トーマ・排泄・創 傷管理研究会、神奈 川(北里大学)	2023年6月 17日(口 演)

79)

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
奥村 利勝	新規	基盤研究(C)	中枢神経系を介した敗血症死阻止メカニ ズムの解明 -Ghrelinの関与-
藤谷 幹浩	延長	基盤研究(C)	腸管外疾患治療に有効な有益菌由来分子 の同定と作用機序解明に基づく新薬開発 基盤研究
水上 裕輔	継続	国際共同研究加 速基金(国際共 同研究強化 (B))	ヒト膵癌の発生・進化ルートの再現によ る早期診断戦略
盛一 健太郎	継続	基盤研究(C)	有益菌由来活性分子を用いた継続バレッ ト食道癌予防・治療法開発の基盤研究
高橋 慶太郎	延長	若手研究	SGPL1遺伝子変異を標的とした新規大腸 癌治療の開発

河端 秀賢	継続	若手研究	GNAS 経路からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍関連膵癌のバイオマーカーと治療標的の探索
林 明宏	継続	若手研究	微量残余検体中のゲノム異常を高感度検出するオンサイトがん診断の検討
佐藤 裕基	継続	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (A)）	ヒト膵癌に伴う骨格筋量低下に寄与する因子への介入・治療基盤戦略の確立
高橋 賢治	継続	基盤研究 (C)	膵癌進展を制御する長鎖 ncRNA の機能解析と細胞外小胞を用いた診断・治療への応用
岩本 英孝	新規	基盤研究 (C)	血漿遊離核酸マルチレイヤー解析の自己免疫性膵炎診断・活動性評価への応用
太田 雄	延長	研究活動スタート支援	マイクロバイオーームが関わる肝癌腫瘍免疫調節機構の解明と新規治療法の開発
嘉島 伸	延長	基盤研究 (C)	アレルギー疾患におけるプロバイオティクス由来抗アレルギー物質による新規治療開発
太田 雄	継続	若手研究	プロバイオティクス由来の免疫活性物質による継続肝癌免疫療法の開発
野津 司	継続	基盤研究 (C)	腹部手術後イレウスと術後せん妄に対する継続治療法の探究
石王 応知	継続	基盤研究 (C)	中枢神経系による腸管バリア制御機序の解明と Leaky gut 治療への応用
小西 弘晃	継続	若手研究	有益微生物由来分子を用いた小児白血病治療薬の開発の基盤研究
小西 弘晃	継続	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (A)）	プロバイオティクス由来抗腫瘍活性物質を応用した継続小児がん治療薬開発の基盤研究
坂谷 慧	継続	若手研究	宿主及び菌由来分泌小胞を介した腸管－細菌相互作用の解明と消化器疾患病態への関与

内科学講座
(血液内科学分野)

Department of Internal Medicine
(Division of Hematology)

I. 所属教員等

内科学講座（血液内科学分野）

教授 奥村 利勝

内科（血液）

講師 進藤 基博

助教 山本 昌代（兼務）

II. 研究業績紹介

内科学講座血液内科学分野では、悪性リンパ腫や白血病、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患患者を多数診療し、その他、血球減少症、凝固線溶異常、血球貪食症候群、HIV感染症などの疾患の診断・治療を行っています。このような臨床の経験から research question をたて、それを基礎研究で解明し、よりよい形で臨床に届ける bench-to-bed side、bed side-to-bench という考え方で、physician-scientist の養成を目指しています。2023年度は、今だコロナ禍から完全脱却できない中、リモート発表も利用して積極的に学会発表も行いました。今後は基礎及び臨床研究の益々の発展を目指すとともに、医学の発展に貢献できるように研究活動を続けていきます。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 進藤基博	薬剤起因性巨赤芽球性貧血、血液症候群 I（第3版）	別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ	2023.9
2) 生田克哉、齋藤豪志	鉄剤不応の鉄欠乏性貧血、血液症候群 I（第3版）	別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ	2023.9
3) 進藤基博、山本昌代	複 M 成分型多発性骨髄腫、血液症候群 V（第3版）	別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ	2024.3

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Funayama T, Nozu T, Ishioh M, Igarashi S, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T.	Centrally administered GLP-1 analogue improves intestinal barrier function through the brain orexin and the vagal pathway in rats.	Brain Res.	2023.4

- 2) 鷺見 千紘, 土岐 康通, 船山 拓也, 齋藤 豪志, 畑山 真弓, 山本 昌代, 進藤 基博, 湯澤 明夏, 谷野 美智枝, 奥村 利勝
Rituximab が著効したステロイドと tocilizumab 抵抗性 TAFRO 症候群
臨床血液 2023.4
- 3) Igarashi S, Nozu T, Ishioh M, Funayama T, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T.
Ghrelin prevents lethality in a rat endotoxemic model through central effects on the vagal pathway and adenosine A2B signaling : Brain ghrelin and anti-septic action.
Journal of Physiology and Biochemistry 2023.4
- 4) Yamamoto M, Shindo M, Funayama T, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Ono Y, Sato K, Mizukami Y, Okumura T.
Monitoring mutant KRAS in plasma cell-free DNA can predict disease progression in a patient with multiple myeloma: A case report
Clin Chim Acta. 2023.10
- 5) Hiroshi Ureshino, Yasunori Ueda, Shin Fujisawa, Kensuke Usuki, Hideo Tanaka, Masaya Okada, Shugo Kowata, Kazunori Murai, Asao Hirose, Motohiro Shindo, Takashi Kumagai, Tomoharu Takeoka, Kazuharu Kamachi, Keisuke Kidoguchi, Takero Shindo, Satoshi Iyama, Junki Inamura, Takafumi Nakao, Tsutomu Kobayashi, Eri Kawata, Shinya Kimura
KIR3DL1-HLA-Bw status in CML is associated with achievement of TFR: the POKSTIC Trial, a Multicentre Observational Study
Blood Neoplasia 2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 鷺見千紘、山本昌代、船山拓也、齋藤豪志、梅影泰寛、畑山真弓、土岐康通、湯澤明夏、進藤基博、奥村利勝	肺がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の投与後に再生不良性貧血を発症した1例	第58回 日本血液学会春季北海道地方	2023.4
2) Ureshino H, Ueda Y, Fujisawa S, Usuki K, Tanaka H, Okada M, Kowata S, Murai K, Hirose A, Shindo M, Kumagai T, Takeoka T, Kamachi K, Kidoguchi K, Iyama S, Inamura J, Nakao T, Kobayashi T, Kawata E, Ohkawara H, Ikezoe T, Kawaguchi A, Kimura S	ALLELIC POLYMORPHISMS OF KIRS AND HLAS PREDICT FAVORABLE ACHIEVEMENT OF TREATMENT-FREE REMISSION IN CML: RESULTS FROM THE POKSTIC TRIAL, MULTICENTER RETROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY	第28回 欧州血液学会	2023.6
3) 齋藤豪志	臍帯血移植の実際	第34回 北海道輸血シンポジウム	2023.7
4) 齋藤豪志、船山拓也、鷺見千紘、畑山真弓、山本昌代、土岐康通、進藤基博、奥村利勝	後天性血栓性血小板減少性紫斑病の再発と inhibitor boosting に対して血漿交換、カプラシズマブ、リツキシマブを使用した1例	第65回 日本血液学会秋季北海道地方会	2023.9
5) 船山拓也、野津司、五十嵐将、石王応知、山本昌代、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、奥村利勝	脳内 GLP-1 は orexin シグナル、迷走神経を介して Leaky gut を改善する	第25回 日本神経消化器病学会学術集会	2023.9

- | | | | | |
|-----|--|---|-------------------------------|---------|
| 6) | 山本昌代、進藤基博、
船山拓也、鷺見千紘、
齋藤豪志、土岐康通、
畑山真弓、佐藤一也、
湯澤明夏、谷野美智
枝、小野裕介、水上裕
輔、奥村利勝 | 多発性骨髄腫患者での病
変部位による遺伝子変異
の発現頻度の検討 | 第 85 回 日本血液
学会学術集会 | 2023.10 |
| 7) | 船山拓也、土岐康通、
鷺見千紘、齋藤豪志、
畑山真弓、山本昌代、
進藤基博、奥村利勝 | 副腎病変を有するびまん
性大細胞型 B 細胞リンパ
腫の検討 | 第 85 回 日本血液
学会学術集会 | 2023.10 |
| 8) | 佐藤一也、五十嵐
将、塚田和佳、村上
佳世、平山健、高橋
正樹、山本昌代、進藤
基博、稲村純季 | COVID-19 mRNA ワクチ
ンを追加接種した造血器
腫瘍患者における液性免
疫応答 | 第 85 回 日本血液
学会学術集会 | 2023.10 |
| 9) | 藤本勝也、小笠原 励
起、若狭健太郎、泉山
康、井端 淳、山本
聡、橋口 淳一、重松
明男、後藤 秀樹、長谷
山美仁、小宅 達郎、
酒井 基、塚田和佳、
佐賀 智之、井山 諭、
堤 豊、五十嵐 哲祥、
山本昌代、豊嶋 崇徳 | インドレント B 細胞リン
パ腫/マンツル細胞リンパ
腫へのベンダムスチン療
法：多施設後方視的解析 | 第 85 回 日本血液
学会学術集会 | 2023.10 |
| 10) | 柏木陸、佐藤寛起、山
本昌代、佐藤真樹、藤
原遼太、露井出海、丹
保亜希仁、岡田基 | Lemierre 症候群の血栓評
価に超音波検査を利用し
た 1 例 | 第 51 回 日本救急
医学会総会・学術
集会 | 2023.11 |
| 11) | 船山拓也、野津司、石
王応知、五十嵐将、鷺
見千紘、齋藤豪志、山
本昌代、畑山真弓、土
岐康通、進藤基博、奥
村利勝 | GLP-1 は中枢神経系に作
用して LPS による腸管透
過性亢進を抑制する | 第 51 回 日本潰瘍
学会 | 2024.2 |

- | | | | | |
|-----|---|--|----------------------|--------|
| 12) | 山内巴那、鷺見千紘、山本昌代、船山拓也、齋藤豪志、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、奥村利勝 | 高 LDH 血症および LDH アイソザイムから悪性リンパ腫が疑われ、早期に診断に至った 1 例 | 第 300 回 日本内科学会北海道地方会 | 2024.2 |
| 13) | 船山拓也、野津司、石王応知、五十嵐将、鷺見千紘、齋藤豪志、山本昌代、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、奥村利勝 | 腸管透過性制御に関わる脾臓の役割 | 第 51 回 日本潰瘍学会 | 2024.2 |
| 14) | 五十嵐将、野津司、石王応知、船山拓也、鷺見千紘、齋藤豪志、山本昌代、畑山真弓、土岐康通、進藤基博、奥村利勝 | Ghrelin は中枢神経系に作用して腸管透過性亢進を改善し敗血症死を阻止する | 第 51 回 日本潰瘍学会 | 2024.2 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 山本 昌代	継続	若手研究	IgH 遺伝子再構成と RAS 変異を標的とした多発性骨髄腫の低侵襲診断

精神医学講座

Department of Psychiatry and Neurology

I. 所属教員等

精神医学講座
教授 橋岡 禎征
講師 坂内 聖
助教 松田 孟士

精神科神経科
講師 大宮 友貴
助教 市川 香織

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Mamunur R, Hashioka S, Azis IA, Jaya MA, Jerin SJF, Kimura-Kataoka K, Fujihara J, Inoue K, Inagaki M, Takeshita H.	Systemic administration of Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide induces glial activation and depressive-like behavior in rats.	J Integr Neurosci.	2023
2) Yoshizawa M, Tamura Y, Yasuda A, Yoshihara S, Takasaki H, Hashioka S.	Video polysomnographic analysis of elevated EMG activity and rapid eye movements before abnormal behaviors in REM sleep behavior disorder.	Sleep Biol Rhythms.	2023
3) Jerin S, Hashioka S, Kimura-Kataoka K, Fujihara J, Mamunur R, Ao G, Inagaki M, Takeshita H.	Electroconvulsive treatment ameliorates lipopolysaccharide-induced depressive like behaviour in rats.	Shimane J. Med. Sci.	2023
4) 橋岡禎征	ラットモデルを用いた電気 けいれん療法とグリアの研 究	精神科 43(4)	2023

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 松田孟士, 橋岡禎征	アルツハイマー病モデルマウスの認知機能障害における神経炎症のイメージング研究.	北海道精神神経学会第 143 回例会	2023.7
2) 菅野猛, 山田仁子, 中尾由美子, 高崎英気, 橋岡禎征	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかんと診断し神経心理学的評価を行った一例.	北海道精神神経学会第 144 回例会	2023.12

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 橋岡 禎征	再延長	基盤研究 (C)	電気けいれん療法の治療効果メカニズムにおけるグリア血管複合体の関与
2) 橋岡 禎征	繰越	基盤研究 (B)	電気けいれん療法の抗神経炎症作用の包括的解明
3) 橋岡 禎征	繰越	基盤研究 (B)	電気けいれん療法の抗神経炎症作用の包括的解明
4) 田村 義之	継続	基盤研究 (C)	統合失調症と睡眠時無呼吸の関連と睡眠呼吸障害治療による精神症状改善効果の検討
5) 松田 孟士	再々延長	若手研究	アルツハイマー病モデルの神経・グリア由来エクソソームによる認知機能制御機構の解明

小児科学講座

Department of Pediatrics

I. 所属教員等

小児科学講座
教授 高橋 悟
講師 中右 弘一
助教 田中 亮介
助教 岡 秀治
助教 竹口 諒

小児科
講師 長森 恒久
講師 鈴木 滋
助教 佐藤 雅之
助教 櫻井 由香里
病院助教 石羽澤 映美

II. 研究業績紹介

研究論文の紹介文（小児科）

小児科では、新生児期から思春期までのあるゆる内科的疾患を対象としています。日常診療は、6つのグループ（感染・免疫、血液・腫瘍、神経、新生児、循環器、内分泌・代謝）に分かれて、専門的医療を提供しながらもお互いに連携しています。このような臨床経験の中から生じた疑問や発想を大切にして、子どもの難病の治療法の進歩に貢献することを願って研究を進めています。世界的な視野で考え、目の前にいる子ども・地域のために働く“Act locally, Think globally”をモットーにして、未だ見ぬ子ども達のためにもいい仕事をしたいと考えています。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 鈴木 滋	小児の治療指針, 2型糖尿病/遺伝性糖尿病	小児科診療	2023.4
2) 鈴木 滋	ここに注目、新生児の低血糖症	小児内科	2024.2

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

- 1) Nabatame S, Tanigawa J, Tominaga K, Kagitani-Shimono K, Yanagihara K, Imai K, Ando T, Tsuyusaki Y, Araya N, Matsufuji M, Natsume J, Yuge K, Bratkovic D, Arai H, Okinaga T, Matsushige T, Azuma Y, Ishihara N, Miyatake S, Kato M, Matsumoto N, Okamoto N, Takahashi S, Hattori S, Ozono K Associations of severity with biochemical parameters in glucose transporter 1 deficiency syndrome. J Neurol Sci 2023.4

- 2) Imanishi R, Nakau K, Shimada S, Oka H, Takeguchi R, Tanaka R, Sugiyama T, Nii M, Okamoto T, Nagaya K, Makita Y, Yanagi K, Kaname T, Takahashi S A novel HECW2 variant in an infant with congenital long QT syndrome. Hum Genome Var 2023.6

- 3) Oka H, Nakau K, Shibagaki Y, Ito K, Sasaki Y, Imanishi R, Shimada S, Takahashi S Liver fibrosis markers represent central venous pressure in post-pubertal patients with congenital heart disease. Cureus 2023.6

- 4) Haga S, Takeguchi R, Tanaka R, Satake A, Makita Y, Yanagi K, Kaname T, Takahashi S Clinical characteristics of muscle cramps in hereditary angiopathy with nephropathy, aneurysms, and muscle cramps syndrome associated with a novel COL4A1 pathogenic variant: A family case study. Brain Dev 2023.8

- | | | | | |
|----|--|---|--------------------------|---------|
| 5) | Takasawa K, Mabe H, Nagamatsu F, Amano N, Miyakawa Y, Sutani A, Kagawa R, Okada S, Tanahashi Y, Suzuki S, Hiroshima S, Nagasaki K, Dateki S, Takishima S, Takahashi I, Kashimada K | Growth Hormone Injection Log Analysis with Electronic Injection Device for Qualifying Adherence to Low-Irritant Formulation and Exploring Influential Factors on Adherence. | Patient Prefer Adherence | 2023.8 |
| 6) | Sato M, Nagamori T, Izumi K, Takahashi H, Manabe H, Taketazu G, Shirai M | Prolonged Epstein-Barr Virus DNA Detection in a Case of Infantile Infectious Mononucleosis. | Infect Dis Clin Pract | 2023.9 |
| 7) | Shibagaki Y, Oka H, Nakau K, Takahashi S | Intraventricular haemodynamic changes caused by increased left ventricular afterload in re-coarctation of aorta: a case report. | Eur Heart J Case Rep | 2023.10 |
| 8) | Oka H, Nakau K, Nakagawa S, Imanishi R, Shimada S, Mikami Y, Fukao K, Iwata K, Takahashi S | Liver T1/T2 values with cardiac MRI during respiration. | Cardiol Young | 2023.10 |
| 9) | Nishimura N, Ishida T, Yokota I, Matsumoto K, Shichino H, Fujisaki H, Sarashina T, Kamijo T, Takimoto T, Iehara T, Tajiri T, On behalf of the JCCG Neuroblastoma Committee | Minimal Residual Disease Detected by the 7NB-mRNAs ddPCR Assay Is Associated with Disease Progression in High-Risk Neuroblastoma Patients: A Prospective Multicenter | Biology (Basel) | 2023.10 |

- Observational Study in Japan.
- 10) Sato M, Nishibata Y, Masuda S, Nagamori T, Ishibazawa E, Yoshida Y, Takahashi H, Ishizu A, Takahashi S
 Demonstration of equivocal anti-glomerular basement membrane antibody positivity as a non-specific reaction through multiple immunologic assays in a case of pediatric asymptomatic hematuria.
 Clin Biochem 2023.10
- 11) Hosokawa M, Ichihashi Y, Sato Y, Shibata N, Nagasaki K, Ikegawa K, Hasegawa Y, Hamajima T, Nagamatsu F, Suzuki S, Numakura C, Amano N, Sasaki G, Nagahara K, Soneda S, Ariyasu D, Maeda M, Kamasaki H, Aso K, Hasegawa T, Ishii T
 Incidence and Risk Factors for Adrenal Crisis in Pediatric-onset Adrenal Insufficiency: A Prospective Study.
 J Clin Endocrinol Metab 2023.12
- 12) Oka H, Ito K, Nakagawa S, Iwata K, Nakau K
 Evaluation of double-chambered right ventricle flow using 4D flow MRI – right ventricular helical flow may not disappear even after surgical intervention-.
 European Heart Journal – Imaging Methods and Practice 2023.12

13) Hattori A, Okuhara K, Shimizu Y, Ohta T, Suzuki S	A Japanese school urine screening program led to the diagnosis of KCNJ11-MODY: A case report.	Clin Pediatr Endocrinol	2024.1
14) Matsuura N, Yokomichi H, Ito Y, Suzuki S, Mochizuki M; Study Group of Long-term Prognosis of Type 1 Diabetes in Hokkaido, Japan.	Mortality in childhood-onset type 1 diabetes mellitus with onset between 1959 and 1996: A population-based study in Hokkaido, Japan.	Diabetol Int	2024.1
15) Oka H, Nakau K, Shibagaki Y, Ito K, Sasaki Y, Imanishi R, Shimada S, Takahashi S	Postoperative evaluation of left atrial stiffness in patients with congenital heart diseases.	Heart Vessels	2024.2
16) Oka H, Taketazu M, Imanishi R, Shimada S, Sugiyama S, Nakanishi K, Yoshizawa A, Kanai A, Yokohama Y, Nawa T, Sawada M, Takamuro M, Nakau K	Unguarded Tricuspid Valve and Pulmonary Atresia With Intact Ventricular Septum Complicated With Right Coronary Artery Fistula and Advanced Atrioventricular Block in a Fetus: A Case Report.	Cureus	2024.2
17) Kokumai T, Suzuki S, Nishikawa N, Yamamura H, Mukai T, Tanahashi Y, Takahashi S	Early Diagnosis of Wolfram Syndrome by Ophthalmologic Screening in a Patient with Type 1B Diabetes Mellitus: A Case Report.	J Clin Res Pediatr Endocrinol	2024.3

- | | | | |
|---|--|--------------------------|--------|
| 18) Sato Y, Yoshioka E, Saijo Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Ait Bamai Y, Yamazaki K, Itoh S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. | Null Association Between Isolated Orofacial Clefts and Sleep Duration: A Cohort Study From the Japan Environment and Children's Study. | Cleft Palate Craniofac J | 2024.3 |
| 19) Hammann N, Lenz D, Baric I, Crushell E, Vici CD, Distelmaier F, Feillet F, Freisinger P, Hempel M, Khoreva AL, Laass MW, Lacassie Y, Lainka E, Larson-Nath C, Li Z, Lipiński P, Lurz E, Mégarbané A, Nobre S, Olivieri G, Peters B, Prontera P, Schlieben LD, Seroogy CM, Sobacchi C, Suzuki S, Tran C, Vockley J, Wang JS, Wagner M, Prokisch H, Garbade SF, Kölker S, Hoffmann GF, Staufner C | Impact of genetic and non-genetic factors on phenotypic diversity in NBAS-associated disease. | Mol Genet Metab | 2024.3 |
| 20) Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, Sasagawa H, Kamanaka T, Kuroda S, Sato H, Sarashina T, Mizukami Y, Makita Y, Okumura T | Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability. | Hum Genome Var | 2024.3 |
| 21) 島田空知、中右弘一、伊藤啓太、佐々木勇氣、今西梨菜、岡秀治、高橋悟 | 特発性拡張型心筋症の乳児例におけるイバブラジンの使用経験 | 日本小児科学会雑誌 | 2023.6 |

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 高橋 悟	新生児スクリーニングで見つかった脊髄性筋萎縮症の診断と治療	北海道新生児スクリーニング懇話会	2023.4
2) 鈴木菜生、黒田真実、竹口 諒、田中亮介、高橋 悟	ADHD 治療薬の協調運動機能への影響	第 126 回日本小児科学会学術集会	2023.4
3) 岡 秀治	Type IV Collagen 7s Reflects Central Venous Pressure and Right Ventricular End-Diastolic Pressure in Patients with Congenital Heart Disease After Biventricular Repair	第 78 回北海道小児循環器研究会	2023.4
4) 松浦信夫、伊藤 善也、母坪智行、鈴木滋、横道洋司、望月恵美、吉岡成人、北海道内 15 歳未満発症 1 型糖尿病児の長期予後に関する研究班	小児期発症 1 型糖尿病児は成人して過体重（3 型糖尿病）に移行するか？	第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会	2023.5
5) 鈴木滋、古谷曜子、緒方勤、國米崇秀、高橋悟	本邦における染色体 6q24 関連新生児一過性糖尿病（6q24-TNDM）の遺伝学のおよび臨床的特徴.	第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会	2023.5
6) 國米崇秀、鈴木滋、望月美恵、武者育麻、菅原大輔、小林浩司、小山さとみ、小林基章、雨宮伸、松浦信夫、菊池透	小児 1 型糖尿病において、グリコアルブミン/ヘモグロビン A1c 比が低値であるほど血糖変動が大きく低血糖に注意が必要である.	第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会	2023.5

- | | | | | |
|-----|---|---|------------------------------------|--------|
| 7) | 武者育麻、望月美
恵、國米崇秀、赤塚
淳弥、小林浩司、鈴
木滋、小山さとみ、
菅原大輔、小林基
章、横道洋司、松浦
信夫、杉原茂孝、菊
地透、雨宮伸 | グリコアルブミン/HbA1c 比は
長期間安定した各個人固有の
glycation gap の指標である. | 第 66 回日本糖
尿病学会年次
学術集会 | 2023.5 |
| 8) | 鈴木滋, 田島敏広, 國
米崇秀, 古谷曜子, 高
橋悟 | 薬剤性耐糖能障害を契機に
MODY の診断に至った小児の
2 例 | 第 24 回北海道
小児糖尿病研
究会 | 2023.5 |
| 9) | 高橋 悟 | 遺伝性神経疾患の治療戦略 | 日本小児科学
会北海道地方
会第 317 回例
会 | 2023.6 |
| 10) | 岡 秀治 | 実践！4D flow MRI ～ACHD
領域への応用～ | 第 2 回心不全
多様性に挑む
会 | 2023.6 |
| 11) | 佐藤雅之、長森恒
久、石羽澤映美、吉
田陽一郎、高橋悟、
西端友香、益田紗季
子、石津明洋、高橋
弘典 | 無症候性血尿に対するスクリ
ーニング検査で抗糸球体基底
膜抗体（抗 GBM 抗体）が陽性
だったが、抗体解析により非
特異的反応と考えられた男児
例 | 第 58 回日本小
児腎臓病学会 | 2023.6 |
| 12) | 仙波はるか、石若久
海子、泉健吾、堀井
百祐、中村英記、平
野至規、室野晃一、
布施和史、佐藤雅
之、高橋弘典 | ピロガロールレッド法と塩化
ベンゼトニウム法における小
児尿蛋白定量値の比較 | 第 58 回日本小
児腎臓病学会 | 2023.6 |
| 13) | 鈴木滋、齊藤翔真、
神山琢弥、國米崇
秀、古谷曜子、竹田
津原野、蒔田芳男、
高橋悟 | 先天性腎性尿崩症のみを発症
した X 染色体隣接遺伝子欠失
を有する女児例：X 染色体不活
性化の組織間の違いの関与 | 第 26 回小児分
子内分泌研究
会 | 2023.7 |

14) 今西梨菜、岡 秀治、柴垣有希、島田空知、中右弘一、高橋 悟	チアノーゼを呈する心疾患患者の相対的鉄欠乏性貧血に関する検討	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
15) 佐々木勇氣、岡 秀治、柴垣有希、伊藤啓太、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟	先天性心疾患患者における左心室内血流成分を用いた血行動態評価	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
16) 伊藤啓太、岡 秀治、柴垣有希、佐々木勇氣、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟	ファロー四徴類縁疾患の心室内運動エネルギーによる血行動態評価	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
17) 柴垣有希、岡 秀治、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟	大動脈再縮窄治療前後での 4D flow MRI による心室内血流動態評価	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
18) 岡 秀治、柴垣有希、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟	右房内血流解析からみた先天性心疾患患者の血行動態評価	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
19) 岡 秀治、柴垣有希、今西梨菜、島田空知、中右弘一、高橋 悟	ファロー四徴類縁疾患術後の fragmented QRS は年齢に関係なく右室拡大を反映する	第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2023.7
20) 鈴木滋、田島敏広、國米崇秀、古谷曜子、高橋悟	薬剤性耐糖能障害の鑑別から MODY の診断に至った小児の 2 例.	第 28 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2023.7
21) 高橋 悟	小児期発症のてんかん患者の治療 -大人になって困らないように-	札幌市・北海道小児科医会合同研究会	2023.8
22) Satoru Takahashi	Impact of cellular mosaicism for CDKL5 variant on the severity of clinical phenotype.	2nd Asia CDKL5 Workshop	2023.9

23) 岡 秀治、伊藤啓太、中右弘一、高橋悟	Kinetic Energy を用いた心室連関評価	第 5 回 4D Flow 研究会	2023.9
24) 岡 秀治、伊藤啓太、中右弘一、福井晨介、松本尚也、櫻井由香里、更科岳大、都築仁美、高橋悟	AYA 世代の小児がんサバイバーには、心臓 MRI での心筋障害の評価が有用である	第 6 回日本腫瘍循環器学会 学術集会	2023.9
25) 福井晨介, 松本尚也, 櫻井由香里, 更科岳大	多彩な合併症を呈した難治性 EBV 関連血球貪食性リンパ組織球症の一例.	第 65 回日本小児血液・がん学会	2023.9
26) 田上晃弘、國米崇秀、古谷曜子、鈴木滋、向井徳男、白井勝、伊藤善也、高橋悟	COVID-19 流行以前からの特発性中枢性思春期早発症女児例の急増: 2014-2022 年度北海道上川中部医療圏の Population based study.	第 74 回北日本小児科学会	2023.9
27) Shigeru Suzuki, Yuichi Nishikado, Kanayo Ochiai, Makoto Oshiro	Paternal Chromosome 6q24 Triplication as a Cause of Neonatal Diabetes Mellitus.	Human Genetics Asia 2023	2023.10
28) Shoma Saito, Shigeru Suzuki, Takuya Kamiyama, Takahide Kokumai, Akiko Furuya, Genya Taketazu, Yoshio Makita, Satoru Takahashi.	Development of isolated nephrogenic diabetes insipidus in a girl with contiguous gene deletion involving AVPR2 and L1CAM.	Human Genetics Asia 2023	2023.10
29) 國米崇秀、鈴木滋、望月美恵、武者育麻、菅原大輔、小林浩司、小山さとみ、小林基章、雨宮伸、松浦信夫、菊池透.	小児 1 型糖尿病における、Hemoglobin Glycation Index と関連する血糖指標の探索.	第 56 回日本小児内分泌学会 学術集会	2023.10

- | | | | |
|--|--|------------------------------|---------|
| 30) 鈴木滋、古谷曜子、
緒方勤、國米崇秀、
高橋悟 | 日本人における染色体 6q24 関
連新生児一過性糖尿病の遺伝
学的小および臨床的特徴. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 31) 望月美恵、雨宮伸、
武者育麻、鈴木滋、
國米崇秀、小林浩
司、菅原大輔、小山
さとみ、小林基章、
松浦信夫、菊池透 | 個人毎に異なるヘモグロビン
の糖化度を加味する新しい血
糖管理指標 adjusted HbA1c
(a1c) の提案. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 32) 高谷具純、濱田淳
平、小川洋平、綾部
匡之、伊藤善也、川
村智行、菊池信行、
志賀健太郎、神野和
彦、鈴木滋、鈴木潤
一、花木啓一、母坪
智行、松井克之、都
研一、望月美恵、山
本幸代、横田一郎、
田久保憲行、菊池透 | 日本小児内分泌学会評議員を
対象にした小児糖尿病の重症
低血糖に関するアンケート調
査～糖代謝委員会報告～. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 33) 末岡秀文、石井玲、
大山和紗、住川拓
哉、大門祐介、岩佐
真実、中村慧、佐藤
俊哉、鈴木滋、森川
俊太郎、津川毅 | HK1 intron2 の組織特異的調節
領域に新規バリエーションを同定
した先天性高インスリン血症
の 1 家系. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 34) 服部晶人、奥原宏
治、清水康弘、鈴木
滋 | 学校検尿を契機に発見された
KCNJ11-MODY の 1 例. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 35) 金子直哉、中山加奈
子、菱村希、森川俊
太郎、森岡圭太、鈴
木滋、中村明枝 | 治療に難渋した先天性高イン
スリン血症の一例. | 第 56 回日本小
児内分泌学会
学術集会 | 2023.10 |
| 36) 鈴木 滋 | 専門医更新のための指定講演 2
単一遺伝子糖尿病の診断と病
因に基づく治療 | 第 57 回 日本
糖尿病学会北
海道地方会 | 2023.10 |

37) 竹口諒、田中亮介、 鈴木菜生、高橋悟	CDKL5 欠損症患者の脳 MRI および誘発電位所見の検討	第 56 回日本て んかん学会学 術集会	2023.10
38) 松浦信夫、伊藤 善 也、母坪智行、鈴木 滋、横道洋司、北海 道内 15 歳未満発症 1 型糖尿病児の長期予 後に関する研究班	小児期発症 1 型糖尿病児は成 人して過体重に変化するか。	第 57 回 日本糖 尿病学会北海 道地方会	2023.10
39) 鈴木滋、棚橋祐典	GHD の要因として潜在的な精 神的ストレスを示唆した姉弟	第 33 回臨床内 分泌代謝 Update	2023.11
40) 石羽澤 映美、栗澤 未央ジューン、佐藤 雅之、長森恒久、高 橋悟	志賀毒素産生性腸管出血性大 腸菌関連溶血性尿毒症症候群 (STEC-HUS)重症化リスクス コアの構築	第 55 回日本小 児感染症学会 学術集会	2023.11
41) 栗澤未央ジューン、 伊藤啓太、岡秀治、 佐藤雅之、石羽澤映 美、長森恒久、中右 弘一、高橋悟	経時的なサイトカインの追跡 を行った MIS-C の一例	第 55 回日本小 児感染症学会 学術集会	2023.11
42) 佐藤雅之、栗澤未央 ジューン、石羽澤映 美、長森恒久、高橋 悟、高橋弘典、小川 弥生	糸状壁優位沈着の IgA 腎症と して治療後、再生検で MPGN 様糸球体腎炎と診断した多彩 な deposit が特徴的な一例	第 33 回 北海道 小児腎臓病研 究会	2023.11
43) 福井晨介、櫻井由香里、 松本尚也、更科岳大	NUP98 遺伝子異常を有し治療 に難渋した慢性骨髓単球性白 血病の移植例。	第 4 回北海道 小児血液・が ん研究会	2023.11
44) 長森 恒久、青山藍 子、東寛、酒井宏水	リポソームによるマクロファ ージの MDSC 様細胞変容プロ セスの詳細説明 (シンポジウム：人工赤血球 製剤の最新開発状況)	第 30 回日本血 液代替物学会 学術集会	2023.12

45) 田中亮介、赤羽裕一、黒田真実、竹口諒、鈴木菜生、高橋悟	新生児スクリーニング検査で早期診断された脊髄性筋萎縮症 1 型の一例	日本小児科学会北海道地方会第 318 回例会	2023.12
46) 高橋 悟	小児神経疾患の治療法開発 “Care today, Cure tomorrow”	希少疾病ライブ配信講演会 ～Expert Collaboration～	2024.1
47) 田中亮介、赤羽裕一、黒田真実、竹口諒、鈴木菜生、高橋悟	てんかんを発症後に一過性の不随意運動と著明な筋緊張低下を呈した乳児例	第 24 回北海道小児神経症例検討会	2024.1
48) 岡 秀治、伊藤啓太、中右弘一	4D flow MRI による大動脈基部血流形態の評価	第 25 回成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2024.1
49) 岡 秀治、伊藤啓太、中右弘一	4D flow MRI を用いた右室二腔症の治療評価～右室内螺旋流は手術を行っても消失しないことがある～	第 25 回成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2024.1
50) 柴垣有希、岡 秀治、伊藤啓太、中右弘一	フォンタン循環の血流解析	第 25 回成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2024.1
51) 國米崇秀、鈴木滋	Hybrid Closed Loop 導入による小児 1 型糖尿病患者の血糖コントロール改善効果.	日本小児内分泌学会第 2 回北海道地方会	2024.1
52) 長森 恒久、石羽澤映美、佐藤雅之、栗澤未央ジューン	Sideroblastic anemia with Immunodeficiency, fevers and developmental delay (SIFD) の一例における小胞体ストレスの解析	第 7 回日本免疫不全・自己炎症学会	2024.2
53) 赤羽裕一、黒田真実、竹口諒、田中亮	てんかんを合併した遺伝性痙性対麻痺 4 型の一例	日本てんかん学会第 32 回北海道地方会	2024.2

介、鈴木菜生、高橋
悟

- 54) 赤羽裕一、高橋悟、
竹口諒、田中亮介、
辻村啓太 Rett 症候群モデルマウス脳の
構造的 MRI 解析 第 42 回日本小
児神経学会北
海道地方会 2024.3
- 55) 岡 秀治、伊藤啓
太、柴垣有希、佐々
木勇氣、秋保有希、
深尾和憲、中川貞
裕、鈴木達也、岩田
邦弘、中右弘一 大動脈の乱流は血流評価にど
れほど影響を及ぼすのか？ 第 7 回日本小
児心臓 MR 研
究会学術集会 2024.3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 高橋 悟	継続	基盤研究 (C)	ハプロ不全で発症する GLUT1 欠損症の治 療薬開発：既承認薬ライブラリーからの選 別
2) 長森 恒久	継続	基盤研究 (C)	SIFD 病態解明のための TRNT1 機能解析
3) 鈴木 滋	継続	基盤研究 (C)	ヒト病理検体と疾患モデル細胞およびマウ スを用いた NBAS 遺伝子異常症の病態解 明
4) 鈴木 滋	再々 延長	基盤研究 (C)	新生児糖尿病の分子基盤解明と診断・治療 戦略の構築
5) 吉田 陽一郎	新規	基盤研究 (C)	リポソームを捕捉したマクロファージの MDSC 様細胞への変容に関わる分子基盤 の解明
6) 岡 秀治	継続	若手研究	心臓 MRI による AYA 世代のがんサバイバ ーの潜在的な心筋障害の早期発見、治療の検 討

外科学講座

(血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Vascular, Respiratory and Surgical Oncology)

I. 所属教員等

外科学講座（血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野）

教授	東 信良
講師	内田 大貴
助教	鎌田 啓輔
助教	栗山 直也
客員准教授	内田 恒
客員助教	平澤 雅敏

外科（血管・呼吸・腫瘍）

教授（病院）	北田 正博	
講師	宮城 久之	
講師	菊地 信介	
助教	吉田 有里	（兼務）
助教	竜川 貴光	
助教	石井 大介	
助教	大平 成真	
助教	吉田 奈七	（兼務）

II. 研究業績紹介

教室の血管外科部門では、主として末梢動脈疾患の治療に関する臨床研究の成果を欧文誌、和文誌や国内外の学会に報告している。特に末梢動脈疾患の最重症型である包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する血行再建術式や術後の潰瘍治癒、歩行機能維持など血行再建のアウトカムに関する臨床研究を行って国際的に認知されてきた。また、3年ほど前から動脈硬化疾患と流血中のエクソソームとの関係を研究しており、重症度や予後が非常に多様な CLTI 患者集団において、術後早期の心血管イベント発生や生命予後の良し悪しを予測するエクソソームの抽出、miRNA の同定を行っている。基礎研究においても、エクソソーム研究を東京医科大学の研究室と共同で進めており、これとは別に血管再生についても学内での連携などを基盤に基礎研究を進めている。加えて、閉塞性動脈疾患や破裂動脈瘤に関する多施設臨床研究をリードし、解析結果を報告してきた。さらに、大動脈緊急症に対する ICT を活用した病院間画像連携の研究も国内最先端の取り組みとして報告している。また、血管外科手術手技について若手外科医教育に注力して、全国のおよび国際的なハンズオンやワークショップなどを行っており、それが評価されてドイツ血管外科学会から表彰された。

小児外科部門でも、小児外科手術の工夫や長期成績に関する臨床での報告に加え、動物モデルでの基礎実験成果も出始めており、学会発表や論文報告を増やしている。

なお、呼吸器外科および乳腺外科の研究業績については、乳腺疾患センターとして掲載

しているので、そちらを参照されたい。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 東 信良	特集 フットケア・足病 医療の新時代 足病重症化予防ガイド ラインの概略	日本医師会雑誌	2023.6
2) 東 信良	ガイドライン策定と その意義	腎と透析	2023.7.25
3) 東 信良	3.バイパス術の適応	格段にうまくいく EVT の基本とコ ツ 第3版 症例 でわかるデバイス の選択・操作とト ラブルシューティ ング	2023.8.1
4) 東 信良	特集 大動脈緊急症に 備えよ！ 医療体制の現状と課題 企画にあたって	Heart View	2023.11.9
5) 東 信良	特集 大動脈緊急症に 備えよ！ 医療体制の 現状と課題 治す 15 大動脈緊急症に対する 救急医療体制と遠隔医 療	Heart View	2023.11.9
6) 内田 大貴、 東 信良	循環器疾患 最新の治 療 2024-2025 X 大動脈疾患 5. 腹 部大動脈瘤	Current Therapy in Cardiovascular Diseases 循環器 疾患 最新の治療 2024-2025	2023.12
7) 内田 大貴	静脈疾患の治療と看護 —患者指導のコツ— 静脈うっ滞性潰瘍と向 き合う	アルケア株式会社 Wound Care Case Report	2023.12

8) 内田大貴、東信良	総特集 血管外科疾患 の治療と手術手技 －消化器・一般外科医 が知りたい他科の技と 工夫 I.大動脈瘤に対する手 術 1)破裂性腹部大動脈 瘤における ICT を利用 した医療連携の実践	手術	2023.12
9) 東 信良	7.肺循環・末梢血管疾 患 末梢動脈疾患	最新ガイドライン に基づく循環器疾 患 診療指針 2024-'25	2023.12
10) 菊地信介	特集 6 下肢閉塞性動脈疾患 ～末梢動脈バイパス術 ～	HEART nursing 2024	2024.1.1
11) 東 信良	特集：血栓・塞栓症の 臨床 －診断・治療・ 予防の最新動向－ III. 各種疾患の診断と 治療 末梢動脈血栓・ 塞栓症	日本臨牀	2024.2.1
12) 菊地 信介	「遺伝子治療用製品 コラテジェンについ て」－専門医に聞く CLTI の治療戦略と補 助療法の位置付け	Medial View Point	2024

13) 東 信良

閉塞性動脈硬化症 今
日の治療指針 私はこう
治療している

2024.1

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 水島大地、多田裕樹、 新井慎平、吉田正宏、 小林大太、菊地信介、 東信良、赤坂伸之	フィブリノゲン異常症 を背景とした 包括的高度慢性下肢虚 血の治療経験	血管外科	2023.11.25
2) 菊地信介、内田大貴、 田丸祐也、土井田務、 鎌田啓輔、大平成真、 栗山直也、竜川貴光、 吉田有里、日野岡蘭子、 工藤紘子、成田孝行、 田中和幸、加藤一哉、 村谷拓、藤城貴教、 松木孝樹、中川直樹、 東信良	レオカーナ®の 台頭と活用法	Metropolitan Vascular & Endovascular Surgery 血管外科 症例検討会雑誌 血管外科	2023.11.25

- | | | | | |
|----|--|---|---|-----------|
| 3) | Takamitsu
Tatsukawa, Kohei
Kano, Kei-ichi
Nakajia, Takashi
Yazawa, Ryoji Eguchi,
Maki Kabara,
Kiwamu Horiuchi,
Taiki Hayasaka, Risa
Matsuo, Naoyuki
Hasebe, Nobuyoshi
Azuma,Jun-ichi
Kawabe | NG2-positive pericytes
regulate homeostatic
maintenance of slow-
type skeletal muscle
with rapid myonuclear
turnover | Stem Cell
Research &
Therapy | 2023.8.17 |
| 4) | Daisuke Ishii · Yuka
Kumata · Seiya
Ishii · Keita Motoki ·
Hisayuki Miyagi | Quantitative evaluation
of pediatric umbilical
loop stomas:2 decades
of experience from a
single institution | Pediatric
Surgery
International | 2023.9 |
| 5) | 久万田優佳、石井大
介、
石井聖也、元木惠
太、土川颯、上野伸
展、庄中達也、宮城
久之 | 低位鎖肛術後糞便性
腸閉塞により腹部コン
パートメント症候群を
呈した1例 | 日本小児
外科学会雑誌 | 2023.12 |
| 6) | Hitoshi Ogino,Hiraku
Kumamaru,Noboru
Motomura,Toshiki
Fujiyoshi,Yusuke
Shimahara,Nobuyoshi
Azuma,Naoko
Kinukawa,Yuichi
Ueda,Yutaka Okita | Current status of
surgical
treatment for acute
aortic dissection in
Japan: Nationwide
database analysis. | The Journal of
thoracic and
cardiovascular
surgery | 2023.12.5 |

7)	Robert Fitridge, Vivienne Chuter, Joseph Mills, Robert Hinchliffe, Nobuyoshi Azuma, Christian- Alexander Behrendt, Edward J Boyko, Michael S Conte, Misty Humphries, Lee Kirksey, Katharine C McGinagle, Sigrid Nikol, Joakim Nordanstig, Vincent Rowe, David Russell, Jos C van den Berg, Maarit Venermo, Nicolaas Schaper	The intersocietal IWGDF, ESVS, SVS guidelines on peripheral artery disease in people with diabetes mellitus and a foot ulcer.	Journal of vascular surgery	2023.11
----	--	---	--------------------------------	---------

- 8) Hitoshi Ogino, Osamu Iida, Koichi Akutsu, Yoshiro Chiba, Hiromitsu Hayashi, Hatsue Ishibashi-Ueda, Shuichiro Kaji, Masaaki Kato, Kimihiro Komori, Hitoshi Matsuda, Kenji Minatoya, Hiroko Morisaki, Takao Ohki, Yoshikatsu Saiki, Kunihiro Shigematsu, Norihiko Shiiya, Hideyuki Shimizu, Nobuyoshi Azuma, Hirooki Higami, Shigeo Ichihashi, Toru Iwahashi, Kentaro Kamiya, Takahiro Katsumata, Nobuyoshi Kawaharada, Yoshihisa Kinoshita, Takuya Matsumoto, Shinji Miyamoto, Takayuki Morisaki, Tetsuro Morota, Kiyonori Nanto, Toshiya Nishibe, Kenji Okada, Kazumasa
- JCS/JSCVS/JATS/JSV
S
2020 Guideline on
Diagnosis and
Treatment of Aortic
Aneurysm and Aortic
Dissection.
- Circulation
journal : official
journal of the
Japanese
Circulation
Society
- 2023.9.25

Orihashi,Junichi
Tazaki,Masanao
Toma,Takuro
Tsukube,Keiji
Uchida,Tatsuo
Ueda,Akihiko Usui,
Kazuo
Yamanaka,Haruo
Yamauchi,Kunihiro
Yoshioka,Takeshi
Kimura,Tetsuro
Miyata,Yutaka
Okita,Minoru
Ono,Yuichi Ueda

- 9) Keisuke Venous Screening Annals of 2023.9.25
Kamada,Daiki Activities at the Site of vascular
Uchida,Hiroko Hokkaido East Iburi diseases
Okuda,Atsuhiro Earthquake: Report
Koya,Seima from the Result of
Ohira,Maiko Venous Screening in
Ikura,Shinsuke Preventive Awareness
Kikuchi,Kazuhiko Activities.
Hanzawa,Nobuyoshi
Azuma

- | | | | |
|--|--|--|----------|
| 10) Robert
Fitridge, Vivienne
Chuter, Joseph
Mills, Robert
Hinchliffe, Nobuyoshi
Azuma, Christian-
Alexander
Behrendt, Edward J
Boyko, Michael S
Conte, Misty
Humphries,
Lee Kirksey, Katharine
C McGinagle, Sigrid
Nikol, Joakim
Nordanstig, Vincent
Rowe, David
Russell, Jos C van den
Berg, Maarit
Venermo, Nicolaas
Schaper | The Intersocietal
IWGDF, ESVS, SVS
Guidelines on
Peripheral Artery
Disease in People With
Diabetes Mellitus and a
Foot Ulcer. | European
journal
of vascular and
endovascular
surgery : the
official journal
of the European
Society for
Vascular
Surgery | 2023.9.6 |
| 11) Naoki
Fujimura, Hideaki
Obara, Arata
Takahashi, Hiroaki
Miyata, Akihiro
Hosaka, Yukio
Obitsu, Nobuya
Zempo, Tetsuro
Miyata, Nobuyoshi
Azuma, Kimihiro
Komori | Surgical Treatment
for Popliteal Artery
Entrapment Syndrome
in Japan: a
Retrospective,
Multicentre Study
Using a National
Clinical Registry | European
journal
of vascular and
endovascular
surgery : the
official journal
of the European
Society for
Vascular
Surgery | 2023.9 |
| 12) 石井大介、久万田優
佳、
石井聖也、元木惠
太、宮城久之 | 特集 腹腔鏡下噴門形
成術-新技術認定制度に
向けて
ラップ形成 (Thal 法) | 小児外科 | 2024.1 |

- | | | | | |
|-----|--|--|--|--------|
| 13) | Shinsuke Kikuchi,
Seima Ohira, Tsutomu
Doita, Keisuke
Kamada, Naoya
Kuriyama, Yuya
Tamaru, Takamitsu
Tatsukawa, Yuri
Yoshida, Daiki
Uchida, Nobuyoshi
Azuma | Super-Elderly Case of
Acute Lower Limb
Ischemia Treated with
Indigo Aspiration
System in Japan | Annals of
Vascular
Diseases | 2024.3 |
| 14) | 石井聖也、石井大
介、
元木恵太、久万田優
佳、平澤雅敏、宮城
久之 | 先天性結腸閉鎖症に対
して
臍部人工肛門造設術を
用いた多期的手術で良
好な経過をたどった1
例 | 日本
小児外科学会雑
誌 | 2024.2 |
| 15) | Vivienne
Chuter, Nicolaas
Schaper, Joseph
Mills, Robert
Hinchliffe, David
Russell, Nobuyoshi
Azuma, Christian-
Alexander
Behrendt, Edward J
Boyko, Michael S
Conte,
Misty Humphries, Lee
Kirksey, Katharine C
McGinagle, Sigrid
Nikol, Joakim
Nordanstig, Vincent
Rowe, Jos C van den
Berg, Maarit
Venermo, Robert
Fitridge | Effectiveness of
bedside
investigations to
diagnose peripheral
artery disease among
people with diabetes
mellitus: A systematic
review. | Diabetes/
metabolism
research and
reviews | 2024.3 |

16) Vivienne Chuter,Nicolaas Schaper,Robert Hinchliffe,Joseph Mills,Nobuyoshi Azuma,Christian- Alexander Behrendt,Edward J Boyko,Michael S Conte,Misty Humphries ,Lee Kirksey,Katharine C McGinagle,Sigrid Nikol,Joakim Nordanstig,Vincent Rowe,Russell David,Jos C van den Berg,Maarit Venermo,Robert Fitridge	Performance of non-invasive bedside vascular testing in the prediction of wound healing or amputation among people with foot ulcers in diabetes: A systematic review	Diabetes/ metabolism research and reviews	2024.3
---	---	--	--------

- 17) Vivienne Chuter Effectiveness of Diabetes/ 2024.3
Nicolaas Schaper revascularisation for metabolism
Joseph Mills Robert the ulcerated foot in research and
Hinchliffe David patients with diabetes reviews
Russell Nobuyoshi and peripheral artery reviews
Azuma Christian- disease: A systematic
Alexander Behrendt review
Edward J Boyko
Michael S Conte
Misty D Humphries
Lee Kirksey Katharine
C McGinagle Sigrig
Nikol Joakim
Nordanstig Vincent
Rowe Jos C van den
Berg Maarit Venermo
Robert Fitridge
- 18) Robert Fitridge , The intersocietal Diabetes/ 2024.3
Vivienne Chuter , IWGDF, ESVS, SVS metabolism
Joseph Mills , Robert guidelines on research and
Hinchliffe , peripheral artery reviews
Nobuyoshi Azuma , disease in people with
Christian-Alexander diabetes and a foot
Behrendt , Edward J ulcer
Boyko , Michael S
Conte ,
Misty Humphries ,
Lee Kirksey ,
Katharine C
McGinagle , Sigrig
Nikol , Joakim
Nordanstig , Vincent
Rowe , David Russell ,
Jos C van den Berg ,
Maarit Venermo ,
Nicolaas Schaper

- | | | | |
|--|---|---|-----------|
| 19) Michinao Tan,
Mitsuyoshi
Takahara, Takuya
Haraguchi, Daiki
Uchida, Yutaka
Dannoura, Tsuyoshi
Shibata, Shuko
Iwata, Nobuyoshi
Azuma | One-Year Clinical
Outcomes and
Prognostic Factors
Following
Revascularization in
Patients With Acute
Limb Ischemia -
Results From the
RESCUE ALI Study. | Circulation
journal
: official journal
of the Japanese
Circulation
Society | 2024.2.22 |
| 20) Akihiro Hosaka, Arata
Takahashi, Hiraku
Kumamaru, Nobuyoshi
i Azuma, Hideaki
Obara, Tetsuro
Miyata, Yukio
Obitsu, Nobuya
Zempo, Hiroaki
Miyata, Kimihiro
Komori | Prognostic factors
after open and
endovascular repair for
infective native
aneurysms of the
abdominal aorta and
common iliac artery. | Journal of
Vascular
Surgery | 2024.1.26 |
| 21) Yohei Ichikawa ,
Shinsuke Kikuchi ,
Hiroya Moriyama ,
Takamitsu
Tatsukawa , Seima
Ohira , Yuki
Kamikokura , Yuri
Yoshida , Mayumi
Hatayama , Sayaka
Yuzawa , Naoki
Wada , Daiki Uchida ,
Atsuhiko Koya ,
Nobuyoshi Azuma | A case of lymphoma
mimicking infected
internal iliac artery
aneurysm | Surgical Case
Reports | 2023.3 |

- 22) 宮城久之, 石井 大介, 石井 聖也, 元木 恵太
直腸肛門奇形 (鎖肛) に対する括約筋群を切らない Stephens-Smith 手術
北海道外科雑誌, 67 巻第 2 号, 13-16, 2023
- 23) 宮城 久之*, 田中 潔, 島 秀樹, 鈴木 完, 中目 和彦, 好沢 克, 坂井 幸子, 臼井 秀仁, 小林 めぐみ, 米倉 竹夫
「2022 年度 新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響アンケート調査」報告
日小外会誌 59 巻 7 号 Page1119-1126, 2023.12
- 24) Kumata Y, Ishii D, Ishii S, Motoki K, Ueno N, Hinooka R, Miyagi H.
A case series of prophylactic negative pressure wound therapy use with purse-string closure in stoma closure wounds in infants.
Surg Case Rep 2024.1
- 25) 佐藤七海, 石井 大介, 宮城久之, 石井 聖也, 元木 恵太, 竹田津未生, 徳光重矢, 林 時伸, 本村勅子, 阿部由希子, 佐古澄子, 長森恒久, 下坂佳苗, 木田涼太郎, 北田正博, 平澤雅敏
重症心身障害児者施設入所者に偶発的に見つかった肺癌に対し多職種カンファレンスを導入して外科的治療を施行した一例
北海道外科雑誌, 67 巻第 2 号, 21-26, 2023
- 26) 栗澤未央ジューン, 堀井百祐, 中村英記, 平野至規, 室野晃一, 石井大介, 宮城久之, 平澤雅敏
急性発症後に早期診断・救急搬送を行い救命しえた遅発性先天性横隔膜ヘルニアの 1 例
小児内科 (0385-6305)55 巻 8 号 Page1383-1386, 2023.8

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 内田 大貴	レオカーナの使いどころ、当科の経験から	第二回沖縄 C L T I 講演会	2023.4.19
2) 内田 大貴	治療の幅を広げる末梢血管用ステントグラフト	第 123 回 日本外科学定期 学術集会	2023.4.27-29
3) 石井 大介	GERD に対する腹腔鏡下 Thal 法 (前方部分ラッピングによる噴門形成術) の実践	第 123 回 日本外科学定期 学術集会	2023.4.27-30
4) 宮城 久之	胆道閉鎖症に対する 8K 内視鏡システムを利用した肝門部観察の展望	第 123 回 日本外科学定期 学術集会	2023.4.27-31
5) Shinsuke Kikuchi, Keisuke Kamada, Kazuki Takahashi, Yusuke Yoshioka, Takamitsu Tatsukawa, Naoya Kuriyama, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Richard D. Kenagy, Gale L. Tang, Takahiro Ochiya, Nobuyoshi Azuma	Human saphenous vein smooth muscle cells uptake extracellular vesicles from adventitial cells	ISEV 2023	2023.5.17-21
6) Naoya Kuriyama, Yusuke Yoshioka, Shinsuke Kikuchi, Nobuyoshi Azuma, Takahiro Ochiya	Reduced loading of Annexin A1 in extracellular vesicles derived from atherosclerotic plaques in lower extremity artery	ISEV 2024	2023.5.17-22

	disease results in the release of various chemokines and the expression of ICAM-1 in vascular smooth muscle cells		
7) 菊地 信介	Complication: embolic	Japan Endovascular Treatment Conference 2023	2023.5.26-28
8) 菊地 信介	CLTI High risk 群に対する外科的血行再建における静脈グラフトの質と臨床成績への理解	第 51 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.2
9) 東 信良	大動脈末梢動脈救急治療における医療機関連携に関する多施設観察研究—研究概要と進捗状況	第 52 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.3
10) 内田 大貴	CLTI 患者に対する足部動脈解剖学的因子評価のインパクト	第 53 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.4
11) Shinsuke Kikuchi	Future perspective for education and training of vascular surgery by a new youth committee of JSVS	第 54 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.5
12) 竜川 貴光	毛細血管周皮細胞の遅筋特異的前駆細胞としての機能に関する網羅的解析	第 55 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.6
13) 菊地 信介	CLTI に対する補助治療	第 56 回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31-6.7

- | | | | |
|--|--|---|-------------|
| 14) 石井聖也、石井大介、元木恵太、宮城久之 | 小児に発症した特発性小腸穿孔の1例 | 第60回日本小児外科学会学術集会 | 2023.6.1-3 |
| 15) 石井 大介 | 小児人工肛門閉鎖創に対する予防的局所陰圧閉鎖療法の試み | 第60回日本小児外科学会学術集会 | 2023.6.1-4 |
| 16) 東 信良 | 下腿潰瘍・足潰瘍の治療 | 第122回 日本皮膚科学会総会 | 2023.6.1-4 |
| 17) Keisuke Kamada, Shinsuke Kikuchi, Yuya Tamaru, Tsutomu Doita, Seima Ohira, Takamitsu Tatsukawa, Ying Sheng Li, Yuri Yoshida, Daiki Uchida, Nobuyoshi Azuma | A novel temporary bypass technique for open abdominal aortic repair with renal artery reconstruction | 第12回 日韓血管外科学会 (The 12th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery) | 2023.6.9-10 |
| 18) Hirofumi Jinno, Shinsuke Kikuchi, Yuya Tamaru, Takayuki Uramoto, Kazuki Takahashi, Keisuke Kamata, Seima Ohira, Takamitsu Tatsukawa, Yuri Yoshida, Daiki Ushida, Katsuaki Magishi, Nobuyoshi Azuma | Treatment experience for coronavirus disease 2019 complications in our department | 第12回 日韓血管外科学会 (The 13th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery) | 2023.6.9-11 |

19) Shinsuke Kikuchi	Role of surgical revascularization in CLTI treatment	第 12 回 日韓 血管外科学会 (The 14th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery)	2023.6.9-12
20) 菊地信介、内田大貴、田丸裕也、土井田務、鎌田啓補、大平成真、竜川貴光、吉田有里、東信良	透析患者 CLTI に対する Evidenced-based Surgical Revascularization による創傷治療	第 68 回 日本透析医学会 学術集会・総会	2023.6.15-18
21) 久万田優佳、石井大介、石井聖也、元木恵太、上野直美、日野岡蘭子、宮城久之	鎖肛根治術 21 年後に腹部コンパートメント症候群を合併した糞便性腸閉塞を呈した 1 例	第 37 回 日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会 こどもたちの輝かしい未来のために！	2023.6.17
22) 元木恵太、石井大介、久万田優佳、石井聖也、宮城久之	ヒルシュスプルング病を合併した Waardenburg 症候群 IV 型の 1 例	日本小児科学会 北海道地方会第 317 回例会	2023.6.18
23) 田辺裕子、柏原康佑、木川雄一郎、平成人、岩谷胤生、下妻晃二郎、大谷彰一郎、吉波哲大、渡邊純一郎、柏葉匡寛、渡邊健一、北田正博、阪口晃一、相原智彦、向井博文、高橋將人	HER2 陰性転移性乳癌における 1 次・2 次治療としてのエリブリンと S-1 の HRQOL を比較する 無作為化第 III 相試験	第 31 回 日本乳癌学会学術総会 今輝き、未来を拓く～ Evolution and Innovation～	2023.6.29-7.1

24) 東 信良	循環器病対策推進計画における大動脈緊急症	第 29 回 日本 血管内治療学会 学術総会 Inspiring New Treatment Paradigms 変 化と多様性への 挑戦	2023.6.30-7.1
25) 日野岡蘭子、菊地 信介、 田丸裕也、土井田 務、鎌田啓輔、大 平成真、竜川貴 光、吉田有里、内 田大貴、東信良	CLTI における創治療期 間短縮への取り組み ～局所陰圧閉鎖療法での 期間短縮に向けて～	日本フットケ ア・ 足病医学会 第 4 回北海道地方 会学術集会	2023.7.1
26) 土井田務、菊地信 介、 田丸裕也、鎌田啓 輔、竜川貴光、吉 田有里、内田大 貴、宮川繁、東信 良	包括的高度慢性下肢虚血 に対する両側 大腿-足底動脈バイパス 後に残存大腿膝窩動脈病 変により両下腿が虚血性 皮膚壊死に至った症例	日本フットケ ア・ 足病医学会 第 5 回北海道地方 会学術集会	2023.7.2
27) 田丸裕也、内田大 貴、 土井田務、鎌田啓 輔、大平成真、竜 川貴光、吉田有 里、菊地信介、東 信良	他科連携、患者教育によ り再燃無く経過して いる静脈うっ滞性皮膚 炎・潰瘍の治療経験	日本フットケ ア・ 足病医学会 第 6 回北海道地方 会学術集会	2023.7.3
28) 吉田 有里	地域における大学病院と しての役割	日本フットケ ア・ 足病医学会 第 7 回北海道地方 会学術集会	2023.7.4

29) 内田 大貴	診療報酬「静脈圧迫処 置」の概要・静脈学の 復讐・圧迫療法の基礎知 識	日本フットケ ア・ 足病医学会 第 8回北海道地方 会学術集会	2023.7.5
30) Nobuyoshi Azuma	The Current Status of Peripheral Artery Reconstruction in Japan and the Role of the Academic Society for the Training	中国南方血管大 会 (SEC) China Southern Endovascular Congress	2023.7.13-16
31) 元木恵太、石井大 介、 石井聖也、久万田 優佳、宮城久之	Waardenburg 症候群に 伴うと考えられた ヒルシュスプルング病の 1例	第60回 日本小児外科学 会学術集会	2023.6.1-3
32) 田丸祐也、内田大 貴、 土井田務、鎌田啓 輔、大平成真、竜 川貴光、栗山直 也、吉田有里、菊 地信介、東信良	バスキュラーアクセス造 設後の 中心静脈狭窄による静脈 高血圧に対する治療経験	中国南方血管大 会 (SEC) China Southern Endovascular Congress	2023.7.13-18
33) Yuri Yoshida	The relationship between wound healing and nutritional status in patients with CLTI.	University Hospital Regensburg 12 t h German- Japanese Vascular Conference	2023.8.3-5
34) 東 信良	LEAD に対する 血行再建術 - 予後改善の ための戦略	Hokkaido WEB カンファレンス 2023	2023.8.30

- | | | | |
|---|--|--|----------------|
| 35) Keita Motoki,Seiya
Ishii,
Yuka
Kumata,Daisuke
Ishii,Hisayuki
Miyagi | A case of Hirschsprung
disease associated
with Waardenburg
syndrome | The Pacific
Association of
Pediatric
Surgeons 56th
Annual Meeting | 2023.9.1-14 |
| 36) Yuka
Kumata,Daisuke
Ishii,
Keita Motoki,Seiya
Ishii, Hisayuki
Miyagi | Future prospects for
hepatic portal
examination using an8K
endoscope system for
biliary atresia | The Pacific
Association of
Pediatric
Surgeons 56th
Annual Meeting | 2023.9.10-14 |
| 37) Yuka
Kumata,Daisuke
Ishii,
Hisayuki Miyagi, ,
Keita Motoki | A patient with
abdominal compartment
syndrome related to fecal
ileus 21 years after
surgery for a low-type
anorectal malformation | The Pacific
Association of
Pediatric
Surgeons 56th
Annual Meeting | 2023.9.10-14 |
| 38) 菊地 信介 | 血管外科医が考える
ALI・EVT 治療戦略
～Indigo™システムへの
期待～ | Online Internal
Education
Seminar | 2023.9.29 |
| 39) 石井聖也、石井大
介、
元木恵太、久万田
優佳、福井晨介、
櫻井由香里、湯澤
明夏、谷野美智
枝、更科岳大、宮
城久之 | 巨大胸腺脂肪腫の1例 | 第65回 日本
小児血液・がん
学会学術集会
第21回 日本
小児がん看護学
会学術集会
第28回 がん
の子どもを守る
会公開シンポジ
ウム | 2023.9.29-10.1 |

40) 内田 大貴	静脈うっ滞性潰瘍と向き合う	第 8 回 東北静脈フォーラム学術集会 特別講演 静脈性疾患治療と看護～静脈性潰瘍を中心に～	2023.9.30
41) 石井 大介、小原弘道、 鳥海 飛鳥、岡田陽子、松野 直徒	小腸機械灌流における基礎検討	第 49 回日本臓器保存生物医学学会学術集会 移植外科の両輪 保存と免疫 ひとつでも多くの命をつなぐために	2023.10.20-21
42) 栗山直也、吉岡祐亮、 菊地信介、高橋一輝、東信良、落谷孝広	動脈硬化微小環境における細胞外小胞が血管平滑筋に与える影響についての解析	JSEV 第 10 回日本細胞外小胞学会学術集会	2023.10.23-24
43) 菊地 信介	～2年間の使用から見たレオカーナの活用法～	第 4 回 道北臨床工学会学術セミナー	2023.10.26
44) 土井田務、菊地信介、 田丸裕也、鎌田啓輔、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、内田大貴、三宅啓介、宮川繫、東信良	原発性胆汁性胆管炎に関連した 両側高度下肢虚血に対して両側足部動脈バイパス術による血行再建を施行し救肢した症例	第 64 回 日本脈管学会学術総会 つなごう、脈管学の未来のために	2023.10.26-28
45) 菊地信介、内田大貴、田丸裕也、土井田務、高橋一輝、大平成真、竜川貴光、栗山直	ガイドラインを見据えた CLTI に対する外科的血行再建の臨床成績と治療方針	第 64 回 日本脈管学会学術総会 つなごう、脈管学の未来のために	2023.10.26-28

也、吉田有里、東
信良

- | | | | |
|--|---|--------------------------------------|---------------|
| 46) 栗山直也、菊地信介、
吉岡祐亮、高橋一輝、吉田有里、内田大貴、東信良、
落谷孝広 | 血栓内膜摘除病変由来細胞外小胞による
血管平滑筋に対する機能と single cell 解析による
平滑筋細胞フェノタイプ解析 | 第 65 回
日本脈管学会学術総会 つなごう、脈管学の未来のために | 2023.10.26-29 |
| 47) 藤村直樹、尾原秀明、
高橋新、宮田裕章、保坂晃弘、小櫃由樹生、善甫宣哉、宮田哲郎、東信良、古森公浩、
データベース管理運営委員会 | 本邦における膝窩動脈捕捉症候群の現状 | 第 66 回
日本脈管学会学術総会 つなごう、脈管学の未来のために | 2023.10.26-30 |
| 48) 東 信良 | 急性動脈閉塞に対する治療戦略
：血栓溶解療法なしでどうするか？ | 第 67 回
日本脈管学会学術総会 つなごう、脈管学の未来のために | 2023.10.26-31 |
| 49) 元木恵太、石井大介、久万田優佳、
石井聖也、宮城久之 | 小腸ストーマ造設後の水様便に
対する介入と検討 | 第 39 回日本小児外科学会秋季シンポジウム | 2023.10.28 |
| 50) 石井大介、久万田優佳、石井聖也、
元木恵太、宮城久之 | GERD に対する腹腔鏡下 Thal 法（前方部分ラッピングによる噴門形成術）の実践 | 第 39 回日本小児外科学会秋季シンポジウム | 2023.10.28 |

51) Nobuyoshi Azuma	Nerve Block Without General Anesthesia Allows Safer Bypass Surgery For CLTI Even With High Risk Patients	VEITH SYMPOSIUM Connecting The Vascular Community 50th	2023.11.14-11.18
52) Nobuyoshi Azuma	The Japanese SPINACH Registry Confirms That Open Bypasses Are Superior To Endovascular Treatments In CLTI Patients When Ischemia And Infection Are Advanced	VEITH SYMPOSIUM Connecting The Vascular Community 51th	2023.11.14-11.19
53) Daiki Uchida, Yuya Tamaru, Tsutomu Doita, Takamitsu Tatsukawa, Naoya Kuriyama, Yuri Yoshida, Shinsuke Kikuchi, Nobuyoshi Azuma	The impact of pedal artery anatomic factors in para/infra-malleolar bypass for CLTI patients	UVECD 24th Congress of Asian Society for Vascular Surgery (ASVS) 21st Congress of the Turkish Society for Vascular and Endovascular Surgery 18th Asian Venous Forum 12th National Congress of Turkish Society of Phlebology 臨床外科学会総会「創意と継承－確かな未来へ－」	2023.11.30-12.3 2023.11.16-18

54) Yuri Yoshida	Significant Impact of Osteomyelitis on Wound Healing and Ambulation after Revascularization for Chronic Limb-Threatening Ischemia	UVECD 24th Congress of Asian Society for Vascular Surgery (ASVS) 21st Congress of the Turkish Society for Vascular and Endovascular Surgery 18th Asian Venous Forum 13th National Congress of Turkish Society of Phlebology 臨床外科学会総会「創意と継承－確かな未来へ－」	2023.11.30-12.3 2023.11.16-18
------------------	---	--	----------------------------------

55) Nobuyoshi Azuma	Current status and strategy of CLTI treatment in Japan	UVECD 24th Congress of Asian Society for Vascular Surgery (ASVS) 21st Congress of the Turkish Society for Vascular and Endovascular Surgery 18th Asian Venous Forum 14th National Congress of Turkish Society of Phlebology 臨床外科学会総会「創意と継承－確かな未来へ－」	2023.11.30-12.3 2023.11.16-18
56) Shinsuke Kikuchi	Distal vein arterialization in CLTI: OSR and Endo	The 15th VESSEL Update 2023 Symposium	2023.12.8-10
57) Nobuyoshi Azuma	Spinach Trial and clinical application	The 15th VESSEL Update 2024 Symposium	2023.12.8-10
58) 内田 大貴	VTE 診療における診療体制と治療の現状	腫瘍循環器診療 Update～VTE 治療の最前線～	2023.12.14

59) 石井 大介	小腸機械灌流における基礎検討	第5回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会	2023.12.16
60) 栗山 直也	末梢動脈疾患における細胞外小胞を用いたバイオマーカーの探索と機能解明	第6回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会	2023.12.17
61) 内田 大貴	レオカーナの使いどころ、当科の経験から	CLTI CONFERENCE FOR WOUND CARE SPECIALISTS	2023.12.18
62) 日野岡蘭子、菊地信介、田丸祐也、土井田務、鎌田啓輔、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	CLTIにおける治癒期間短縮に向けた検討～NPWT 実施期間短縮に向けて～	第4回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-23
63) 川本篤彦、古川裕、横井宏佳、東信良、大竹剛靖、古川雅英、北野育郎、尾原秀明、中村正人、山口淳一、藤田靖之、村田直隆、上月周、清水 渉	自家 CD34 陽性細胞移植による下肢血管再生治療	第5回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-24
64) 吉田有里、田丸祐也、土井田務、大平成真、竜川貴光、栗山直也、菊地信介、内田大貴、東信良	CLTIにおける創傷治癒と周術期血清値についての検討とその臨床的意義	第6回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-25

65) 内田大貴、菊地信介、日野岡蘭子、田丸祐也、土井田務、大平成真、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、東信良	ICT を用いた遠隔画像情報連携システムを活用した救肢治療の実践	第 7 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-26
66) 神野浩史、内田大貴、竹吉大輔、小林大太、木村文昭	EVT 不成功の透析症例 CLTI に対して、バイパスおよび術後レオカーナ併用の集学的治療にて救趾に成功した一例	第 8 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-27
67) 菊地 信介	JET 合同プログラム 6 Question with JET	第 9 回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	2023.12.22-28
68) 田丸祐也、菊地信介、土井田務、鎌田啓輔、大平成真、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、内田大貴、東信良	下腿動脈バイパス術後にグラフト皮下経路が残存大伏在静脈逆流によりうっ滞性皮膚潰瘍に至った例	第 1 回 北海道 静脈フォーラム The 1st Hokkaido Venous Forum 「静脈でつながる」	2024.1.21
69) 橋本侑樹、菊地信介、田丸祐也、土井田務、大平成真、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、内田大貴、東信良	足趾に発生したうっ滞性皮膚潰瘍の一例	第 1 回 北海道 静脈フォーラム The 2st Hokkaido Venous Forum 「静脈でつながる」	2024.1.21

70) 田丸祐也、菊地信介、土井田務、大平成真、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、内田大貴、東信良	CLTI に対する補助療法としての レオカーナの創傷治癒における有効性	第 54 回 日本心臓血管外科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-24
71) 栗山直也、菊地信介、土井田務、田丸祐也、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	膝下膝窩以遠末梢動脈バイパスの 中期的予後予測モデル構築	第 55 回 日本心臓血管外科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-25
72) 栗山直也、菊地信介、土井田務、田丸祐也、大平成真、竜川貴光、吉田有里、内田大貴、東信良	膝下膝窩以遠末梢動脈バイパスの 中期的予後予測モデル構築	第 56 回 日本心臓血管外科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-26
73) 木村友紀、大津洋、米本直裕、東信良、佐瀬一洋	uncomplicated B 型解離の TEVAR と 薬物療法の長期成績の比較	第 57 回 日本心臓血管外科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-27
74) 菊地信介、内田大貴、吉田有里、田丸祐也、土井田務、大平成真、竜川貴光、栗山直也、東信良	患者リスク層別化と歩行能を考慮した CLTI 治療戦略	第 58 回 日本心臓血管外科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-28

75) 東 信良	CLTI に対する血行再建 : Distal bypass と E V T の優劣比較の方法論	第 59 回 日本心臓血管外 科学会学術総会 Contribution Through Education and Innovation	2024.2.22-29
76) 土井田務、菊地信介、 田丸裕也、竜川貴光、栗山直也、吉田有里、内田大貴、林真奈美、谷野美知枝、三宅啓介、宮川繁、東信良	大動脈－大腿動脈バイパスの繰り返す末梢吻合部狭窄後の右脚閉塞に対し自家静脈を用いた末梢吻合部再建で再狭窄の予防を試みた線維筋性異形成の 1 例	PASM2024 (第 54 回日本心臓血管外科学会 併設研究会)	2024.2.24
77) 菊地 信介	当院におけるレオカーナ治療の実際	(株)カネカ メディックス Youtube 限定公開 オンデマンド動画サイトのご案内	2024.3
78) 東 信良	心臓大血管救急における病院間画像連携－全国救命救急病院における普及状況	未来につなげる 循環器学－循環器病克服への挑戦－ The Future of Cardiology Challenges in Overcoming Cardiovascular Disease 第 88 回 日本循環器学会 学術集会 The 88 th Annual Scientific Meeting of the	2024.3.8-10

- 79) 中原里有 (6 年生)、石井大介、石井聖也、元木恵太、久万田優佳、宮城久之 高位鎖肛に対し臍部人工肛門造設下に腹腔鏡下鎖肛根治術を施行した 1 例 第 60 回日本小児外科学会定期学術集会, 大阪国際会議場 (大阪) 2023.6.1-3
- 80) 久万田優佳 (初期研修医)、石井大介、石井聖也、元木恵太、宮城久之 低位鎖肛術後、糞便性腸閉塞により腹部コンパートメント症候群を呈した 1 例 第 60 回日本小児外科学会定期学術集会, 大阪国際会議場 (大阪) 2023.6.1-3
- 81) 久万田優佳 (初期研修医)、石井大介、石井聖也、元木恵太、上野直美、日野岡蘭子、宮城久之 鎖肛根治術 21 年後に腹部コンパートメント症候群を合併した糞便性腸閉塞を呈した 1 例 第 37 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会, 神奈川 (北里大学), 2023.6.17
- 82) 西 由梨絵 (5 年生)、石井聖也、石井大介、元木恵太、宮城久之 小児に発症した巨大胸腺脂肪腫に対して胸腔鏡補助下右開胸アプローチで完全摘出を行った 1 例, 第 6 回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES 2023) 第 107 回日本小児外科学会北海道地方会, 札幌 2023

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
東 信良	継続	基盤研究 (B)	臨床検体遺伝子解析に基づいた静脈グラフィット内膜肥厚制御方法の大動物モデルでの確立
東 信良	繰越	基盤研究 (B)	臨床検体遺伝子解析に基づいた静脈グラフィット内膜肥厚制御方法の大動物モデルで

の確立

内田 大貴	継続	基盤研究 (C)	遠赤外線照射による熱ショック蛋白を介した血管内膜肥厚抑制の機序解明
齊藤 幸裕	継続	基盤研究 (C)	次世代再生医療ダイレクト・リプログラミングによる新規リンパ管再生治療法の開発

外科学講座

(心臓大血管外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Cardiovascular Surgery)

I. 所属教員等

外科学講座（心臓大血管外科学分野）

教 授	紙谷 寛之	
講 師	小山 恭平	
助 教	筒井 真博	
助 教	菊池 悠太	
助 教	國岡 信吾	（兼務）
助 教	広藤 愛菜	
客員教授	山崎 健二	
客員助教	横山 博一	

外科（心臓大血管）

講 師	石川 成津矢
助 教	潮田 亮平
助 教	鈴木 文隆
助 教	大久保 諒

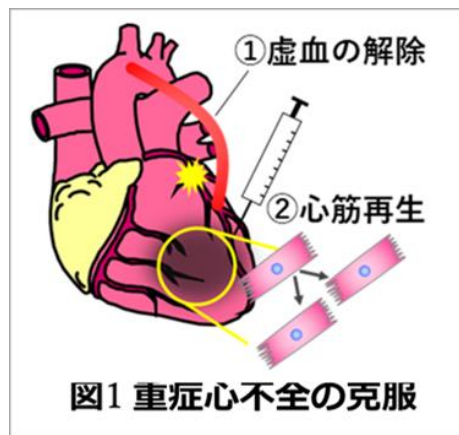
II. 研究業績紹介

当講座における研究分野は臨床と基礎の2つに分かれている。臨床は紙谷が統括しており、主に低侵襲心臓手術、弓部大動脈外科、開心術後心房細動について多数の論文を発表している。また、若手研究者の登竜門として症例報告も重要だが、学会で発表した演題は必ず論文化するよう指導している。継続的な努力の結果、2014年の開講以来、英文論文数は143編となっている。また、当講座での術後出血予防のための新術式に関する國岡助教が執筆した論文は心臓外科領域で世界最高権威とされるアメリカ胸部外科学会の2022年最優秀演題演題に選ばれており、臨床研究においても世界レベルで情報発信を行っている。

基礎は小山が担当しており、長年シアトルのワシントン大学で研究活動を行った知識と実績を旭川医大で展開中。その研究の一端を紹介する。

先進国で死亡原因の上位を占める虚血性心疾患では、冠動脈閉塞による心筋虚血とそれに伴う心筋壊死が病態の本質であり、根本的な治療法を確立するためには、①虚血の解除に加えて、②失った心筋の再生が必要(図1)。我々は重症心不全の克服を使命と考え、これら2つの主要テーマに関して2023年度は7つの科研費とJSPS研究費を獲得し研究を行っている。

自家血管を用いた冠動脈バイパス術は、心筋虚血の



解除に有効だが、グラフトの採取に伴う侵襲やグラフト自体の質的量的問題が原因で、治療の制限となることがある。そこで、我々は生体吸収性ナノファイバー(NF)を用いて、自家血管へと変化する人工血管の作成に取り組んでいる。2023年度、「抗血栓性を付加したNF小口径人工血管の作成方法」と「糖尿病条件下におけるNF小口径人工血管のin vivo機能性」を明らかにし、2名の学位取得者を輩出した。

一方、血行再建術は確立された治療だが、心筋壊死を伴う病態において心臓機能を回復させることはできない。その原因は、失った心筋を再生するのに十分な分裂能力を、心筋細胞がもっていないためである。我々は、遺伝子の使い方を決定するエピゲノムの解析から、心筋細胞の分裂制御機構を明らかにし、心筋再生治療へ応用することを目指している。現在3名の大学院生および5名の医学部生がウイルスベクターや遺伝子改変マウス、iPS由来心筋細胞を用いて、この研究テーマに取り組んでおり、成熟心筋細胞に有糸分裂を誘導できる転写因子を発見した(投稿準備中)。この成果は第54回日本心臓血管外科学会で最優秀賞を受賞した他、海外のKeystone Symposiaでも高く評価されている。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 紙谷寛之、國岡信吾	病棟ナースのための心臓外科手術の術式別ガイド 94-99 p.大動脈弁置換術、大動脈弁輪拡大術		2023.6

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Ryohei Ushioda, Tomonori Shirasaka, Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Hiroyuki Kamiya, Nuttapon Arayawudhikul	Coronary reoperation with a free internal mammary artery connected to the right coronary artery as an inflow site; a coronary-to-coronary bypass	Journal of Surgical Case Reports	2023.4

- | | | | | |
|----|--|---|-----------------------------------|--------|
| 2) | Ryohei Ushioda, Tomonori Shirasaka, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Dit Yoongtong, Aina Hirofuji, Hiroyuki Kamiya, Nuttapon Arayawudhikul | Evaluating Short-Term Postoperative Outcomes in Minimally Invasive Mitral Valve Surgery for Patients with Rheumatic Disease | The Heart Surgery Forum | 2023.4 |
| 3) | Nobuya Motoyoshi, Masahiro Tsutsui, Kouji Soman, Tomonori Shirasaka, Takayuki Narita, Shingo Kunioka, Katsuyuki Naya, Daisuke Yamazaki, Masahiko Narita, Hiroyuki Kamiya | Neuron-specific enolase levels immediately following cardiovascular surgery is modulated by hemolysis due to cardiopulmonary bypass, making it unsuitable as a brain damage biomarker | Journal of Artificial Organs | 2023.4 |
| 4) | Ryo Okubo, Shinsuke Kikuchi, Norifumi Otani, Masahiro Tsutsui, Hiroyuki Kamiya | Giant Superior Mesenteric Artery Aneurysm Treated by Endovascular Treatment in a Very Elderly Female | Vascular Specialist International | 2023.5 |
| 5) | Nagahata K, Kamiya H, Takahashi H. | A Rapidly Progressive Aortic Aneurysm Due to Escherichia Coli | American Journal of Medicine | 2023.6 |
| 6) | Ryo Okubo, Norifumi Otani, Masahiro Tsutsui, Hiroyuki Kamiya | Intra-Operative Occlusion of the Contralateral Common Iliac Artery by the Gore Excluder Iliac Branch System | EJVES Vascular Forum | 2023.6 |

- 7) 清水要、広藤愛菜、望月伸浩、瀬戸川友紀、鈴木文隆、成田昌彦、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、白坂知識、紙谷寛之 心室細動を契機に診断された右冠動脈起始異常症に対して冠動脈バイパス術及び右冠動脈根部離断術を施行した1例 北海道外科雑誌 2023.6
- 8) Masahiko Narita, Masahiro Tsutsui, Ryohei Ushioda, Yuta Kikuchi, Tomonori Shirasaka, Hiroyuki Kamiya Impella Implantation as a Bridge to Surgery for Repair of Aorto-Right Ventricular Fistula Following Prosthetic Valve Endocarditis: A Case Report The Heart Surgery Forum 2023.7
- 9) Masahiko Narita, Shingo Kunioka, Yuya Kitani, Tomonori Shirasaka, Toshiharu Takeuchi, Hiroyuki Kamiya Salvage percutaneous coronary intervention for failed graft itself three days after minimally invasive direct coronary artery bypass Journal of Surgical Case Reports 2023.7
- 10) Shingo Kunioka, Takuya Watanabe, Hiroki Mochizuki, Takako Nakaya, Yumiko Hori, Eri Miyoshi, Nobuaki Konishi, Ayaka Arizono, Nana Kitahata, Tasuku Hada, Masaya Shimojima, Yasumasa Tsukamoto, Osamu Seguchi, Hiroyuki Kamiya, Kohei Tonai, Naoki Tadokoro, Satoshi Kainuma, Efficacy of catheter cleaning methods using intravenous indwelling catheter, 10% silver nitrate solution and a monofilament nylon thread for deeply progressed superficial driveline infections: case series Journal of Surgical Case Reports 2023.8

Satsuki Fukushima,
Tomoyuki Fujita,
Norihide Fukushima

- 11) Keisuke Shibagaki, Minimally Invasive Repair of a Annals of 2023.8
Satoshi Kainuma, Sinus Node Artery Aneurysm Thoracic
Hiroyuki Kamiya, With a Fistula Into the Right Surgery Short
Tomoyuki Fujita, Atrium Reports
Satsuki Fukushima
- 12) Shingo Kunioka, Successful echocardiography- Journal of 2023.10.
Osamu Seguchi, guided medical management Cardiothoracic
Tasuku Hada, Hiroki of severe early post-implant Surgery
Mochizuki, Masaya right ventricular failure in a
Shimajima, Takuya patient with left ventricular
Watanabe, Yasumasa assist device support: a case
Tsukamoto, Naoki report
Tadokoro, Satoshi
Kainuma, Satsuki
Fukushima,
Tomoyuki Fujita,
Hiroyuki Kamiya,
Norihide Fukushima
- 13) JeongA Lee, Interventional Bridging The Heart 2023.11
Masahiro Tsutsui, Therapy for Radical Cardiac Surgery Forum
Nobuhiro Mochizuki, Surgery in a Patient Seemed
Yuki Setogawa, to be Inoperable Due to Very
Fumitaka Suzuki, Poor Left Ventricular
Masahiko Narita, Function: A Case Report
Aina Hirofuji, Shingo
Kunioka, Tomonori
Shirasaka, Natsuya
Ishikawa, Sayaka
Yuzawa, Hiroyuki
Kamiya

- | | | | |
|--|---|---|---------|
| 14) Miri Horimoto,
Masahiro Tsutsui,
Nobuhiro Mochizuki,
Yuki Setogawa,
Fumitaka Suzuki,
Masahiko Narita,
Aina Hirofuzi, Shingo
Kunioka, Tomonori
Shirasaka, Natsuya
Ishikawa, Hiroyuki
Kamiya | Staged revascularization and
multi-modal mechanical
circulatory supports in a
patient with severe
cardiogenic shock due to
acute-on-chronic coronary
syndrome | Journal of
Surgical Case
Reports | 2023.11 |
| 15) Kentaro Shirakura,
Shingo Kunioka,
Kazuki Miyatani,
Nobuhiro Mochizuki,
Hideki Isa, Yuki
Setogawa, Fumitaka
Suzuki, Ryo Okubo,
Ryohei Ushioda, Aina
Hirofuji, Masahiro
Tsutsui, Natsuya
Ishikawa, Hiroyuki
Kamiya | Two-stage repair for DeBakey
type II acute aortic dissection
and distal aortic arch
aneurysm in a nonagenarian
patient | Journal of
Surgical Case
Reports | 2023.12 |
| 16) 福田はな、広藤愛
菜、望月伸浩、瀬戸
川友紀、鈴木文隆、
成田昌彦、國岡信
吾、筒井真博、石川
成津矢、白坂知識、
紙谷寛之 | 心筋梗塞後の oozing 型心破
裂、乳頭筋断裂による僧帽弁
閉鎖不全と
左室瘤に対して二期的に手術
を施行した一例 | 北海道外科雑誌 | 2023.12 |
| 17) Ryo Okubo, Norifumi
Otani, Hiroyuki
Kamiya | Renal rescue after inadvertent
coverage during endovascular
aneurysm repair | Journal of
Vascular
Surgery Cases,
Innovations and
Techniques | 2023.12 |

18) Ryohei Ushioda, Aina Hirofuji, Dit Yoongtong, Boonsap Sakboon, Jaroen Cheewinmethasiri, Hiroyuki Kamiya, Nuttapon Arayawudhikul	Off-pump minimally invasive coronary artery bypass grafting in patients with left ventricular dysfunction: the lampang experience	Frontiers in Surgery	2024.1
19) Shingo Kunioka, Fumitaka Suzuki, Marino Nagata, Masahiro Tsutsui, Hiroyuki Kamiya	A Rare Case of Leukemoid Reaction During Mechanical Circulatory Support in a Patient With Severe Heart Failure: An Autopsy Study	Cureus	2024.2
20) Kentaro Shirakura, Nobuyuki Akasaka, Daichi Mizushima, Masahiko Narita, Ryo Okubo, Tomoki Nakatsu, Daita Kobayashi, Hiroyuki Kamiya	Successful surgical correction of an incomplete atrioventricular septal defect in a 76-year-old female patient	Journal of Surgical Case Reports	2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 紙谷 寛之	低侵襲心臓手術～世界標準の治療を北海道へ～	第16回 札幌ハートセミナー 心臓の病気についての医療講演 ”低侵襲”～それは体に優しい心臓治療のこと～	2023.5.21

2) 紙谷 寛之	女性心臓血管外科医育成のための旭川医大での取り組み	第51回 日本血管外科学会学術総会	2023.5.31 ～6.1
3) 紙谷 寛之	安心・安全な低侵襲心臓手術の普及の為に大切なこと	弁膜症・心不全最前線セミナー～患者に優しい最新の治療法とは？～	2023.6.14
4) Aina Hirofuji, Kyohei Oyama, Hiroki Tanaka, Megumi Kanda, Hiroyuki Kamiya	Mycn induces cardiomyocyte mitosis in adult mice	KEYSTONE SYMPOSIA on Molecular and Cellular Biology	2023.6.25 ～6.28
5) Kyohei Oyama, Aina Hirofuji, W.Robb MacLellan, Hiroyuki Kamiya	Trim28 knockout accelerates isoproterenol-induced heart mass increase	KEYSTONE SYMPOSIA on Molecular and Cellular Biology	2023.6.25 ～6.28
6) 紙谷 寛之	急性A型大動脈解離に対する前弓部置換術中の危機的出血に対する圧迫止血を中心とした対処法	第2回 長期予後を見据えた大血管戦略—Advancing Techniques in Japan—	2023.7.5
7) 小山恭平、広藤愛菜	Mycn は成熟心筋細胞に有糸分裂を誘導する	2023年度 若手支援 技術講習会	2023.9.8 ～9.10
8) 宮谷和樹、筒井真博、伊佐秀貴、鈴木文隆	三期的に全大動脈置換を行った若年者 Marfan 症候群の一例	第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023)	2023.9.9 ～9.10
9) 伊佐秀貴、瀬戸川友紀、宮谷和樹、鈴木文隆、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之	巨細胞性動脈炎としてステロイド治療を行っていたが術後感染性大動脈瘤であったことが判明した胸腹部大動脈瘤の一例	第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023)	2023.9.9 ～9.10

- | | | | |
|--|---|---|-------------------|
| 10) 堀元美里、國岡信吾、
白坂知識、紙谷寛之 | 外傷性急性 B 型大動脈解離に対する TEVAR の 1 例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 11) 望月伸浩、鈴木文隆、
瀬戸川友紀、成田昌彦、
広藤愛菜、國岡信吾、
筒井真博、白坂知識、
石川成津矢、紙谷寛之 | 急性 Stanford A 型大動脈解離術後の腕頭動脈閉塞に対して非解剖学的バイパスを施行した一例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 12) 清水要、広藤愛菜、宮谷和樹、
伊佐秀貴、瀬戸川友紀、
大久保諒、國岡信吾、
筒井真博、石川成津矢、
白坂知識、紙谷寛之 | 右腎 malperfusion を伴う急性 B 型大動脈解離に対して TEVAR 及び右腎動脈ステント挿入術を施行した 1 例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 13) 香川倅二、白坂知識、
筒井真博、広藤愛菜、
國岡信吾、大久保諒、
鈴木文隆、瀬戸川友紀、
伊佐秀貴、宮谷和樹、
紙谷寛之 | 二尖弁大動脈弁閉鎖不全症に対する大動脈弁置換術後の大動脈基部拡大に対して Bentall 手術を行った一例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 14) 橋本侑樹、広藤愛菜、
宮谷和樹、伊佐秀貴、
鈴木文隆、瀬戸川友紀、
大久保諒、國岡信吾、
筒井真博、石川成津矢、
紙谷寛之 | 壊死性大動脈炎に起因する弓部大動脈瘤に対してオープンステントグラフトを用いた全弓部置換術を施行した一例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 15) 丸岡純、筒井真博、宮谷和樹、
伊佐秀貴、鈴木文隆、
瀬戸川友紀、広藤愛菜、
國岡信吾、石川成津矢、
紙谷寛之 | 機械弁 AVR 術後 10 年後に施行した Re-AVR の一例 | 第 6 回北海道外科関連学会機構
合同学術集会
(HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |

- | | | | | |
|-----|---|---|----------------------------------|-------------------|
| 16) | 石川成津矢、丸岡純、宮谷和樹、伊佐秀貴、鈴木文隆、筒井真博、紙谷寛之 | 人口減少、出生率低下が著しい地方都市での小児心臓外科医の生き残り戦略 | 第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 17) | 鈴木文隆、筒井真博、宮谷和樹、伊佐秀貴、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、石川成津矢、紙谷寛之 | 多臓器塞栓症を契機に診断された Abiotrophia Defectiva による感染性心内膜炎の1症例 | 第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 18) | 伊佐秀貴、鈴木文隆、筒井真博、紙谷寛之 | 両側内胸動脈による冠動脈バイパス術後に胸骨前経路左鎖骨下動脈-右冠動脈後下行枝バイパスを行なった一例 | 第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 19) | 中井智大、菊地信介、鎌田啓輔、吉田有里、土井田努、大平成真、竜川貴光、栗山直也、内田大貴、紙谷寛之、東信良 | 重度冠動脈病変を合併した包括的高度慢性下肢虚血に対して冠動脈バイパス後に Distal Venous arterialization と遊離組織補填で心機能と肢機能双方を維持した症例 | 第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 20) | 林京香、國岡信吾、堀元美里、井上陽斗、橋本侑樹、香川倅二、清水要、福田はな、丸岡純、宮谷和樹、伊佐秀貴、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 | 弁輪部膿瘍を伴う感染性心内膜炎に対する僧帽弁置換術後に生じた巨大左室仮性瘤に対し、心内修復術を施行した一例 | 第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会 (HOPES2023) | 2023.9.9
~9.10 |
| 21) | 國岡信吾、黒嶋健起、佐藤寛起、難波亮、柏木陸、吉田有里、丹保亜希仁、小北直宏、岡 | 大動脈峡部に生じた外傷性胸部大動脈仮性瘤破裂に対し、Zone3 ステントグラフト治療で救命し得 | 日本集中治療医学会 第7回北海道支部学術集会 | 2023.10.14 |

田基、紙谷寛之	た一例		
22) 伊佐秀貴、丸岡 純、宮谷和樹、筒井真博、紙谷寛之	Impella 使用症例の早期成績と予後予測因子に関する検討	第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会	2023.10.19 ~10.21
23) 成田昌彦、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、白坂知識、石川成津矢、紙谷寛之	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に起因する炎症性胸腹部大動脈瘤の 1 例	第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会	2023.10.19 ~10.21
24) 筒井真博、小山恭平、吉田巧、石川成津矢、國岡信吾、広藤愛菜、大久保諒、鈴木文隆、瀬戸川友紀、伊佐秀貴、宮谷和樹、紙谷寛之	PVL coating PCL graft における moisten preparation の重要性の検討	第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会	2023.10.19 ~10.21
25) 高橋理乃、本吉宣也、本間祐平、延藤優太、佐藤貴彦、天内 雅人、南谷克明、宗万孝次、石川成津矢、紙谷寛之	人工肺内圧上昇による人工肺交換後に、凝固因子喪失を招き複数の輸血製剤投与を必要とした ASD 閉鎖術の一例	第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会	2023.10.19 ~10.21
26) 成田昌彦、筒井真博、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、石川成津矢、紙谷寛之	急性大動脈解離手術における DANE (Distal Anastomotic New Entry) の発生とその中長期的予後についての検討	第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会	2023.10.19 ~10.21
27) 大谷則史、菊池悠太、筒井真博、大久保諒、國岡信吾	腹部腸骨動脈瘤症例で内腸骨動脈を温存した腹部ステントグラフト治療の成績	第 64 回 日本脈管学会学術集会	2023.10.26 ~10.28
28) 國岡信吾、白坂知識、宮谷和樹、伊佐秀貴、鈴木文隆、瀬戸川友	冠動脈バイパス術は若手外科医が執刀してもよいのか？ U-40 と O-40	第 36 回 日本冠疾患学会学術集会	2023.11.24 ~11.25

- 紀、広藤愛菜、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 の比較
- 29) 伊佐秀貴、宮谷和樹、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 両側内胸動脈による冠動脈バイパス術後に胸骨前経路左鎖骨下動脈-右冠動脈後下行枝バイパスを行なった一例 第36回 日本冠疾患学会学術集会 2023.11.24~11.25
- 30) 宮谷和樹、鈴木文隆、望月伸浩、伊佐秀貴、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 Willis 動脈輪不全を伴う左椎骨動脈単独起始例で左椎骨動脈再建を行った胸部ステントグラフト内挿術の一例 第130回 日本循環器学会北海道地方会 2023.11.25
- 31) 小山 恭平 心筋細胞における Trim28 の役割 文部科学省科学研究費助成事業 学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」 『先進ゲノム解析研究推進プラットフォームフォーラム (先進ゲノム支援)』 -拡大班会議- 2023.12.25~12.26
- 32) R.Ushioda, A.Hirofuji, D.yoongtong, B.Sakboon, J.Cheewinmethasiri, T.Lokeskrawee, J.Patumanond, S.Lawanaskol, H.Kamiya, N.Arawayudhikul Is a minimally invasive approach safe for multi-vessel coronary artery grafting; A propensity score matching analysis 60th STS Annual Meeting 2024.1.27~1.29

- | | | | |
|---|---|--|--------------------|
| 33) 國岡信吾、瀬戸川友紀、筒井真博、吉田巧、成瀬大輔、小山恭平、紙谷寛之 | 移植後早期に自家血管化する生体吸収性人工血管の開発～ナノファイバーの生体内分解性の定量化～ | 第 36 回 代用臓器・再生医学研究会総会
日本バイオマテリアル学会北海道ブロック第 8 回研究会 | 2024.2.10 |
| 34) 國岡信吾、宮谷和樹、伊佐秀貴、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 | 地域中核の大学病院における、65 歳未満の重症心不全患者治療の現状と課題 | 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 2024.2.22
～2.24 |
| 35) 広藤愛菜、小山恭平、宮谷和樹、伊佐秀貴、瀬戸川友紀、鈴木文隆、大久保諒、潮田亮平、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 | 心筋再生治療を目指して：Myc による心筋細胞分裂誘導と心筋梗塞後の心機能保護 | 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 2024.2.22
～2.24 |
| 36) 伊佐秀貴、宮谷和樹、望月伸浩、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 | 心房細動に対する外科的介入の早期成績と適切な術式選択の検討 | 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 2024.2.22
～2.24 |
| 37) 横山博一、筒井真博、國岡信吾、鈴木文隆、伊佐秀貴、紙谷寛之 | Debranch TEVAR におけるバイパス内の血流評価-CFD 解析を用いて- | 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 2024.2.22
～2.24 |
| 38) 鈴木文隆、宮谷和樹、望月伸浩、伊佐秀貴、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、筒井真博、石川成津矢、紙谷寛之 | 偽腔閉塞型急性大動脈解離 Stanford B 型はどの程度外科的介入を要するか | 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 2024.2.22
～2.24 |

- 39) 筒井真博、宮谷和樹、伊佐秀貴、鈴木文隆、瀬戸川友紀、広藤愛菜、國岡信吾、小山恭平、石川成津矢、紙谷寛之 PVA コーティングが PCL グラフトの機能に及ぼす影響の検討 第 54 回 日本心臓血管外科学会 学術総会 2024.2.22 ~2.24

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 紙谷 寛之	継続	基盤研究 (B)	冠動脈バイパス術のグラフト材としての生体吸収性ナノファイバークラフトの研究
2) 菊池 悠太	継続	基盤研究 (C)	生体吸収性小口径代用血管の糖尿病モデルにおける機能評価と実用化基盤の構築
3) 筒井 真博	継続	基盤研究 (C)	生体吸収性小口径人工血管の長期開存性担保の為の新生内膜肥厚の検討
4) 白坂 知識	継続	基盤研究 (C)	急性大動脈解離に伴う肺障害に対する好中球エラストラーゼ阻害薬の作用機序の基礎解析
5) 広藤 愛菜	新規	基盤研究 (C)	Myc を用いた心筋細胞分裂誘導メカニズムの解明と心筋再生治療の基盤構築
6) 國岡 信吾	新規	基盤研究 (C)	移植後早期に完全自家血管化する小口径人工血管の開発
7) 小山 恭平	継続	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	生体吸収性の小口径代用血管の開発
8) 小山 恭平	継続	基盤研究 (C)	心筋再生治療を目的としたガン原遺伝子 Myc に対する分裂抵抗性メカニズムの解明

外科学講座

(肝胆膵・移植外科学分野)

Department of Surgery

(Division of Hepato-Biliary-Pancreatic and Transplant Surgery)

I. 所属教員等

外科学講座（肝胆膵・移植外科学分野）

教 授 横尾 英樹
講 師 今井 浩二
助 教 高橋 裕之

外科（肝胆膵・移植）

助 教 島田 慎吾
客員講師 萩原 正弘
客員助教 関 美香子

共同研究講座（移植医工学治療開発講座）

特任教授 松野 直徒

II. 研究業績紹介

外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野は、旧第二外科開講の頃より臨床、教育、研究の三本柱のうち、特に研究に力を注いできました。旭川医大の名を世界に知らしめた初代水戸迪郎教授による肝細胞を脾臓に移植する研究に始まり、連綿と肝胆膵領域の研究が継続されており、現在は第四代横尾英樹教授のもと、その精神は今も教室員に受け継がれています。また、当講座単独で研究を行うだけではなく、消化器内科との共同研究による複数の科研費の獲得、全国的な多施設共同試験への積極的な参加、学会主導のプロジェクト研究への参加、大学院生を国立がん研究センター研究所や当院の病院病理部へ出向させての共同研究など、多数の基礎、及び臨床研究を行って成果を上げています。また、寄付/共同研究講座である移植医工学治療開発講座では、松野直徒特任教授のもと移植臓器の灌流保存機能再生システムの開発が行われており、国内初の灌流保存装置の臨床応用が行われるとともに、その研究により多数の博士を輩出しています。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Shingo Shimada, Tayseer Shamaa, Tommy Ivanics, Katsunori Miyake, Toshihiro	Effects of the implementation of acuity circle policy on waitlist and post-transplant outcomes of liver re-transplantation	Clinical Transplantatio n	37(6):e14977.

Kitajima, Michael
Rizzari, Atsushi
Yoshida, Marwan
Abouljoud, Dilip
Moonka, Shunji
Nagai

- 2) Yoshida A, Abouljoud M, Miyake K, Ivanics T, Shamaa T, Venkat D, Moonka D, Trudeau S, Reed E, Nagai S. Post-transplant outcomes and financial burden of donation after circulatory death donor liver transplant after the implementation of acuity circle policy. *Clinical Transplantation* 38(1):e15190.
- 3) Iwata H, Matsuno N, Ishii D, Toriumi A, Otani M, Ohara M, Obara H, Nishikawa Y, Yokoo H. Applicability of the histidine–tryptophan–ketoglutarate solution as a machine perfusion solution for marginal liver grafts. *J Gastroenterol Hepatol.* 2023 May; 38(5): 783-790
- 4) Iwata H, Nakajo T, Kaneko H, Okazawa Y, Zin N. K. M, Bochimoto H, Ohashi M, Kawada Y, Kamikawa S, Kudo T, Okada Y, Ohara M, Obara H, Matsuno N. Combined Use of Subnormothermic Extracorporeal Support and Hypothermic Oxygenated Machine Perfusion for Liver Graft After Cardiac Death in Pigs. *Transplant Proc.* 2023 May; 55(4): 1021-1026
- 5) Zin N. K. M, Bochimoto H, Kondoh D, Ishihara Y, Iwata H, Shonaka T, Obara H, Sakai H. Machine perfusion preservation with hemoglobin based oxygen vesicles alleviate ultrastructural damages in porcine liver donated after

- Furukawa H, cardiac death
Matsuno N
- 6) Iwata H, Obara H, Beneficial Effects of J Clin Med. 2023 Sep; 12
Nakajo T, Kaneko Combined Use of (18): 6031
H, Okazawa Y, Zin Extracorporeal Membrane
N. K. M, Oxygenation and
Bochimoto H, Hypothermic Machine
Ohashi M, Kawada Perfusion in Porcine Donors
Y, Ohara M, after Cardiac Death for
Yokoo H, Matsuno Liver Transplantation
N
- 7) Hiroki Surgical resection for 肝胆膵 88 364-365 2024
Takahata, Hiroyuki multiple hepatocellular (3)
Takahashi, Shingo carcinoma after
Shimada, Koji atezolizumab plus
Imai, Hideki bevacizumab therapy
Yokoo, et al
- 8) 松野直徒、小原弘 肝臓機械灌流保存の現状と 移植 58 巻 1 号 1905.7
道、石井大介、岩 我が国への導入へ向けて Page19-27
田浩義、水上奨一
郎、高橋裕之、今
井浩二、古川博
之、横尾英樹
- 9) 島田慎吾、高畠宏 肝移植の臨床現場における 北海道外科雑 1905.7
規、牧野 開、高 機械灌流法の位置づけと現 誌 68 巻 2 号
橋裕之、今井浩 状 Page89-95
二、横尾英樹 ~世界の趨勢

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
-------	----	--------------	------

1) Shingo Shimada, Toshihiro Kitajima, Katsunori Miyake, Tayseer Shamaa, Tommy Ivanics, Michael Rizzari, Atsushi Yoshida, Marwan Abouljoud, Shunji Nagai	Liver transplant recipient characteristics associated with worse post-transplant outcomes in using elderly donors	第 123 回 日本外科学会定期学術集会	2023 年 4 月 27-29 日
2) 高橋裕之、水上奨一朗、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	より高く、より遙かへ1「外科のサステナビリティ」北海道の地域医療維持における外科サステナビリティの重要性	第 123 回 日本外科学会定期学術集会	2023 年 4 月 27-29 日
3) 安達雄輝、野口玲、申育實、大崎珠理亜、小野拓也、秋山太郎、柳原五吉、吉松由紀、近藤格、横尾英樹	肝細胞癌に対する新規治療薬の研究開発：FABP-5 阻害薬	第 123 回 日本外科学会定期学術集会	2023 年 4 月 27-29 日
4) 安達雄輝、野口玲、大崎珠理亜、小野拓也、秋山太郎、柳原五吉、吉松由紀、近藤格、横尾英樹	骨巨細胞腫 2 症例の新規患者由来細胞株 (NCC-GCTB8-C1, NCC-GCTB9-C1) の樹立と電気泳動を用いた特性評価	第 74 回日本電気泳動学会学術集会	2023 年 5 月 18-20 日
5) 島田慎吾、竹元小乃美、浜田卓巳、山田健司、岩木宏之、横田良一	小腸穿孔で発症した腸管症型 T 細胞リンパ腫の一切除例	第 123 回日本臨床外科学会北海道支部総会 (釧路)	2023.5
6) 高島宏規、水上奨一朗、高橋裕之、	多発肝細胞癌に対する atezolizumab+bevacizumab	第 123 回日本臨床外科学会北海道	2023.5

	今井浩二、松野直徒、横尾英樹	投与後の外科切除の試み	支部総会（釧路）	
7)	水上奨一郎、高橋裕之、庄中達也、紅露大介、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、今井浩二、角泰雄、横尾英樹	同時性結腸直腸癌肝転移 49 切除例の術後再発リスク因子および Beppu score の有用性の検討	第 123 回日本臨床外科学会北海道支部総会（釧路）	2023.5
8)	牧野 開、武田智宏、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、横尾英樹、上小倉佑機、谷野美智枝、角泰雄	小腸癌と同時に切除された小腸腺筋腫の 1 切除例	第 123 回日本臨床外科学会北海道支部総会（釧路）	2023.5
9)	岩田浩義、中條哲也、金子太樹、岡澤友雅、小原弘道、暮地本宙己、大橋牧人、川田容子、大原みずほ、松野直徒	ブタ心停止ドナー肝に対する ECMO の利用と機械灌流保存	第 41 回日本肝移植学会	2023 年 6 月 1-2 日
10)	高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、松野直徒、横尾英樹	化学療法後の同定困難な小型大腸癌肝転移病変に対する ICG 蛍光ガイド下内視鏡肝切除	第 48 回日本外科学系連合学会学術集会	2023 年 6 月 7-9 日
11)	高橋裕之、高畠宏規、水上奨一郎、島田慎吾、今井浩二、横尾英樹	当科における腹腔鏡下左肝切除の実際と術中胆汁漏れに対するリカバリー法	第 28 回北海道内視鏡外科学研究会	2023.6
12)	高畠宏規、水上奨一郎、高橋裕之、島田慎吾、今井浩	多発肝細胞癌に対する atezolizumab+bevacizumab 投与後の外科切除の試み	第 28 回日本がん分子標的治療研究会	2023 年 6 月 23-24 日

二、横尾英樹

- 13) 今井浩二、水上奨
 一朗、高橋裕之、
 松野直徒、横尾英
 樹 膵頭十二指腸切
 除術後繰り返す胆
 管炎のリスク因子
 と肝管空腸吻合連
 続吻合の有用性に
 関する検討 第 35
 回日本肝胆膵外科
 学会学術集会
 2023 年 6 月 30-7
 月 1 日
- 14) 今井浩二、水上奨
 一朗、高橋裕之、
 松野直徒、横尾英
 樹 膵頭十二指腸切除術におけ
 る幽門輪温存の意義を再考
 する 第 78 回日本消化
 器外科学会総会 2023 年 7 月
 12-14 日
- 15) 高橋裕之、水上奨
 一朗、今井浩二、
 松野直徒、横尾英
 樹 胆管癌の切除断端の病理診
 断とゲノム解析の対比 第 78 回日本消化
 器外科学会総会 2023 年 7 月
 12-14 日
- 16) Shingo Shimada、
 Katsunori Miyake,
 Deepak Venkat,
 Humberto
 Gonzalez, Dilip
 Moonka, Michael
 Rizzari, Atsushi
 Yoshida, Marwan
 Abouljoud, Shunji
 Naga Clinical Characteristics of
 New-Onset Diabetes After
 Liver Transplantation and
 Outcomes 第 78 回日本消化
 器外科学会総会 2023 年 7 月
 12-14 日
- 17) 今井浩二、水上奨
 一朗、高橋裕之、
 松野直徒、横尾英
 樹 膵疾患における高齢者手術
 症例の検討 第 54 回日本膵臓
 学会大会 2023 年 7 月
 21-22 日

- | | | | |
|---|---|--|-----------------------|
| 18) 高畠宏規、水上奨
一朗、高橋裕之、
島田慎吾、今井浩
二、横尾英樹 | 多発肝細胞癌に対する
atezolizumab+bevacizumab
投与後の肝切除例 | 第 33 回北海道肝
癌研究会 | 2023.7 |
| 19) 安達雄輝、野口
玲、大崎珠理亜、
小野拓也、柳原五
吉、吉松由紀、
近藤 格、横尾英
樹 | Fatty Acid-Binding Protein 5
を標的とした肝細胞癌の新
規治療薬 SBFI-26:プロテオ
ーム解析を用いた分子薬理
メカニズムの解明 | 第 21 回日本プロ
テオーム学会 | 2023 年 7 月
24-26 日 |
| 20) 高畠宏規、水上奨
一朗、高橋裕之、
島田慎吾、今井浩
二、横尾英樹 | 多発肝細胞癌に対する
atezolizumab+bevacizumab
投与後の外科切除の試み | 第 59 回日本肝癌
研究会 | 2023 年 7 月
27-28 日 |
| 21) 島田慎吾、高畠宏
規、水上奨一朗、
高橋裕之、今井浩
二、横尾英樹 | 局所制御を目指した進行肝
細胞癌に対する薬物-外科切
除 sequential 治療の試み | 第 59 回日本肝癌
研究会 | 2023 年 7 月
27-28 日 |
| 22) 島田慎吾、高橋裕
之、高畠宏規、今
井浩二、長谷部拓
夢、中嶋駿介、澤
田康司、麻生和
信、横尾英樹 | 局所進行肝細胞癌に対する
治療成績向上を目指した薬
物-外科切除 sequential 治療
の試み | 第 133 回日本消
化器病学会北海道
支部例会 | 2023 年 9 月
2-3 日 |
| 23) 高畠宏規、水上奨
一朗、高橋裕之、
島田慎吾、今井浩
二、横尾英樹 | 皮膚潰瘍を伴う膵腺房細胞
癌に対して外科切除により
皮膚潰瘍が軽快した 1 例 | 第 133 回日本消
化器病学会北海道
支部例会 | 2023 年 9 月
2-3 日 |
| 24) 高畠宏規、水上奨
一朗、高橋裕之、
島田慎吾、今井浩
二、横尾英樹 | 断裂した十二指腸ステント
により小腸閉塞をきたした
膵頭部癌の 1 例 | 第 6 回北海道外科
関連学会機構合同
学術集会、第 112
回北海道外科学会 | 2023 年 9 月
9-10 日 |
| 25) 須藤玄希、飯田
葵、今井浩二、高
畠宏規、高橋裕
之、島田慎吾、湯 | 膵尾部に発生したパラガン
グリオーマの 1 例 | 第 6 回北海道外科
関連学会機構合同
学術集会、第 112
回北海道外科学会 | 2023 年 9 月
9-10 日 |

- 澤明夏、谷野美智
枝、横尾英樹
- 26) 安達雄輝、野口 玲、大崎珠理亜、小野拓也、柳原五吉、吉松由紀、近藤 格、横尾英樹
- FABP-5 inhibitor as a novel drug for liver cancer : Proteomic analysis to elucidate the pharmacological mechanism
- 第 82 回日本癌学会学術総会
- 2023 年 9 月 21-23 日
- 27) Yusuke Mizukami, Kai Makino1,Ryotaro Shimazaki, Mizuho Ohara,Chikayoshi Tani, Kengo Kita, Tatsuya Shonaka, Kimiharu Hasegawa, Yusuke Ono, Mishie Tanino, Yuji Nishikawa, Hideki Yokoo, Yasuo Sumi
- Mutation profile and effect of neoadjuvant chemotherapy in patients with locally advanced rectal cancer
- 第 82 回日本癌学会学術総会
- 2023 年 9 月 21-23 日
- 28) 高橋裕之、河端秀賢、大竹晋、高畠宏規、水上奨一朗、島田慎吾、今井浩二、麻生和信、水上裕輔、横尾英樹
- 胆管腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝拡大右葉切除時の術中胆管ステント留置の経験
- 第 26 回北海道肝癌治療研究会
- 2023.10
- 29) 高畠宏規、高橋裕之、水上奨一朗、島田慎吾、今井浩二、横尾英樹
- 多発肝細胞癌に対する atezolizumab+bevacizumab 投与後の外科切除
- 第 61 回日本癌治療学会学術集会
- 2023 年 10 月 19-21
- 30) 安達雄輝、野口 玲、大崎珠理亜、小野拓也、秋山太
- 肝細胞癌に対する新規治療薬の研究開発：FABP-5 阻害薬
- 第 61 回日本癌治療学会学術集会
- 2023 年 10 月 19-21

郎、柳原五吉、吉
松由紀、近藤 格、
横尾英樹

- | | | | |
|--|--|-------------------------------|------------------------|
| 31) Shingo
Shimada, Katsunori
Miyake, Lucy
Chau, Michael
Rizzari, Atsushi
Yoshida, Marwan
Abouljoud, Shunji
Nagai | 脳死および心停止ドナー肝
移植における常温機械灌流
法の使用成績 | 第 49 回日本臓器
保存生物医学会学
術集会 | 2023 年 10
月 20-21 日 |
| 32) 岩田浩義、松野直
徒、中條哲也、金
子太樹、岡澤友
雅、小原弘道、暮
地本宙己、大橋牧
人、川田容子、大
原みずほ、横尾英
樹 | ブタ心停止ドナー肝に対す
る ECMO の利用と機械灌流
保存 | 第 49 回日本臓器
保存生物医学会学
術集会 | 2023 年 10
月 20-21 日 |
| 33) 島田慎吾、高橋裕
之 牧野 開 高
畠宏規 水上奨一
朗 今井浩二 横
尾英樹 | 腹腔鏡下 S4 領域肝切除にお
けるグリソン処理法—CUSA
とクランプクラッシング法
— | 第 17 回肝臓内視
鏡外科研究会 | 2023.11 |
| 34) 高橋裕之、牧野
開、高畠宏規、水
上奨一郎、今井浩
二、横尾英樹 | 当科における腹腔鏡下左肝
切除の定型化と pitfall への
対処 | 第 17 回肝臓内視
鏡外科研究会 | 2023.11 |
| 35) 島田慎吾、松野直
徒、高橋裕之、内
田大貴、菊池信
介、和田直樹、佐
野麻衣、水上奨一
朗、今井浩二、柿
崎秀宏、東信良、
横尾英樹 | 強みを生かした多職種合同
チームによる安全確実な生
体腎移植プログラム体制の
構築と実践 | 第 85 回日本臨床
外科学会総会 | 2023 年 11
月 16-18 日 |

36)	高畠宏規、島田慎吾、高橋裕之、水上奨一郎、今井浩二、横尾英樹	局所進行肝細胞癌に対する治療成績向上を目指した薬物-外科切除 sequential 治療の試み	第 85 回日本臨床外科学会総会	2023 年 11 月 16-18 日
37)	牧野 開、高橋裕之、島田慎吾、今井浩二、横尾英樹	胆管腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対するレンバチニブ投与後の肝切除	第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会	2024 年 1 月 26-27 日
38)	横尾英樹、高橋裕之、高畠宏規、牧野 開、島田慎吾、今井浩二	Pure robotic approach 法による肝実質切離を中心としたロボット支援下肝切除の導入	第 16 回日本ロボット外科学会学術集会	2024 年 2 月 10-11 日
39)	島田慎吾、松野直徒、高橋裕之、内田大貴、菊池信介、和田直樹、佐野麻衣、水上奨一郎、今井浩二、柿崎秀宏、東信良、横尾英樹	多職種合同チームによる新規生体腎移植プログラム体制の構築	第 57 回日本臨床腎移植学会	2024 年 2 月 14-16 日
40)	牧野 開、高橋裕之、島田慎吾、今井浩二、横尾英樹	先天性胆道拡張症術後の肝内結石症に対し、術中内視鏡を用いて 2 回の外科的結石除去を施行した 1 例	第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会	2024 年 3 月 2-3 日
41)	Shingo Shimada, Hiroyuki Takahashi, Kai Makino, Hiroki Takahata, Koji Imai, and Hideki Yokoo	Liver resection for hepatocellular carcinoma less than segmentectomy focused on the fourth branch of the portal vein	APASL2024	2024.3
42)	Hiroyoshi Iwata (Department of Surgery, Hokkaido PWFAC Engaru-Kosei General Hospita), Tetsuya	Beneficial effects of combined use of ECMO and hypothermic machine perfusion for porcine DCD liver	The 18th Congress of Asian Society of Transplantation	2023 年 8 月 25-28 日

Nakajo, Hiroki
 Kaneko, Yuga
 Okazawa,
 Hiromichi Obara,
 Hiroki Bochimoto,
 Makito Ohashi,
 Yoko Kawada,
 Mizuho Ohara,
 Naoto Matsuno

- 43) Yuki Adachi, Rei Comprehensive Proteomic Human Proteome 2023 年 9 月
 Noguchi, Takuya Analysis of FFPE Specimens Organization 17-21 日
 Ono, Julia Osaki, in Hepatocellular Carcinoma World Congress
 Kazuyoshi for Investigating Recurrence 2023
 Yanagihara, Mechanism
 Kazuki Sasaki,
 Yuki Yoshimatsu,
 Hideki Yokoo,
 Sumio Ohtsuki,
 Tadashi Kondo

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
横尾 英樹	再延長	基盤研究 (C)	患者由来がんモデルを用いた肝細胞癌に対する FABP5 を標的にした新規治療法の開発
今井 浩二	新規	基盤研究 (C)	全膵のゲノム異常監視による膵癌術後再発の予測
高橋 裕之	継続	若手研究	胆道癌における形態別にみた上皮内病変の胆管内分布と clonality
島田 慎吾	延長	若手研究	腸内細菌叢を標的とした新たな肝細胞癌術後再発制御法の開発
石井 大介	新規	若手研究	小腸灌流保存による免疫応答の抑制

外科学講座
(消化管外科学分野)

Department of Surgery
(Division of Gastrointestinal Surgery)

I. 所属教員等

外科学講座（消化管外科学分野）

教授	角 泰雄
講師	庄中 達也
客員講師	千里 直之
客員講師	小原 啓
客員助教	大谷 将秀

外科（消化管）

講師	長谷川 公治	
助教	谷 誓良	
助教	北 健吾	
助教	武田 智宏	（兼務）
助教	大原 みずほ	（兼務）

II. 研究業績紹介

消化管外科は、角泰雄教授のもと 2018 年 6 月の開講後、「臨床研究」「医学教育」「最先端機器」「ゲノム医療」を 4 本柱に研究を進めてきた。食道癌、胃癌、大腸癌中心に論文や研究発表を行っている。臨床研究では一般外科の分野（ヘルニア、腹腔内腫瘍、憩室症、クローン病、潰瘍性大腸炎、教育、栄養など）についても、積極的に論文・研究発表もしています。また、現在医学教育では折り鶴作成を行うことによる腹腔鏡の初学者の効率的な研究を行っており、この研究成果は医学生や大学院生を中心に国内のみならず、国際学会でも発表・報告されている。最先端機器は 8K 内視鏡の有効性や TaTME と呼ばれる直腸癌の 2 team 手術、ロボット支援手術について多数の報告をしてきた。ゲノム医療は大腸癌の術前化学療法有効例をゲノムや免疫染色を用い、有効例の絞り込みを行えないかの研究している。また、近年は肝胆膵移植外科と合同で転移性肝癌の基礎研究も行っている。消化管外科では、スタッフだけではなく、医学生や研修医にも積極的に研究発表をしてもらい、専攻医教育にも力を入れている。現在これらの研究は消化器内科や病理部など大学内での横の広がりを持つようになってきている。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Masahide Otani, Daisuke Ishii, Hiroyoshi Iwata,	Preservation Efficacy of a Quercetin and Sucrose Solution for Warm	Transplantation Proceedings	2023

Yoshiyasu Satake, Yoko Ischemically Damaged
 Okada, Asuka Toriumi, Porcine Liver Grafts
 Masashi Imamura, Yuji
 Nishikawa, Naoto
 Matsuno

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 武田智宏、湯澤明 夏、林真奈実、上小 倉佑機、青木直子、 谷野美智枝	下部消化管穿孔 102 例の再 検討からみる Segmental absence of intestinal musculature の特徴	第 112 回 日本 病理学会総会	2023 年 4 月 13-15 日
2) 武田智宏、庄中達 也、林成司、紅露大 介、大谷将秀、大原 みずほ、谷誓良、北 健吾、長谷川公治、 小野裕介、水上裕 輔、谷野美智枝、西 川祐司、角泰雄	術前化学療法を施行した局 所進行直腸癌症例の遺伝子 変異プロファイル検討	第 123 回 日本外 科学会定期学術 集会	2023 年 4 月 27-29 日
3) 谷 誓良、庄中達 也、林 成司、紅露 大介、武田智宏、大 原みずほ、大谷将 秀、北 健吾、長谷 川公治、松野直徒、 角 泰雄	大腸 NET におけるリンパ節 転移リスクの検討	第 123 回 日本外 科学会定期学術 集会	2023 年 4 月 27-29 日
4) 大谷将秀、長谷川公 治、北 健吾、林 成司、紅露大介、武 田智宏、大原みず ほ、谷 誓良、庄中 達也、角 泰雄	胃切除後の GLIM 基準によ る低栄養診断	第 123 回 日本外 科学会定期学術 集会	2023 年 4 月 27-29 日

5)	大谷将秀、今村清隆、長谷川公治、北健吾、林成司、紅露大介、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、庄中達也、角泰雄	eTEP Rives-Stoppa 法の後層閉鎖にヘルニア嚢を利用した 1 例	第 21 回日本ヘルニア学会学術集会	2023 年 5 月 26-27 日
6)	谷 誓良、林 成司、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、庄中達也、北 健吾、長谷川公治、横尾英樹、松野直徒、角 泰雄	Micropapillary carcinoma 成分を伴った直腸 S 状部癌の 1 例	第 48 回日本外科学系連合学会学術集会	2023 年 6 月 7-9 日
7)	長谷川公治、北健吾、大谷将秀、水上奨一朗、紅露大介、林成司、大原みずほ、谷誓良、庄中達也、角泰雄	大動脈食道瘻に対し胸腔鏡下食道切除後二期的に有茎空腸再建を施行した 1 例	第 77 回日本食道学会学術集会	2023 年 6 月 29-30 日
8)	大谷将秀、長谷川公治、北 健吾、紅露大介、武田智宏、大原みずほ、谷 誓良、庄中達也、角泰雄	食道裂孔ヘルニア合併アカラシアに対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例	第 77 回日本食道学会学術集会	2023 年 6 月 29-30 日
9)	谷 誓良、牧野開、島崎龍太郎、武田智宏、大原みずほ、北 健吾、庄中達也、長谷川公治、林真奈美、湯澤明夏、谷野美智枝、横尾英樹、角 泰雄	卵巣に浸潤した低異型度虫垂粘液性腫瘍に対し回盲部切除術を施行した 1 例	第 99 回 大腸癌研究会学術集会	2023 年 7 月 6-7 日
10)	大谷将秀、紅露大介、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、北	小腸人工肛門造設後に遠位側腸管を用いた栄養管理を施行したクローン病の 1 例	第 60 回日本外科学代謝栄養学会	2023 年 7 月 6-7 日

	健吾、庄中達也、長谷川公治、角泰雄			
11)	庄中達也、武田智宏、谷 誓良、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角 泰雄	病理学的有効性から見た局所進行下部直腸癌(LARC)への術前化学療法後原発巣切除(NAC)の治療成績	第 78 回日本消化器外科学会総会	2023 年 7 月 12-14 日
12)	武田智宏、庄中達也、谷誓良、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角泰雄	回腸双孔式人工肛門閉鎖術前における肛門側腸管への経腸栄養剤投与の有効性	第 78 回日本消化器外科学会総会	2023 年 7 月 12-14 日
13)	大原みずほ、谷誓良、庄中達也、紅露大介、大谷将秀、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角泰雄	急性上腸間膜動脈閉塞症の 9 例の治療成績	第 78 回日本消化器外科学会総会	2023 年 7 月 12-14 日
14)	野村悠起、武田智宏、庄中達也、大谷将秀、大原みずほ、谷誓良、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角泰雄	医学生への腹腔鏡下折り鶴トレーニングの有効性	第 78 回日本消化器外科学会総会	2023 年 7 月 12-14 日
15)	武田智宏、水上奨一朗、林 真奈実、上小倉佑機、山野三紀、青木直子、北村哲也、湯澤明夏、庄中達也、小野裕介、水上裕輔、谷野美智枝	p53 免疫染色パターンによる TP53 変異予測と QuPath による定量評価の有効性	第 19 回日本病理学会カンファレンス	2023.8
16)	島崎龍太郎、北健吾、長谷川公治、牧野開、武田智宏、大	胃切除術後短期間に残胃に病変が発見された EB ウイルス関連胃癌(EBVaGC)の	第 133 回日本消化器病学会北海道支部例会	2023 年 9 月 2-3 日

	原みずほ、谷誓良、庄中達也、横尾英樹、湯澤明夏、角泰雄	一例		
17)	牧野 開、武田智宏、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、横尾英樹、湯澤明夏、角泰雄	増大傾向を認め切除した直腸神経鞘腫の1例	第133回日本消化器病学会北海道支部例会	2023年9月2-3日
18)	川田栞寧、武田智宏、牧野開、島崎龍太郎、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、湯澤明夏、横尾英樹、角泰雄	リンチ症候群の確定診断に至った同時性多発大腸癌の1例	第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会、第112回北海道外科学会	2023年9月9-10日
19)	牧野 開、武田智宏、紅露大介、大谷将秀、大原みずほ、谷 誓良、北 健吾、庄中達也、長谷川公治、横尾英樹、谷野美智枝、角 泰雄	術前診断が困難であった特発性腸間膜血腫の1切除例	第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会、第112回北海道外科学会	2023年9月9-10日
20)	島崎龍太郎、武田智宏、牧野開、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、横尾英樹、湯澤明夏、角泰雄	成人に発症した腸間膜リンパ管奇形(リンパ管腫)の一例	第6回北海道外科関連学会機構合同学術集会、第112回北海道外科学会	2023年9月9-10日
21)	武田智宏、水上裕輔、牧野 開、島崎龍太郎、大原みずほ、谷 誓良、北	局所進行直腸癌患者における変異プロファイルと術前化学療法の効果	第82回日本癌学会学術総会	2023年9月21-23日

健吾、庄中達也、長谷川公治、小野裕介、谷野美智枝、西川祐司、横尾英樹、角 泰雄

- | | | | | |
|-----|--|--|--------------------------------|--------------------|
| 22) | 大谷将秀、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、角泰雄 | 小腸人工肛門造設後の遠位側腸管を用いた栄養管理として腸液再注入を行なった2例 | 第15回日本Acute Care Surgery学会学術集会 | 2023年
10月6-7日 |
| 23) | 島崎龍太郎、武田智宏、牧野開、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、横尾英樹、谷野美智枝、角泰雄 | 病歴から痔瘻癌が疑われたが、術後に肛門腺癌の診断となった一例 | 第44回日本大腸肛門病学会北海道支部例会 | 2023.10 |
| 24) | 水上奨一郎、庄中達也、高橋裕之、高畠宏規、牧野 開、島崎龍太郎、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、島田慎吾、今井浩二、角 泰雄、横尾英樹 | 結腸直腸癌異時性肝転移への初回肝切除32例の術後再発リスク因子の後方視的検討 | 第78回日本大腸肛門病学会学術集会 | 2023年
11月10-11日 |
| 25) | 大谷将秀、長谷川公治、北健吾、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、庄中達也、角泰雄 | 胃切除後 GLIM 低栄養の評価時期についての検討 | 第85回日本臨床外科学会総会 | 2023年
11月16-18日 |
| 26) | 庄中達也、武田智宏、谷 誓良、牧野開、島崎龍太郎、大原みずほ、北 健吾、長谷川公治、笹川穂の花、谷野美智枝、横尾英樹、角 | 大腸癌患者への MSI 検査を用いたリンチ症候群の拾い上げ効果 | 第85回日本臨床外科学会総会 | 2023年
11月16-18日 |

泰雄

- | | | | |
|--|---|------------------------|------------------------|
| 27) 島崎龍太郎、庄中達也、牧野開、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角泰雄 | 当院における、閉塞性大腸癌のステント留置後手術症例の長期成績の検討 | 第 85 回日本臨床外科学会総会 | 2023 年
11 月 16-18 日 |
| 28) 武田智宏、庄中達也、牧野開、島崎龍太郎、大原みずほ、谷誓良、北健吾、長谷川公治、横尾英樹、角泰雄 | 術前治療後局所進行直腸癌に対する TpAPR の有効性 | 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 | 2023 年
12 月 7-9 日 |
| 29) 大谷将秀、長谷川公治、北健吾、武田智宏、大原みずほ、谷誓良、庄中達也、角泰雄 | 腹壁癒痕ヘルニアに対する eTEP 導入初期 5 例の経験 | 第 36 回日本内視鏡外科学会総会 | 2023 年
12 月 7-9 日 |
| 30) 長谷川公治、北健吾、大谷将秀、武田智宏、牧野開、島崎龍太郎、大原みずほ、谷誓良、庄中達也、角泰雄 | 術前補助化学療法を施行した進行胃癌症例の治療成績 | 第 96 回日本胃癌学会総会 | 2024 年 2 月 28-3 月 1 日 |
| 31) 大谷将秀、浅井慶子、長谷川公治、北健吾、角泰雄 | 胃原発胎児消化管類似癌の術後肝転移再発に対して Nivolumab+化学療法を使用した 1 例 | 第 96 回日本胃癌学会総会 | 2024 年 2 月 28-3 月 1 日 |
| 32) 武田智宏、高島宏規、島崎龍太郎、大原みずほ、谷誓良、北健吾、庄中達也、長谷川公治、林真奈美、上小倉佑機、谷野美智枝、横尾英樹、角泰雄 | 孤立性脳転移を契機に診断された S 状結腸癌の 1 例 | 第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会 | 2024 年 3 月 2-3 日 |

33) 高畠宏規、庄中達也、島崎龍太郎、武田智宏、大原みずほ、谷 誓良、北健吾、長谷川公治、林真奈美、湯澤明夏、谷野美智枝、横尾英樹、角 泰雄	骨盤内に発生した solitary fibrous tumor (SFT) の一例	第 134 回日本消化器病学会北海道支部例会	2024 年 3 月 2-3 日
34) 牧野 開、武田智宏、庄中達也、島崎龍太郎、大原みずほ、谷 誓良、北健吾、長谷川公治、高橋裕之、島田慎吾、今井浩二、横尾英樹、角 泰雄	当院における Open Abdominal Management の成績	第 60 回日本腹部救急医学会総会	2024 年 3 月 21-22 日
35) M. Otani, K. Hasegawa, K. Kita, T. Takeda, M. Ohara, C. Tani, T. Shonaka, N. Matsuno, Y. Sumi	DIFFERENCES IN GLIM-DEFINED MALNUTRITION AT 6 AND 12 MONTHS FOLLOWING GASTRECTOMY FOR GASTRIC CANCER	ESPEN2023	2023 年 9 月 11-14 日
36) Masahide Otani, Kimiharu Hasegawa, Kengo Kita, Yasuo Sumi	Recruiting Hernia Sac in Tension-free Posterior Layer Closure during eTEP-Rives-Stoppa: A Case Report	Asia Pacific Hernia Society 2023	2023 年 9 月 21-23 日
37) Tomohiro Takeda, Yusuke Mizukami, Kai Makino ¹ , Hiroki Takahata, Ryotaro Shimazaki, Mizuho Ohara, Chikayoshi Tani, Kengo Kita, Tatsuya Shonaka, Kimiharu	Correlation Between TP53, KRAS, SMAD4 and Other Mutations Profile and Neoadjuvant Therapy Efficacy and Prognosis in Locally Advanced Rectal Cancer	ASCO GI 2024	2024 年 1 月 18-20 日

Hasegawa, Yusuke
Ono, Mishie
Tanino, Hideki
Yokoo, Yasuo Sumi

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
庄中 達也	継続	基盤研究 (C)	TP53-RAS/RAF 経 のクロストークに基づく局所進行直腸癌の術前治療戦略

整形外科学講座

Department of Orthopaedic Surgery

I. 所属教員等

整形外科学講座

教授	伊藤 浩	
講師	小林 徹也	
講師	谷野 弘昌	
講師(学内)	妹尾 一誠	
助教/特任講師	三好 直樹	(兼務) 人工関節講座
助教	柴田 宏明	
客員准教授	能地 仁	

整形外科

講師	阿部 里見	
講師(学内)	入江 徹	
助教	小原 和宏	(兼務)
助教	光武 遼	
助教	高橋 裕貴	(兼務)

寄附講座 (人工関節講座)

特任助教	松倉 圭佑
------	-------

II. 研究業績紹介

<股関節班> 股関節班の手術はTHA、骨切り術、外傷などを中心に行っておりますが、コロナ禍で減少していた手術件数は右肩上がりが増加し、現在はコロナ以前の手術件数を超える勢いでの手術数となっております。現在の研究は主に、より確実な手技を目指したポータブルナビゲーションシステムの導入、研究を主として行っており、研究は海外論文にも多数アクセプトされております。

<上肢班> 腕神経叢、肩から指先における上肢全般の診療、手術加療を行っておりますが、肩関節に関しましてはこの10年で世界的に普及が進んでまいりましたリバーズ型人工肩関節の治療を、いち早く国内の肩関節の著明な先生への師事や海外留学の経験を活かしてとりいれ、肩板損傷の治療を含め幅広く活躍されております。また、肘関節分野では野球肘などスポーツ外傷の手術治療やスポーツ復帰へのサポート、手指に関しても先天性疾患、外傷、変性疾患など、豊富な知識と経験を活かした専門的な治療を行っております。

<下肢班> 下肢班は海外留学経験を行いながら、臨床から基礎研究まで幅広く活躍されております。臨床では変性疾患、スポーツ障害、外傷、小児先天性疾患における膝や足関節の治療を行っております。基礎研究では関節軟骨の再生と間葉系幹細胞の移植免疫の研究やACLなどの研究を中心に行っております。

<腫瘍班> 整形外科領域の骨軟部腫瘍のほか、転移性骨腫瘍の診断、マネージメントなどを中心に行っておりますが、骨軟部腫瘍や転移性腫瘍を自信をもって診断治療できる医師は整形外科、他科とも旭川市内、道北オホーツク圏内には限られた医師しかおらず、日々いろいろな地域の先生方からコンサルトを受け、忙しく活動しております。研究としては全国規模の他施設研究への参加等を行っており、院内では科横断的な役割を果たしております。

<脊椎班> 脊椎班は先代の竹光義治名誉教授が着目し築き上げてきた、脊柱変形の研究が現在世界的にも注視され、30年以上続く当大学の疫学的調査は現在も受け継がれ、研究内容は世界への情報発信源として非常に注目されています。これらの報告・研究はこの数年間、アクセプトされるのがステータスとされる欧米の主要脊椎学会や整形外科学会に採択され、研究成果を海外にて発表しております。また Rush 大学、総合せき損センター、徳島大学など、基礎臨床両面での研鑽をつんでいます。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 阿部里見	X線診断 Q&A(図説)	整形外科	2024.2

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Tanino H	CORR Insights: The Supercapsular Percutaneously Assisted Total Hip Approach Does Not Provide Any Clinical Advantage Over the Conventional Posterior Approach for THA in a Randomized Clinical Trial	Clinical Orthopaedics and Related Research 2023,481(6):1126-28	2023.6
2) Tanino H, Mitsutake R, Takagi K, Ito H	Does Commercially Available Augmented Reality-based Portable Hip Navigation System Improve Cup Positioning During THA Compared with	Clinical Orthopaedics and Related Research 2024,482(3):458-467	2024.3

- Conventional
Technique? A
Prospective,
Randomized, Controlled
Study
- 3) Higa M, Tanino H, Ito H, Banks SA Soft-tissue tension during total hip arthroplasty measured in four patients and predicted using a musculoskeletal model J Exp Orthop2023, 10(1):130- 2023.12
 - 4) Nozaki H, Honma M, Tanino H, Ishida-Yamamoto A Letter to the Editor Characteristics of osteonecrosis of the femoral head complicated by psoriasis. The Journal of Dermatology2024,e42-3 2023.12
 - 5) Tanino H, Mitsutake R, Ito H Measurement accuracy of the acetabular cup position using an inertial portable hip navigation system with patients in the lateral decubitus position Sci. Rep 2024,14(1):1158 2024.1
 - 6) 阿部里見、前田陽平、佐々木祐介 膝蓋大腿関節における自家培養軟骨移植 (JACC®) 移植術後3~5年のMRIの経時的変化 JOSKAS 誌 2023,48(1):62-3 2023
 - 7) 萱場幸太郎、阿部里見、佐々木祐介 脛骨遠位端部慢性骨髓炎に対し 骨髓内抗菌薬局所持続灌流療法 (iMAP) で加療した1例 JOSKAS 誌 2023,48(1):152-3 2023
 - 8) 阿部里見, 佐々木祐介, 萱場幸太郎, 伊藤浩 外反型膝変形に対する PS 型 TKA のアプローチの違いによるコンポ 日本人工関節学会誌 2023,52:257-8 2023.12

ーネットギャップ

9) 霍田直樹, 阿部里見, 佐々木祐介, 萱場幸太 郎, 伊藤浩	遺伝性多発性外骨腫症 に対して人工膝関節置 換術を施行した一例	日本人工関節学会誌 2023,52:517-8	2023.12
10) Mizutani K, Kobayashi T, Senoo I, Shimizu M, Okayasu H	Importance of modifiable non - radiographic functional parameters for adult spinal deformity	Scientific Reports 2024,14(1):6	2024.3
11) 入江 徹、三好直 樹、奥原一貴、伊藤 浩、奥山峰志	3D プレートを用いた母 指 CM 関節固定術の治 療成績	日本手外科学会雑誌 2023, 39(26):839-844	2023.4
12) Mitsutake R, Tanino H, ItoH	The effect of range of motion simulated with a patient-specific three- dimensional simulation analysis on dislocation after total hip arthroplasty	Hip Int2023,33(2):313- 322	2023.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等 の名称	発表年月
1) 高橋裕貴、入江 徹、三好直樹、伊藤 浩、奥山峰志、平山 隆三	デクスメデトミジンでの 鎮静下で行った手外科手 術の経験(第2報)	第66回日本手外科 学会学術集会	2023.4
2) 前田陽平、阿部里見	Anterior impaction pilon 骨折に対して関節再建を 併用した観血的骨接合術 を行った一例	第49回日本骨折治 療学会	2023.5

3)	高橋裕貴、入江徹、三好直樹、伊藤浩、奥山峰志、奥原一貴	当科における上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の術後中長期成績	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
4)	三好直樹、入江徹、高橋裕貴、奥原一貴、伊藤 浩	腱板断裂性関節症に対する人工骨頭置換術の長期成績 ー術後平均 10 年以上経過例ー	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
5)	水谷幸三郎、小林徹也、妹尾一誠、伊藤浩	平均 20 年間の腰椎変性側弯に関する全脊柱アライメント変化	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
6)	光武 遼、谷野弘昌、高木建一、伊藤浩	各種インプラントにおけるオフセットおよび脚長の再現度ならびに理想的なステム頸体角の検討	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
7)	岡安浩宜、小林徹也、妹尾一誠、水谷幸三郎、高木建一、伊藤 浩	COVID [^] 19 パンデミックによる脊柱側弯症診療への影響調査	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
8)	阿部里見、伊藤 浩	地域に必要な足の外科手術と指導者育成の取り組みについて	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
9)	光武 遼、谷野弘昌、高木建一、伊藤浩	改良版ステム前捻角の術中測定用角度計の製作と有用性	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
10)	佐々木祐介、阿部里見、松倉圭佑、前田陽平、伊藤 浩	解剖学的二重束前十字再建における脛骨側靭帯付着部領域に対する再建靭帯径の割合と臨床成績との関係性について	第 96 回日本整形外科学会学術総会	2023.5
11)	前田陽平、阿部里見、佐々木祐介、伊藤 浩	広範囲大腿骨外側顆離断性骨軟骨炎に対し腸骨移植を併用した自家骨軟骨柱にて固定を行った一例	第 142 回北海道整形外科災害外科学会	2023.6
12)	光武 遼、谷野弘昌、高木建一、伊藤	転位型大腿骨頸部骨折における骨接合 VS 人工股	第 142 回北海道整形外科災害外科学会	2023.6

浩	関節全置換術		
13) 高木建一、谷野弘 昌、光武 遼、伊藤 浩	当科でのポータブルナビ ゲーションを用いた THA 再置換の成績	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
14) 阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、伊藤 浩	外側扁平足に対する踵骨 内方移動骨切り術の治療 成績	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
15) 入江 徹、三好直 樹、伊藤 浩、奥山 峰志、奥原一貴	上腕骨内側上顆炎に対す る手術成績	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
16) 北村勇斗、阿部里 見、佐々木祐介、前 田陽平、伊藤 浩	当科における hypermobility lateral meniscus の診断と治療の 検討	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
17) 阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、北村 勇斗、伊藤 浩	ポータブルナビゲーション は未認定医の TKA に おける冠状面と矢状面骨 切りを正確にする	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
18) 阿部里見、佐々木祐 介、前田陽平、北村 勇斗、伊藤 浩	高位脛骨骨切り術後の人 工膝関節置換術後のギャ ップバランストジョイン トラインの問題	第 142 回北海道整形 外科災害外科学会	2023.6
19) 阿部里見	サッカーを契機に発症し た腓骨筋腱滑車症候群に 対して腓骨筋腱滑車切除 を施行した 1 例	日本スポーツ整形外 科学会 2023	2023.6
20) 阿部里見	ACL 損傷に伴う meniscal ramp lesion の 画像評価と術後成績の関 係	日本スポーツ整形外 科学会 2023	2023.6
21) 阿部里見	二重束 ACL 再建術後 5~ 9 年の中期成績	日本スポーツ整形外 科学会 2023	2023.6
22) 阿部里見	小児脛骨顆間隆起骨折の 関節鏡下プリアウト修復 術後 5 年の ACL 評価と 骨成長の検討	日本スポーツ整形外 科学会 2023	2023.6

23) Abe S, Matsukura K	Meniscal and Cartilage Changes on MRI 5-9 years After Medial Opening-Wedge High Tibial Osteotomy	ISAKOS	2023.6
24) Sasaki Y, Abe S, Matsukura K	An Influence of The Early Accelerated Rehabilitation After Antero Cruciate Ligament Reconstruction to the Knee Stability And Tunnels Enlargement	ISAKOS	2023.6
25) Sasaki Y, Abe S, Matsukura K	An Evaluation Of The Relationship Between The Knee Stability And Remnant Re-Attachment In Anterior Cruciate Ligament Injury	ISAKOS	2023.6
26) 阿部里見	Charco+A59t-Marie-Tooth 病に伴う足部変形に対して手術加療を行った一例	第 29 回北海道下肢と足部疾患研究会	2023.8
27) 阿部里見	TKA 周囲骨折の一例	道北外傷セミナー	2023.8
28) 阿部里見、前田陽平、佐々木祐介、北村勇斗、伊藤 浩、松倉圭佑、石田健一、大田哲生、川尻誠	外傷性大腿切断術後にスポーツ復帰できた Morel-Lavallee lisions 症例の検討	第 72 回東日本整形災害外科学会	2023.9
29) 入江 徹、三好直樹、高橋裕貴、伊藤 浩	手指変形性関節症 UPDATE 母指 CM 関節固定術における成績不良例の検討	第 72 回東日本整形災害外科学会	2023.9
30) 伊藤 浩、谷野弘昌、光武 遼、高木建一	寛骨臼形成不全に対する骨盤骨切り術の成績 寛骨臼回転骨切り術(RAO)	第 72 回東日本整形災害外科学会	2023.9

の中期～長期成績

- | | | | |
|------------------------------------|--|-------------------|--------|
| 31) 北村勇斗、阿部里見、佐々木祐介、松倉圭佑、前田陽平、伊藤 浩 | 多発関節拘縮症に合併した垂直距骨に対する外科的治療の一例 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 32) 阿部里見、佐々木祐介、前田陽平、北村勇斗、伊藤 浩 | 高位脛骨骨切り術後の人工膝関節置換術後のギャップバランスとジョイントラインの問題 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 33) 西能渉一、小林徹也、妹尾一誠、津村諄一、伊藤 浩 | X線項目と臨床項目の縦断変化 特に骨盤後傾と体幹筋力変化について | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 34) 菊地啓太、阿部里見、前田陽平、佐々木祐介、伊藤 浩 | MRI が診断に有用であった足関節 syno-vial chondromatosis の一例 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 35) 高橋裕貴、入江徹、三好直樹、伊藤浩、奥山峰志、奥原一貴 | デュピュイトラン拘縮に対する経皮的健膜切離術の治療成績 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 36) 森山杏奈、阿部里見、佐々木祐介、前田陽平、伊藤 浩 | 痛風結節による膝関節拘縮の一例 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 37) 中島大輔、入江徹、三好直樹、丹代晋、柴田宏明、伊藤浩 | 上腕骨近位端に発生した骨巨細胞腫切除後に腫瘍用人工骨頭置換術を行い長期経過した 1 例 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 38) 阿部里見、佐々木祐介、松倉圭佑、前田陽平、伊藤 浩 | 内側開大式高位脛骨骨切り術後 TKA のギャップバランスとジョイントライン | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 39) 妹尾一誠、小林徹也、津村諄一、西能渉一、伊藤 浩 | 腰椎変性側弯症女性の脊柱骨盤の形態学的特徴および股関節疾患との関連性について | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |

40) 岡安浩宜、林 哲生、横田和也、河野修、坂井宏旭、森下雄一郎、益田宗彰、久保田健介、伊藤浩、前田 健	頸髄損傷後の歩行機能の改善経過	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
41) 高木建一、谷野弘昌、光武 遼、伊藤浩	THA 再置換術におけるポータブルナビゲーションの有用性の検討	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
42) 三好直樹、入江徹、高橋裕貴、伊藤浩、奥原一貴	解剖学的人工関節置換術と比較したりバース型人工型関節置換術の中期成績—平均 5 年以上	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
43) 前田陽平、阿部里見、松倉圭佑、佐々木祐介、伊藤 浩	3 次元 MRI 解析を用いた開大式楔状高位脛骨骨切り術後 1 年の内側半月逸脱体積の検討	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
44) 伊藤 浩、谷野弘昌、光武 遼、高木建一	寛骨臼回転骨切り術 (RAO) の中期～長期成績	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
45) 谷野弘昌、光武 遼、高木建一、伊藤浩	人工股関節全置換術ポータブルナビゲーションの成績・利点・欠点・未来側臥位ポータブルナビゲーションの使用経験と課題	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
46) 光武 遼、谷野弘昌、高木建一、佐藤剛、矢倉幸久、伊藤浩	転位型大腿骨頸部骨折における骨接合 VS 人工股関節全置換術	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
47) 光武 遼、谷野弘昌、高木建一、伊藤浩	55 歳～80 歳における転位型大腿骨頸部骨折に対して人工股関節全置換術と観血的骨接合術の比較	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9
48) 小原和宏	車いすフェンシングの攻撃側と防御側の臀部にか	第 72 回東日本整形 災害外科学会	2023.9

	かる圧力の違いに関する 検証		
49) 阿部里見	母国で外側支帯解離と MPFL 再建術後に膝蓋骨 が内側亜脱臼する一例	第 60 回北海道膝研 究会	2023.9
50) 谷野弘昌、光武 遼、高木建一、伊藤 浩	新しい側臥位ポータブル ナビゲーション Navbit のカップ設置精度・ピッ トフォール	第 50 回日本股関節 学会学術集会	2023.10
51) 光武 遼、谷野弘 昌、高木建一、伊藤 浩、佐藤 剛、矢倉 幸久	60 歳～80 歳における転 位型大腿骨頸部骨折に対 して人工股関節全置換術 と観血的骨接合術の比較	第 50 回日本股関節 学会学術集会	2023.10
52) 高木建一、谷野弘 昌、光武 遼、伊藤 浩	ポータブルナビゲーション を用いた THA 再置換 術でのカップ設置角の正 確性の検討	第 50 回日本股関節 学会学術集会	2023.10
53) 三好直樹、入江 徹、高橋裕貴、奥原 一貴、伊藤 浩	解剖学的・リバーズ型人 工肩関節置換術の中期成 績 平均 5 年以上	第 50 回日本肩関節 学会学術集会・第 20 回日本肩の運動機能 研究会学術集会	2023.10
54) 三好直樹、入江 徹、高橋裕貴、奥原 一貴、伊藤 浩	腱板断裂性関節症に対す る人工骨頭置換術 術後 平均 10 年以上成績	第 50 回日本肩関節 学会学術集会・第 20 回日本肩の運動機能 研究会学術集会	2023.10
55) 阿部里見、松倉圭 佑、前田陽平、佐藤 剛	外反扁平足に対する踵骨 内方移動骨切り術の治療 成績	第 48 回日本足の外 科学会	2023.10
56) 小原和宏	時系列で振り返るコロナ とスポーツ ～年表から みえた「その時」～ バ レーボール男女ナショナ ルチームとコロナ TOKYO2020 とその後	日本臨床スポーツ医 学会	2023.11
57) 阿部里見	当科における hypermobility lateral	第 1 回日本膝関節学 会	2023.12

	meniscus の診断と治療の 検討		
58) 前田陽平、阿部里見	3次元MRI解析を用いた 開大式高位脛骨骨切り術 後1年の内側半月逸脱体 積の検討	第1回日本膝関節学 会	2023.12
59) 阿部里見	先天性膝蓋骨脱臼・亜脱 臼に対して10歳未満と 10歳以降で手術治療行っ た症例の比較	第1回日本膝関節学 会	2023.12
60) Abe S	The fifth decade is a tipping point for disease- related alignment changes involving the lower extremities and the spine	ORS(米国整形外科基 礎学術集会)	2024.2
61) 阿部里見、松倉圭 佑、前田陽平	内側開大式高位脛骨骨切 り術後の人工膝関節置換 術のギャップバランスと joint line の問題	第54回日本人工関 節学会	2024.2
62) 松倉圭佑、前田陽 平、阿部里見	ポータブルナビゲーショ ンは未認定医が行う TKAの冠状面・矢状面 骨切りを正確にする	第54回日本人工関 節学会	2024.2
63) 前田陽平、松倉圭 佑、阿部里見	片側人工膝関節全置換術 におけるトラネキサム酸 の経静脈投与に加えた関 節内投与量の差による術 後出血量の検討	第54回日本人工関 節学会	2024.2
64) 阿部里見、松倉圭 佑、前田陽平	関節開大力により異なる ギャップ・バランスのク ラスタ分析と joint line の問題	第54回日本人工関 節学会	2024.2
65) 光武 遼、谷野弘 昌、高木建一、伊藤 浩	60歳~80歳における転 位型大腿骨頸部骨折に対 して人工股関節全置換術	第54回日本人工関 節学会	2024.2

と観血的骨接合術の比較

66) 谷野弘昌、光武 遼、高木建一、伊藤 浩	ポータブルナビゲーションの利点と課題	第 54 回日本人工関節学会	2024.2
67) 三好直樹他	解剖学的人工関節置換術とリバーズ型人工肩関節置換術の中期成績	第 54 回日本人工関節学会	2024.2
68) Mitsutake R, Tanino H, Ito H	A comparison of seven stems in restoring femoral offset and leg length using three-dimensional templating	Orthopaedic Research Society	2024.2
69) 谷野弘昌、光武 遼、伊藤 浩	新しいポータブルナビゲーションの使用経験	北海道股関節研究会	2023.6

VII. 科研費採択状況

皮膚科学講座

Department of Dermatology

I. 所属教員等

皮膚科学講座

教 授	山本 明美
講 師	井川 哲子
助 教	野崎 尋意
助 教	中川 智絵
助 教	大坪 紗和

皮膚科

教 授	本間 大	(兼務)
准 教 授	岸部 麻里	
助 教	菅原 基史	
助 教	高橋 千晶	
助 教	菅野 恭子	

II. 研究業績紹介

皮膚科学講座では皮膚科領域の臨床と研究論文、学会発表を精力的に行っている。令和4年度の主要な業績としては、松尾梨沙講師の学位論文が JID Innovations に掲載され、論文中の図が雑誌の表紙に掲載されたことが上げられる。また、飯沼晋客員助教が北見赤十字病院の症例を複数の英文誌で掲載したこと、岸部麻里准教授が炎症性疾患に関する原著論文を掲載し、特に新型コロナウイルスのワクチンの後に生じた自己免疫関連好中球性皮膚症に関するものはこの時代の出来事を反映したものとなった。他大学との共同研究も Allergy International に掲載された。

企業との共同研究の成果も Journal of Investigative Dermatology に掲載され、この論文の図も雑誌の表紙に採用された。著書としては、山本明美教授、岸部麻里准教授、菅野恭子助教が皮膚疾患の新しい考え方等を解説した。

井川哲子講師は日本皮膚科学会西部支部企画研修講習会において教育講演を行い、専攻医教育に貢献した。国際学会である ESDR meeting, JSID meeting や、国内では日本皮膚科学会総会、日本皮膚科学会東部支部学術大会、日本皮膚科学会西部支部学術大会、日本皮膚科学会北海道地方会、日本皮膚免疫アレルギー学会、日本美容皮膚科学会総会、日本心脈管作動物質学会、日本血管生物医学学術集会等、においても講座の所属教員が複数の発表を行った。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 山本 明美	デジタルに強くなれ! 皮膚科学教育系 YouTuber になってみた	日本臨床皮膚科医会雑誌	2023.11

- | | | | |
|--|--|-----------|---------|
| 2) 山本 明美 | 掌蹠角化症の分類と診断 | 皮膚科 | 2023.8 |
| 3) 山本 明美 | 【教えて先輩! 皮膚科診療の困りごと】ベーシックステージ 皮疹のみかた 皮疹から想像する病理像 病理組織所見の特徴を踏まえた生検のコツ | 皮膚科の臨床 | 2023.5 |
| 4) 井川 哲子 | コルネオデスモソームとデスモソーム | 皮膚科 | 2023.8 |
| 5) 川上民裕, 有村義宏, 池田高治, 石黒直子, 石津明洋, 伊藤吹夕, 猪原登志子, 沖山奈緒子, 小野さち子, 要伸也, 岸部麻里, 小寺雅也, 渋谷倫太郎, 菅原弘二, 鈴木和男, 清島真理子, 田中 麻衣子, 辻本 康, 長谷川 稔, 張田豊, 古川福実, 宮脇義亜, 山口由衣, 吉崎 歩, 皮膚血管炎・血管障害診療ガイドライン策定委員会 | 皮膚血管炎・血管障害診療ガイドライン 2023 IgA 血管炎, クリオグロブリン血症性血管炎, 結節性多発動脈炎, リベド様血管症の治療の手引き 2023 | 日本皮膚科学会雑誌 | 2023.8 |
| 6) 藤本智子, 横関博雄, 中里良彦, 室田浩之, 村山直也, 大嶋雄一郎, 吉岡洋, 岸部麻里, 羽白 誠, | 原発性局所多汗症診療ガイドライン 2023 年改訂版(2023 年 12 月一部改訂) | 日本皮膚科学会雑誌 | 2023.12 |
| 7) 浅野善英, 浅井純, 石井貴之, 岩田洋 | 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-4 膠原病・血管炎に | 日本皮膚科学会雑誌 | 2024.1 |

平, 小寺雅也, 宮 ともなう皮膚潰瘍診療ガイド
 部千恵, 内山明彦, ライン
 小川陽一, 岡村
 賢, 岸部麻里, 小
 池雄太, 壽 順久,
 藤本徳毅, 宮城拓
 也, 山口由衣, 吉
 崎 歩, 大森礼子,
 中西健史, 藤原
 浩, 前川武雄, 茂
 木精一郎, 吉野雄
 一郎, 長谷川 稔,
 藤本 学, 立花隆
 夫,

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名 称	発行年月
1) Ishida-Yamamoto A, Yamanishi H, Igawa S, Kishibe M, Kusumi S, Watanabe T, Koga D.	Secretion Bias of Lamellar Granules Revealed by Three- Dimensional Electron Microscopy	J Invest Dermatol.	2023 Jul
2) Kikuchi Y, Tamakoshi T, Ishida R, Kobayashi R, Mori S, Ishida-Yamamoto A, Fujimoto M, Kaneda Y, Tamai K.	Gene-Modified Blister Fluid-Derived Mesenchymal Stromal Cells for Treating Recessive Dystrophic Epidermolysis Bullosa	J Invest Dermatol.	2023 Dec
3) Minowa T, Hirohashi Y, Murata K, Sasaki K, Handa T, Nakatsugawa M, Mizue Y, Murai A, Kubo T, Kanaseki T, Tsukahara T, Iwabuchi S, Hashimoto S, Ishida-Yamamoto A, Uhara	Fusion with type 2 macrophages induces melanoma cell heterogeneity that potentiates immunological escape from cytotoxic T	J Pathol.	2023 Jul

- H, Torigoe T. lymphocytes
- 4) Kishibe M, Koike K, Kanno K, Ishida-Yamamoto A. Autoimmunity-related neutrophilic dermatosis after coronavirus disease 2019 vaccination: A case report and literature review J Dermatol. 2023 Jun
- 5) Katayama T, Takahashi K, Yahara O, Sawada J, Ishida KI, Asanome A, Endo H, Saito T, Hasebe N, Kishibe M, Kanno H, Ishiko S, Sone J. NOTCH2NLC mutation-positive neuronal intranuclear inclusion disease with retinal dystrophy: A case report and literature review Medicine (Baltimore). 2023 May
- 6) Hida T, Ishikawa A, Okura M, Kishibe M, Uhara H. A Japanese patient with hereditary angioedema caused by deep intron variation in the SERPING1 gene J Dermatol. 2023 Sep
- 7) Maeda A, Tsuchida N, Uchiyama Y, Horita N, Kobayashi S, Kishimoto M, Kobayashi D, Matsumoto H, Asano T, Migita K, Kato A, Mori I, Morita H, Matsubara A, Marumo Y, Ito Y, Machiyama T, Shirai T, Ishii T, Kishibe M, Yoshida Y, Hirata S, Akao S, Higuchi A, Rokutanda R, Nagahata K, Takahashi H, Katsuo K, Ohtani T, Fujiwara H, Nagano H, Hosokawa T, Ito T, Haji Y, Yamaguchi H, Hagino N, Shimizu T, Koga T, Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome Rheumatology (Oxford). 2023 Aug

Kawakami A, Kageyama G,
 Kobayashi H, Aoki A,
 Mizokami A, Takeuchi Y,
 Motohashi R, Hagiyaama H,
 Itagane M, Teruya H, Kato
 T, Miyoshi Y, Kise T,
 Yokogawa N, Ishida T,
 Umeda N, Isogai S, Naniwa
 T, Yamabe T, Uchino K,
 Kanasugi J, Takami A,
 Kondo Y, Furuhashi K,
 Saito K, Ohno S, Kishimoto
 D, Yamamoto M, Fujita Y,
 Fujieda Y, Araki S,
 Tsushima H, Misawa K,
 Katagiri A, Kobayashi T,
 Hashimoto K, Sone T,
 Hidaka Y, Ida H,
 Nishikomori R, Doi H,
 Fujimaki K, Akasaka K,
 Amano M, Matsushima H,
 Kashino K, Ohnishi H,
 Miwa Y, Takahashi N,
 Takase-Minegishi K,
 Yoshimi R, Kirino Y,
 Nakajima H, Matsumoto N.

- | | | | | |
|----|---|---|------------------------|----------|
| 8) | Inuma S, Kobayashi T,
Ishida-Yamamoto A. | Pityriasis lichenoides et
varioliformis acuta-like
eruption after
brentuximab vedotin
treatment for peripheral
T-cell lymphoma | Acta Derm
Venereol. | 2023 Sep |
| 9) | Ohnishi T, Watanabe S,
Matsumoto T, Yotsuyanagi
H, Sato J, Kobayashi I,
Inuma S, Nagayama T, | Corrigendum to "The
second nationwide
surveillance of
antibacterial | J Infect
Chemother. | 2023 Jun |

- Shibuya S, Ogawa N, Iozumi K, Nakajima Y, Kurikawa Y, Kobayashi M, Matsuo K, Ishikawa H, Shimizu T, Tsutsui K, Kawamura T, Okuyama R, Seishima M, Akita Y, Kasugai C, Yano K, Tamada Y, Mizutani K, Kabashima K, Yamada N, Ikeda M. susceptibility patterns of pathogens isolated from skin and soft-tissue infections in dermatology departments in Japan" [J. Infect. Chemother. 29 (2023) 143-149]
- 10) Nozaki H, Honma M, Tanino H, Ishida-Yamamoto A. Characteristics of osteonecrosis of the femoral head complicated by psoriasis J Dermatol. 2024 Feb
- 11) Inuma S, Kobayashi T, Ishida-Yamamoto A Pruritic Palpable Purpura on the Lower Legs: A Quiz Acta Derm Venereol 2023 Sep
- 12) 岸部 麻里, 合地 研吾, 石井 香, 佐藤 貴浩, 秀 道広, 山本 明美 【汗と関連する皮膚病～診断の技量を磨く～】汗アレルギー性コリン性蕁麻疹を合併した特発性後天性全身性無汗症(AIGA)の治療経験 皮膚病診療 2023.8
- 13) 松尾 梨沙, 井川 哲子, 山本 明美 【埋もれた症例に光をあてる～潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍II～】(Part3.)誘因不明, その他(case 12) 凍傷 Visual Dermatology 2023.6

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 井川哲子	皮膚バリアって何？どう測るの？美肌をつくるサイエンス Bella Pelle	メディカルレビュー社	2023年

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 菅野恭子、中川智絵、野崎 尋意、岸部麻里、山本明 美、長谷川 匡	左下顎部の褐色局面	第 39 回日本皮 膚病理組織学会	2023.4
2) 野崎尋意、宮澤愛梨、菅野 恭子、岸部麻里、山本明 美、野村和加奈、阿南 隆	右鼠径部の褐色結節	第 39 回日本皮 膚病理組織学会	2023.4
3) Ishida-Yamamoto A,Yamanishi H,Igawa S,Kishibe M,Watanabe T,Kusumi S , Koga D	3D electron microscopy revealed that lamellar granules are secreted on the underside of more matured granular cells	ISID2023	2023.5
4) Igawa S,Takahashi M,Matsuo R,Kishibe M,Ishida-Yamamoto A, Di Nardo A	Analysis of sphingosine 1- phosphate receptor 3-5 functions and distributions in the epidermis	ISID2023	2023.5
5) Kishibe M,Matsuo R,Igawa S,Kubo A,Ishida- Yamamoto A	Possibility of precision medicine based on functional analysis of keratin mutation in epidermolysis bullosa simplex	ISID2023	2023.5
6) 岸部麻里	乾癬および乾癬様皮疹 ではこうして皮膚のか たちが作られる	第 122 回日本皮 膚科学会総会	2023.6
7) 松尾梨沙、竹田恵子、岸部 麻里、山本明美	COVID-19 ワクチンの 関与が考えられた口腔 内扁平苔癬の 2 例	第 434 回日本皮 膚科学会北海道 地方会	2023.6
8) 中川智絵、菅原基史、野崎 尋意、山本明美、小松成綱	tumoral melanosis の 1 例	第 434 回日本皮 膚科学会北海道 地方会	2023.6

9)	中川智絵、松谷泰祐、菅原基史、野崎尋意、山本明美	比較的大型の術後皮膚欠損に対し、開放療法を選択した2例	第38回日本皮膚外科学会総会・学術大会	2023.7
10)	山本明美、井川哲子、岸部麻里、山西治代、久住聡、渡部 剛、甲賀大輔	表皮の層板顆粒はより分化した細胞の下面にむかって選択的に分泌される	第49回皮膚科かたち研究学会学術大会	2023.7
11)	中川智絵、松谷泰祐、菅原基史、野崎尋意、成瀬早紀、南部藍子、山本明美、小松成綱	頬部に発生したtumoral melanosisの1例	第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	2023.8
12)	岸部麻里	病巣感染と乾癬関連疾患	第38回日本乾癬学会学術大会	2023.8
13)	野崎尋意、山本明美、本間大、谷野弘昌、林 圭、高橋英俊	旭川医科大学皮膚科において特発性大腿骨頭壊死症を合併した乾癬患者のまとめ	第38回日本乾癬学会学術大会	2023.8
14)	岸部麻里	掌蹠膿疱症の治療マネジメント～発症・悪化因子としての喫煙に関する考察を含めて～	日本脊椎関節炎学会第33回学術大会	2023.9
15)	菅原基史、本間 大、山本明美、上野直美、本間美穂、日野岡蘭子、谷 誓良	当院におけるストーマ周囲壊疽性膿皮症の臨床的検討	第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会	2023.9
16)	松尾梨沙、竹田恵子、岸部麻里、山本明美、岡 久美子	コロナワクチン投与後に発症した口腔内扁平苔癬の2例	第87回日本皮膚科学会東部支部学術大会	2023.9
17)	野崎尋意	リアルワールドでのバイオ治療について～IL-17阻害薬の使い方およびクリニックとの連携について～	第87回日本皮膚科学会東部支部学術大会	2023.9
18)	岸部麻里、井川哲子、山本明美、渡辺愉美、畑山真弓、藤代大介、谷野美智枝	血液学的異常を伴うSweet症候群の後方視的解析-VEXAS症候群の早期診断の試み-	第4回日本アレルギー学会北海道支部地方会	2023.10

19) 大坪紗和	Angioma Serpiginosum の 3 例	第 44 回日本レ ーザー医学会総 会	2023.11
20) 菅野恭子、中川智絵、野崎 尋意、岸部麻里、山本明 美、長谷川匡	Lipofibromatosis の 1 例	第 436 回日本皮 膚科学会北海道 地方会	2023.11
21) 野崎尋意、小松麻衣、中川 智絵、梅影香央里、菅野恭 子、岸部麻里、山本明美	旭川医科大学皮膚科に おける脂漏性角化症と 有棘細胞癌合併例のま とめ	第 437 回日本皮 膚科学会北海道 地方会	2024.2
22) 井川哲子、菅野恭子、松尾 梨沙、山本明美	合併症のニキビダニ症 の治療により病勢コン トロールが容易になっ た難治性アトピー性 皮膚炎 (AD) の 1 例	第 437 回日本皮 膚科学会北海道 地方会	2024.2

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 岸部 麻里	継続	基盤研究 (C)	ケラチン遺伝子変異の違いによる単純型表皮水疱症の病態への影響と個別化医療の開発
2) 井川 哲子	延長	若手研究	表皮におけるスフィンゴシン-1-リン酸受容体の機能解析
3) 松尾 梨沙	継続	若手研究	糖尿病の創傷治癒遅延における Ninjurin-1 の役割解明

腎泌尿器外科学講座

Department of Renal and Urologic Surgery

I. 所属教員等

腎泌尿器外科学講座

教 授 柿崎 秀宏
准 教授 橘田 岳也
助 教 森下 俊

泌尿器科

講 師 堀 淳一
講 師 和田 直樹
助 教 小林 進
助 教 大谷 美結

II. 研究業績紹介

旭川医科大学腎泌尿器外科学講座は、高度先進医療を実践するとともに、地域医療との連携を重視した活動を展開している。実臨床において生じるクリニカルクエスチョンを解決すべく臨床研究を計画・実行している。また、研究のグローバル化の重要性が強調されている今日において、米国ピッツバーグ大学をはじめ国内外の研究室との共同研究による基礎研究を行い、その成果を学会にて報告し、専門誌での発表を定期的に行っている。

我々の教室における研究テーマは、大きく3つに分けられる。①腫瘍に関する研究、②下部尿路機能障害に関する研究③小児/女性泌尿器科に関する研究を主要テーマとしている。①腫瘍に関する研究については、急速に普及した手術支援ロボットによる手術が可能となった現在の状況から、ロボット支援手術の治療成績や合併症に関しての報告をしている。基礎研究としては、札幌医科大学第一病理学講座との共同研究として、腎癌細胞における癌抗原の同定に関する研究を行った。更に学内での共同研究を検討している。また、②下部尿路機能障害に関する研究は多岐にわたる。過活動膀胱、前立腺肥大症、低活動膀胱、間質性膀胱炎、さらにそれら疾患に関与するサルコペニア・フレイルといった、超高齢社会における現状を基礎、臨床の両方面からの研究を行っている。特に基礎実験においては、病態モデル動物を用いた生理学的実験を積極的に実施しており、専門誌における報告は多数ある。さらに③小児/女性泌尿器科に関しては、当教室では小児泌尿器科手術の豊富な経験を有しているため、手術による外科的介入の成果を報告している。なかでも先天性の尿路閉塞に対する外科的介入については、症例数も多く定期的に発表している。女性泌尿器科においては、腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱、尿路損傷に対する再建手術を積極的に行っており、その成果を報告している。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

1) 橘田岳也	心因性頻尿(心因性頻尿-尿意切迫症候群)	週刊医学のあゆみ	2023.04
2) Kitta T.	Editorial Comment to A meta-analysis on the characteristics of placebo effects on urinary function in placebo-controlled clinical trials among Japanese patients.	Int J Urol.	2023.04
3) 橘田岳也	動物モデルを用いた膀胱出口部閉塞の研究	Prostate Journal	2023.04
4) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	高齢過活動膀胱患者に対する治療特にフレイル・認知機能低下に注目して	排尿障害プラクティス	2023.06
5) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	難治性 OAB とは一体何なのか? その診断の注意点	泌尿器外科	2023.06
6) 橘田岳也	前立腺肥大症【1】薬物療法で尿意を調整	読売新聞	2023.08
7) Kitta T.	Editorial Comment to Heterogeneity of placebo effects on urinary incontinence in overactive bladder syndrome: A meta-analysis of Japanese placebo-controlled clinical trials.	Int J Urol.	2023.10
8) 和田直樹, 恒川良兼, 柿崎秀宏	低活動膀胱	臨床と研究	2023.10
9) 和田直樹	Male LUTS に対する薬物療法の現状と未来	Prostate Journal	2023.10
10) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	発育・成長と排尿機能の確立	臨床泌尿器科	2023.11
11) 橘田岳也, 和田直樹, 柿崎秀宏	最近 30 年間の前立腺肥大症薬物治療の変遷	泌尿器外科	2024.02

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kitta T, Darekar A, Malhotra B, Shahin MH, Jones P, Lindsay M, Mallen S, Nieto A, Crook TJ.	Fesoterodine treatment of pediatric patients with neurogenic detrusor overactivity: A 24-week, randomized, open-label, phase 3 study	Pediatr Urol.	2023.04
2) Kitta T, Mitsui T, Izumi N.	Diagnosis and Treatment of Japanese Children with Neurogenic Bladder: Analysis of Data from a National Health Insurance Database	J Clin Med.	2023.04
3) 関戸 哲利, 橘田 岳也, 仙石 淳, 高橋 良輔, 乃美 昌司, 松岡 美保子, 三井 貴彦	The Neurogenic Bladder Symptom Score の日本語訳の作成	日本泌尿器科学会雑誌	2023.04
4) Shimizu N, Saito T, Wada N, Hashimoto M, Shimizu T, Kwon J, Cho KJ, Saito M, Karnup S, de Groat WC, Yoshimura N.	Molecular Mechanisms of Neurogenic Lower Urinary Tract Dysfunction after Spinal Cord Injury.	Int J Mol Sci.	2023.04
5) Ichikawa Y, Kikuchi S, Moriyama H, Tatsukawa T, Ohira S, Kamikokura Y, Yoshida Y, Hatayama M, Yuzawa S, Wada N, Uchida D, Koya A, Azuma N.	A case of lymphoma mimicking infected internal iliac artery aneurysm.	Surg Case Rep.	2023.05
6) Kitta T.	Editorial Comment to A meta-analysis on the characteristics of placebo effects on urinary function in	Int J Urol.	2023.05

- placebo-controlled clinical trials among Japanese patients
- 7) Kitta T, Kanno-Kakibuchi Y, Chiba H, Higuchi M, Ouchi M, Togo M, Abe-Takahashi Y, Tsukiyama M, Shinohara N. Episodes of Febrile Urinary Tract Infections Occur More Often in the Winter in Patients with Spina Bifida Urol Res Pract. 2023.05
- 8) Izumi N, Kitta T, Mitsui T. Importance of Regular Examination and Follow-up in Pediatric Patients with Neurogenic Bladder: 24-Month Follow-up Study Using a Japanese Health Insurance Database Adv Ther. 2023.07
- 9) Kitta T, Kobayashi S, Togo M, Chiba H, Higuchi M, Kusakabe N, Tsukiyama M, Ouchi M, Abe-Takahashi Y, Shinohara N. Detrusor-Overactivity-Related Voiding in Women Mimics Bladder Outflow Obstruction and Conceals Underactivity Urol Res Pract. 2023.07
- 10) Wada N, Abe N, Miyauchi K, Makino S, Kakizaki H. High-Fat and High-Sucrose Diet Leads to Skeletal Muscle Loss and Bladder Dysfunction in Rat. Res Rep Urol. 2023.07
- 11) Kobayashi S, Tokita S, Moniwa K, Kitahara K, Iuchi H, Matsuo K, Kakizaki H, Kanaseki T, Torigoe T. Proteogenomic identification of an immunogenic antigen derived from human endogenous retrovirus in renal cell carcinoma. JCI Insight. 2023.08

- 12) Takahashi R, Sekido N, Matsuoka M, Sengoku A, Nomi M, Matsuyama F, Murata T, Kitta T, Mitsui T. Hygiene management of intermittent self-catheterization using reusable silicone catheters in people with spinal cord lesions: A cross-sectional Internet survey in Japan
Low Urin Tract Symptoms. 2023.09
- 13) Kitta T. Editorial Comment to Heterogeneity of placebo effects on urinary incontinence in overactive bladder syndrome: A meta-analysis of Japanese placebo-controlled clinical trials
Int J Urol. 2023.10
- 14) Mori C, Iwasaki H, Sato I, Takahoko K, Inaba Y, Kawasaki Y, Tamaki G, Kakizaki H. Impact of intraoperative fluid restriction on renal outcomes in patients undergoing robotic-assisted laparoscopic prostatectomy.
J Robot Surg. 2023.10
- 15) Togo M, Kitta T, Chiba H, Higuchi M, Kusakabe N, Ouchi M, Abe-Takahashi Y, Kakizaki H, Shinohara N. Effects of a new selective $\beta 3$ -adrenoceptor agonist, vibegron, on bladder and urethral function in a rat model of Parkinson's disease
Low Urin Tract Symptoms. 2023.11
- 16) Wada N, Takagi H, Tekeuchi K, Morishita S, Makino S, Ohtani M, Kobayashi S, Hori JI, Kitta T, Kakizaki H. Internet research of utilization of social media in patients with urological disease and their families in Japan
Int J Urol. 2023.12
- 17) Abe-Takahashi Y, Kitta T, Ouchi M, Chiba H, Higuchi M, Togo M, Kusakabe N, Kakizaki H, Shinohara N. Morphological examination of pelvic floor muscles in a rat model of vaginal delivery
BMC Pregnancy Childbirth. 2024.01

18) Kitta T, Ogawa T, Kuno S, Kakizaki H, Yoshimura N.	Review: Lower urinary tract dysfunction in animal models of Parkinson's disease (PD): Translational aspects for the treatment of PD patients with overactive bladder	Int Rev Neurobiol.	2024.01
19) Hori K, Abe T, Abe N, Abe J, Okada K, Takahashi K, Harada S, Furumido J, Murai S, Kon M, Hashimoto K, Masumori N, Kakizaki H, Shinohara N.	Gap analysis between trainees' subjective competencies and the competencies expected by instructors in urology: A need assessment survey in Japan.	Int J Urol.	2024.02
20) Wada N, Hatakeyama T, Takagi H, Tsunekawa R, Kobayashi S, Nagabuchi M, Kitta T, Kakizaki H.	Ischemic priapism caused by self intracavernous injection of tadalafil.	IJU Case Rep.	2024.03

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) Kitta T, Yoshimura N.	Neuro-Urology Research: A Comprehensive Overview Chapter 3: Voluntary versus reflex micturition control.	Academic Press	2023.05
2) Kitta T.	Neuro-Urology Research: A Comprehensive Overview Chapter 10: The periaqueductal gray and control of bladder function.	Academic Press	2023.05
3) 橘田岳也	神経因性膀胱ベッドサイドマニュアル 改訂第2版 下部尿路症状と機能的脳画像、正常 圧水頭症、Wernicke 脳症、HTLV-1	中外医学社	2023.09

関連脊髄症、Guillain-Barré 症候群、
筋疾患・神経筋接合部疾患

- 4) 橘田岳也 今日の治療指針 2024 年版 医学書院 2024.01
19 泌尿器科疾患 過活動膀胱
- 5) 橘田岳也, 柿崎 日常診療に活かす診療ガイドライン メジカルビュー 2024.02
秀宏 UP-TO-DATE 2024-2025 一社
X V 腎・泌尿器疾患 5 尿失禁

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 橘田岳也	デイベートセッション前立腺肥大症治療：薬物療法 vs. 新しい低侵襲治療	第 110 回日本泌尿器科学会総会	2023.04
2) 橘田岳也, 古野剛史, 川井志奈, 西崎直人	夜尿症診断	座談会	2023.04
3) 橘田岳也	過活動膀胱診断ガイドライン〔第 3 版〕改訂のポイント～高齢者を中心に	第 110 回日本泌尿器科学会総会	2023.04
4) Kitta T, Mitsui T, Izumi N	Importance of regular examination and follow-up for long-term prognosis in pediatric neurogenic bladder patients: 24 months follow-up Data from health insurance database	第 110 回日本泌尿器科学会総会	2023.04
5) Wada N, Takagi H, Tekeuchi K, Morishita S, Makino S, Ohtani M, Kobayashi S, Hori J, Kitta T, Kakizaki H	Internet research for utilization of social media in patients with urological disease and their families in Japan	第 110 回日本泌尿器科学会総会	2023.04
6) Morishita S, Wada N, Takagi H, Hatakeyama T, Nagabuchi M,	Risk factors for reclassification after active surveillance in patients with prostate cancer	第 110 回日本泌尿器科学会総会	2023.04

- Tsunekawa R, Ohtani M, Kobayashi S, Hori J, Kitta T, Kakizaki H
- 7) Kitta T, Abe-Takahashi Y, Ouchi M, Chiba H, Higuchi M, Togo M, Kusakabe N, Kakizaki H, Shinohara N Vaginal delivery alters the muscle fiber composition of the pelvic floor muscles 114th American Urological Association Annual Meeting 2023.04
- 8) Wada N, Abe N, Miyauchi K, Kobayashi S, Ohtani M, Tsunekawa R, Nagabuchi M, Morishita S, Kakizaki H, Mizunaga M, Ohyama T, Yamaguchi S, Iuchi H, Noda T, Saga Y, Motoya T, Kawakami N, Nishihara M, Numata A. Comparison of mirabegron and vibegron for clinical efficacy and safety in female patients with overactive bladder: a multicenter, prospective randomized crossover trial. 114th American Urological Association Annual Meeting 2023.04
- 9) 橘田岳也 フレイル・認知機能低下と高齢者下部尿路症状—フレイル状態を予測する早期マーカーとしての高齢者尿失禁— 第 65 回日本老年泌尿器科学会 2023.05
- 10) 和田直樹, 高木はるか, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏 75 歳以上の高齢者における下部尿路症状とサルコペニアの関連 —SARC-F 日本語版による検討— 第 65 回日本老年泌尿器科学会 2023.05
- 11) 橘田岳也 泌尿器科医が取り入れるべき排便管理の選択-経肛門的洗腸療法(TAI)- 経肛門的洗腸療法 オンラインセミナー 2023.06

12) 橘田岳也, 古田昭, 高橋良輔	泌尿器科医が取り入れるべき排便管理の選択-経肛門的洗腸療法(TAI)-	収録	2023.06
13) 和田直樹, 高木はるか, 森下 俊, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	75歳以上の高齢者における下部尿路症状とサルコペニアの関連 -SARC-F 日本語版による検討-	第418回日本泌尿器科学会北海道地方会	2023.06
14) 小林 進, 高木はるか, 畠山 翼, 永渕将哉, 森下 俊, 恒川良兼, 堀 淳一, 和田直樹, 橘田岳也, 柿崎秀宏	ARAT時代におけるドセタキセルの効果	第418回日本泌尿器科学会北海道地方会	2023.06
15) 橘田岳也	OAB治療薬の選択のポイント	ベタニス Web シンポジウム	2023.07
16) 橘田岳也	泌尿器疾患と慢性猿臂症の切っても切れない関係, 排尿障害と慢性便秘症の関連を考える	排尿障害と慢性便秘症の関連を考える	2023.07
17) 橘田岳也	小児神経因性膀胱の管理を成功させるポイント	第32回日本小児泌尿器科総会・学術学会	2023.07
18) 橘田岳也, 高木はるか, 和田直樹, 柿崎秀宏	地域医療における骨盤臓器脱治療の現状と課題—道北、旭川の場合—	日本女性骨盤底医学会 第25回学術集会	2023.08
19) 橘田岳也	薬物療法で尿意を調整, 前立腺肥大症(5回連載), 医療ルネサンス	読売新聞	2023.08
20) Kitta T, Mitsui T, Izumi N	Importance of regular examination and follow-up for long-term prognosis in pediatric neurogenic bladder patients: 24 months follow-up Data from health insurance database	53rd Annual meeting of the International Continence Society(ICS)	2023.09
21) Mitsui T, Kitta T, Izumi N	Diagnosis and treatment in Japanese patients with	53rd Annual meeting of the	2023.09

	pediatric neurogenic bladder: 12 months follow-up Data from health insurance database	International Continence Society(ICS)	
22) Wada N, Abe N, Miyauchi K, Kakizaki H.	High-fat and high-sucrose diet leads to muscle loss and bladder dysfunction in rat.	53rd Annual meeting of the International Continence Society(ICS)	2023.09
23) 橘田岳也	基調講演 2 脳機能画像研究から排尿を理解する	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09
24) 橘田岳也	神経因性下部尿路機能障害に対する外科的治療, 尿失禁防止術, Neurourologist になるうシンポ 3	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09
25) 橘田岳也	過活動膀胱診療ガイドライン第 3 版の改訂のポイント 行動療法・薬物療法, JCS 専門医セミナー2	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09
26) 橘田岳也	難治性過活動膀胱治療, - MRI 対応で変化する仙骨神経刺激療法の最前線-	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09
27) 橘田岳也	ウロダイナミクス検査ハンズオンセミナー, アドバイザー	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09
28) 和田直樹, 阿部紀之, 宮内琴菜, 小林 進, 大谷美結, 恒川良兼, 永瀨将哉, 森下 俊, 柿崎秀宏, 水永光博, 大山哲平, 山口 聡, 沼田 篤, 井内裕満, 野田 剛, 佐賀祐司, 本谷 匡, 川上憲裕, 西原正幸	女性過活動膀胱患者に対するミラベグロンとビベグロンのランダム化クロスオーバー比較試験	第 30 回日本排尿機能学会	2023.09

29)	和田直樹, 宮内琴菜, 小林 進, 大谷美結, 恒川良兼, 永渕将哉, 森下 俊, 柿崎秀宏, 水永光博, 大山哲平, 西原正幸, 井内裕満, 野田 剛, 沼田 篤, 本谷 匡, 阿部紀之, 山口 聡, 佐賀祐司, 川上憲裕	女性過活動膀胱に対するミ ラベグロンとビベグロンの 有効性と安全性の比較 - 多 施設ランダム化クロスオー バー試験 -	第 419 回日本泌 尿器科学会北海道 地方会	2023.09
30)	和田直樹, 玉木 岳, 北 雅史, 高木はるか, 森下 俊, 小林 進, 柿崎秀宏	Da Vinci による体腔内尿路 変更術の初期経験例の成績	第 88 回日本泌尿 器科学会東部総会	2023.09
31)	小林 進, 高木はるか, 畠山 翼, 永渕将哉, 森下 俊, 恒川良兼, 堀 淳一, 和田直樹, 橘田岳也, 柿崎秀宏	ARAT 時代におけるドセタ キセルの効果	第 88 回日本泌尿 器科学会東部総会	2023.09
32)	橘田岳也	排尿ってこんなに不思議で 面白い	高野山セミナー	2023.10
33)	橘田岳也	令和の男性下部尿路症状治 療	排尿障害 WEB セ ミナー	2023.10
34)	橘田岳也	超高齢化社会における OAB 治療-抗コリン薬の未来-	第 30 回日本排尿 機能学会	2023.10
35)	橘田岳也	高齢者の下部尿路機能障害 はどのように治療すべき か?	高齢者フォーラム in 和歌山	2023.10
36)	橘田岳也	最新の知見から考える OAB 治療薬の選択のポイント	最新の過活動膀胱 (OAB)治療を考 える	2023.10
37)	橘田岳也	令和の OAB 治療薬の選び方 と使い方-第 3 版ガイドライ ン改訂より-	OAB 治療セミナ ー	2023.11

38)	和田直樹, 高木はるか, 森下 俊, 牧野将悟, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	75 歳以上の高齢者における下部尿路症状とサルコペニアの関連 - SARC-F 日本語版による検討 -	第 10 回日本サルコペニア・フレイル学会	2023.11
39)	小林 進, 時田芹奈, 茂庭慶悟, 北原克教, 井内裕満, 松尾和彦, 柿崎秀宏, 金関貴幸, 鳥越俊彦	腎細胞癌におけるヒト内在性レトロウイルス由来の免疫原性抗原のプロテオゲノミクス	第 127 回北海道癌談話会例会	2023.11
40)	橘田岳也	日経メディカルトレンド, プライマリケア, 高齢者の過活動膀胱、抗コリン薬の選択に注意, 増加する過活動膀胱患者、診療を見直すなら今!	日経メディカル	2023.12
41)	森下 俊, 和田直樹, 高木はるか, 畠山 翼, 永渕将哉, 恒川良兼, 大谷美結, 小林 進, 堀 淳一, 橘田岳也, 柿崎秀宏	非筋層浸潤性膀胱癌における術後持続膀胱内灌流の再発予防効果	第 420 回日本泌尿器科学会北海道地方会	2024.01
42)	橘田岳也	令和の過活動膀胱治療薬の選び方と使い方-フレイル・サイコペニアと下部尿路機能障害の関係から-	高齢者疾患フォーラム in 城南	2024.02
43)	橘田岳也	過活動膀胱治療に $\beta 3$ 刺激薬は万能か?	佐賀 OAB フォーラム	2024.02

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択 種目	研究課題名
橘田 岳也	継続 基盤研究 (C)	排泄障害への新戦略提言を目指した抗パーキンソン病薬の膀胱・腸管への作用の検討

眼科学講座

Department of Ophthalmology

I. 所属教員等

眼科学講座

教授 長岡 泰司
講師 木ノ内 玲子
助教 高橋 賢伍

眼科

講師 西川 典子
講師 善岡 尊文
講師（学内） 宇都宮 嗣了
助教 川口 ゆりや
診療助教 神谷 隆行
診療助教 今野 杏美

II. 研究業績紹介

旭川医科大学眼科学講座の2023年度の業績をご説明させていただきます。

原著論文は英語論文6編、日本語論文4編、英語総説論文1編でした。

基礎研究、臨床研究、症例報告とバランス良く論文発表ができたと思います。

課題としては、他の施設との共同研究が多かったのも、旭川医大オリジナルな研究が増えるよう努力したいと思います。

科学研究費の採択状況ですが、6名の先生が採択されており、研究を精力的に進めています。

2024年度には大学院生も増え、研究体制をさらに充実させて、さらなる論文・学会発表と研究費獲得を目指したいと思います。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Nishikawa Noriko, Sato Miho	Acute acquired comitant esotropia: Current understanding of its etiological classification and treatment strategies	Taiwan Journal of Ophthalmology	January 11, 2024

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Sugiyama R, Ohnishi T, Yamagami S, Nagaoka T*	A case of acute syphilitic posterior placoid chorioretinitis showing improved choroidal blood flow after treatment	Am J Ophthalmol Case Rep	2023 .07
2) Kitaoka M, Ohnishi T, Sugaya S, Yokota H, Nagaoka T, Yamagami S	A Case of Bilateral Frosted Branch Angiitis after mRNA COVID-19 Vaccination	Case Rep Ophthalmol	2023 .07
3) Tsugiaki Utsunomiya, Akihiro Ishibazawa, Takafumi Yoshioka, Young-Seok Song, Koichi Yoshida.	Assessing Effects of Mechanical Stimulation of Fluid Shear Stress on Inducing Matrix Metalloproteinase-9 in Cultured Corneal Epithelial Cells	Experimental Eye Research	2023 .07
4) 西川 典子, 木ノ内玲子, 川口ゆりや, 伏津 壘	術前に prism adaptation test を施行した部分調節性内斜視の後ろ向き研究 手術成績と予後因子の検討	日本眼科学会雑誌	2023. 07
5) 西川 典子, 木ノ内 玲子, 川口 ゆりや, 伏津 壘	術前に prism adaptation test を施行した部分調節性内斜視の後ろ向き研究 手術成績と予後因子の検討	日本眼科学会雑誌	2023. 07
6) Watanabe M, Miyata Y, Ohno A, Yokota H, Takase K, Hanaguri J, Kushiyama A, Yamagami S, Harino S, Nagaoka T*	Dilation of porcine retinal arterioles to nobiletin, a polymethoxyflavonoid: Roles of nitric oxide and voltage-dependent potassium channel	Exp Eye Res	2023 .08

- 7) 神谷由紀、神谷隆行、木ノ内玲子、中林征吾、善岡尊文、室野真孝、宋勇錫
マイクロパルス経強膜毛様体光凝固術の短期治療成績
あたらしい眼科 2023. 08
- 8) Konno A, Ishibazawa A, De Pretto L, Shimouchi A, Omae T, Song YS.
Relationship between nonperfusion area from widefield optical coherence tomography angiography and macular vascular parameters in diabetic retinopathy
Int Ophthalmol 2023 .10
- 9) Hanazaki H, Yokota H, Yamagami S, Nakamura Y, Nagaoka T*
The Effect of Anti-Autotaxin Aptamers on the Development of Proliferative Vitreoretinopathy
Int J Mol Sci 2023 .11
- 10) Hirohito Iimori, Sachiko Nishina, Osamu Hieda, Toshiaki Goseki , Noriko Nishikawa, Sadao Suzuki , Akiko Hikoya, Miwa Komori, Hiroko Suzuki, Tomoyo Yoshida, Shion Hayashi, Takafumi Mori , Akiko Kimura, Takeshi Morimoto, Yukiko Shimizu, Takashi Negishi, Tamami Shimizu , Yoshimi Yokoyama, Yoshiko Sugiyama, Noriyuki Azuma,
Clinical presentations of acquired comitant esotropia in 5-35 years old Japanese and digital device usage: a multicenter registry data analysis study
Japanese Journal of Ophthalmology 2023 .11

- | | | | |
|---|--|------|---------|
| 11) 西川 典子, 蒔田 芳男,
青木 大芽, 柳 久美子,
要 匡 | AFG3L2 遺伝子の病的バ
リアントによる両眼視神
経萎縮 (OPA12) の 1 例 | 臨床眼科 | 2024.03 |
|---|--|------|---------|

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 宇都宮 嗣了	眼科診療エクレール 3 ド ライアイと涙道疾患ナビ ゲート	中山書店	2024.3

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会 等の名称	発表年月
1) 西川典子	プリズム治療で治癒した 周期性内斜視の 1 例 (仮)	第 79 回日本弱視斜 視学会総会 第 48 回日本小児眼科学 会総会 合同学会	2023.6
2) 西川典子	AFG3L2 遺伝子変異によ る両眼視神経萎縮 (OPA12) の 1 例	第 77 回日本臨床眼 科学会	2023.10

Ⅶ. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 長岡 泰司	継続	基盤研究 (C)	ナノ粒子点眼による糖尿病網膜症に対する新規低侵襲治療法の確立
2) 宋 勇錫	再延長	若手研究	ドップラ光干渉断層計網膜血流計による大動脈弁狭窄症の新たなスクリーニング法の確立
3) 高橋 賢伍	再延長	若手研究	敵対的生成ネットワークを応用した光干渉断層血管撮影アーチファクト除去システム開発
4) 善岡 尊文	再延長	若手研究	質量分析イメージングによる水晶体硫黄代謝機構の解明
5) 神谷 隆行	再々延長	若手研究	眼循環、眼循環調節因子を用いた新規緑内障評価、治療法の確立
6) 宇都宮 嗣了	再々延長	若手研究	眼表面摩擦関連疾患における角膜上皮細胞アンギオポエチン様蛋白4の役割解明

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

Department of Otorhinolaryngology- Head
and Neck Surgery

I. 所属教員等

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教 授 高原 幹
准 教 授 林 達哉 (兼務)
講 師 大原 賢三
講 師 熊井 琢美
助 教 林 隆介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講 師 岸部 幹
助 教 山木 英聖
助 教 小松田 浩樹

II. 研究業績紹介

旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座では、扁桃病巣疾患の病態解明、頭頸部癌における免疫動態の解明および新規免疫療法の構築、アレルギー性上気道疾患の病態解析を中心に研究活動を行っている。2023年度は Brachyury という分化に寄与するタンパクに着目し、このタンパクが頭頸部癌に高発現していることを明らかにした (Yamaki et al, Cancer Immunology Immunotherapy)。このタンパクから抗腫瘍 T 細胞を活性化するエピトープを同定し、Brachyury 標的ペプチドワクチンの基盤を確立すると同時に、シスプラチンやゲムシタビンといった殺細胞性抗癌剤が MHC 発現の上昇を介して T 細胞応答を賦活化することを見出した。2024年度に向けて、低酸素環境における頭頸部癌への免疫応答や、鉄依存性細胞死が抗腫瘍免疫に及ぼす影響について有望な結果を得ており、次年度に英文で報告する予定である。本年度は稀少癌である甲状腺未分化癌の細胞株樹立に成功しており、その増殖シグナルなどについて、次年度以降に報告していく。さらに、通常の T 細胞応答で共刺激分子として考えられている CD27/CD70 シグナルが、鼻性 NK/T 細胞リンパ腫の増殖に寄与していることも、本年度明らかとした発見である

(Nagato et al. Cancer Immunology Immunotherapy)。

アレルギー分野ではアレルギーに曝露された上皮細胞が神経伝達物質を介して、Th2 型免疫応答を惹起することを明らかにした (Hayashi et al. The Journal of Allergy and Clinical Immunology)。この発見はアレルギー性炎症と神経という領域の橋渡しとなる興味深い知見であると同時に、抗コリン薬のアレルギー性鼻炎などへの応用を示唆するものである。この他にも、10 本以上の臨床報告および数本の腫瘍免疫に関する創設を英文で報告しており、広く国際社会の医学発展に貢献していることが期待される。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 林 達哉	耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の周術期感染症予防対策 外科手術と感染症、II 各論、11 耳鼻科	外科	2023.4
2) 林 達哉	急性中耳炎の鑑別診断 みみを診る—鑑別診断のポイントと治療戦略—	ENTONI	2023.5
3) 林 達哉	用語解説 modified Killian 法	日気食会報	2023.10
4) 片田彰博	特集主題：みみ・はな・のどの“つまり” 対応 7. はなの“つまり”：客観的評価法	ENTONI	2023.10
5) 坂東伸幸	全身疾患と口腔咽頭病変 アレルギー,免疫異常 扁平苔癬	JOHNS	2023.7
6) 高原 幹, 林 達哉	口内炎/難治性口腔咽頭潰瘍 耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル、5 口腔・咽喉頭の感染症/炎症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2023.4
7) 高原 幹	主題 知っておくべき口腔・咽喉頭病変 口腔・咽喉頭領域における非腫瘍性病変の内視鏡的特徴 頭頸部科医の立場から	胃と腸	2023.9
8) 高原 幹	ビデオセミナー 4 当科における甲状腺腫瘍への内視鏡補助下甲状腺手術の実際	日気食会報	2023.4
9) 高原 幹	特集：大人と子どもの首の腫れ 悪性リンパ腫	ENTONI	2023.11
10) 岸部 幹	学術 ANCA 関連血管炎性中耳炎の診断と治療	北耳報	2023.11
11) 熊井琢美	知っておくべきアレルギー・免疫の知識 がん免疫におけるチェックポイント分子	ENTONI	2024.1

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Bandoh,N., Kubota,A., Takeda,R., Sakaue,S., Goto,T., Baba,S., Hashiba,N., Kato,Y., Nishihara,H.	Renal cell carcinoma metastasizing to the cricoid cartilage presenting with subglottic stenosis: A case report and literature review	Ear Nose Throat J	2023.5

- 2) Bandoh,N., Goto,T., Kato,Y., Kubota,A., Sakaue,S., Takeda,R., Hayashi,A., Hayashi,M., Baba,S., Yamaguchi-Isochi,T., Nishihara,H., Kamada,H. BRAF V600E mutation co-existing with oncogenic mutations is associated with aggressive clinicopathologic features and poor prognosis in papillary thyroid carcinoma Asian J Surg 2024.1
- 3) Takahara,M., Sabusawa,T., Ohara,K., Katada,A., Hatashi,T., Harabuchi,Y. Treatment outcomes of sialendoscopy for submandibular gland sialolithiasis Auris Nasus Larynx 2023.10
- 4) Nagato,T., Komatsuda,H., Hayashi,R., Takahara,M., Kishibe,K., Yasuda,S., Yajima,Y., Kosaka,A., Ohkuri,T., Oikawa,K., Harabuchi,S., Kono,M., Yamaki,H., Wakisaka,R., Hirata-
Nozaki,Y., Ohara,K., Kumai,T., Katada,A., Hayashi,T., Harabuchi,Y., Kobayashi,H. Expression of soluble CD27 in extranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type: potential as a biomarker for diagnosis and CD27/CD70-targeted therapy. Cancer Immunology Immunotherapy 2023.7
- 5) Kenzo,Ohara., Treatment outcomes of Braz J 2023.5

- Miki, Takahara., alternating
Takumi, Kumai., chemoradiotherapy for
Masaaki, Yamashina., nasopharyngeal carcinoma:
Kan, Kishibe., a single-center safety and
Akihiro, Katada., efficacy study
Tatsuya, Hayashi.
- 6) Kumai, T., Inoue, T., An Otogenic Variant of
Sakaue, S., Ohara, K., Lemierre's Syndrome
Takahara, M. Caused by *Trueperella
bernardiae*: A Case Report
and Literature Review
- 7) Yamaki, H., Brachyury-targeted
Kono, M., immunotherapy combined
Wakisaka, R., with gemcitabine against
Komatsuda, H., head and neck cancer.
Kumai, T.,
Hayashi, R., Sato, R.,
Nagato, T.,
Ohkuri, T.,
Kosaka, A., Ohara, K.,
Kishibe, K.,
Takahara, M.,
Hayashi, T.,
Kobayashi, H.,
Katada, A.
- 8) Hayashi, R., Cholinergic Sensing of
Srisomboon, Y., Allergen Exposure by
Iijima, K., Maniak, P., Airway Epithelium
Tei, R., Promotes Type 2 Immunity
Kobayashi, T., in the Lungs
Matsunaga, M.,
Luo, H., Masuda, M.,
O'Grady, S., Kita, H.
- 9) Ominato, H., Cervical Emphysema and
Komabayashi, Y., Pneumomediastinum
Suzuki, S., Kunibe, I. Caused by a Nasogastric
- Otorhinolaryngol
- Cureus 2023.8
- Cancer 2023.8
Immunology
Immunotherapy
- The Journal of 2024.3
Allergy and Clinical
Immunology
- Am J Case Rep 2023.6

- Tube: A Case Report
- 10) Ominato,H., Komabayashi,Y. Man with pharyngeal discomfort and dysphagia Am Coll Emerg Physicians Open 2023.6
 - 11) Shuto,Hayashi., Takumi,Kumai., Kan,Kishibe., Miki,Takahara., Akihiro,Katada., Tatsuya,Hayashi. Internal carotid artery dissection caused by elongated styloid process Auris Nasus Larynx 2023.10
 - 12) Shuto,Hayashi., Takumi,Kumai., Tomohiko,Michizuka., Takashi,Osaki. Thyroid metastasis from cervical carcinoma Brazilian Journal of Otorhinolaryngology 2023.7
 - 13) Tsuda,T., Suzuki,M., Kato,Y., Kidoguchi,M., Kumai,T., Fujieda,S., Sakashita,M. The current findings in eosinophilic chronic rhinosinusitis Auris Nasus Larynx 2024.2
 - 14) Komatsuda H, Kono M, Wakisaka R, Sato R, Inoue T, Kumai T, Takahara M. Harnessing Immunity to Treat Advanced Thyroid Cancer. Vaccines (Basel). 2023.10
 - 15) Ominato H, Ota R, Kumai T, Takahara M. A woman with massive epistaxis. J Am Coll Emerg Physicians Open. 2023.10
 - 16) Inoue T, Kumai T, Yoshizaki T, Takahara M. Lipoma Arising in the Eustachian Tube. Cureus. 2024.3
 - 17) Sato R, Yamaki H, Komatsuda H, Wakisaka R, Inoue T, Kumai T, Takahara M. Exploring Immunological Effects and Novel Immune Adjuvants in Immunotherapy for Salivary Gland Cancers. Cancers (Basel). 2024.3
 - 18) Hayashi S, Kumai T, Kishibe K, Takahara Internal carotid artery dissection caused by Auris Nasus Larynx. 2023.10

- M, Katada A, Hayashi T. elongated styloid process.
- 19) Kono M, Wakisaka R, Komatsuda H, Hayashi R, Kumai T, Yamaki H, Sato R, Nagato T, Ohkuri T, Kosaka A, Ohara K, Kishibe K, Kobayashi H, Hayashi T, Takahara M. Immunotherapy targeting tumor-associated antigen in a mouse model of head and neck cancer. Head Neck. 2024.2
- 20) Ominato H, Komabayashi Y, Suzuki S, Kunibe I, Kumai T, Takahara M. Hypopharyngeal Diffuse Large B-Cell Lymphoma in a 74-Year-Old Man Presenting with Dysphagia: A Case Report. Am J Case Rep. 2023.10
- 21) Ohara K, Katada A, Kumai T, Ominato H, Hirata-Nozaki Y, Sabusawa T, Yamaki H, Kono M, Komatsuda H, Wakisaka R, Takahara M, Hayashi T, Harabuchi Y. Central-part laryngectomy after laryngotracheal separation to manage pharyngocutaneous fistula: A case report and retrospective analysis of 12 cases. Auris Nasus Larynx. 2023.8
- 22) Inoue T, Kumai T, Ohara K, Takahara M. Cerebral Infarction as a Rare Adverse Event of Immune Checkpoint Inhibitors in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma: A Case Series. Cureus. 2023.10
- 23) Sato R, Yuasa R, Kumai T, Wakisaka R. Efficacy of Cetuximab Combined with Paclitaxel in Otorhinolaryngol. 2024.1

R, Komatsuda H, Patients with Recurrent Relat Spec.
 Kono M, Yamaki H, Salivary Gland Carcinoma:
 Ishida Y, Wada T, A Retrospective
 Takahara M, Katada Observational Study.
 A.

- 24) 深見達弥, 近本 亮, 国立大学附属病院における 医療の質・安全学 2023.10
 林 達哉, 大徳和之, 全死亡事例把握に関するア 会誌
 大友千賀, 前田光男, シンケート結果
 嶋田沙織, 田中和美,
 岡本博幸, 森下幸治,
 荒神裕之, 松本早苗,
 森山秀樹, 森岡浩一,
 北野文将, 生野芳博,
 中村京太, 小林和幸,
 小沼利光, 渡谷祐介,
 吉松裕子, 原田直樹,
 鈴木 純, 川勝美樹,
 江本晶子, 安田ちえ,
 小田浩美
- 25) 林 秀斗, 熊井 琢美, 高悪性度耳下腺癌を呈した 耳鼻咽喉科臨床 2024.3
 岸部 幹, 高原 幹, 片 脱分化型上皮筋上皮癌例
 田 彰博, 林 達哉

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 林 達哉	プラクティス 耳鼻咽喉科の臨床 3、 耳鼻咽喉科薬物治療ベッドサイドガ イド クリンダマイシンの効果的な 使い方	中山書店	2023.1
2) 林 達哉	最新ガイドラインに基づく耳鼻咽喉 科疾患診療指針 2024-'25 1. 小児急 性中耳炎	総合医学社	2023.11
3) 片田彰博	最新ガイドラインに基づく耳鼻咽喉 科疾患診療指針 2024-'25 咽喉頭異 常感症と胃食道逆流症 (GERD)	総合医学社	2023.11
4) 保富宗城, 柳原克記,	気道感染症の抗菌薬適正使用に關す	杏林社	2023.8

石和田稔彦, 伊藤真 著 提言 (改訂版) (ダイジェスト
 人, 大石智洋, 賀来敬 版)
 仁, 小宮幸作, 進藤有
 一郎, 林 達哉

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 林 達哉	抗菌薬適正使用セミナー[領域講習] 抗菌薬適正使用の実践:実際の対応と次の一手	第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
2) 林 達哉	ランチョンセミナー5:改訂!小児急性中耳炎診療ガイドライン	第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
3) 林 達哉	その抗菌薬選択間違っていますか? 不適切な選択のリスクと適正使用のポイント	神戸地区耳鼻咽喉科医会学術講演会・臨床セミナー	2023.7
4) 林 達哉	教育講演2:目で診る!口腔咽頭病変	第36回日本口腔・咽頭科学会	2023.9
5) 林 達哉	Lunchon Seminar1:小児急性中耳炎診療ガイドライン改訂に関する最新情報	第18回日本小児耳鼻咽喉科学会	2023.1
6) 林 達哉	小児急性中耳炎診療の展開と応用—ガイドライン改定から見る抗菌薬適正使用の方向性—	第203回日本耳鼻咽喉科頭頸部学会青森県地方部会	2023.1
7) 林 達哉	AMR対策と上気道感染症:幸せな関係性構築のための作法	第2回三重県感染対策支援ネットワークAMR研究会	2023.1
8) 片田彰博	鼻腔生理学フォーラム:鼻腔通気度とAcoustic Rhinometry—海野徳二先生を偲んで—	第62回日本鼻科学会	2023.9
9) 片田彰博	領域講習7:慢性咳嗽~耳鼻咽喉科における対応~ 喉頭	第37回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科	2023.1

10) 高原 幹	アレルギーと GERD 教育講演：口腔咽頭良性病変を診る	学会秋季大会 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2023.5
11) 高原 幹	扁桃病巣疾患診療の手引き	令和 5 年度愛知県耳鼻咽喉科医会生涯教育講座	2023.1
12) 高原 幹	専攻医講習：専門医認定試験過去問解説講座 2 「口腔・咽頭領域」	第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	2023.1
13) 岸部 幹	領域講習 11：難治性中耳炎の診断と治療 ANCA 関連血管炎性中耳炎と鑑別疾患	第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	2023.1
14) 熊井琢美	論文の書き方 目標雑誌選択・査読への対応	第 2 回頭頸部癌サマースクール	2023.6
15) 林 隆介	帰朝報告：アリゾナ留学記	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会学術講演会	2023.8
16) 林 隆介	気道炎症におけるアセチルコリンと ATP の役割	リフヌア発売 1 周年記念講演会 in 旭川	2023.9
17) 原渕翔平	帰朝報告：フィラデルフィア市/ペンシルベニア大学	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会学術講演会	2023.8
18) 脇坂理紗	聞こえの仕組みと聴覚障害・聴覚補償・聴覚障害者コミュニケーション	旭川中途失聴者協会 要約筆記を学ぶ会	2023.5
19) 熊井琢美	旭川医科大学学術研究表彰記念講演：頭頸部癌による免疫逃避メカニズムの解明 および革新的免疫療法の開発	2023 年度旭川医科大学研究フォーラム	2024.1
20) 熊井琢美	病診連携から見たデュピクセントの位置づけ	CRSwNP 多様な治療選択肢について考える	2024.3
21) 林 達哉	会長企画 1 「仮想実現(VR)に挑戦：メタバース内で手	第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー	2023.4

	術カンファレンス;医療画像をVRを用いて多施設共有する試み	一感染症学会	
22) 高原 幹, 脇坂理紗, 片田彰博, 林達哉, 原渕保明	企画セッション「ミステリアスな扁桃にせまる」 IgA 腎症扁桃における CXCR3 の検討	第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
23) 高原 幹	シンポジウム 2: 「病巣感染から考える乾癬関連疾患」耳鼻咽喉科から見る扁桃を病巣とした皮膚疾患	第 38 回日本乾癬学会	2023.8
24) 高原 幹	SpA シンポジウム: 「掌蹠膿疱症性骨関節炎を横断的に考える」	第 32 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会	2023.8
25) 岸部 幹	シンポジウム 2: 上気道の難治性疾患病態～non-Type2 炎症を中心として～多発血管炎性肉芽腫症の鼻・副鼻腔病変 病態とその対応	第 62 回日本鼻科学会	2023.9
26) 大原賢三, 林 隆介, 熊井琢美	JSA WAO2020 ミニシンポジウムセッション 3: シラカバアレルギーモデルマウスによる花粉食物アレルギー症候群 PFAS の病因解明	第 72 回日本アレルギー学会学術大会	2023.1
27) 熊井琢美	企画セッション: 上咽頭擦過治療(EAT)の可能性	第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
28) 熊井琢美	掌蹠膿疱症(PPP)/掌蹠膿疱症性骨関節炎(PAO)の啓発普及と征圧めざして: 耳鼻咽喉科領域からみた掌蹠膿疱症(PPP)	第 1 回伊勢志摩難病シンポジウム	2023.1
29) 河野通久	Live 留学 2: 頭頸部がん腫瘍免疫研究 in Boston	第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
30) 林 隆介	シンポジウム 3: 鼻科領	第 62 回日本鼻科学会	2023.9

	域の基礎的な未解決問題に挑む 上気道炎症に神経系はどのように関わるのか?	学会	
31) 佐藤遼介, 高原 幹, 林 達哉	唾液腺扁平上皮癌の治療成績	第 27 回北日本頭頸部癌治療研究会	2023.1
32) Hayashi R., Iijima K., Kobayashi T., Matsunaga M., Tei R., Kita H.	The Network of Epithelial Cells and ILC2s Involving Acetylcholine and Muscarinic Receptors Promote Type 2 Immune Responses to Inhaled Allergen	American Academy of Allergy, Asthma & Immunology Annual Meeting	2023.2
33) Michihisa Kono, Shin Saito, Geoff Ivison, Ayano Kondo, Aaron Mayer, Jonathan D Schoenfeld, Ann Marie Egloff, Ravindra Uppaluri	Tissue-resident memory CD8+ T cells correlate with anti-PD-1 response in head and neck cancer and expand upon cDC1 activation in tumor-draining lymph nodes to overcome PD-1 resistance	American Association for Cancer Research-American Head and Neck Cancer society Head and Neck Cancer Conference	2023.2
34) Ryota Yuasa, Takumi Kumai, Akihiro Katada	Management of Bilateral Vocal Fold Paralysis with Laterofixation	East Asian Conference on Phonosurgery (EACP 2023)	2023.2
35) 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	咽頭粘膜弁で再建を行なった中咽頭上壁癌の 1 例	第 32 回日本頭頸部外科学会	2023.1
36) 林 秀斗, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	内頸動脈解離をきたした茎状突起過長症の 1 例	第 32 回日本頭頸部外科学会	2023.1
37) 井上貴博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田彰博	免疫チェックポイント阻害薬投与後に脳梗塞をきたした頭頸部扁平上皮癌の 2 例	第 32 回日本頭頸部外科学会	2023.1
38) 林 美咲, 片田彰博	重症心身障害児 (者) に対する誤嚥防止手術の検討	第 46 回日本嚥下医学会	2023.3

39)	小口亜莉沙, 石井秀幸	喉頭に発生した顆粒細胞腫の2例	第35回日本喉頭科学会	2023.3
40)	竹田龍平, 坂上翔大, 後藤 孝, 坂東伸幸	輪状軟骨に転移を認めた腎細胞癌の1例	第35回日本喉頭科学会	2023.3
41)	國部 勇, 鈴木詩織, 大湊久貴, リボ蛋白, 阿	当科における痙攣性発声障害症例の検討	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
42)	藤原智貴, 太田亮	当科における嚥下内視鏡検査と摂食機能訓練に関する臨床的検討	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
43)	久保田瑛進, 上村明寛	内反性乳頭腫の同時発生が見られた呼吸上皮腺腫様過誤腫の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
44)	大湊久貴, 鈴木詩織, 駒林優樹, 國部勇	経鼻胃管による頸部・縦隔気腫の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
45)	中村基角, 久保田圭一	動眼神経麻痺と視力障害を認めた蝶形骨洞アスペルギルス症の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
46)	井上貴博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原幹, 林 達哉, 片田彰博	COVID-19感染後に低Ca血症をきたした甲状腺全摘術後の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
47)	坂上翔大, 坂東伸幸, 竹田龍平, 後藤孝	特発性輪状咽頭嚥下困難症の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
48)	竹田龍平, 坂上翔大, 後藤 孝, 坂東伸幸	前立腺癌が頸部リンパ節転移をきたした症例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
49)	林 秀斗, 道塚智彦, 大崎隆士	子宮頸癌甲状腺転移の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
50)	湯浅諒汰, 石田芳也, 和田哲治	頸部リンパ節腫脹をきっかけに判明した梅毒の2例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3
51)	齋藤日香里, 熊井琢美, 井上貴博, 原	COVID-19罹患後に認めた縦隔腫瘍の1例	第227回日耳鼻北海道地方部会	2023.3

	<p>測翔平, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達 哉, 片田彰博</p>			
52)	<p>林 美咲, 熊井琢 美, 大原賢三, 岸部 幹, 高原 幹, 片田 彰博, 林 達哉</p>	<p>当科における鼻副鼻腔血管奇 形症例の検討</p>	<p>第 227 回日耳鼻北 海道地方部会</p>	<p>2023.3</p>
53)	<p>宮越 薫, 熊井琢 美, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田 彰博</p>	<p>Marine-Lenhart 症候群(LMS) の 1 例</p>	<p>第 227 回日耳鼻北 海道地方部会</p>	<p>2023.3</p>
54)	<p>有馬涼太, 荒木大 輔, 関根一郎, 吉崎 智貴</p>	<p>気管分岐異常を伴った喉頭結 核の 1 例</p>	<p>第 227 回日耳鼻北 海道地方部会</p>	<p>2023.3</p>
55)	<p>泉谷優斗, 熊井琢 美, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田 彰博</p>	<p>涙道に発生した悪性リンパ腫 の 2 例</p>	<p>第 227 回日耳鼻北 海道地方部会</p>	<p>2023.3</p>
56)	<p>大原賢三, 熊井琢 美, 山木英聖, 脇坂 理紗, 高原 幹, 片 田彰博, 林 達哉</p>	<p>洗剤中の界面活性剤は気道上 皮細胞からの IL-33 放出を介 し late phase で 2 型炎症を 惹起する</p>	<p>第 3 回日本耳鼻咽 喉科免疫アレルギー ー感染症学会</p>	<p>2023.4</p>
57)	<p>熊井琢美, 河野通 久, 山木英聖, 小松 田浩樹, 脇坂理紗, 林 隆介, 大原賢 三, 高原 幹, 片田 彰博, 林 達哉</p>	<p>腫瘍関連抗原を標的とした Syngenic 頭頸部癌ワクチンモ デルの開発</p>	<p>第 3 回日本耳鼻咽 喉科免疫アレルギー ー感染症学会</p>	<p>2023.4</p>
58)	<p>山木英聖, 熊井琢 美, 脇坂理紗, 小松 田浩樹, 大原賢三, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉</p>	<p>Brachyury 特異的 CD4 陽性 T 細胞の誘導と抗腫瘍応答性</p>	<p>第 3 回日本耳鼻咽 喉科免疫アレルギー ー感染症学会</p>	<p>2023.4</p>
59)	<p>林 隆介, 片田彰 博, 林 達哉, 紀太</p>	<p>奨励賞応募演題 1 : 気道上皮 におけるアセチルコリン-ム</p>	<p>第 3 回日本耳鼻咽 喉科免疫アレルギー</p>	<p>2023.4</p>

	博仁, 原測保明	スカリン受容体経路はアレルギー誘発性2型免疫応答を促進する	一感染症学会	
60)	小松田浩樹, 熊井琢美, 山木英聖, 林隆介, 脇坂理紗, 大原賢三, 長門利純, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林達哉	ペプチドワクチン療法におけるMEK阻害薬併用効果の検討	第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
61)	脇坂理紗, 熊井琢美, 佐藤遼介, 小松田浩樹, 山木英聖, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	低酸素環境を標的とした頭頸部癌免疫療法の開発	第3回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
62)	大原賢三, 野村研一郎, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 哉	内視鏡補助下甲状腺手術中に反回神経即時吻合を行った1例	第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2023.5
63)	小松田浩樹, 熊井琢美, 佐藤遼介, 脇坂理紗, 山木英聖, 長門利純, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林達哉	頭頸部癌におけるPEG10の機能解析	第124回日本頭頸部癌学会	2023.5
64)	高原幹, 大原賢三, 熊井琢美, 岸部幹, 片田彰博, 林達哉	当科における上咽頭癌の治療成績	第47回日本頭頸部癌学会	2023.6
65)	熊井琢美, 脇坂理紗, 大原賢三, 高原 幹, 林達哉, 片田彰博	有効な頭頸部癌免疫療法を目指したワクチンプロトコルの検討	第47回日本頭頸部癌学会	2023.6
66)	脇坂理紗, 熊井琢美, 大原賢三, 高原 幹, 林達哉, 片田彰博	頭頸部癌の増殖および腫瘍免疫におけるフェロトーシスの影響について	第47回日本頭頸部癌学会	2023.6

67) 林 秀斗, 道塚智彦, 大崎隆士	前頸部に発生した Myxoinflammatory fibroblastic sarcoma の 1 例	第 47 回日本頭頸部癌学会	2023.6
68) 大湊 久貴, 駒林 優樹, 國部 勇	経鼻胃管による頸部・縦隔気腫の 1 例	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会	2023.6
69) 井上貴博, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田 彰博	COVID-19 感染後に低 Ca 血症をきたした甲状腺全摘術後の 1 例	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会	2023.6
70) 坂上翔大, 坂東伸幸, 竹田龍平, 後藤 孝	特発性輪状咽頭嚥下困難症の 1 例	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会	2023.6
71) 有馬涼太, 荒木大輔, 関根一郎, 吉崎 智貴	気管分岐異常を伴った喉頭結核の 1 例	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会	2023.6
72) 泉谷優斗, 熊井琢美, 高原 幹, 岸部 幹, 林 達哉, 片田 彰博	涙道に発生した悪性リンパ腫の 1 例	第 85 回耳鼻咽喉科臨床学会	2023.6
73) 竹田龍平	右耳下腺に発生したメルケル細胞癌の 1 例	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	2023.8
74) 齋藤日香里, 原淵 翔平, 駒林優樹, 國部 勇	当科における両側扁桃周囲膿瘍症例の検討	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	2023.8
75) 林 美咲, 坂東伸幸, 林 秀斗, 後藤 孝	当科で経験した耳下腺分泌癌の 2 例	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	2023.8
76) 宮越 薫, 藤原智貴, 石田芳也, 和田 哲治	肺癌の舌根部転移を来した 2 症例	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	2023.8
77) 有馬涼太, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田 彰博	顔面神経麻痺・難聴・複視を契機に子宮体癌髄膜転移と診断された 1 例	第 24 回旭川医大耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	2023.8
78) 泉谷優斗	高度肥満心不全症例に対して	第 24 回旭川医大	2023.8

	輪状軟骨切開後に気管孔閉鎖術を施行した1例	耳鼻咽喉科同門会 学術講演会	
79) 高原 幹, 寒風澤 知明, 大原賢三, 片 田彰博, 林 達哉	当科における唾液腺内視鏡を用いた顎下腺唾石摘出術の検討	第36回日本口腔・咽頭科学会	2023.9
80) 熊井琢美, 佐藤遼 介, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	IgA腎症扁桃におけるTLR9リガンド刺激によるTh17型サイトカイン産生について	第36回日本口腔・咽頭科学会	2023.9
81) 佐藤遼介, 熊井琢 美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博, 林 達哉	IgA腎症に対する口蓋扁桃摘出術単独とステロイドパルス併用療法における治療成績	第36回日本口腔・咽頭科学会	2023.9
82) 竹田龍平, 佐藤遼 介, 林 隆介, 山木 英聖, 大原賢三, 熊 井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰 博, 林 達哉	右耳下腺に発生したメルケル細胞癌の1例	第36回日本口腔・咽頭科学会	2023.9
83) Yamaki Hidekiyo, Takumi Kumai, Risa Wakisaka, Hiroki Komatuda, Michihisa Kono, Ryusuke Hayashi, Kenzo Ohara, Toshihiro Nagato, Akemi Kosaka, Takayuki Ohkuri, Kan Kishibe, Miki Takahara, Hiroya Kobayashi	Antitumor effect of Brachyury-specific T cells in squamous cell carcinoma of the head and neck	第82回日本癌学会	2023.9
84) Hiroki Komatsuda, Toshihiro Nagato, Takumi Kumai, Kenzo Ohara,	PEG10 is a potential target for cancer-specific immunotherapy in Head and Neck Cancer	第82回日本癌学会	2023.9

- Hidekiyo Yamaki,
Akemi Kosaka,
Takayuki Ohkuri,
Hiroya Kobayashi
- 85) Risa Wakisaka, Targeting hypoxia-related 第 82 回日本癌学 2023.9
Takumi Kumai, immunogen in head and neck 会
Hiroki Komatsuda, cancer
Hidekiyo Yamaki,
Kenzo Ohara,
Hiroya Kobayashi,
Akihiro Katada
- 86) 林 隆介, 佐藤遼 気道上皮細胞におけるアセチ 第 25 回日本咳嗽 2023.9
介, 脇坂理紗, 小松 ルコリンは ATP を介してア 学会
田浩樹, 寒風澤知 レルゲン誘発性 2 型免疫応答
明, 山木英聖, 大原 を促進する
賢三, 熊井琢美, 岸
部 幹, 高原 幹,
林 達哉, 片田彰
博
- 87) 長門利純, 小松田 鼻性 NK/T 細胞リンパ 腫に 第 62 回日本鼻科 2023.9
浩樹, 林 隆介, 高 おける可溶性 CD27 の発現と 学会
原 幹, 岸部 幹, ハ イオマーカーとしての可
野崎 結, 大原賢 能性
三, 熊井琢美, 片田
彰博, 林 達哉, 原
渕保明
- 88) 熊井琢美, 林 隆 当科における好酸球性副鼻腔 第 62 回日本鼻科 2023.9
介, 大原賢三, 岸部 炎の検討 学会
幹, 高原 幹, 林
達哉, 片田彰博
- 89) 湯浅諒汰, 熊井琢 気管に発生した腺様嚢胞癌の 第 62 回日本鼻科 2023.9
美, 岸部 幹, 高原 左鼻腔転移と考えられた症例 学会
幹, 片田彰博, 林
達哉
- 90) 湯浅諒汰, 熊井琢 両側声帯麻痺に対し Ejnell 法 第 68 回日本音声 2023.1
美, 片田彰博 による声門開大術を施行した 言語医学会

7 症例の検討

91) 熊井琢美, 林 隆介, 大原賢三	当科における好酸球性副鼻腔炎の検討	第 4 回日本アレルギー学会北海道支部地方会	2023.1
92) 熊井琢美, 林 隆介, 大原賢三	当科における好酸球性副鼻腔炎の検討	第 72 回日本アレルギー学会学術大会	2023.1
93) 林 隆介, 大原賢三, 熊井琢美	アセチルコリンとムスカリン受容体が関与する気道上皮と ILC2 の新たなネットワークが 2 型免疫応答を促進する	第 72 回日本アレルギー学会学術大会	2023.1
94) 國部 勇	保険診療の注意点	北耳会全道合同研修会	2023.1
95) 荒木大輔, 北南和彦, 石井秀幸	上顎洞放線菌症の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
96) 大湊久貴, 太田 亮	大量出血をきたした腎細胞癌鼻腔転移の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
97) 中村基角, 道塚智彦, 大崎隆士	鼻内内視鏡下で摘出し得た上顎洞迷入智歯の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
98) 井上貴博, 関根一郎, 野崎 結, 吉崎智貴	耳管に発生した脂肪腫の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
99) 坂上翔大, 久保田圭一	WDT-UMP 相当の組織像を呈した甲状腺腫瘍の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
100) 林 秀斗, 坂東伸幸, 林 美咲, 後藤 孝	神経線維腫症 1 型に合併した顎下腺導管癌の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
101) 齋藤日香里, 原 潤翔平, 駒林優樹, 國部 勇	両側扁桃周囲膿瘍の 1 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
102) 林 美咲, 坂東伸幸, 林 秀斗, 後藤 孝	当科で経験した耳下腺分泌癌の 2 例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1
103) 宮越 薫, 石田芳也, 藤原智貴, 和田哲治	肺癌の舌根部転移を来した 2 症例	第 228 回日耳鼻北海道地方部会	2023.1

104)	有馬涼太, 熊井 琢美, 岸部 幹, 高 原 幹, 林 達哉, 片田彰博	顔面神経麻痺・難聴・複視を 契機に子宮体癌髄膜転移と診 断された1例	第228回日耳鼻北 海道地方部会	2023.1
105)	泉谷優斗, 大原 賢三, 高原 幹, 岸 部 幹, 林 達哉, 片田彰博	高度肥満心不全症例に対して 輪状軟骨切開後に気管孔閉鎖 術を施行した1例	第228回日耳鼻北 海道地方部会	2023.1
106)	岸部 幹, 小松 田浩樹, 金谷健史, 片田彰博	歩行障害、めまいを主訴に当 科を初診した肺癌髄膜播種に よる正常圧水頭症の1例	第82回日本めま い平衡医学会	2023.1
107)	岸部 幹, 吉田 尚弘, 片田彰博	日本耳科学会難治性中耳炎ワ ーキンググループによる ANCA 関連血管炎性中耳炎の 後追い調査聴覚予後, 予測	第33回日本耳科 学会	2023.1
108)	林 美咲, 坂東 伸幸, 林 秀斗, 後 藤 孝	外耳道扁平上皮癌を発症した Netherton 症候群の1例	第33回日本耳科 学会	2023.1
109)	有馬涼太, 熊井 琢美, 岸部 幹, 高 原 幹, 林 達哉, 片田彰博	顔面神経麻痺・難聴・複視を 契機に子宮体癌髄膜転移と診 断された1例	第33回日本耳科 学会	2023.1
110)	高原 幹, 片田 彰博, 林 達哉	当科における小児顎下腺唾石 症に対する唾液腺内視鏡を用 いた摘出術の検討	第18回日本小児 耳鼻咽喉科学会	2023.1
111)	竹田龍平, 寒風 澤知明, 熊井琢美, 岸部 幹, 高原 幹, 片田彰博	両鼻腔癒着により鼻腔狭窄を 来した小児例	第18回日本小児 耳鼻咽喉科学会	2023.1
112)	齋藤日香里, 熊 井琢美, 井上貴博, 原潤翔平, 岸部 幹, 高原 幹, 林 達哉, 片田彰博	COVID-19 罹患後に生じた 縦隔膿瘍の1例	第74回日本気管 食道科学会	2023.1
113)	泉谷優斗, 高原 幹, 岸部 幹, 林	高度肥満心不全症例に対して 輪状軟骨切開後に気管孔閉鎖	第74回日本気管 食道科学会	2023.1

	達哉, 片田彰博	術を施行した 1 例		
114)	石田芳也	パンデタニブが奏功した甲状腺髄様癌遠隔転移症例	第 66 回日本甲状腺学会	2023.1
115)	竹田龍平	両鼻腔癒着による鼻腔狭窄をきたした小児例	第 39 回旭川集談会	2023.1
116)	林 秀斗	神経線維腫症 1 型に合併した顎下腺導管癌の 1 例	第 39 回旭川集談会	2023.1
117)	林 美咲	外耳道扁平上皮癌を発症した Netherton 症候群の 1 例	第 39 回旭川集談会	2023.1
118)	有馬涼太	喉頭 spindle cell carcinoma の 2 症例	第 39 回旭川集談会	2023.1
119)	泉谷優斗	左耳下腺管の嚢胞状拡張を認めた 1 例	第 39 回旭川集談会	2023.1
120)	泉谷優斗, 高原幹, 大原賢三, 山木英聖, 林 隆介, 竹田龍平, 岸部 幹, 林 達哉	左耳下腺管の嚢胞状拡張を認めた 1 例	第 33 回日本頭頸部外科学会総会	2024.2
121)	林 秀斗, 坂東伸幸, 林 美咲, 後藤 孝	神経線維腫症 1 型に合併した顎下腺導管癌の 1 例	第 33 回日本頭頸部外科学会総会	2024.2

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採 択	種目	研究課題名
1) 原 洵 保明	継 続	基盤研究 (B)	鼻性 NK/T 細胞リンパ腫を治癒に導く複合的免疫療法の確立
2) 片田 彰博	継 続	基盤研究 (C)	機能的電気刺激による声帯の再運動化と喉頭機能の回復に関する研究
3) 野崎 結	継 続	若手研究	ROR1 を標的とした頭頸部癌に対する癌免疫療法
4) 寒風澤 知明	継 続	基盤研究 (C)	扁桃における糖鎖不全 IgA と T 細胞サブセットを中心とした IgA 腎症の病態解明
5) 高原 幹	新 規	基盤研究 (C)	扁桃病巣疾患における基礎的、臨床的エビデンスの構築

- | | | | |
|-----------|-----|----------|--|
| 6) 熊井 琢美 | 新 規 | 基盤研究 (C) | 頭頸部癌特異的 T 細胞を活用した複合型免疫療法の開発 |
| 7) 脇坂 理紗 | 新 規 | 基盤研究 (C) | TRK 阻害薬を用いた頭頸部癌およびその神経浸潤と免疫逃避に対する新規治療法の開発 |
| 8) 小松田 浩樹 | 継 続 | 基盤研究 (C) | 継続頭頸部癌免疫療法開発に向けた胎盤形成分子 PEG10 の発現・機能・癌抗原性解析 |
| 9) 大原 賢三 | 新 規 | 若手研究 | 花粉食物アレルギー症候群マウスモデルの作製と新規治療法の開発 |

産婦人科学講座

Department of Obstetrics and Gynecology

I. 所属教員等

産婦人科学講座

教授	加藤 育民
准教授	片山 英人
講師（学内）	市川 英俊
講師（学内）	金井 麻子

産科婦人科

講師	高橋 知昭
助教	中西 研太郎
助教	水無瀬 学
助教	宇津野 泰弘
助教	水無瀬 萌
助教	板橋 彩
病院助教	石川 雄大

II. 研究業績紹介

産婦人科学講座では、2023年度は英文論文3本、邦文論文2本を発表した。産科グループでは2022年度より科研費研究である妊産婦の骨格筋量と産後のメンタルヘルスの解明について研究を行っており、現在も継続して研究データを集積している。データが集まり次第学会や論文で発表予定である。近年、晩婚化、晩産化の影響で、出生前診断のニーズが高まっているが、産婦人科学講座では道北・道東の妊婦を中心に、精力的に出生前診断を行っており、出生前診断に関する学会発表や論文発表も行った。また、市立稚内病院と連携し、礼文島との遠隔妊婦健診を継続して行っているが、2年間の実績を英文論文で発表することができた。婦人科グループでは、HPVワクチン接種の勧奨再開にあたり、MSD 医学教育事業助成を獲得し、HPVワクチン接種の普及に取り組んでいる。2023年度は、大学職員や学生を対象とした集団接種を行い、HPVワクチン接種率の向上に貢献したと考える。婦人科では臨床業務が多忙でなかなか研究に時間を割くことができていないが、学会発表は積極的に行っている。大学院については、2名の大学院生がおり、2023年9月に大学院を早期修了する医師が1名いた。もう1名は研究成果を英文論文として発表することができた。今後も、道北・道東の産婦人科医療を守りながら、研究活動も活発に行っていく予定である。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

- | | | | | |
|----|---|--|--|---------|
| 1) | Yuta Ishikawa, Kentaro
Nakanishi, Ai
Tsumura, Koji
Murakami, Kunihiko
Nishiwaki | Early abdominal wall
ectopic pregnancy treated
with laparoscopic surgery:
A case report and literature
review. | The journal of
obstetrics and
gynaecology
research. | 2023.7 |
| 2) | Yuta Ishikawa, Kentaro
Nakanishi, Akio
Masuda, Misa
Hayasaka, Ai
Tsumura, Koji
Murakami,
Takeshi Umazume,
Tetsuzou Masuda,
Kunihiko Nishiwaki,
and Yasuhito Kato | Telemedicine for Pregnant
Women on a Japanese
Remote Island: A Two-year
Report | JMA Journal | 2023.10 |
| 3) | Yasuhiro Utsuno
Keisuke Hamada Kohei
Hamanaka Keita
Miyoshi Keiji
Tsuchimoto Satoshi
Sunada Toshiyuki Itai
Masamune Sakamoto
Naomi Tsuchida Yuri
Uchiyama Eriko
Koshimizu Atsushi
Fujita Satoko Miyatake
Kazuharu Misawa
Takeshi Mizuguchi
Yasuhito Kato Kuniaki
Saito Kazuhiro Ogata
Naomichi Matsumoto | Novel missense variants
cause intermediate
phenotypes in the
phenotypic spectrum of
SLC5A6-related disorders. | Journal of
Human
Genetics. | 2023.11 |
| 4) | 竹内 肇、加藤 育民 | 症例報告『長期入院中のこ
むら返り(下腿筋けいれん)
に当帰芍薬散が奏功した切
迫早産妊娠の1例』 | 産婦人科漢方研
究のあゆみ | 2023.4 |

- 5) 横浜祐子、蒔田芳男、長屋 建、澤田 潤、加藤育民 『先天性筋強直性ジストロフィー1型の患児の確定診断をめぐり両親への対応に苦慮した事例
－根治的治療法がない疾患の発症前診断につながる可能性への配慮－』 遺伝子医学 2023.7

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 加藤 育民	HPV ワクチンの接種勧奨再開を迎えて～接種拡大のために、私たちは～	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5
2) Nakanishi Kentaro, Kato Yasuhito	Severity of low pre-pregnancy body mass index and perinatal outcomes : The Japan Environment and Children's Study	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5
3) Minase Gaku, Tsumura Ai, Takarada Kempei, Utsuno Yasuhiro, Sato Hisashi, Sengoku Kazuo, Minase Moe, Kato Yasuhito	Historic characteristics of chronic endometritis in patients with recurrent implantation failure and recurrent pregnancy loss	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5
4) 横浜祐子, 中西研太郎, 酒井美穂, 吉澤明希子, 金井麻子, 加藤育民	妊娠初期の膣分泌物細菌培養検査でB群溶血性レンサ球菌陽性者は妊娠後期に至るまで保菌しやすいのか	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5
5) 板橋彩, 加藤育民, 片山英人, 高橋知昭, 市川英俊, 上田あかね, 水崎恵, 竹内肇, 早坂美紗	HPV ワクチンキャッチアップ集団接種の取り組み	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5

6)	水崎恵, 片山英人, 竹内肇, 板橋彩, 上田あかね, 市川英俊, 高橋知昭, 上小倉佑機, 加藤育民	当施設で経験した卵巣カルチノイドの2症例	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.5
7)	金井麻子, 佐藤湊斗, 中西研太郎, 吉澤明希子, 横浜祐子, 加藤育民	今後の北海の周産期医療体制について～出生数・人口の推移から考察する	第20回北海道周産期談話会	2023.7
8)	金井麻子, 中西研太郎, 吉澤明希子, 横浜祐子, 加藤育民	産科出血に対して子宮動脈塞栓術を行った30例の検討	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023.7
9)	水崎恵	卵巣原発カルチノイドの3症例	第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2023.7
10)	市川英俊	転移性卵巣腫瘍で発見された小腸癌の1例	第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2023.7
11)	水無瀬学	旭川医科大学病院における妊孕性温存療法	北海道のがんと妊孕性温存を考える会	2023.8
12)	加藤育民	更年期女性に多い頭痛と喉のつまり感 ～漢方的に考える～	帯広十勝産婦人科医会学術講演会	2023.9
13)	市川英俊	子宮良性疾患に対し施行した腹腔鏡下子宮全摘術にて偶発的に診断されたSTICの一例	第63回日本産科婦人科内視鏡学会	2023.9
14)	中西研太郎	妊娠前の母体の健康と周産期予後との関連：エコチル調査より	第70回北日本産科・婦人科学会総会・学術講演会	2023.9
15)	金井麻子	妊娠初期の胎児超音波検査～妊娠11-13週にかける情熱～	第70回北日本産科・婦人科学会総会・学術講演会	2023.9

16) 加藤育民	HPV ワクチン接種率を高めるために～本学の取り組みから見えてくるもの～	第 61 回全国大学保健管理研究集会	2023.10
17) 加藤育民	来年に迫る「医師の働き方改革」～どうなる道内産婦人科医療～	第 100 回北海道産科婦人科学会・学術講演会	2023.10
18) 石川雄大、中西研太郎、吉澤明希子、金井麻子、横浜祐子、加藤育民	妊娠 22 週に発症した早発重症妊娠高血圧腎症の 1 例	第 100 回北海道産科婦人科学会・学術講演会	2023.10
19) 水無瀬萌、水無瀬学、酒井美穂、加藤育民	凍結融解胚移植後に生じた頸管妊娠の 1 例	第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会	2023.11
20) 横浜祐子	トリソミーと 9 トリソミー児の死産を連続した 1 例	第 25 回北海道出生前診断研究会	2023.12
21) 金井麻子	当学の非侵襲性出生前遺伝学的検査再開後の出生前診断数の推移	第 25 回北海道出生前診断研究会	2024.12
22) 水無瀬学、水無瀬萌、酒井美穂、津村亜依、加藤育民	非閉塞性無精子症候群患者の原因遺伝子同定の為の網羅的検索	第 66 回北海道生殖医学会総会・学術講演会	2024.2
23) 加藤育民	女性診療における統合医療～健康食品・サプリメントを考える～	神戸市産婦人科医学会 第 3 回学術講演会	2024.2
24) 金井麻子	遠隔妊娠検診と胎児スクリーニング外来の取り組み～胎児スクリーニングをやってみよう！～	北海道産婦人科臨床フォーラム「周産期の Sensitivity」	2024.2
25) 加藤育民	女性診療における統合医療～健康食品・サプリメントを考える～	第 261 回大分医師会 産婦人科論文検討会	2024.2

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 中西 研太郎	継続	基盤研究 (C)	妊産婦の骨格筋量が産後のメンタルヘルスに与える影響の解明

放射線医学講座

Department of Radiology

I. 所属教員等

放射線医学講座

教授	沖崎 貴琢
講師	山品 将祥
講師	中山 理寛
講師 (学内)	石戸谷 俊太
助教	大屋 明希子

放射線科

教授 (病院)	中島 香織
講師 (学内)	渡邊 尚史
助教	戸田 雅博
助教	野村 優里菜

II. 研究業績紹介

今年度は8編の論文発表があり、そのうち2編は医学博士の認定の際の主論文としても採用された。これらの中には、当講座単独の研究のみならず、学内他科や出張先の循環器内科とのコラボレーションの成果も含まれている。また、12編の学会発表も行われており、今後の研究の発展が期待される。

科研費は昨年同様に講師の中山、教授の沖崎の2名のみが継続で取得している。今後、科研費に関しても積極的に獲得を目指していきたいと考える。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の 名称	発行年月
1) 沖崎貴琢	遠隔画像診断の最新動向と未来 予測 ガイドライン作成にあ って	臨床画像	2024.2

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の 名称	発行年月
1) Shiro Miura, Atsutaka Okizaki, Hiraku Kumamaru, Osamu Manabe, Masanao Naya, Chihoko Miyazaki and Takehiro Yamashita	Interaction of impaired myocardial flow reserve and extent of myocardial ischemia assessed using ¹³ N-ammonia positron emission tomography imaging on a adverse cardiovascular outcomes	Journal of Nuclear Cardiology	2023.4
2) Takuma Goto, Hiroki Sato, Shugo Fujibayashi,	The Effectiveness of the Combination of Arterial Infusion	cancers	2023.5

- | | | | | |
|----|--|--|---|---------|
| | Tetsuhiro Okada,
Akihiro Hayashi,
Hidemasa Kawabata,
Sayaka Yuzawa, Syunta
Ishitoya, Masaaki
Yamashina and Mikihiro
Fujiya | Chemotherapy and Radiotherapy
for Biliary Tract Cancer: A
Prospective Pilot Study | | |
| 3) | Kenta Nomura,
Michihiro Nakayama,
Atsutaka Okizaki | Effects of apitherapy against
salivary gland disorder after
radioactive iodine therapy for
differentiated thyroid cancer | Annals of
Nuclear
Medicine | 2023.5 |
| 4) | Shohei Yoshida,
Tomoaki Nakata,
Masanao Naya, Mitsuru
Momose, Yasuyo
Taniguchi, Yoshimitsu
Fukushima, Masao
Moroi, Atsutaka
Okizaki, Akiyoshi
Hashimoto, Takatoyo
Kiko, Satoshi Hida,
Kazuya Takehana,
Kenichi Nakajima | Prognostic Implications of
Sarcoidosis Granulomas - Insights
From the Multicenter Registry, the
Japanese Cardiac Sarcoidosis
Prognostic Study - | Circulation
Reports | 2023.6 |
| 5) | Yuki Aoki, Michihiro
Nakayama, Kaori
Nakajima, Masaaki
Yamashina, Atsutaka
Okizaki | Comparison of pain-relieving
effects by number of irradiations,
through propensity score matching
and the international consensus
endpoint | Reports of
Practical
Oncology and
Radiotherapy | 2023.8 |
| 6) | Shiro Miura, Atsutaka
Okizaki, Osamu
Manabe, Chihoko
Miyazaki, Takehiro
Yamashita | Serial Quantitative Assessment of
Myocardial Blood Flow With ¹³ N-
Ammonia Positron Emission
Tomography in a Symptomatic
Patient With Tachycardia-Induced
Cardiomyopathy | Circulation :
Heart Failure | 2023.8 |
| 7) | Kenta Nomura,
Michihiro Nakayama,
Atsutaka Okizaki | Benefits of basil tea for patients
with differentiated thyroid cancer
during radioiodine therapy: A
randomized controlled trial | Heliyon | 2023.10 |
| 8) | Sadahiro Nakagawa,
Takahiro Uno, Shunta
Ishitoya, Eriko
Takabayashi, Akiko
Oya, Wakako Kubota,
Atsutaka Okizaki | Inter- and intra-rater reproducibility
of quantitative T1 measurement
using semiautomatic region of
interest placement in myometrium | PLOS ONE | 2024.1 |

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
-------	----	------------------	------

1)	渡邊尚史、石戸谷俊太、大屋明希子、戸田雅博、上條那緒子、野村優里菜、緒方美季、野村健太、上枝翔、沖崎貴琢	体内異物の画像診断	第 82 回日本医学放射線学会総会	2023.4
2)	中島香織、山品将祥、青木友希、沖崎貴琢	胸腺上皮腫瘍に対する放射線治療	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
3)	石戸谷俊太、藤谷淳、吉田一平、上枝翔、緒方美季、野村健太、野村優里菜、戸田雅博、大屋明希子、渡邊尚史、沖崎貴琢	FDG 高集積と腫大リンパ節を伴った直腸良性神経鞘腫の一例	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
4)	戸田雅博、石戸谷俊太、渡邊尚史、大屋明希子、野村優里菜、野村健太、上枝翔、吉田一平、藤谷淳、沖崎貴琢	肝臓や膵臓病変などの比較的稀な髄外病変を形成した多発性骨髄腫の一例	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
5)	大屋明希子、中山理寛、宇野貴寛、沖崎貴琢	骨シンチグラフィ検査における核医学画像解析ソフトウェアの検討	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
6)	沖崎貴琢	第 9 回全国核医学診療実態調査報告	第 63 回日本核医学会学術総会	2023.11
7)	野村健太、中山理寛、沖崎貴琢	甲状腺癌患者における放射性ヨード内用療法中の有効半減期に関する検討	第 63 回日本核医学会学術総会	2023.11
8)	川本晃史、鹿間直人、斉藤哲雄、高橋健夫、中村直樹、青山英史、中島香織、小泉雅彦、関井修平、江原威、清原浩	Quality Indicator を用いて緩和的放射線治療の質を評価した多機関共同研究	日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会	2023.11

樹、樋口啓子、萬篤
憲、西村岳、江島泰
生、大西洋

- 9) 野村健太、中山理寛、上枝翔、野村優里菜、大屋明希子、沖崎貴琢 当院における特別措置病室でのルテチウムオキソドトロチド(¹⁷⁷Lu)治療経験 第36回日本核医学会北海道地方会 2023.5
- 10) 窪田和加子、藤本弥臣、佐久間明洋、片田竜司、小野寺麻記子、杉浦千尋 耳下腺気腫の1例 第148回日本医学放射線学会北日本地方会 2023.6
- 11) 吉田一平、野村健太、渡邊尚史、石戸谷俊太、大屋明希子、戸田雅博、野村優里菜、緒方美季、上枝翔、藤谷淳、大竹晋、麻生和信、谷野美知枝、中山理寛、沖崎貴琢 肝腫瘍との鑑別を要した悪性腹膜中皮腫の一例 第148回日本医学放射線学会北日本地方会 2023.6
- 12) 野村健太、中山理寛、沖崎貴琢 I-131治療に伴う唾液腺機能障害に対し、バジルティを用いた予防効果の検討 第94回日本核医学会北日本地方会 2023.10

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 沖崎 貴琢	継続	基盤研究 (C)	胸部 X線写真上の全自動異常検出及び診断支援システムの開発
2) 中山 理寛	継続	基盤研究 (C)	脳内ドパミントランスポーターイメージにおける時短収集に伴う新たな定量解析法の開発

麻醉・蘇生学講座

Department of Anesthesiology and
Critical Care Medicine

I. 所属教員等

麻酔・蘇生学講座

教授	牧野 洋
准教授	岩崎 肇
講師（学内）	高橋 桂哉
助教	菅原 亜美

麻酔科蘇生科

助教	佐古 澄子
助教	鷹架 健一
助教	井上 真澄
助教	山谷 修一
助教	高橋 裕香子
助教	鈴木 真也
助教	須田 康裕

II. 研究業績紹介

旭川医科大学麻酔・蘇生学講座においては、伝統的に筋弛緩薬に対する基礎・臨床研究が研究の柱であり、現在岩崎肇を中心として業績が蓄積されている。当科では臨床面において、経食道心エコー、超音波ガイド下神経ブロックにおいて、全国的に普及する前の早い段階で海外の難資格を取得するなど、国内で指導的位置にあったため、それらに関する症例報告や臨床研究が盛んに行われてきた。また、ウイルスベクターを用いた痛みの遺伝子治療の基礎研究や、新規静脈麻酔薬の血中濃度に関する臨床研究も行われている。2023年度も上記の研究成果が論文及び学会発表されている。

近年の手術件数増加により臨床に費やす時間が増加していることや、長期にわたる教授不在期間における人員減少、コロナ禍など、当科における基礎・臨床研究の遂行には逆風が吹いている状態であるが、2023年7月1日には新教授が就任した。まずは麻酔科医師の充足を図り、研究に割ける時間を作り出すことが急務であるが、時間がない中でも、医局員の頑張りにより、症例報告や臨床研究論文が Publish されるなど、少しずつ確実な芽が出始めている。また、基礎系講座や各基礎診療科との共同研究を推進することで諸課題を克服していきたいと考えている。新教授が就任したことにより、前任地で行ってきた脳動脈瘤に関する基礎研究や医工連携による“ものづくり”なども増加することが期待されている。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
------	----	---------	------

- | | | | |
|---|------------------------------|---------------------|---------|
| 1) 牧野 洋, 土手健太郎, Wilkinson D, 佐和貞治 | 近代吸入全身麻酔の礎となった Dr. ヨンケル (1) | 日本臨床麻酔学会誌 | 2023.11 |
| 2) 牧野 洋, 土手健太郎, Wilkinson D, 佐和貞治 | 近代吸入全身麻酔の礎となった Dr. ヨンケル (2) | 日本臨床麻酔学会誌 | 2024.1 |
| 3) 牧野 洋, 土手健太郎, Wilkinson D, 佐和貞治 | 近代吸入全身麻酔の礎となった Dr. ヨンケル (3) | 日本臨床麻酔学会誌 | 2024.2 |
| 4) 牧野 洋 | 南から北へ | 日本麻酔科学会 NEWS LETTER | 2024.2 |
| 5) 中藪 侑, 佐藤裕美, 腰山千博, 盛 達寛, 大塚央子, 三國生臣, 齋藤裕司 | 骨盤高位を伴う婦人科手術後の肩痛予防－術中除圧の有用性－ | 北海道医療センター医学雑誌 | 2024.3 |

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Hayashi K, Yi H, Zhu X, Liu S, Gu J, Takahashi K, Kashiwagi Y, Pardo M, Kanda H, Li H, Levitt RC, Hao S.	Role of Tumor Necrosis Factor Receptor 1—Reactive Oxygen Species—Caspase 11 Pathway in Neuropathic Pain Mediated by HIV gp120 With Morphine in Rats.	Anesth Analg.	2023.4
2) Iwasaki H, Takahoko K, Matsui T, Takada Y, Takahashi Y, Sugawara A, Kurosawa A.	The impact of electrosurgical devices on electromyography-based neuromuscular monitoring during abdominal laparotomy: a case series.	J Clin Monit Comput.	2023.8
3) Fuchs-Buder T, Brull SJ, Fagerlund MJ, Renew JR, Cammu G, Murphy GS, Warlé M, Vested M, Fülesdi B, Nemes R, Columb	Good clinical research practice (GCRP) in pharmacodynamic studies of neuromuscular blocking agents III: The 2023 Geneva revision.	Acta Anaesthesiol Scand.	2023.9

MO, Damian D,
Davis PJ, Iwasaki H,
Eriksson LI.

- | | | | | |
|----|---|---|-----------------------|---------|
| 4) | Mori C, Iwasaki H, Sato I, Takahoko K, Inaba Y, Kawasaki Y, Tamaki G, Kakizaki H. | Impact of intraoperative fluid restriction on renal outcomes in patients undergoing robotic-assisted laparoscopic prostatectomy. | J Robot Surg. | 2023.10 |
| 5) | Aoki Y, Nakajima M, Sugimura S, Suzuki Y, Makino H, Obata Y, Doi M, Nakajima Y. | Postoperative norepinephrine versus dopamine in patients undergoing noncardiac surgery: a propensity-matched analysis using a nationwide intensive care database. | Korean J Anesthesiol. | 2023.10 |
| 6) | Sugimura S, Imai R, Katoh T, Makino H, Hokamura K, Kurita T, Suzuki Y, Aoki Y, Kimura T, Umemura K, Nakajima Y. | Effects of volatile anesthetics on circadian rhythm in mice: a comparative study of sevoflurane, desflurane, and isoflurane. | J Anesth. | 2024.2 |
| 7) | Tabata H, Takahoko K, Luthe SK, Makino H, Iwasaki H. | Laryngospasm Treated With Intramuscular Rocuronium in a Pediatric Patient Without Intravenous Access: A Case Report | Cureus. | 2024.3 |
| 8) | 高橋裕香子, 鷹架健一 | Mitraclip®術中に心腔内に空気が混入した1症例 | 臨床麻酔 | 2023.9 |

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
------	-----	-----	------

- | | | | | |
|----|----------------|--|-----------------------|--------|
| 1) | 小野寺美子 | 2023 のシェヘラザードたち
(第 16 夜)動脈ライン確保が苦手でも麻酔科医は続けられます
"私は麻酔科医に向いていません"から見出した活路
LiSA, 2023 年別冊春号:89-92. | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 2023.4 |
| 2) | 上坂 司,
小野寺美子 | 症例ライブラリー 術後の神経障害：下半身編
硬膜外カテーテル留置から 30 日後に生じた下肢神経障害
LiSA, 30(4):470-472. | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 2023.4 |
| 3) | 小野寺美子 | I 麻酔科医に必要な神経・骨格筋の生理
7. なぜ妊婦は痛みに強いのか？
麻酔科プラクティス 8 麻酔管理の疑問に答える生理学, 編集：垣花 学, 30-34 | 文光堂 | 2023.5 |
| 4) | 岩崎 肇 | I 麻酔科医に必要な神経・骨格筋の生理
9. なぜ非脱分極性筋弛緩薬と脱分極性筋弛緩薬で TOF の反応が異なるのか？
麻酔科プラクティス 8 麻酔管理の疑問に答える生理学, 編集：垣花 学, 41-42 | 文光堂 | 2023.5 |
| 5) | 岩崎 肇 | I 麻酔科医に必要な神経・骨格筋の生理
10. なぜ脊髄損傷や全身熱傷症例で脱分極性筋弛緩薬は禁忌なのか？
麻酔科プラクティス 8 麻酔管理の疑問に答える生理学, 編集：垣花 学, 43-45 | 文光堂 | 2023.5 |

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Yokoyama S, Makino H, Yamaguchi T,	Successful airway management in the patient with spastic torticollis.	ASA2023 (サンフランシスコ)	2023.10

Uchizaki S, Katoh T,
Nakajima Y.

- | | | | |
|------------------------------------|---|----------------------------------|--------|
| 2) 小野寺美子 | インストラクター
ハンズオンワークショップ
実技3
初心者コース 下肢 | 日本区域麻酔科学
会 第10回学術集
会 (大阪市) | 2023.4 |
| 3) 上坂 司, 小野寺美
子, 植田穂隆, 鷹架
健一 | 意識下ファイバー挿管時に
超音波ガイド下上喉頭神経
ブロックが有用であった気
管癌の一例 | 日本区域麻酔科学
会 第10回学術集
会 (大阪市) | 2023.4 |
| 4) Hajime Iwasaki | 招待講演
国際交流委員会シンポジウ
ム
Current updates on
perioperative management.
"What is true today may be
false tomorrow."
A new standard of
neuromuscular monitoring | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 5) 神田浩嗣 | 講演
シンポジウム
非心臓手術における合併心
疾患の評価と管理に関する
ガイドライン
術前管理 (休薬もふまえ
て) | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 6) 岩崎 肇 | 講演
共催セミナー
筋弛緩管理の可能性を再考
する
筋弛緩モニター「使う」か
ら「選んで使う」へ | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |

- | | | | |
|---|--|------------------------------|--------|
| 7) 田畑宏樹, 高橋桂哉, 松野理沙子, 山谷修一, 神田浩嗣 | 開心術における血液粘弾性検査と従来の凝固機能検査の術中、術後出血に対する予測能の検討 | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 8) 松井拓郎, 高田優, 高橋裕香子, 鷹架健一, 岩崎 肇 | 手術用エネルギーデバイスが電位感知型筋弛緩モニター「テトラグラフ」の測定に与える影響の検討 | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 9) 袋井謙一郎, 鈴木綾香, 鷹架健一, 岩崎 肇 | 術中筋弛緩モニタリングの有無と2バイアル以上のスガマデクス使用との関連：単一施設後ろ向き研究 | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 10) 齊藤玲那, 菅原亜美, 神田浩嗣 | 低侵襲僧帽弁手術における僧帽弁逸脱範囲の後方視的評価—3D 経食道心エコーを用いた病変診断と術野所見の比較 | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 11) 黄 仁謙 | NDB データから見た、コロナ感染症に対する都道府県別の全身麻酔症例件数と麻酔科医の労働負荷への影響について | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 12) 渡辺麻由, 小野寺美子, 黒澤 温 | 当施設における術前貧血有病率について:単施設後ろ向き研究 | 日本麻酔科学会
第70回学術集会
(神戸市) | 2023.6 |
| 13) 佐藤 泉, 長谷部拓夢, 上田ゆき子, 竹内 肇, 井尻えり子, 及川 欧, 加藤育民 | コロナ禍における漢方教育と腹診シミュレータを用いた漢方教育の効果 | 第73回日本東洋医学会学術総会
(福岡市) | 2023.6 |
| 14) 篠原征史, 和泉裕己, 南 ひかり, 三國生臣, 堀口かや, 太田みさき | 術後早期回復を見据えた、当院呼吸器外科手術における術後鎮痛について | 第19回麻酔科学サマーセミナー
(名護市) | 2023.6 |

15) 小野寺美子, 清水知沙, 植田穂隆, 齊藤玲那, 上坂 司, 矢口陽介	緩和的放射線治療に積極的な鎮痛に加え経静脈的鎮静が必要であり、多職種連携で完遂できた3症例	第28回日本緩和医療学会学術大会 (神戸市)	2023.6
16) 牧野 洋	医療機器保存のススメ	第98回日本医療機器学会大会 (横浜市)	2023.6
17) 山崎道夫, 竹田尚功	ペインクリニックにおいて外来リハビリを受ける慢性痛を有する高齢運動器疾患患者のフレイル有症率と特徴	日本ペインクリニック学会第57回学術集会 (佐賀市)	2023.7
18) 齊藤仁十, 尾崎博一, 松島佑二郎, 真田隆広, 福山秀青, 山本祥太, 丸山世理, 菅原亜美, 木下 学	覚醒下手術のセットアップにおける当院での工夫	第21回日本Awake Surgery学会 (金沢市)	2023.7
19) 黒澤 温	座長 セミナー4	令和5年度第1回日本手術医学会教育セミナー (宮崎市)	2023.9
20) 岩崎 肇	招待講演 五感を活かさない筋弛緩管理～筋弛緩薬の論理的使用～	日本麻酔科学会支部学術集会 関東甲信越・東北支部 第63回合同学術集会 (東京)	2023.9
21) 岩崎 肇	講演 共催セミナー 電位感知型筋弛緩モニタについて知っている事を全て教えます	日本麻酔科学会支部学術集会 関東甲信越・東北支部 第63回合同学術集会 (東京)	2023.9

- | | | | |
|---|---|--|--------|
| 22) 杉村 翔, 今井亮, 加藤孝澄, 鈴木康仁, 牧野 洋, 中島芳樹 | セボフルランの概日リズムに対する作用は他の一般的な吸入麻酔薬よりも弱い | 日本麻酔科学会
支部学術集会 東海・北陸支部第 21 回学術集会
(浜松市) | 2023.9 |
| 23) 鈴木謙介, 野田未佳, 鈴木祐二, 御室総一郎, 牧野 洋, 中島芳樹 | BMI60 の高度肥満患者に対して全身麻酔導入覚醒時にレミマゾラムを使用し安全に管理しえた一例 | 日本麻酔科学会
支部学術集会 東海・北陸支部第 21 回学術集会
(浜松市) | 2023.9 |
| 24) 今井 亮, 鈴木康仁, 杉村 翔, 牧野洋, 加藤孝澄, 中島芳樹 | レミマゾラム持続投与によるマウスの全身麻酔方法の検討 | 日本麻酔科学会
支部学術集会 東海・北陸支部第 21 回学術集会
(浜松市) | 2023.9 |
| 25) 菅原亜美, 小野寺美子, 岩田千広, 井上真澄, 佐藤 泉, 牧野 洋 | 帯状疱疹による広範囲の痛みに対し超音波ガイド下神経ブロックが有用であった一症例 | 日本ペインクリニック学会 第 4 回北海道支部学術集会
(Web) | 2023.9 |
| 26) 岩田千広, 菅原亜美, 井上真澄, 佐藤泉, 小野寺美子, 牧野 洋 | 20 年以上持続した歩行時痛に超音波ガイド下 Fascia ハイドロリリースが著効した 1 例 | 日本ペインクリニック学会 第 4 回北海道支部学術集会
(Web) | 2023.9 |
| 27) 竹光美秀, 菅原亜美, 鷹架健一, 黒澤温 | 側臥位で麻酔導入を行った覚醒下脳腫瘍摘出手術の一症例 | 日本麻酔科学会
支部学術集会 北海道・東北支部 第 13 回学術集会
(仙台市) | 2023.9 |
| 28) 南部湧大, 須田康裕, 永渕りりこ, 菅原亜美 | 病棟帰室後に生じた意識障害の原因として、てんかん発作が疑われた一症例 | 日本麻酔科学会
支部学術集会 北海道・東北支部 第 13 回学術集会
(仙台市) | 2023.9 |

29) 山縣智尋, 佐古澄子, 山岸昭夫, 黒澤温	挿管困難患者に対する気道所見についての情報提供が、他施設での気道確保に有用であった一症例	日本麻酔科学会 支部学術集会 北海道・東北支部 第13回学術集会 (仙台市)	2023.9
30) 田畑宏樹, 鷹架健一, 岩崎 肇, 多田雅博	末梢静脈路のない状態で喉頭痙攣を起こした乳児に対し, ロクロニウムを筋注して換気可能となった1例	日本麻酔科学会 支部学術集会 北海道・東北支部 第13回学術集会 (仙台市)	2023.9
31) 劉 晶淼, 三浦美英, 川嶋康裕, 十河大悟	慢性硬膜下血腫 (CSDH) ドレナージ術の麻酔管理方法が入院期間と医療費に与える影響について	日本麻酔科学会 支部学術集会 北海道・東北支部 第13回学術集会 (仙台市)	2023.9
32) 黒澤 温	コメンテーター 一般演題 (e-Poster) 術中合併症 1	日本心臓血管麻酔学会 第28回学術大会 (奈良市)	2023.9
33) 井上真澄, 鷹架健一, 佐古澄子, 岩崎肇, 山谷修一, 神田浩嗣	Bモード画像で見逃されるも後日カラードプラー画像で指摘し得た術後下大静脈狭窄の一例	日本心臓血管麻酔学会 第28回学術大会 (奈良市)	2023.9
34) 多田雅博, 神田浩嗣, 山谷修一, 川村豪嗣	経食道心エコーで術中大動脈解離発症の鑑別を要した一例	日本心臓血管麻酔学会 第28回学術大会 (奈良市)	2023.9
35) 鈴木綾香, 上坂司, 井上真澄, 菅原亜美, 神田浩嗣	心臓大血管手術における挿管チューブのカフ圧調査 - ケースシリーズ -	日本心臓血管麻酔学会 第28回学術大会 (奈良市)	2023.9
36) 佐古澄子	インストラクター 小児神経ブロックハンズオンセミナー インストラクター	日本小児麻酔科学会 第28回大会 (福井市)	2023.10

37) 千葉 拓, 佐古澄子, 高田 優, 田畑宏樹, 丸山世理, 山谷修一, 多田雅博, 黒澤 温	先天性 QT 延長症候群を合併した HECW2 遺伝子変異を有する小児の麻酔経験	日本小児麻酔科学会 第 28 回大会 (福井市)	2023.10
38) 川勝 暢, 神尾佳宣, 牧野 洋, 外村和也, 今井 亮, 杉村 翔, 木村哲朗, 梅村和夫, 黒住和彦	脳動脈瘤壁の鉄集積による脳動脈瘤破裂メカニズムの解明と鉄制限による破裂抑制効果の検証	第 66 回日本脳循環代謝学会学術集会 (福岡市)	2023.11
39) 植村洋紀, 菅原亜美, 鷹架健一, 牧野洋	血清コリンエステラーゼ欠損症患者に対してレミマゾラムを用いて全身麻酔管理を行った一症例	第 30 回日本静脈麻酔学会 (東京)	2023.11
40) 飯田慎也, 岩田達也, 太田一美, 中村智美, 佐藤こずえ, 小野寺美子, 黒澤温, 林 達哉, 田崎嘉一, 藤谷幹浩	ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害薬およびメトホルミンの術前休薬に向けた取り組み	第 18 回医療の質・安全学会学術集会 (神戸市)	2023.11
41) 牧野 洋	座長 口演 8 術後鎮痛・PONV1(研究)	日本臨床麻酔学会 第 43 回大会 (宮崎市)	2023.12
42) 小野寺美子	コメンテーター 口演 24 呼吸器外科の麻酔	日本臨床麻酔学会 第 43 回大会 (宮崎市)	2023.12
43) 植田穂隆, 朝井裕一, 牧野 洋	コントロール不良のバセドウ病患者に心拍動下冠動脈バイパス術を施行した 1 例	日本臨床麻酔学会 第 43 回大会 (宮崎市)	2023.12
44) 高木真奈, 木村哲朗, 杉村 翔, 中島芳樹	高用量オピオイド使用患者に対する肩甲帯離断術の麻酔経験	日本臨床麻酔学会 第 43 回大会 (宮崎市)	2023.12
45) 岩崎 肇	座長 ランチョンセミナー	ICAPS2024 安全な麻酔のための国際会議 (東京)	2024.2

46) 牧野 洋	AceScope を用いた挿管時におけるパーカチューブの有用性	第 19 回日本医学シミュレーション学会学術集会（東京）	2024.3
----------	---------------------------------	------------------------------	--------

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 神田 浩嗣	継続	基盤研究 (C)	臨床応用を目指した痛みの遺伝子治療の基盤的研究開発
2) 神田 恵	新規	基盤研究 (C)	神経特異性ベクターシステムを利用した痛みの遺伝子治療の実用化基盤の構築
3) 川田 大輔	延長	基盤研究 (C)	アデノ随伴ウイルスを用いた痛みの遺伝子治療の基礎的基盤の構築
4) 佐藤 泉	延長	基盤研究 (C)	モデルラットを用いた HIV 関連神経障害の機序解明と漢方治療、遺伝子治療への応用
5) 菅原 亜美	延長	基盤研究 (C)	心臓手術を受ける患者におけるレミマゾラムの薬物動態モデルの算出

脳神経外科学講座

Department of Neurosurgery

I. 所属教員等

脳神経外科学講座

教授	木下 学
講師	三井 宣幸
助教	清水 豪士
助教	佐藤 広崇
助教	上森 元気
客員助教	真田 隆広

脳神経外科

講師	広島 覚	
講師 (学内)	齊藤 仁十	(兼務)
助教	福山 秀青	
助教	尾崎 博一	
助教	松島 佑二郎	

II. 研究業績紹介

旭川医科大学脳神経外科学講座では脳神経外科学全般における臨床研究を推進しています。脳腫瘍研究では日本臨床腫瘍グループ (Japan Clinical Oncology Group: JCOG) 脳腫瘍グループで症例登録数が全国 1 位であることをはじめとして、悪性脳腫瘍の遺伝子情報と画像情報を包括的に解析する研究を行っております。放射線画像解析には特に力を入れており、MRI 画像に対する Radiomics 解析や深層学習解析を積極的に取り入れ、非侵襲的に脳腫瘍の真の姿を可視化する新しい技術の開発を進めています。

また脳血管障害研究では画像解析や病理解析による虚血性脳疾患の病態理解を進める研究を実施しています。また、覚醒下手術や皮質脳波解析を中心に据えて、本講座の伝統的な研究分野である脳機能解析を実施しています。

医療安全を主題とした臨床研究も実施しており、抗血栓薬の意図的中止が引き起こす脳卒中の発症リスクを明らかにしました。

2024 年には旭川医科大学脳神経外科学講座が研究事務局を担当する、新規 JCOG 試験がスタートします。これからも旭川医科大学脳神経外科学講座では臨床試験から基礎研究まで幅が広く厚みのある研究を推進してまいります。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 木下 学	III.脳腫瘍の検査・診断 2.画像診断各論(2)MRI：構造画像	日本臨床 81 巻増刊 9 号	2023.12

- 2) 木下 学 RANO 2.0-脳腫瘍治療効果判定規準の改訂について INNERVISION 2024.1
- 3) 広島 覚 てんかんの外科についてと当科における症例報告 てんかんをめぐって 第40巻 2023.12

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Takamitsu Iwata, Satoru Oshino, Youichi Saitoh, Manabu Kinoshita, Yuji Onoda, Noriyuki Kijima, Kosuke Mukai, Michio Otsuki, Haruhiko Kishima	Appearance of fluid content in Rathke's cleft cyst is associated with clinical features and postoperative recurrence rates.	Pituitary	2024.5
2) Takahiro Sanada, Manabu Kinoshita, Takahiro Sasaki, Shota Yamamoto, Seiya Fujikawa, Shusei Fukuyama, Nobuhide Hayashi, Junya Fukai, Yoshiko Okita, Masahiro Nonaka, Takehiro Uda, Hideyuki Arita, Kanji Mori, Kenichi Ishibashi, Koji Takano, Namiko Nishida, Tomoko Shofuda, Ema Yoshioka, Daisuke Kanematsu, Mishie Tanino, Yoshinori Kodama, Masayuki Mano, Yonehiro Kanemura	Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image	Neuro-Oncology Advances	2024.2
3) Jun Sawada, Takayuki Katayama, Shiori Kikuchi-Takeguchi,	Clinical features and prognostic factors of patients with cancer-	Neurological Sciences	2024.1

- Kohei Kano, Masato associated stroke
Saito, Nobuyuki Mitsui,
Satoru Hiroshima,
Manabu Kinoshita,
Naoki Nakagawa
- 4) Noriyuki Kijima, Utility of a Novel Interdisciplinary 2023.12
Manabu Kinoshita, Exoscope, ORBEYE, in Neurosurgery
Naoki Kagawa, Yoshiko Re-resection for Recurrent
Okita, Ryuichi Brain Tumor
Hirayama, Haruhiko
Kishima
- 5) Shota Yamamoto, Qualitative MR features to Journal of Neuro- 2023.11
Yoshiko Okita, Hideyuki identify non-enhancing Oncology
Arita, Takahiro Sanada, tumors within
Mio Sakai, Atsuko glioblastoma's T2-FLAIR
Arisawa, Naoki Kagawa, hyperintense lesions
Eku Shimosegawa,
Katsuyuki Nakanishi,
Manabu Kinoshita,
Haruhiko Kishima
- 6) Nobuyuki MITSUI, Filter-type Protection NMC Case Report 2023.10
Manabu KINOSHITA, Device Retrieval Interfered Journal
Junji NAKAZAWA, by Deployed Stent during
Hirokazu OZAKI, Teruo Subclavian Artery Stenosis
KIMURA Treatment: Case Report
and Complication
Avoidance
Recommendation
- 7) Nobuyuki Mitsui, Stroke risk related to Neurosurgical 2023.10
Manabu Kinoshita, Jun intentional discontinuation Focus
Sawada, Mikihiro Fujiya, of antithrombotic therapy
Hiroyuki Furukawa for invasive procedures
- 8) Hirotaka Sato, Nobuyuki Critical evaluation of the Interventional 2023.7
Mitsui, Seiya Fujikawa, modified Rankin Scale for Neuroradiology
Manabu Kinoshita, assessment of the efficacy
Kanao Hori, Minoru of mechanical

	Uebayashi, Teruo Kimura	thrombectomy: A retrospective comparison between the modified Rankin Scale and functional independence measure		
9)	Noriyuki Kijima, Manabu Kinoshita, Naoki Kagawa, Yoshiko Okita, Ryuichi Hirayama, Haruhiko Kishima	Surgical resection of glioblastoma in basal ganglia and utility of exoscope: Technical case reports	Surgical Neurology International	2023.6
10)	Kentaro Nishioka, Shuhei Takahashi, Takashi Mori, Yusuke Uchinami, Shigeru Yamaguchi, Manabu Kinoshita, Masaaki Yamashina, Hajime Higaki, Katsuya Maebayashi, Hidefumi Aoyama	The need of radiotherapy optimization for glioblastomas considering immune responses	Japanese Journal of Radiology	2023.4
11)	Tomoyoshi Nakagawa, Noriyuki Kijima, Kana Hasegawa, Shunya Ikeda, Moto Yaga, Tansri Wibowo, Tetsuro Tachi, Hideki Kuroda, Ryuichi Hirayama, Yoshiko Okita, Manabu Kinoshita, Naoki Kagawa, Yonehiro Kanemura, Naoki Hosen, Haruhiko Kishima	Identification of glioblastoma-specific antigens expressed in patient-derived tumor cells as candidate targets for chimeric antigen receptor T cell therapy.	Neuro-oncology advances	2023.4
12)	Kazuki Ohashi, Toshiya Osanai, Kensuke	Access to mechanical thrombectomy and	Front Neurol	2023.4

- Fujiwara, Takumi
Tanikawa, Yuji Tani,
Soichiro Takamiya,
Hirotaka Sato, Yasuhiro
Morii and Katsuhiko
Ogasawara
- 13) Kazuki Ohashi, Toshiya
Osanai, Kyohei Bando,
Kensuke Fujiwara,
Takumi Tanikawa, Yuji
Tani, Soichiro Takamiya,
Hirotaka Sato, Yasuhiro
Morii, Tomoki Ishikawa
Katsuhiko Ogasawara
- 14) 佐藤広崇、木村輝雄、曾
ヶ端克哉、荒川譲二、木
下 学
- 15) Yuhei Hoshikuma,
Takeshi Shimizu, Shingo
Toyota, Tomoaki
Murakami, Takamune
Achiha, Motohide
Takahara, Kazuhiro
Touhara, Tatsuya
Hagioka, Maki
Kobayashi, Haruhiko
Kishima
- 16) Tatsuya Hagioka,
Takeshi Shimizu, Shingo
Toyota, Tomoaki
Murakami, Takamune
Achiha, Motohide
Takahara, Kazuhiro
Touhara, Yuhei
Hoshikuma, Maki
Kobayashi, Haruhiko
- ischemic stroke mortality
in Japan: a spatial
ecological study
- Optimal allocation of
physicians improves
accessibility and workload
disparities in stroke care
- 脳神経外科診療と IT 医療
僻地を抱える北海道での
ICT の活用
- Statstical Analysis of the
Factors that Affect
Postoperative Length of
Hospital Stay after
Unruptured Intracranial
Aneurysm Treatment in
Japan: A 20-year
Nationwide Multicenter
Study.
- Cerebral Venous Sinus
Thrombosis Successfully
Treated with Mechanical
Thrombectomy under
Intracranial Pressure
Monitoring: A Case
Report.
- International
Journal of Equity
in Health
- 脳神経外科ジャー
ナル
- Neurologia
medico-chirurgica
- NMC Case Report
Journal
- 2023.11
- 2023.7
- 2024.2
- 2023.9

- Kishima
- 17) Takeshi Shimizu, Shingo Toyota, Motohide Takahara, Kazuhiro Touhara, Tatsuya Hagioka, Yuhei Hoshikuma, Takamune Achiha, Tomoaki Murakami, Maki Kobayashi, Haruhiko Kishima
- Long-term Patency of Retrograde Bypass Using a Distal Stump of the Parietal Superficial Temporal Artery for Moyamoya Disease.
- Neurologia medico-chirurgica
- 2023.9
- 18) Tomoaki Murakami, Shingo Toyota, Motohide Takahara, Kazuhiro Touhara, Tatsuya Hagioka, Yuhei Hoshikuma, Takamune Achiha, Takeshi Shimizu, Maki Kobayashi, Haruhiko Kishima
- Overlapped Double-Layer Micromesh Stents for Giant Extracranial Internal Carotid Artery Aneurysm.
- Journal of Neuroendovascular Therapy
- 2023.7
- 19) Okita Y, Takano K, Tateishi S, Hayashi M, Sakai M, Kinoshita M, Kishima H, Nakanishi K.
- Neurite orientation dispersion and density imaging and diffusion tensor imaging to facilitate distinction between infiltrating tumors and edemas in glioblastoma
- Magn Reson Imaging
- 2023.7
- 20) Kijima N, Kinoshita M, Kagawa N, Okita Y, Hirayama R, Kishima H
- Surgical resection of glioblastoma in basal ganglia and utility of exoscope: Technical case reports
- Surg Neurol Int
- 2023.6
- 21) Sato H, Saito M, Yuzawa S, Anei R.
- Early recurrence of Rosai-Doefman disease after total removal resection: a
- Br J Neurosurg.
- 2023.6

	case report		
22) Takano C, Takano T, Masumura M, Nakamura R, Koda S, Bochimoto H, Yoshida S, Bando Y.	Involvement of Degenerating 21.5 kDa Isoform of Myelin Basic Protein in the Pathogenesis of the Relapse in Murine Relapsing-Remitting Experimental Autoimmune Encephalomyelitis and MS Autopsied Brain	Int J Mol Sci.	2023.5
23) Mishima K, Nishikawa R, Narita Y, Mizusawa J, Sumi M, Koga T, Sasaki N, Kinoshita M, Nagane M, Arakawa Y, Yoshimoto K, Shibahara I, Shinojima N, Asano K, Tsurubuchi T, Sasaki H, Asai A, Sasayama T, Momii Y, Sasaki A, Nakamura S, Kojima M, Tamaru JI, Tsuchiya K, Gomyo M, Abe K, Natsumeda M, Yamasaki F, Katayama H, Fukuda H.	Randomized phase III study of high-dose methotrexate and whole-brain radiotherapy with/without temozolomide for newly diagnosed primary CNS lymphoma: JCOG1114C	Neuro Oncol	2023.4

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 木下 学	脳腫瘍臨床病理カラーアトラス第5版 74項	医学書院	2024.3
2) 真田隆広	ブレインナーシング 2023年6号 <特集>脳の機能がとことんわかる！神経症状とリンクする！ 脳の解剖生理とその機能（第39巻6号）第1章 26-30	メディカ出版	2023.10

- 3) 上森元気 BRAIN NURSING (ブレインナーシング) 2023年6号 114-129項
メディカ 出版 2023.10

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表.
1) 木下学	日本磁気共鳴医学会による国際交流支援	第51回日本磁気共鳴医学会大会	2023.9
2) 木下学	神経膠腫の新規分類と治療選択	第43回日本脳神経外科コンgres総会	2023.5
3) 木下学、沖田典子、有田英之、山本祥太、下瀬川恵久、貴島晴彦	アミノ酸代謝画像を Ground truth においた MRI による悪性神経膠腫の病変自動抽出アルゴリズムの構築	日本脳神経外科学会 第82回学術総会	2023.10
4) 木下学、沖田典子、有田英之、山本祥太、下瀬川恵久、貴島晴彦	アミノ酸代謝画像を Ground truth においた MRI による悪性神経膠腫の病変自動抽出アルゴリズムの構築	第51回日本磁気共鳴医学会大会	2023.9
5) Kinoshita M	Functional substrates and Glioma surgery	6th Masterclass in Neurosurgical Oncology	2024.3
6) Kinoshita M	Considerations in planning surgery for SMA region tumors	6th Masterclass in Neurosurgical Oncology	2024.3
7) Kinoshita M	Management Decision Making Based on Pre-Operative Imaging Phenotype	Society of Neuro-oncology 28th Annual Meeting and Education Day	2023.11
8) Kinoshita M	Novel Prospective in Low Grade Gliomas Management:	Congress of Neurological	2023.9

	Advanced Imaging Techniques for Gliomas	Surgeons 2023 Annual Meeting	
9) Kinoshita M	Advances and challenges in glioma MR imaging	Asian Society for Magnetic Resonance in Medicine (ASMRM) 2023	2023.8
10) Kinoshita M	Treating Brain Tumors: The General Anatomy of the Brain: A Walnut, but Different	2023 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition	2023.6
11) Sanada T, Yamamoto S, Sato H, Sakai N, Saito M, Mitsui N, Hiroshima S, Anei R, Kanemura Y, Nakanishi K, Kishima H, Kinoshita M	Correlation of T1- to T2- weighted signal intensity ratio with T1- and T2-relaxation time and IDH mutation status in glioma.	2023 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition	2023.6
12) Sanada T, Miyauchi M, Hiroshima S, Tsuyuguchi N, Kinoshita M	Clinical practice of high gamma activity mapping in the neurosurgical field	BCI & NEUROTECH NOLOGY SPRING SCHOOL 2023	2023.5
13) 真田 隆広、木村 輝 雄、藤川 征也、佐藤 広崇、三井 宣幸、高杉 和雄、Adam Tucker、 稲葉 聡、曾我端 克 哉、川崎 和凡、桐山 健司、泉 直人、横山 豊、森本 一朗、杉浦 有重、松岡 慶太、西村	未破裂脳動脈瘤に対する治療 の変遷と脳動脈瘤破裂による くも膜下出血の長期疫学調査	第 53 回日本脳 卒中の外科学 会学術集会	2024.3

光太郎、菊一 雅弘、細
谷 辰之、木下 学、佐
古 和廣

- | | | | | |
|-----|---|--|----------------------|---------|
| 14) | 真田 隆広、Christoph Kapeller、Michael Jordan、宮内 正晴、中野 直樹、広島 覚、木下 学、Christoph Guger、露口 尚弘 | 運動課題による脳皮質脳波高周波律動の減衰効果 | 第 26 回日本ヒト脳機能マッピング学会 | 2024.2 |
| 15) | 真田 隆広、木村 輝雄、藤川 征也、佐藤 広崇、三井 宣幸、高杉 和雄、Adam Tucker、稲葉 聡、曾我端 克哉、川崎 和凡、桐山 健司、泉 直人、横山 豊、森本 一朗、杉浦 有重、松岡 慶太、西村 光太郎、菊一 雅弘、細 谷 辰之、木下 学、佐 古 和廣 | 未破裂脳動脈瘤に対する治療の変遷と脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の長期疫学調査 | 第 13 回 オホーツク医学大会 | 2023.12 |
| 16) | 真田 隆広、木下 学、佐々木 貴浩、林 宣秀、深井 順也、佐藤 広崇、沖田 典子、埜 中正博、宇田 武弘、有田 英之、森 鑑二、石橋 謙一、西田 南海子、谷野 美智枝、児玉 良典、眞能正幸、金村 米博 | 膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測 | 第 41 回日本脳腫瘍学会学術集会 | 2023.12 |
| 17) | 真田 隆広、木下 学、佐々木 貴浩、林 宣秀、深井 順也、佐藤 広崇、沖田 典子、埜 中正博、宇田 武弘、 | 膠芽腫の造影 T1 強調画像による MGMT 遺伝子プロモーター領域のメチル化の予測 | 第 82 回日本脳神経外科学会総会 | 2023.10 |

- 有田 英之、森 鑑二、
石橋 謙一、西田 南海
子、谷野 美智枝、児玉
良典、眞能正幸、金村
米博
- 18) 真田 隆広、Christoph
Kapeller、Michael
Jordan、宮内 正晴、中
野 直樹、広島 覚、木
下 学、Christoph
Guger、露口 尚弘
- 19) 真田 隆広、木下 学、
佐々木 貴浩、林 宣
秀、深井 順也、佐藤
広崇、沖田 典子、埜
中正博、宇田 武弘、
有田 英之、森 鑑二、
石橋 謙一、西田 南海
子、谷野 美智枝、児玉
良典、眞能正幸、金村
米博
- 20) 真田隆広、広島覚、齊
藤仁十、三井宜幸、木
下学
- 21) 清水豪士、真田隆広、
佐藤広崇、齊藤仁十、
三井宜幸、広島覚、木
下学
- 22) 三井宜幸、木下 学、
澤田 潤、藤谷幹浩、
古川博之
- 23) 三井宜幸、和田 始、
齊藤仁十、木下 学
- 運動課題による脳皮質脳波高
周波律動の減衰効果
- 膠芽腫の造影 T1 強調画像に
よる MGMT 遺伝子プロモータ
ー領域のメチル化の予測
- 小児脳腫瘍に対する診療施設
連携の取り組み
- 「前頭葉」初発膠芽腫の再発
部位についての定量的検討
- 侵襲的処置を目的とした抗血
栓療法の中止による入院中脳
虚血のリスクについて
- 未破裂脳動脈瘤治療における
造影剤脳症・過灌流症候群の
検討
- 第 56 回 日本て
んかん学会学
術集会
- 第 28 回日本脳
腫瘍の外科学
会
- 第 8 回 小児が
ん放射線治療
セミナー
- 第 28 回 日本脳
腫瘍の外科学
会
- 第 82 回日本脳
神経外科学会
学術総会
- 第 39 回日本脳
神経神経血管
内治療学会
- 2023.10
- 2023.9
- 2023.6
- 2023.9
- 2023.10
- 2023.11

24)	三井宣幸、齊藤仁十、 広島 覚、佐藤広崇、 木下 学	当院における、血小板凝集能 検査の誤差発症要因の検討	STROKE2024	2024.3
25)	広島 覚	斜台部形質細胞腫の1例	第34回日本間 脳下垂体腫瘍 学会	2024.2
26)	佐藤広崇、真田隆広、 藤川征也、齊藤仁十、 三井宣幸、木下 学、木村輝雄	CT angiography と脳血管造 影検査で動脈瘤の所見が異な った脳底動脈-上小脳動脈瘤 の1例	第24回日本脳 血管内治療学 会北海道地方 会	2023.7
27)	佐藤広崇、木下 学、 真田隆広、藤川征也、 木村輝雄、鈴木 望	脳出血における血腫量の増加 について ~black hole sign を踏まえたワルファリンと direct oral anticoagulant の比 較~	第90回日本脳 神経外科北海 道支部会	2023.9
28)	佐藤広崇、藤川征也、 真田隆広、木下 学	ICT を用いた脳神経外科の急 性期医療と慢性期医療~医療 過疎地での取り組み~	第82回日本脳 神経外科学会 学術総会	2023.10
29)	佐藤広崇、木下 学、 真田隆広、藤川征也、 木村輝雄、鈴木 望	脳出血における血腫量の増加 について ~black hole sign を踏まえた walfarin と direct oral anticoagulant の比較~	STROKE2024	2024.3
30)	尾崎博一、清水豪士、 広島 覚	斜台部形質細胞腫の1例	第90回日本脳 神経外科学会 北海道支部会	2023.9
31)	松島佑二郎、三井宣 幸、齊藤仁十、木下 学	動脈瘤のフローダイバーター 型ステント治療後に MRI 検 査 ASL 法で灌流の上昇を認 めた造影剤脳症の1例	第90回日本脳 神経外科学会 北海道支部会	2023.9
32)	齊藤仁十、尾崎博一、 松島佑二郎、真田隆 広、福山秀青、山本祥 太、丸山世理、菅原亜 美、木下 学	覚醒下手術のセットアップに おける当院での工夫	第21回日本 Awake Surgery 学会	2023.7

33) 福山秀青、高橋未来、 高草木 薫	脚橋被蓋核への微小電気刺激による網様体脊髄路と前庭脊髄路の賦活様式	第91回(一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2024.3
34) 福山秀青	てんかんによる転倒を院外でビデオ記録できた2症例	第91回(一社)日本脳神経外科学会北海道支部会	2024.3
35) 福山秀青、高橋未来、 野口智弘、高草木薫、 木下 学	脚橋被蓋核への微小電気刺激に対する網様体脊髄路と前庭脊髄路ニューロンの活動様式	第53回日本臨床神経生理学学会	2023.11
36) 福山秀青、高橋未来、 高草木 薫	脚橋被蓋核の微小電気刺激に対する網様体脊髄路と前庭脊髄路ニューロンの活動様式	第6回超適応領域全体会議	2024.3
37) 福山秀青、高橋未来、 高草木 薫	Postural effect of PPN microstimulation Activity of Reticulospinal and Vestibulospinal neurons	The 2nd International Symposium on Hyper-Adaptability(HypAd2023)	2023.10
38) Mirai Takahashi、 Tomohiro Noguchi、 Ryousuke Chiba、 Kaoru Takakusaki、Manabu Kinoshita	Activity of Reticulospinal and Vestibulospinal Neurons after PPN microstimulation	AASSFN2023	2023.4
39) 上森元気	整形外科とペインクリニック科で診断されなかった腰下肢痛の一例	第38回日本脊髄外科学会	2023.6
40) 上森元気	激しい術中硬膜損傷をきたしながらも縫合による修復を行った腰部脊柱管狭窄症の一例	第90回日本脳神経外科学会北海道支部会	2023.9
41) 上森元気、松島佑二 郎、尾崎博一、福山秀 青、齊藤仁十、三井宣	激しい術中硬膜損傷をきたし何とか修復を行った腰部脊柱管狭窄症の一例-硬膜修復と云うは縫う事と見付けたり	第30回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会	2023.9

幸、広島 覚、木下
学

42) 上森元気、安栄 良悟、 渡辺 剛助、高野 勝信	整形外科とペインクリニック 科で診断されなかった馬尾神 経鞘腫の一例	第 82 回日本脳 神経外科学会 学術総会	2023.10
43) 上森元気	他科で診断されなかった馬尾 神経鞘腫の一例	第 58 回日本脊 髄障害医学会	2023.11
44) 上森元気、清水豪士、 福山秀青、木下 学	腰椎椎間孔部病変に対する対 側進入除圧術における外視鏡 の有用性	第 91 回日本脳 神経外科学会 北海道支部会	2024.3
45) 上森元気	発達の遅れにより気づかれた 頭蓋内進展を伴った頸髄髄内 脂肪腫の一例	第 3 回小児脳 腫瘍カンファ レンス	2024.3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 木下 学	再延長	基盤研究 (C)	Radiogenomics による膠芽腫の臨床経過予 測モデルの構築
2) 木下 学	継続	基盤研究 (C)	定量的 MRI による神経膠腫の分子診断と可 視化技術の開発
3) 真田 隆広	新規	若手研究	覚醒下開頭手術におけるリアルタイム高周 波律動マッピングの応用
4) 福山 秀青	継続	基盤研究 (C)	脚橋被蓋核-橋延髄網様体および前庭神経核 投射系による姿勢制御機構の解明

齒科口腔外科学講座

Department of Oral and
Maxillo-Facial Surgery

I. 所属教員等

歯科口腔外科学講座
教 授 竹川 政範
准 教 授 吉田 将亜

歯科口腔外科
講 師 小神 順也
助 教 岡 久美子
助 教 佐藤 栄晃

II. 研究業績紹介

歯科口腔外科学講座 竹川政範

歯科口腔外科領域では、歯、歯周組織、口腔、顎骨の疾患を取り扱います。そのため、歯周組織疾患や顎骨腫瘍などの各種疾患治療により失われた歯や顎骨を再生し、審美的な形態の回復と咀嚼・発音などの機能的な回復を目指すことが私たちの使命です。

歯科口腔外科学講座開設以来、当講座では顎骨再生についての基礎的な研究を継続しています。特に骨移植研究では、人工骨や各種処理骨、骨成長因子、放射線照射骨などに関する研究業績を積み重ねてきました。さらに、侵襲の少ない顎骨や歯の再生を目指し、体性幹細胞を用いた研究にも取り組んでいます。この研究では骨髄幹細胞だけでなく、脂肪組織由来の間葉系幹細胞を用いた基礎研究も行っており、その成果の一部は大学院生の学位取得にもつながっています。近年では、骨再生と血管新生にも焦点を当てており、歯科口腔外科の佐藤助教を中心に生化学講座との共同研究を進めています。

臨床研究では、口唇口蓋裂や顎変形症などの顎顔面の変形や奇形、薬剤性顎骨壊死、口腔腫瘍による顎骨の欠損に対して、機能的・形態的な評価と新たな治療法の開発を行っています。本臨床研究は、竹川教授と吉田准教授が中心となって進めています。

また、口腔機能管理においても、小神講師、岡助教を中心に口腔状態評価の標準化と口腔ケア介入の均てん化を目指して研究と臨床を行っています。特に口腔状態評価では、AI技術を活用したスマートホンによる口腔状態の評価に関する臨床研究を推進しており、実践的な応用を目指して研究を継続しています。

以上のように、歯科口腔外科学講座では、口腔疾患の管理・診療を通じて患者の生活の質を向上させ、安心・安全な治療法の開発に取り組んでいます。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Aiko Manase ,Kosuke Shimazaki ,Ayae Sakurai ,Masanori Takekawa	A case of necrotizing fasciitis in the temporal region due to odontogenic infection in a very elderly patient	Oral Science in Japan 2023	2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 川端麻瑚、岡久美子、竹川政範、飯田理人、庭瀬俊、矢島優己、佐藤栄晃、小神順也、吉田将亜	NISAID s 不耐症が疑われる患者に対して抜歯を行った2例	第33回日本有病者歯科医療学会	2024.3
2) 岡久美子、竹川政範、飯田理人、庭瀬俊、川端麻瑚、矢島優己、佐藤栄晃、小神順也、吉田将亜	難治性てんかんのため迷走神経刺激装置植え込み後の患者に対して、全身麻酔下での抜歯を行った1例	第33回日本有病者歯科医療学会	2024.3
3) 庭瀬俊、飯田理人、岡久美子、竹川政範、川端麻瑚、矢島優己、佐藤栄晃、小神順也、吉田将亜	セミプリマブ投与患者の口腔内に生じた苔癬様病変の1例	第33回日本有病者歯科医療学会	2024.3
4) 飯田理人、岡久美子、竹川政範、川端麻瑚、	同時性口腔内多発がんを発症した家族性地中海熱の1例	第33回日本有病者歯科医療学会	2024.3

庭瀬俊, 矢島優己, 佐藤栄晃, 小神順也, 吉田将垂

- | | | | | |
|-----|--|------------------------------------|-----------------------|---------|
| 5) | 名和佑美、岡久美子、大西歩、庭瀬俊、矢島優己、佐藤栄晃、小神順也、吉田将垂、竹川政範 | 旭川医科大学歯科口腔外科における小児がん患者の口腔管理の実態調査 | 日本がん支持療法学会 第9回学術大会 | 2023.11 |
| 6) | 松田真也、本橋征之、竹川政範 | 咬筋に発症した限局性筋炎の1例 | 第68回日本口腔外科学会総会・学術大会 | 2023.11 |
| 7) | 岡久美子、本橋征之、竹川政範 | 歯科インプラント周囲に生じた歯肉がん症例の検討 | | 2023.11 |
| 8) | 岡久美子、竹川政範、矢島優己、桜井彩瑛、佐藤栄晃、小神順也、吉田将垂、本橋征之 | 旭川医科大学における周術期口腔機能管理症例の検討 | | 2023.5 |
| 9) | 佐藤栄晃、本橋征之、岸上正佳、矢島優己、岡久美子、小神順也、吉田将垂、竹川政範 | 下顎枝に生じた嚢胞の感染によって髄膜炎様症状を呈した1例 | 第49回日本口腔外科学会北日本地方会 | 2023.5 |
| 10) | 矢島優己、岡久美子、庭瀬俊、吉田将垂、竹川政範 | 交通事故による小児の下顎骨骨折に対して非観血的整復固定術を行った1例 | 第35回日本小児口腔外科学会総会・学術大会 | 2023.11 |
| 11) | 岡久美子、竹川政範、名和佑美、藤倉弓子、佐藤栄晃、小神順也 | 旭川医科大学における周術期口腔機能管理症例の検討 | | 2023.4 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 矢島 優己	新規	若手研究	口腔扁平上皮癌の治療効果予測バイオマーカーと新規治療の開発研究

救急医学講座

Department of Emergency Medicine

I. 所属教員等

救急医学講座

教授	岡田 基
准教授	丹保 亜希仁
講師	中嶋 駿介
講師(学内)	川口 哲

救急科

講師(学内)	齊藤 仁十
講師(学内)	吉田 有里
助教	大原 みずほ
助教	山本 昌代
助教	武田 智宏
助教	前田 陽平

II. 研究業績紹介

基礎研究では岡田を中心に、「敗血症性心筋症の病態解明とその治療法についての研究」を行っている。内容については救急医学会・集中治療医学会でのシンポジストや循環器学会の教育講演を行った。また、敗血症性心筋症における代謝やミトコンドリア機能についての総説を上梓した。

総説・解説関連では、丹保准教授は、栄養療法やDICについて、また、岡田・中嶋講師はPOCUSハンズオンのインストラクターとして活動し、2022年度研修医向けに作成した「POCUSにおける超音波機器使用」の解説冊子をもとに指導している。

邦文論文では、井尻、岩原らが症例報告を行ったほか、英文では、川口学内講師がKounis症候群のcase reportを報告した。岡田は欧州のグループと共同して「敗血症におけるラジオロールの有用性」について共著の総説を担当した。

その他、救急医学・集中治療・災害医療をはじめとし、さらには臓器移植にかかわる研究会をふくめ全国・地方会でのシンポジストや特別講演、症例報告として関連学会に多数参加・発表を行った。

川口学内講師は、KAKEN基盤研究Cで「敗血症性心筋症の新規治療戦略となる $\beta 3$ アドレナリン受容体を介したNO産生経路の解明」を獲得し、岡田とともに $\beta 3$ 受容体ノックアウトマウスを用いた研究を行っている。

Ⅲ. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 岡田 基	超音波検査のジェネラリスト	Japanese journal of medical ultrasonics = 超音波医学	2023.10
2) 丹保 亜希仁	【徹底ガイド 栄養療法-研修医からの質問 380-】特殊栄養素・ビタミン・微量元素・食物繊維など ビタミンC(解説)	救急・集中治療	2023.10
3) 丹保 亜希仁	【徹底ガイド 栄養療法-研修医からの質問 380-】特殊栄養素・ビタミン・微量元素・食物繊維など ビタミンD(解説)	救急・集中治療	2023.10
4) 丹保 亜希仁	【最新主要文献とガイドラインでみる 麻酔科学レビュー2023】麻酔科医と救急医療	麻酔科学レビュー	2023.6
5) 丹保 亜希仁	血小板減少の原因としてのDICとTMA 併存の可能性	日本救命医学会雑誌	1905.7

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 井尻 えり子、和知 修太郎、丹保 亜希仁、小北 直宏	重症熱傷患者の疼痛管理の経験	日本ペインクリニック学会誌	2023.6
2) 岩原 素子、堀越 佑一、西浦 猛、藤田 智	雪への埋没を契機に発症した陰圧性肺水腫 症例報告	日本集中治療医学会雑誌	2023.11
3) Satoshi Kawaguchi Tatsuki Kuroshima Ryo Namba Hiroki Satou Riku Kashiwagi Ai Abe Motoi Okada	A case of repeated Kounis syndrome after anaphylactic shock: A note for disease management	Acute Medicine & Surgery	2024.2
4) Tatsuki Kuroshima, Satoshi Kawaguchi, and Motoi Okada*	Current Perspectives of Mitochondria in Sepsis-Induced Cardiomyopathy	Int J Mol Sci.	2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 丹保亜希仁	AI時代の肺エコー画像の最適化とAI参入を考える.	日本超音波医学会 第96回学術集会	2023/5
2) 難波 亮,藤田 智,森 香苗,中嶋 駿介,岡田 基	遠隔医療支援システムを使用し, 早期に治療介入できた一例.	第26回日本臨床救急医学会発表	2023/7
3) 田中 あかり、中嶋 駿介、難波 亮、森 香苗、黒嶋 健起、丹保亜希仁、岡田 基	溶連菌による急性扁桃炎が疑われたが、血液培養および肺病変から診断に至った Lemierre 症候群の1例	第26回日本臨床救急医学会	2023/7
4) 丹保亜希仁,丹野克俊,小林 厳,藤田 智	旭川市における新型コロナウイルス感染症クラスター対策の変遷	日本麻酔科学会北海道東北支部学術集会	2023/9
5) 丹保亜希仁	効果的な多職種連携を目指して.	日本集中治療医学会第7回北海道地方会	2023/10
6) 佐藤 寛起、丹保亜希仁、南谷克明、宗万孝次、小北直宏、岡田 基	道北道東における減圧症診療について.	日本集中治療医学会第7回北海道地方会	2023/10
7) 國岡 信吾、黒嶋 健起、佐藤 寛起、難波 亮、柏木 陸、吉田 有里、丹保亜希仁、小北直宏、岡田 基、紙谷 寛之	大動脈峡部に生じた外傷性胸部大動脈仮性瘤破裂に対し、Zone3ステントグラフト治療で救命し得た一例	日本集中治療医学会第7回北海道地方会	2023/10
8) 岡田 基	救急診療に超音波を活かす	第47回北海道救急医学会学術集会	2023/11

- | | | | | |
|-----|--|---|-------------------------------|---------|
| 9) | 丹保亜希仁 | 北海道での ICLS コース
運営の現状とこれから | 第 47 回北海道救急
医学会学術集会 | 2023/11 |
| 10) | 千葉 凌, 河村仁
美, 滝口僚也, 森
香苗, 白坂友紀子,
藤田 智 | 右上肢壊死性筋膜炎に対
し ISAP (INTRA-SOFT
TISSUE ANTIBIOTICS
PERFUSION) を用いた 1
例 | 第 47 回北海道救急
医学会学術集会 | 2023/11 |
| 11) | 難波 亮, 柏木
陸, 佐藤寛起, 森
香苗, 黒嶋健起, 川
口 哲, 中嶋駿介,
丹保亜希仁, 小北直
宏, 岡田 基 | 自宅火災にて遅発性の化
学性肺炎をきたした 1 例 | 第 47 回北海道救急
医学会学術集会 | 2023/11 |
| 12) | 岡田 基, 黒嶋 健
起, 川口 哲 | 敗血症性心筋症の治療戦
略 | 第 51 回 日本救急
医学会総会・学術
集会 | 2023/11 |
| 13) | 細野 瑛, 中嶋 駿
介, 柏木 陸, 難波
亮, 佐藤 寛起, 黒
嶋 健起, 吉田 有
里, 川口 哲, 丹保
亜希仁, 小北直宏,
岡田 基 | 若年者における急性薬物
中毒の現状 | 第 51 回 日本救急
医学会総会・学術
集会 | 2023/11 |
| 14) | 中嶋 駿介, 柏木
陸, 難波 亮, 佐藤
寛起, 黒嶋 健起,
吉田 有里, 川口
哲, 丹保亜希仁, 小
北直宏, 岡田 基 | Oncologic Emergency とし
ての免疫関連有害事象 | 第 51 回 日本救急
医学会総会・学術
集会 | 2023/11 |
| 15) | 小泉 明子, 中嶋 駿
介, 柏木 陸, 難波
亮, 佐藤 寛起, 黒
嶋 健起, 吉田 有
里, 川口 哲, 丹保
亜希仁, 小北直宏,
岡田 基 | 多発外傷後遅発性に生じ
た外傷性胆汁漏の 1 例 | 第 51 回 日本救急
医学会総会・学術
集会 | 2023/11 |

16)	柏木 陸, 佐藤 寛起, 山本 昌代, 藤原 遼太, 露井 出海, 丹保 亜希仁, 岡田 基	Lemierre 症候群の血栓評価に超音波検査を利用した 1 例.	第 51 回 日本救急医学会総会・学術集会	2023/11
17)	丹保 亜希仁	空港での災害訓練の振り返りと今後の課題	第 29 回日本災害医学会学術集会	2024/2
18)	岡田 基, 川口 哲, 黒嶋 健起	敗血症での心筋代謝障害のメカニズムと治療戦略	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
19)	土田 裕樹, 平野 瑞歩, 定岡 龍輝, 本間 祐平, 佐藤 貴彦, 宗万 孝次, 小北 直宏, 岡田 基	High Flow CHDF 条件下における血液浄化装置の加温性能の比較	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
20)	井尻 えり子, 難波 亮, 佐藤 寛起, 國岡 信吾, 黒嶋 健起, 川口 哲, 中嶋 駿介, 丹保 亜希仁, 岡田 基, 小北 直宏	ICU における壊死性軟部組織感染症に対する外科的処置時の鎮静・鎮痛	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
21)	佐藤 寛起, 丹保 亜希仁, 安藤 玲, 山本 昌代, 小北 直宏, 岡田 基	スリーププロファイラー 2 (LE RTA) により睡眠を評価した 1 例	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
22)	國岡 信吾, 黒嶋 健起, 井尻 えり子, 筒井 真博, 川口 哲, 中嶋 駿介, 丹保 亜希人, 小北 直宏, 岡田 基, 紙谷 寛之	当院における外傷性大動脈損傷に対するステントグラフト治療の成績	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
23)	丹保 亜希仁	早期の腎代替療法は必要か?	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
24)	丹保 亜希仁	妊産婦特有の病態における集中治療	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
25)	丹保 亜希仁	PADIS の「S」を評価する~スリーププロファイラー 2 LE RTA ~	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3
26)	山田 博之 (日本版敗血症診療ガイドライ	J-SSCG2024 改定のポイント: 急性血液浄化	第 51 回日本集中治療医学会学術集会	2024/3

ン 2024 特別委員会急性血液浄化班)丹保 亜希仁

- 27) 安藤 玲,相馬 純,植村 友裕,菊地 史織,丹保 亜希仁,小北 直宏,澤田 潤
 間欠的脳波検査が診療方針の決定に有用であった破傷風と蘇生後脳症を合併した 1 例
 第 51 回日本集中治療医学会学術集会 2024/3
- 28) 吉田 稔 (重症患者の栄養療法ガイドライン 2024 ワーキンググループ),丹保亜希仁
 「特殊組成と併用療法」におけるガイドラインの改訂ポイント：国際ガイドラインとの比較.
 第 51 回日本集中治療医学会学術集会 2024/3
- 29) 阿部 愛,佐藤 寛起,丹保 亜希仁,小北 直宏,岡田 基
 複数病態による重症呼吸不全に肺超音波を利用した 1 例
 第 74 回日本救急医学会関東地方会学術集会 2024/3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 岡田 基	継続	基盤研究 (C)	敗血症の心筋代謝制御にかかわる β 3 受容体とスフィンゴシン 1 リン酸の役割
2) 中嶋 駿介	延長	若手研究	新規 SNP に基づく SGLT2 阻害薬による NASH 個別化医療の開発
3) 川口 哲	再延長	若手研究	敗血症性心筋症における β 3 アドレナリン受容体の誘導型 NOS 調節機構の解明

地域医療教育学講座

Department of Regional Medicine
and Education

I. 所属教員等

地域医療教育学講座

教授 野津 司

II. 研究業績紹介

当講座では、内科学講座の奥村教授と共同で、ストレスと消化管機能、機能性消化管障害の病態生理についての研究を行っている。具体的には過敏性腸症候群（IBS）のラットモデルを使用して、IBS の新規治療薬の探索、内臓感覚、腸管バリア機能の制御機構の探究、また腹部手術後イレウスモデルを使用して、術後麻痺性イレウスの病態と新規治療法の探索等をテーマに実験を進めている。IBS は腸管バリアの傷害の結果、LPS が遊離し、TRL4 を介して炎症性サイトカインが放出される。サイトカインは内臓の感覚神経を刺激し内臓知覚過敏を起し、さらに腸管上皮の tight junction protein に作用して、腸管バリアのさらなる傷害を惹起する。その結果、慢性の全身性微小炎症が生じて、腸管機能に異常を来すことが病態として重要である。我々はこれらの変化は、corticotropin releasing factor (CRF)と TLR4 が相互に活性化し合い悪循環を形成し、サイトカインシグナルの持続的な活性化という機序によって起きることを報告している。一方、メタボリックシンドロームでも、慢性の全身性炎症と TLR4-炎症性サイトカインシグナルの活性化が起きており、腸管バリアも傷害されていることがわかっている。以上より IBS とメタボリックシンドロームは共通の病態を持っていると考えられ、この視点から両者に対する新たな治療アプローチの可能性について研究を進めている。当該年度は、糖尿病治療薬の SGLT 阻害剤が、腹部手術後のイレウスに効果があることを動物モデルで明らかとし、これは Neurogastroenterology and Motility に採択された。さらに、imeglimin という新規に上市された糖尿病治療薬が、IBS 動物モデルで、内臓知覚過敏と腸管バリアの傷害を改善させることを明らかとし、Journal of Pharmacological Sciences に採択された。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) Ishioh M, Nozu T, Okumura T.	rain Neuropeptides, Neuroinflammation, and Irritable Bowel Syndrome.	Digestion	2023.9

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Igarashi S, Nozu T, Ishioh M, et al.	Ghrelin prevents lethality in a rat endotoxemic model through central effects on the vagal pathway and	J Physiol Biochem	2023.9

- adenosine A2B signaling : Brain ghrelin and anti-septic action.
- 2) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, et al. Imeglimin prevents visceral hypersensitivity and colonic hyperpermeability in irritable bowel syndrome rat model. J Pharmacol Sci. 2023.7
 - 3) Nozu T, Miyagishi S, Ishioh M, et al. Phlorizin attenuates postoperative gastric ileus in rats. Neurogastroenterol Motil. 2023.8

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 野津 司	lovastatin は IBS モデルの内臓知覚過敏・腸管透過性亢進を抑制する	第 25 回日本神経消化器病学会	2023.9

VII. 科研費採択状況

形成・再建外科学講座

Plastic and Reconstructive Surgery

I. 所属教員等

形成・再建外科学講座
教授 林 利彦
講師（学内） 山尾 健
助教 西尾 卓哉

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 古川洋志, 林 利彦, 山本有平.	皮膚悪性腫瘍患者へ最良の再建を行うために～基本の整理	Skin Cancer	2023.11
2) 林 利彦	教室だより北～南.	形成外科.	2023.6

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Maeda T, Yamamoto Y, Hayashi T, Furukawa H, Ishikawa K, Miura T, Hojo M, Funayama E.	Restoration of lymph flow by flap transfer can prevent severe lower extremity lymphedema after inguino-pelvic lymphadenectomy.	Surgery Today.	2023.5
2) 宮田夏実, 西尾卓哉, 市原寛大, 宮田明久生, 山尾健, 湯澤明夏, 林 利彦.	前額部隆起性皮膚線維肉腫の治療経験.	日本形成外科学会誌	2023.7

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 西尾卓哉、宮田明久生、宮田夏実、市原寛大、山尾健、林 利彦	重症下肢虚血（CLI）に対する治療戦略—外科的血行再建と遊離組織移植の併用—	第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会	2023.4
2) 西尾卓哉、山尾	双茎皮弁を用いて再建した	第 41 回日本臨床皮	2023.5

	健、宮田明久生、市原寛大、宮田夏実、庄中達也、上小倉佑機、青木直子、谷野美智枝、林 利彦	皮膚浸潤を伴う回腸人工肛門部癌の治療経験	膚外科学会総会・学術大会／第 18 回癒痕・ケロイド治療研究会	
3)	西尾卓哉、林 利彦、前田 拓、石川耕資、山尾健、今石沙織、林成司、林 美貴、布山佳菜子、山本有平	頭頸部原発皮膚悪性腫瘍における原発部位とリンパドレナージパターンの解析と予後に関する検討	第 32 回日本形成外科学会基礎学術集会	2023.10
4)	西尾卓哉、林 成司、林 美貴、宮田夏実、山尾健、林 利彦	症例提示	第 2 回 Hokkaido LM Expert Seminar	2023.11
5)	西尾卓哉、今石沙織、林 美貴、林成司、山尾 健、林 利彦	CLTI に対する下肢遠位バイパス手術と遊離広背筋皮弁の併用	第 50 回日本マイクロサージャリー学会学術集会	2023.12
6)	西尾卓哉、今石沙織、林 美貴、林成司、山尾 健、菊地信介、東 信良、林 利彦	下肢遠位バイパス血管をレシピエントとした遊離筋皮弁術後にバイパス血管閉塞を来した CLTI 症例の治療経験	第 50 回日本マイクロサージャリー学会学術集会	2023.12
7)	山尾 健、宮田明久生、宮田夏実、市原寛大、西尾卓哉、庄中達也、上小倉佑機、青木直子、谷野美智枝、林利彦	皮膚浸潤をきたした人工肛門部癌の治療経験	第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会	2023.4
8)	山尾 健	SORBACT の使用経験	第 5 回 WBP 研究会	2023.7
9)	山尾 健	スポンサードハンズオンセ	第 39 回日本皮膚悪	2023.8

	ミナー2. 縫合技術の真髓を知る ー実践ですぐに使える縫合テクニックを学ぶー	性腫瘍学会学術集会	
10) 山尾 健、西尾卓哉、宮田夏実、林成司、林 利彦	整形外科と合同手術を行い遊離皮弁で閉創した2例	第3回旭川の手外科を考える会	2023.12
11) 山尾 健	足病変の保存的治療・手術待機期間におけるSORBACTの適応・有効性	第4回日本フットケア足病医学会	2023.12
12) 林 利彦	スポンサードハンズオンセミナー2. 縫合技術の真髓を知る ー実践ですぐに使える縫合テクニックを学ぶー	第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術集会	2023.8
13) 林 利彦	歯科と形成外科との関わりーチーム医療に必須の要件とは？ー	旭川歯科医師会講演会	2023.10
14) 林 利彦	小児科領域の形成外科診療	道北小児科懇話会	2023.12
15) 林 利彦	オープニングリマークス.	CLTI Conference for Wound Care Specialists in Hokkaido	2024.3

VII. 科研費採択状況

看護学講座

Department of Nursing Course

I. 所属教員等

看護学講座

教	授	伊藤	俊弘
教	授	及川	賢輔
教	授	小田嶋	裕輝
教	授	長谷川	博亮
教	授	濱田	珠美
教	授	藤井	智子
教	授	升田	由美子
教	授	山内	まゆみ
教	授	山根	由起子
准	教	荒	ひとみ
准	教	一條	明美
准	教	塩川	幸子
准	教	野中	雅人
准	教	平	義樹
准	教	森	浩美
講	師	石川	千恵
講	師	神成	陽子
講	師	苔米地	真弓
助	教	綱元	亜依
助	教	出村	唯
助	教	巻島	愛
助	教	牧野	志津
助	教	松田	奈緒美
助	教	水口	和香子
助	教	山口	希美
助	教	山田	咲恵
助	教	吉原	茉寿
助	教	吉本	朋加

看護職キャリア支援センター

特任助教 白瀧 美由紀

II. 研究業績紹介

2022（令和4）年度現在、看護学講座は形態機能学、生体防御学、基礎看護学、成人看護学、精神看護学、母性看護学・助産学、小児看護学、高齢者看護学、在宅看護学、がん看護学、公衆衛生看護学、健康教育開発学の12領域、計28名が所属する大講座です。それぞれの専門領域の研究はもちろん、講座内の複数の領域、他講座、看護職キャリア支援センターの各部門との共同研究などの取り組みがあります。大学院修士課程での修士論文研究をベースにした学会発表や論文発表も積極的に行い、看護の専門性を高めるとともに対象者への看護として社会に還元できるように研究成果を蓄積・発表しています。

今回の年報の対象年である2022年度は、コロナ禍により大きな影響を受けた看護学教育について、より効果的に教授するための方略や人材育成の取り組みについての研究があることが特徴と言えます。

また、上述した看護職キャリア支援センターを中心として取り組んだ研究が複数発表されています。2019年度末に開設した同センターは大学看護学科と大学病院看護部が協働し活動に取り組んでいます。今後も道北・道東地区の看護職・看護学生のキャリア開発に貢献する研究成果を公表していく予定です。

最後に、看護学講座では研究支援チームがNAMU（Journal Club for Nurses of AMU）という研究論文抄読会を1回のペースで開催しており、2024年1で第45回となります。全領域が輪番で担当し、看護学科教員と大学院生、臨床ナースを対象にしています。各領域に関連した研究論文を紹介してクリティークするだけでなく、自分が取り組んでいる研究を紹介して参加者からアドバイスをもらうなど幅広い内容となっています。他領域の研究の方向性や内容を知ることによって、研究計画のブラッシュアップや新たな共同研究が生まれることを期待しています。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 神田 浩路(旭川医科大学 社会医学講座 衛生学・健康科学分野), 伊藤 俊弘, 藤井 智子, 塩川 幸子, 吉田 貴彦	COVID-19 下の本学における アフリカ保健人材育成のための JICA 研修	旭川医科大学研究フォーラム	2023.6

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 山下千絵子, 塩川幸子, 藤井智子	新任期保健師のアセスメント力向上を目指した事例検討における質問の特徴 - 母子の個別支援を通して -	日本地域看護学会誌 26(1)	2023.4
2) 野中雅人, 熊井琢美, 佐々木悠菜, 佐々木弥奈, 眞鍋真美, 澤田愛希, 三浦美佳, 服部ユカリ	化学放射線療法を受ける高齢頭頸部がん患者の口腔内有害事象に対する評価項目の検討	北海道医学雑誌.98 (1)	2023.5
3) 伊東美穂, 升田由美子	内科系病棟に勤務する看護師が行っている清拭方法とその判断に影響する要因	旭川医科大学研究フォーラム 20, 34-43	2023.6
4) 中村智美, 児玉真利子, 升田由美子	看護師のキャリア形成とライフキャリア・レジリエンスの関連	日本看護管理学会誌, 27(1) 102-111	2023.10
5) 山根由起子, 西條泰明, 橋本和季	地域在住高齢者における摂食嚥下機能と MNA-SF の関連 在宅(居宅)で生活する要介護認定高齢者の横断研究	日本老年医学会雑誌 60 巻 4 号 455.	2023.10
6) 村竜次, 升田由美子	末梢静脈路確保時の効果的なアームダウンの体位 - 簡易に行える静脈怒張を目指して -	日本看護技術学会誌, 22, 63-70	2023.12
7) 藤井智子, 塩川幸子, 水口和香子	保健師基礎教育における地域ケア会議ロールプレイの学習成果 - リアリティを生み出す教員の介入と学生の学び -	日本看護学教育学会誌 33 巻 3-1 号 p.57-69	2023.12

8) 織田裕子, 升田由美子	大学病院に勤務する2年目看護師の成長につながった経験と支援の検討	日本看護学教育学会誌, 33, 123-135	2024.2
9) 塩川幸子, 山下千絵子, 藤井智子, 水口和香子, 神戸愛	個別支援アセスメント力向上を目指した保健師現任教育研修の企画—企画者の課題認識と企画意図—	北海道公衆衛生学雑誌 37(2)	2024.3
10) 松田奈緒美, 阿部修子	外来化学療法の看護において看護師が活用している能力	旭川医科大学研究フォーラム vol.21	2024.3
11) 藤井智子, 神戸愛	介護保険事業計画にみる地域ケア会議と地域包括ケアシステムの位置づけ -北海道134市町村の第8期介護保険事業計画の分析から-	北海道地域福祉研究 27巻 p. 35-48 (2023)	2024.3

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 山根 由起子 百田武司・森山美知子(編)	エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 脳卒中の摂食嚥下障害 p56～p69 ギラン・バレー症候群 p214～221	中央法規	2023.3
2) 山根 由起子 日本神経摂食嚥下・栄養学会(編)	脳神経内科疾患の摂食嚥下・栄養ケアハンドブック 食事の内容(嚥下調整食) p40～p44	医歯薬出版株式会社	2023.11

- 3) 青柳道子,上田泉,菊地ひろみ,佐々木雅彦,渋谷春美,高橋奈美,照井レナ,深川周平,松木由里,水口和香子,村川奨 在宅看護過程演習第3版 - アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ - (上田泉編) (担当分: p32-38 第3章アセスメント - 統合/p62-83 第7章看護過程の実際 - 事例別の展開1 アルツハイマー型認知症のある事例) 株式会社クオリティケア 2024.2
- 4) 山根 由起子 臨床看護のeラーニングCandY Link (キャンディリンク) 「講義動画 EX コース」 「摂食嚥下の評価法」 「摂食嚥下障害訓練のポイント」 株式会社メディアカ出版 2024.4

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 神田 浩路, 伊藤 俊弘, 吉田 貴彦	短時間曝露実験研究によるローズマリー揮発成分の健康増進効果の検証	第96回日本産業衛生学会	2023.5
2) 山根 由起子	呼吸器疾患患者に関する摂食嚥下と呼吸機能	第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会北海道支部学術集会	2023.5
3) Ai Makishima, Mayumi Yamauchi	Evaluation of online versus face-to-face education in maternity nursing exercises during the COVID-19 pandemic	the 33rd International Confederation of Midwives Triennial Congress	2023.6
4) <u>Mayumi Yamauchi</u> ¹ , Keiko Nakamura ² , Ai Makishima ¹ .	Effects of simulation education programs during labor using a one-group pretest-posttest design	the 33rd International Confederation of Midwives Triennial	2023.6

- | | | | |
|---|---|---------------------------------------|--------|
| 5) 山根 由起子 | 健康寿命延伸に向けた
オーラルフレイル対策の展望 | 旭川医科大学大
学祭公開講座 | 2023.6 |
| 6) 森浩美 | 病気もしくは障害をもつ子ども
の母親のエンパワメントに
関する文献検討 | 日本小児看護学
会第 33 回学術集
会 | 2023.7 |
| 7) 松田奈緒美、荒ひ
とみ、苫米地真
弓、山口希美、阿
部修子 | コロナ禍での成人看護学実習
(慢性期)における学びの内
容－実習レポートからの分析
－ | 一般社団法人
日本看護研究学
会 第 49 回学術
集会 | 2023.8 |
| 8) 神成陽子、石川千
恵、升田由美子、
井戸川みどり、植
山さゆり、白瀧美
由紀 | 臨地実習指導者を養成する効
果的な研修を目指して 旭川
医科大学看護職キャリア支援
センター教育プログラム開発
部門の取り組み | 第 49 回日本看護
研究学会学術集
会 | 2023.8 |
| 9) 一條明美, 神成陽
子, 綱元亜依, 升
田由美子 | 看護系大学生に対する講義・
実習ガイダンスを連動させた
看護倫理に関する学習内容の
一考察 | 第 49 回日本看護
研究学会学術集
会 | 2023.8 |
| 10) 升田由美子 | 受審準備と受審により生じた
学内外の変化－看護学教育の
質保証－ | 第 1 回 JABNE 研
修交流集会 | 2023.8 |
| 11) 升田由美子, 神成
陽子, 苫米地真
弓, 塩川幸子, 卷
島愛, 牧野志津,
山田咲恵, 松田奈
緒美, 山口希美,
山根由起子 | 看護系大学地域包括ケア実習
「健康セミナーげんき種」参
加住民の心理・社会的健康状
態と主観的健康感 | 日本地域看護学
会第 26 回学術集
会 | 2023.9 |

12) 矢橋 忍, 長谷川 博 亮	介護予防事業に参加する高齢者の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 恐怖と精神的健康との関連	第 54 回(2023 年 度)日本看護学会 学術集会	2023.9
13) 神田 浩路, 伊藤 俊 弘, 藤井 智子, 塩川 幸子, 吉田 貴彦	COVID-19 流行にかかる本邦への入国制限緩和後に実施したアフリカ地域保健人材育成研修	第 82 回日本公衆 衛生学会	2023.10
14) 吉原 茉寿 山内まゆみ	北海道の市町村における地域の看護職が妊婦に行う母乳育児支援の実態と母乳率の関連要因についての検討	北海道母性衛生 学会	2023.10
15) 鈴木歩佳, 笹原温 大, 塩川幸子	児童虐待事例に向き合う保健師の支援に関する文献検討	第 75 回北海道公 衆衛生学会	2023.11
16) 山田咲恵、渡邊友 香、正源美穂、江 本千晴、室矢剛 志、荻原弘幸、照 井レナ、永谷智 恵、加藤千恵子	過疎地域市町村の地域役員が抱く災害への思いと医療的ケア児家族に必要と考える支援	第 13 回日本在宅 看護学会学術集 会	2023.11
17) 池田行宏、岡山睦 美、巻島愛、石井 里佳	プログラム化された性教育と性感染症発生率、人工妊娠中絶率の関係	日本学校保健学 会 第 69 回学術大 会	2023.11
18) 久保 千夏, 升田 由 美子	うっ血性心不全患者の看護診断「健康管理促進準備状態」に関する経過記録のテキストマイニングによる分析	日本看護科学学 会学術集会	2023.12
19) 山根 由起子	摂食嚥下機能障害や機能低下予防に向けた取り組み	にいがた摂食嚥 下障害サポート 研究会 (日本摂食嚥下リ ハビリテーショ ン学会 2 単位認 定講演)	2023.12

20) 塩川幸子,藤井智子, 神戸愛, 山下千絵子,浅野綾子	新任期保健師が立案した家庭訪問計画に対する指導者の介入	第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会	2024.1
21) 山下千絵子,塩川幸子,藤井智子, 神戸愛,浅野綾子	新任期保健師の家庭訪問に向けた準備の特徴	第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会	2024.1
22) 藤井智子,塩川幸子, 水口和香子	アクションリサーチによる小規模自治体職員の地域ケア会議を活用した人材育成	第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会	2024.1
23) 水口和香子,藤井智子	おっくうと感じつつも高齢者学級・奉仕活動に参加している地域高齢者の外出状況	第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会	2024.1
24) 江口卓也、濱田珠美	造血管腫瘍患者の希望についての特性と機能-システムティックレビュー -	第 3 8 回日本がん看護学会学術集会	2024.2

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 藤井 智子	再々 延長	基盤研究 (C)	アクションリサーチによる自治体職員の認識の変化を生み出す地域ケア会議の開発
2) 山根 由起子	継続	基盤研究 (C)	オーラルフレイルに関するプログラム検証ー地域在住高齢者のコホート研究ー
3) 森 浩美	継続	基盤研究 (C)	在宅移行後 1 年間の医療的ケア児と親を支援する遠隔看護システムの構築
4) 塩川 幸子	継続	基盤研究 (C)	アクションリサーチによる保健師の家庭訪問の再アセスメント可視化と教育モデル開発
5) 塩川 幸子	再々 延長	基盤研究 (C)	アクションリサーチによる保健師のアセスメント能力向上を導く看護過程の構築
6) 石川 洋子	延長	基盤研究 (C)	「治療であるという誤解」に応答するインフォームド・コンセントの質を高める研究
7) 野中 雅人	延長	基盤研究 (C)	高齢頭頸部癌患者の化学放射線療法による有害事象に対する口腔内評価ツールの開発
8) 水口 和香子	継続	基盤研究 (C)	おっくうと感じる高齢者へのナッジを用いた社会活動維持方策の構築に関する介入研究

9) 綱元 亜依 延長 若手研究

クリティカルケアに携わる新人看護師の日常生活援助における臨床判断

一般教育

Department of General Education

I. 所属教員等

心理学

教 授 池上 将永

社会学

教 授 工藤 直志

数学

准 教 授 加藤 勲

数理情報科学

教 授 高橋 龍尚

物理学

教 授 本間 龍也

准 教 授 稲垣 克彦

講師（学内） 藤井 敏之

化学

教 授 眞山 博幸

講師（学内） 室崎 喬之

生物学

准 教 授 日下部 博一

講師（学内） 日野 敏昭

生命科学

講師（学内） 津村 直美

英語

教 授 三好 暢博

准 教 授 桑名 保智

II. 研究業績紹介

【一般教育】

一般教育は9つの研究領域（学科目）で構成されています。各研究領域の研究活動・成果の概要を記載します。

心理学：遅延割引に基づく衝動性検査を作成し、ADHD児の行動評価に応用する研究を

行っている。また、衝動性に関する行動課題および近赤外分光法（NIRS）を用いた認知神経科学的研究を行い、結果を論文に発表した。

社会学：現代の日本社会における異種移植への意識を把握するために社会調査を実施して、調査結果を科学社会学会第12回年次大会で発表した。また、調査の結果をとりまとめた論文を、社会学の学術雑誌に投稿中である。

数 学：Half wave Schrödinger 方程式の初期値問題の非適切性に関する結果を幾つか得た。集約的べき型3次非線型項のとき、定在波解を用いて非負の滑らかさを持つ臨界空間での非適切性を示した。

数理情報科学：We investigate the microcirculatory networks using fractal theory and the regulatory mechanisms of blood flow and blood pressure in the circulation. Also, we deal with the design principle of mammalian respiratory and circulatory systems by deriving the scaling law of morphological and physiological parameters from the allometric formulas.

化 学：生体表面の濡れ性や知覚に関する研究および生物付着に関する研究を行っている。皮膚の変形と触覚に関する研究や付着基質の表面官能基と生物付着との関係についての研究成果を、日本生物物理学会や高分子学会などで発表した。

生物学：マウス生殖細胞を核型解析する手法を確立し、論文発表を行った。さらに、マウスにおける受精機構の解明と生殖補助技術の改良に関する研究を継続し、招待講演または学会発表を行った。

物理学：銅酸化物高温超伝導の分野で蓄積された実験データを解析し、高温超伝導の発現機構解明を目指している。低次元導体分野での未解決問題を研究するとともに、動的カシミール効果の理論的研究にも取り組んでいる。

生命科学：アルツハイマー病は原因不明の孤発性のものが多い。酸化ストレス過程の関与を仮定し、神経変性の機序解明のために分子細胞生物学的なアプローチを試みている。また、抗認知症食となる成分も調べている。

英語：言語間の差異を超えた言語の特性を理論的に研究する基礎研究を行っている。動詞、目的語、斜格の語順に関する研究、含意的普遍性に関する研究、英語の語法に関する研究を主に行った。

Ⅲ. 総説・解説

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Masanaga Ikegami, Michiko Sorama	Differential Neural Correlates in the Prefrontal Cortex during a Delay Discounting Task in Healthy Adults: An fNIRS Study	Brain Sciences	2023.5
2) Yuta Fukuda, Kazu Urushihara, Akiya Sena Ebana, Hiroyoshi Nobukane, Katsuhiko Inagaki, Satoshi Tanda	Quantum time sliding by CDW instantons in nanoscale NbS3 and TaS3	JPS Conference Proceedings	2023.5
3) Haruna Katayama, Noriyuki Hatakenaka, Toshiyuki Fujii, Miles P. Blencowe	Analog black-white hole solitons in traveling wave parametric amplifiers with superconducting nonlinear asymmetric inductive elements	Physical Review Research	2023.6
4) Toshiaki Hino, Hirokazu Kusakabe	A reliable technique for karyotyping mouse oocytes prepared by a gradual fixation/air-drying method followed by multicolour FISH	Biology Open	2023.12
5) Yasutomo Kuwana	The Deadjectival Noun <i>Slowness</i> and Its Complement Types	英語語法文法研 究 (30)	2023.12
6) Haruna Katayama, Noriyuki Hatakenaka, Toshiyuki Fujii, Miles P. Blencowe	Analogue tachyons in SNAIL transmission lines	New Journal of Physics	2023.12
7) Isao Kato	Ill-posedness for the Half wave Schrödinger equation	Mathematische Zeitschrift	2024.3

- 8) Yuki Hashimoto, Amane Hase, Ryotaro Shiromae, Ryo Nishimura, Nasajazu Morimoto, Yohei Hattori, Hiroyuki Mayama, Satoshi Yokojima, Shinichiro Nakamura, Kingo Uchida Straightforward Fabrication of Double Roughness Structures on a Microcrystalline Film of a Diarylethene Derivative Langmuir 2024.3
- 9) Ryo Nishimura, Ayako Fujimoto, Takashi Kamitanaka, Haruki Sugiyama, Akiko Sekine, Nobuhiro Yasuda, Yohei Hattori, Masakazu Morimoto, Hiroyuki Mayama, Satoshi Yokojima, Shinichiro Nakamura, Kingo Uchida Self-assembly of chiral diarylethene microcrystals by sublimation process to form foliage scroll pattern Crystal Growth and Design 2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 加藤 勲	Ill-posedness for the half wave Schrödinger equations	北海道大学 偏微分方程式セミナー	2023.5
2) Takayuki Murosaki, Jumpei Watanabe, Yuji Hirai, Yasuyuki Nogata	The settlement behaviors of sessile organisms on the surfaces with patterned functional groups	The 40th International Conference of Photopolymer	2023.6

3)	浅野 祥大、室崎 喬之、野方 靖行、下村 政嗣、平井 悠司	異なる SAM 基板上におけるフジツボ幼生の探索挙動解析	Science and Technology 2023 年度北海道高分子若手研究会	2023.8
4)	Shota Asano, Takayuki Murosaki, Yasuyuki Nogata, Masatsugu Shimomura, Yuji Hirai	Analysis of barnacle larval exploration behaviors on substrates modified with different surface functional groups	KJF International Conference on Organic Materials for Electronics and Photonics 2023	2023.8
5)	眞山 博幸、酒田 由佳、菊地 莉緒、野々村 美宗	粘弾性体の摩擦力の応答：正弦波状にこすったときの皮膚の変形と摩擦を理解するためのモデル	第 74 回コロイドおよび界面化学討論会	2023.9
6)	工藤 直志	現代日本の異種移植への態度と関連する要因の検討	科学社会学会第 12 回年次大会	2023.9
7)	津村 直美、林 要喜知、伊藤 俊也、神田 浩路、吉田 貴彦	アルツハイマー病モデル細胞系に及ぼすアンセリン・カルノシンの細胞変性抑制効果	2023 年度日本産業衛生学会北海道地方会	2023.9
8)	時崎 久夫、桑名 保智	名詞－形容詞の語順と主要部パラメータ	「言語変化・変異研究ユニット」第 11 回ワークショップ（AA 研共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2023 年度第 3 回研究会との共催）	2023.9
9)	浅野 祥大、室崎 喬之、野方 靖行、下村 政嗣、平井 悠司	異なる表面官能基を修飾させた基板上でのフジツボ幼生の接着挙動解析	第 72 回高分子討論会	2023.9

10) 加藤 勲	Ill-posedness for the focusing half wave Schrödinger equation	早稲田大学 応用解析研究会	2023.9
11) 桑名 保智	名詞 interest に後続する句	英語語法文法学会 第 31 回大会	2023.10
12) 日下部 博一	マウス凍結乾燥ミニ卵の γ トコトリエノール処理による染色体ダメージの軽減	日本環境変異原ゲノム学会 第 52 回大会	2023.11
13) 日野 敏昭、日下部 博一	マルチカラーFISH によるマウス卵母細胞の核型解析法の開発とその応用	第 44 回動物生殖工学研究会	2023.12
14) 日野 敏昭	マルチカラーFISH を利用したマウス生殖細胞の細胞遺伝学的解析法の開発とその応用	全能性プログラム：デコーディングからデザインへ 第 5 回公開シンポジウム	2023.12
15) Tokizaki, Hisao, Jiro Inaba, Yasutomo Kuwana	A prosodic constraint on the head-complement linearization	DGfS	2024.2
16) 三好 暢博、戸澤 隆広、菅野 悟、戸塚 将	見せかけの逆行コントロールについて	日本英語英文学会 第 33 回年次大会	2024.3
17) 日野 敏昭	マウス生体の卵管を使った卵管内における配偶子輸送機構の解明	第 31 回 母と子のすこやか基金シリーズセミナー	2024.3
18) 稲垣 克彦、中津川 啓治、丹田 聡	一次元電荷密度波におけるロックイン転移の見直し	日本物理学会 2024 年春季大会	2024.3
19) 時崎 久夫、桑名 保智	目的語・動詞・斜格の語順と補部・付加部の区別	AA 研共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2023 年度第 5 回研究会	2024.3

Ⅶ. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 桑名 保智	新規	基盤研究 (C)	英語の形容詞・派生名詞と後続句に関する記述的・理論的研究
2) 池上 将永	継続	基盤研究 (C)	多次元衝動性検査の開発と ADHD 診断補助への応用
3) 日下部 博 一	延長	基盤研究 (C)	フリーズドライ卵子の作製技術の開発
4) 日野 敏昭	延長	基盤研究 (C)	新しい卵管観察法による精子と初期胚の卵管内輸送メカニズムの解明
5) 眞山 博幸	再々延長	基盤研究 (C)	現実の汚れた表面の濡れ現象：化学的ピン止め効果と物理的ピン止め効果の解明
6) 室崎 喬之	再々延長	基盤研究 (C)	付着珪藻の生物皮膜形成メカニズムに基づく新規防汚性表面微細構造の開発

リハビリテーション科

Department of Physical Medicine
and Rehabilitation

I. 所属教員等

リハビリテーション科			
教 授		大田	哲生
助 教		及川	欧
助 教		伊達	歩
助 教		遠藤	寿子

II. 研究業績紹介

リハビリテーション科ではリハビリテーション医療による運動機能の改善を中心に研究を進めたいと考えています。特に脳卒中などの中枢神経障害による片麻痺の上肢機能の改善を brain machine interface の技術を応用した治療法で行うことを目指しています。

中枢神経障害による運動機能障害では筋緊張亢進による随意性の低下を来すこともあり、効果的なボツリヌス療法の実施方法についても検討を重ねるつもりです。また脳卒中、末梢動脈疾患や運動器疾患患者等の歩行分析を足底圧測定や3次元動作解析およびAIを活用した画像解析で行い、歩容改善のための運動療法や装具療法を見出すことに生かしていきたいと考えています。

さらに超高齢社会における健康寿命の延伸を図るため、医師やセラピストの少ない地域でも適切なリハビリテーション治療を受けられるように遠隔リハビリテーションシステムの構築も目指しています。

運動機能の改善には循環器の機能改善も欠かせません。心不全や心筋梗塞患者に対する効果的なリハビリテーション治療も併せて検討していきたいと思えます。

当科ではスポーツにおけるパフォーマンスの向上やスポーツによる健康づくりにも興味を持っており、例えば車椅子フェンシングにおける効果的な運動方法の研究を行ったり、旭川の地域性を生かして歩くスキーと健康との関連を調査したりすることも考えています。

また、種々の疾患に対応すべく、バイオフィードバック技術を応用したリハビリテーション治療の研究も行っています。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 大田哲生	リハビリテーション診療 update オンライン診療・遠隔診療	日本医師会雑誌	2023.10
2) 及川欧	日本バイオフィードバック学会 のあゆみとこれから 医・工・ 心協働と多職種によるバイオフ ィードバックの向かう先	バイオフィード バック研究	2023.4

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 村岡法彦, 及川欧, 才田良幸, 池田夢子, 景山研斗, 西谷健太郎, 美馬愛子, 甲谷滉康, 内藤幸輝, 呂隆徳, 大田哲生	COVID-19 に罹患した要介護高齢者へのリハビリテーションの効果	北海道理学療法士会誌	2023.11
2) 池田夢子, 及川欧, 村岡法彦, 塚田鉄平, 才田良幸, 呂隆徳, 大田哲生	長期人工呼吸器管理となった80代のCOVID-19患者に対するリハビリテーション経過と一年後調査	日本老年医学会誌	2023.4

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 大田哲生	遠隔リハビリテーションの意義と課題	第61回全国自治体病院学会	2023.9
2) 大田哲生	四肢痙縮のボツリヌス療法～リハビリテーション治療の満足度を上げるためには～	第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会	2024.3
3) 呂隆徳, 高橋佑弥, 村岡法彦, 佐藤弘也, 塚田鉄平, 伊東修一, 大田哲生	理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士における診療記録の質的向上を目的とした監査票の作成	リハビリテーション医療DX研究会第1回学術大会	2023.4
4) 村岡法彦, 呂隆徳, 大田哲生	進行肺がん患者の治療時期による身体機能とADL, QOLの関連性	第6回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術集会	2023.10

- | | | | | |
|-----|--|---|----------------------------|---------|
| 5) | 高橋佑弥, 八木橋史佳, 呂隆徳, 林圭輔, 木下学, 大田哲生 | 覚醒下手術における術中課題の検討－概要報告－ | 第 45 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会 | 2023.7 |
| 6) | 高橋佑弥, 呂隆徳, 野坂利也, 及川欧, 大田哲生 | 二つの機能を有した上肢義手について－右前腕部不全切断術後の症例－ | 第 67 回北海道リハビリテーション学会学術集会 | 2023.7 |
| 7) | 田中伸吾, 伊東修一, 呂隆徳, 小原和宏, 大田哲生 | 車いすフェンシングの攻撃側と防御側の殿部における圧力の違いに関する検証 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 8) | 田中伸吾, 伊東修一, 呂隆徳, 小原和宏, 大田哲生 | 車いすフェンシングで使用するクッション素材の違いが競技動作の速さに及ぼす影響 | 第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 | 2024.1 |
| 9) | 高山拓也, 村岡法彦, 呂隆徳, 大田哲生 | 胃がん患者における術後 6 ヶ月での運動耐容能低下に及ぼすリスク因子の検討 | 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会 | 2023.10 |
| 10) | 高山拓也, 村岡法彦, 川原菜々, 林寛将, 甲谷滉康, 橋本直宏, 呂隆徳, 大田哲生 | 当院における脳卒中後重度片麻痺患者に対する長下肢装具の使用状況 | 旭川地域脳卒中地域連携研究会 | 2023.10 |
| 11) | 景山研斗, 村岡法彦, 呂隆徳, 及川欧, 大田哲生 | 外来リハビリテーション継続により社会復帰が可能となった重症 COVID-19 の一症例 | 第 45 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会 | 2023.7 |
| 12) | 八木橋史佳, 高橋佑弥, 呂隆徳, 林圭輔, 木下学, 大田哲生 | 覚醒下手術における術中課題の検討－症例報告－ | 第 45 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会 | 2023.7 |

13)	美馬愛子, 呂隆徳, 伊東修, 才田良幸, 石見千沙都, 大田哲生	リハビリテーション中のインシデントに関する要因は何か?—「転倒・転落, チューブトラブル」と「環境要因, 患者要因, 医療者要因」の関係性—	第 45 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会	2023.7
14)	甲谷滉康, 村岡法彦, 呂隆徳, 大田哲生	リハビリテーション治療継続により ADL や精神機能改善に功を奏した高齢膠芽腫の一例	老年医学会第 34 回北海道地方会	2023.10
15)	甲谷滉康, 村岡法彦, 林寛将, 呂隆徳, 大田哲生	膠芽腫患者の転帰別の特徴	第 6 回道北理学療法学術大会	2024.1
16)	渡邊安紀, 村田絵吏, 大田哲生	末梢神経障害により急激な ADL 低下を来した多発性骨髄腫患者に対する短期間での退院支援	第 12 回日本がんリハビリテーション研究会	2024.2
17)	吉田雄太, 伊東修一, 呂隆徳, 石田健一, 大田哲生	股関節離断後早期に歩行獲得できた症例	第 6 回道北理学療法士学術大会	2024.1
18)	才田良幸, 呂隆徳, 松野直徒, 高山拓也, 中川直樹, 久保靖憲, 高橋裕之, 横尾英樹, 大田哲生	生体腎移植前後のリハビリテーション治療によって身体機能および QOL が改善したサルコペニアの一症例	第 57 回日本臨床腎移植学会	2024.2
19)	池田夢子, 及川欧, 村岡法彦, 塚田鉄平, 才田良幸, 呂隆徳, 大田哲生	長期人工呼吸器管理となった 80 代の COVID-19 患者に対するリハビリテーション経過と一年後調査	第 65 回日本老年医学会学術集会	2023.6
20)	村岡法彦, 及川欧, 才田良幸, 景山研斗, 西谷健太郎, 美馬愛子, 甲	当院の要介護高齢 COVID-19 患者の特徴とリハビリテーションの効果	第 65 回日本老年医学会学術集会	2023.6

谷滉康, 呂隆徳、
大田哲生

- | | | | | |
|-----|---|--|---------------------------|--------|
| 21) | 阿部里見, 前田陽平, 佐々木祐介, 北村勇斗, 伊東浩, 松倉圭佑, 石田健一, 大田哲生, 川尻誠 | 外傷性大腿切断術後にスポーツ復帰できた Morel-Lavallee lesions 症例の検討 | 第 72 回東日本整形災害外科学会 | 2023.9 |
| 22) | 浅野目明日香, 佐藤健太, 林恵充, 森泉茂宏, 大田哲生 | 訪問リハビリテーション利用者における神経筋疾患患者の転倒状況 | 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会 | 2023.6 |
| 23) | 鈴江励, 遠藤寿子, 及川欧, 大田哲生 | 脳血管内治療後に神経症状を呈した造影剤脳症に対するリハビリテーションの経験 | 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会 | 2023.6 |
| 24) | 石田健一, 菊地芳彦, 牧野茂, 船木上総, 橋本洋一, 大田哲生 | 新型コロナウイルス感染後, 認知機能低下を認めた患者についての考察 | 第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会 | 2023.6 |
| 25) | 伊達 歩 | 当院における心リハエントリー患者の復職状況 | 第 29 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 | 2023.7 |
| 26) | Ayumi Date | In patients participating in cardiac rehabilitation, short-term return to work after discharge may cause exacerbation of cardiac disease | 第 88 回日本循環器学会学術集会 | 2024.3 |
| 27) | 高橋佑弥, 及川欧 | Rhythmical skeletal muscle tension(RSMT)変法の検討
ベーチェット病により上肢機能障害を呈した事例 | 第 50 回日本バイオフィードバック学会 | 2023.6 |

28) 高橋佑弥, 及川欧	リハビリテーション領域における新しい Heart Rate Variability(HRV)Biofeedback 療法の取り組み	第 50 回日本バイオフィードバック学会	2023.6
29) 及川欧, 木賊弘明, 榊原雅人,	プロフェッショナリズムとレガシー 東京 2020 でわれわれは何を学び, コロナ禍以降のバイオフィードバックはどこを目指すのか (Professionalism and Legacy: What Did We Learn from TOKYO2020, and Where is Biofeedback Leading Us beyond the COVID-19 Pandemic?)	第 50 回日本バイオフィードバック学会	2023.6
30) 及川欧, 細谷菜々望, 池田夢子, 甲谷滉康, 西谷健太郎, 景山研斗, 村岡法彦, 呂隆徳, 大田哲生	COVID-19 感染症患者の呼吸リハビリテーションにおける空気感染隔離ユニットの使用経験	第 65 回日本老年医学会学術集会	2023.6
31) 塚田鉄平, 千葉伸一, 伊藤秀行, 及川欧	北海道で夏に開催されたアダプテッド陸上大会の熱中症の一例 知的障がい短距離アスリート	第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会	2023.11
32) 松田康裕, 千葉伸一, 元井晴奈, 伊藤秀行, 及川欧	アマチュアスポーツにおける救命講習の普及に向けて北海道内における PUSH インストラクターの養成と今後の展望	第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会	2023.11
33) 元井晴奈, 千葉伸一, 伊藤秀行, 及川欧	小中学生のコンタクトスポーツにおける心臓震盪に備えた取り組み	第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会	2023.11
34) 内藤総, 元井晴奈, 松田康裕, 伊藤秀行, 及川欧	かみふらの十勝岳ヒルクライムにおける薬剤師のメディカルサポート スポーツファーマシストによる現場	第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会	2023.11

での新たな役割と意義

35) 及川欧 国際クラシファイアまでの 第 34 回日本臨床スポ 2023.11
道のり(第 1 報) 東京 2020 ーツ医学会学術集会
からのソフトレガシーの一
つとして

VII. 科研費採択状況

腫瘍センター

Oncology Center

I. 所属教員等

腫瘍センター

准教授 田邊 裕貴 (兼務)
講師 更科 岳大

II. 研究業績紹介

腫瘍センターは、本院におけるがん診療を統括する部署として設置され、診療科・部署横断的な役割を担っています。院内では外来化学療法の円滑な運営、がん相談支援センターによる患者・家族支援、医療従事者に対するがん診療のレベル向上、院内がん登録の推進を行い、一般市民に対するがん情報の提供などの活動をしています。

院内各部署と連携した研究を行い、がん遺伝子診療部と協働でがんゲノムに関する臨床研究を実施し、特に道内がんゲノム医療中核拠点病院との共同研究で学会発表や論文報告などの成果をあげています。主に、がん遺伝子パネル検査における「網羅的がん遺伝子検査に関する臨床研究」を行っており、当院では膀胱癌 CGP プロジェクトを主導しています。遺伝子診療カウンセリング室との連携で、遺伝性大腸癌の遺伝子診断臨床研究を実施しており、患者さんへ臨床研究における遺伝情報を還元することで今後のがん予防を主軸とした先制医療体制を構築することを目指しています。その成果は論文報告するなど関連分野の共同研究に積極的に参加して学術貢献に積極的に取り組んでいます。

小児科領域では「小児・AYA 世代がん白血病バイオバンクを活用した難治性白血病の治療開発」の基盤研究を実施し、小児・AYA 世代急性リンパ性白血病 (ALL) に関して、in vitro 薬剤感受性試験を活用し、ALL における RAS 阻害薬への感受性を予測するバイオマーカーを探索する研究を行なっています。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Ueno N, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Iwama T, Sasaki T, Kunogi T, Sakatani A, Takahashi K, Tanaka K, Serikawa S, Ando K, Kashima S, Muto M, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M.	Concomitant pharmacologic medications influence the clinical outcomes of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis: A multicenter retrospective cohort study.	Journal of Clinical Apheresis	2023.8

- 2) Funayama T, Nozu T, Ishioh M, Igarashi S, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T. Centrally administered GLP-1 analogue improves intestinal barrier function through the brain orexin and the vagal pathway in rats. *Brain Research* 2023.6
- 3) Igarashi S, Nozu T, Ishioh M, Funayama T, Sumi C, Saito T, Toki Y, Hatayama M, Yamamoto M, Shindo M, Tanabe H, Okumura T. Ghrelin prevents lethality in a rat endotoxemic model through central effects on the vagal pathway and adenosine A2B signaling : Brain ghrelin and anti-septic action. *Journal of Physiology and Biochemistry* 2023.8
- 4) Hagio K, Kikuchi J, Takada K, Tanabe H, Sugiyama M, Ohhara Y, Amano T, Yuki S, Komatsu Y, Osawa T, Hatanaka KC, Hatanaka Y, Mitamura T, Yabe I, Matsuno Y, Manabe A, Sakurai A, Ishiguro A, Takahashi M, Yokouchi H, Naruse H, Mizukami Y, Dosaka-Akita H, Kinoshita I. Assessment for the timing of comprehensive genomic profiling tests in patients with advanced solid cancers. *Cancer Science* 2023.5
- 5) Sato M, Ueno N, Sugimura K, Iwama T, Tanaka K, Sakatani A, Serikawa S, Ando K, Kashima S, Ishikawa C, Muto M, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M. [The task of the medical cooperation system for patients with inflammatory bowel disease in the northern and eastern regions of Hokkaido]. *日本消化器病学会雑誌* 2023.7

- 6) Sugiyama Y, Ueno N, Tachibana S, Kobayashi Y, Murakami Y, Sasaki T, Sakatani A, Takahashi K, Ando K, Kashima S, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M. The safety of vedolizumab in a patient with Crohn's disease who developed anti-TNF-alpha agent associated latent tuberculosis infection reactivation: A case report. *Medicine* (Baltimore). 2023.7
- 7) Ueno N, Saito S, Sato M, Sugiyama Y, Kobayashi Y, Murakami Y, Sugimura K, Sasaki T, Sakatani A, Takahashi K, Tanaka K, Serikawa S, Ando K, Kashima S, Muto M, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Okumura T, Fujiya M. The clinical efficacy and safety of granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with Crohn's disease: A multicenter retrospective pilot study. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2024.1
- 8) Moriichi K, Kashima S, Kobayashi Y, Sugiyama Y, Murakami Y, Sasaki T, Kunogi T, Takahashi K, Ando K, Ueno N, Tanabe H, Date A, Yuzawa S, Fujiya M. Cardiac sarcoidosis in a patient with ulcerative colitis: A case report and literature review. *Medicine* (Baltimore). 2024.1

- 9) Nakajima N, Takeuchi T, Hokari R, Narimatsu K, Iijima K, Koizumi S, Kasugai K, Ebi M, Nagahara A, Takeda T, Tomita T, Shinzaki S, Mizukami K, Murakami K, Yagi N, Mukai R, Okumura T, Tanabe H, Tanaka K, Iwamoto J, Irisawa A, Fukushi K, Kataoka H, Nishie H, Fujiwara Y, Otani K, Handa O, Maruyama Y, Uraoka T, Hosaka H, Furuta T, Takagi T, Nakamura M, Nyumura Y, Hakoda A, Sugawara N, Iwatubo T, Ota K, Kawaguchi S, Higuchi K, Nishikawa H. Background factors of idiopathic peptic ulcers and optimal treatment methods: a multicenter retrospective Japanese study. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition* 2024.1
- 10) Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, Sasagawa H, Kamanaka T, Kuroda S, Sato H, Sarashina T, Mizukami Y, Makita Y, Okumura T. Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability. *Human Genome Variation* 2024.3

11) Nishimura, Noriyuki ; Minimal Residual Disease Biology 2023.10
 Ishida, Toshiaki ; Detected by the 7NB-
 Yokota, Isao ; mRNAs ddPCR Assay Is
 Matsumoto, Kimikazu ; Associated with Disease
 Shichino, Hiroyuki ; Progression in High-Risk
 Fujisaki, Hiroyuki ; Neuroblastoma Patients: A
 Sarashina, Takeo ; Prospective Multicenter
 Kamijo, Takehiko ; Observational Study in
 Takimoto, Tetsuya ; Japan
 Iehara, Tomoko ;
 Tajiri, Tatsuro ; on
 behalf of the JCCG
 Neuroblastoma
 Committee

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 田邊裕貴, 井尻学見, 笹川穂の花, 鎌仲知 美, 黒田祥平, 水上裕 輔, 蒔田芳男, 奥村利 勝	がん遺伝子パネル検査では 指摘されずマイクロアレイ 染色体検査で診断しえた APC 遺伝子欠失を伴う家族 性大腸腺腫症進行大腸癌の 1 例	第 29 回日本遺 伝性腫瘍学会学 術集会	2023.6
2) (旭川医科大学 がん 遺伝子診療部) 田邊裕 貴, 佐藤広崇, 大竹 晋, 小林 進, 高橋裕 之, 山本昌代, 高橋慶 太郎, 田中宏樹, 佐々 木高明, 高橋賢治, 水 上裕輔 (北海道大学 がん遺伝子診断部) 菊 地順子, 大原克仁, 木 下一郎	当院における大腸癌に対す るがんゲノムプロファイリ ング検査の現状	第 134 回日本消 化器病学会北海 道支部例会, 大 128 回日本消化 器内視鏡学会北 海道支部例会	2024.3

3) 更科岳大	道北・オホーツク医療圏の 小児血液疾患・小児がん患 者における移行期医療の現 状と課題	第 103 回北海道 医学大会/第 65 回日本血液学会 秋期北海道地方 会	2023.9
---------	--	--	--------

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 更科 岳大	新規	基盤研究 (C)	小児・AYA 世代がん白血病バイオバンク を活用した難治性白血病の治療開発

緩和ケア診療部

Department of Palliative Care

I. 所属教員等

	緩和ケア診療部		
教授	牧野 洋		
講師	小野寺 美子		
助教	井上 真澄	(兼務)	
助教	高橋 裕香子	(兼務)	

II. 研究業績紹介

緩和ケア診療部 研究活動

緩和ケア診療部として、日常的に多くの患者さんに使用しているオピオイドに関する臨床研究、さまざまな痛みに関する理論研究、治療方針や最期の過ごし方に対する意思決定に関する理論研究、地域連携に関する量的・質的研究などを行っている。特に2023年は放射線治療中における疼痛緩和に対する検討を行い、治療中の苦痛をより軽減できるようにEvidenceの集積に努めている。また当院内で作成している特殊製剤であるケタミン軟膏の神経障害性疼痛への有効性についても検討を行っている。さらにはがん拠点病院である旭川医科大学病院の緩和ケア診療部としては院内で使用されている医療用麻薬の量について把握する義務があり、今後はその集計方法を使用して当院での医療用麻薬の使用方法の特性、患者背景による効果の違い、より苦痛軽減をはかれるようなオピオイド使用などについて検討を重ねていきたい。診療科横断的にオピオイドについての質的研究や混合研究を行っていく予定であり具体的な内容を検討しているところである。診療科としての特性、対象患者さんの特性上、ランダム化した臨床研究は非常に困難であるがケーススタディの集積がより質の高い緩和ケアにつながると考えられるので研究活動が重要な分野である。

III. 総説・解説

IV. 論文

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 小野寺 美子	【2023のシェヘラザードたち】(第16夜)動脈ライン確保が苦手でも麻酔科医は続けられます "私は麻酔科医に向いていません"から見出した活路	LiSA 別冊'23 春号	2023.4
2) 上坂 司、小野寺 美子	症例ライブラリー 術後の神経障害 下半身編 硬膜外カテーテル留置から30日	LiSA	2023.4

後に生じた下肢神経障害

- 3) 小野寺美子 1、神 麻酔科プラクティス 8 麻 文光堂 2023.5
 田浩嗣 2 酔管理の疑問に答える生理学
 学
 なぜ妊婦は痛みに強いのか？

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 小野寺美子 1、清水知沙 1、植田穂隆 2、齊藤玲那 2、上坂 司 2、矢口陽介 2	緩和的放射線治療に積極的な鎮痛に加え経静脈的鎮静が必要であり、多職種連携で完遂できた 3 症例	第 28 回日本緩和医療学会学術大会	2023.6

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 小野寺 美子	継続	基盤研究 (C)	神経障害性疼痛における妊娠が及ぼす GABA シグナル伝達機構の解明と治療薬への応用

乳腺疾患センター

Breast Diseases Center

I. 所属教員等

乳腺疾患センター
教授（病院） 北田 正博

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) <u>伊藤 茜</u> (旭川医科大 学), <u>中坪 正樹</u> , <u>吉野 流 世</u> , <u>安田 俊輔</u> , <u>吉田 奈 七</u> , <u>北田 正博</u> , <u>湯澤 明 夏</u>	多発性内分泌腫瘍症 1 型に合併した胸腺神経 内分泌腫瘍	胸部外科(0021- 5252)76 巻 4 号 Page324- 327(2023.04)	2023.4
2) Yoshino R, Yoshida N, Yasuda S, Ito A, Nakatsubo M, Kitada M.	A Case of Pneumothorax Ex Vacuo Associated with COVID-19	Medicina (Kaunas) . 2023 Apr 4;59(4):709 .	2023.4
3) <u>Nana Yoshida 1</u> , Masaki Nakatsubo 1, Ryusei Yoshino 1, Akane Ito 1, Nanami Ujiie 1, Sayaka Yuzawa 2, Masahiro Kitada 1	Concurrent Granulomatous Mastitis and Ductal Carcinoma In Situ	Cureus . 2023 May 1;15(5):e38377	2023.5
4) Ryusei Yoshino, Nana yoshida,, Akane Ito, Masaki Nakatsubo, Smishie Tanino, Masahiro Kitada	Surgical resection of a large invasive mucinous adenocarcinoma: A case report	Clin Case Rep . 2023 Jul 17;11(7):e7707.	2023.7
5) Ryusei Yoshino, Nana yoshida,, Akane Ito, Nanmi Ujiie, Masaki Nakatsubo, Yuki	Subareolar Breast Abscess in a Male: A Case Report	Cureus . 2023 Jul 28;15(7):e42623.	2023.7

Kamikokura,
Masahiro Kitada

- 6) Ryusei Yoshino,Nana yoshida,Akane Ito,Masaki Nakatsubo,Sayaka Yuzawa,Masahiro Kitada Solitary fibrous tumor resembling pulmonary fractionation disease: A case report Medicine (Baltimore) .2023 Jul 7;102(27):e34290. 2023.7
- 7) Akane Ito,Masaki Nakatsubo,Ryusei Yoshino,Nana yoshida,Masahiro Kitada Two Cases of Breast Cancer With Gastric Metastasis Cureus .2023 Aug 13;15(8):e43434. 2023.8
- 8) Ryusei Yoshino,Nana yoshida,Shunsuke Yasuda,Akane Ito,Masaki Nakatsubo,Sayaka Yuzawa, Masahiro Kitada Granulomatous Mastitis Occurring during Pregnancy: A Case Report Medicina (Kaunas) .2023 Aug 3;59(8):1418. 2023.8
- 9) 吉野 流世、吉田 奈七、安田 俊輔、伊藤 茜、中坪 正樹、北田 正博 左胸部に発生した乳腺紡錘細胞癌との鑑別を要した脱分化型脂肪肉腫の I 例 篠原出版新社 2023 年 8 月 31 日 乳癌の臨床 38 巻 4 号 293-298, 2023.8
- 10) Ryusei Yoshino,Nana yoshida,Shunsuke Yasuda,Akane Ito,Masaki Nakatsubo,Sayaka Yuzawa, Masahiro Kitada Synchronous multiple lung cancers with hilar lymph node metastasis of small carcinoma World J Clin Cases 2023 Sep 6;11(25):5919-5925. 2023.9

11) Ryusei Yoshino,Nana yoshida,,Akane Ito,Masaki Nakatsubo,Yuki Kamikokura,Masahiro Kitada	Radiation-Associated Breast Angiosarcoma	Cureus .2023 Oct 8;15(10):e46673.	2023.10
12) Ryusei Yoshino,Masaki Nakatsubo, Nanami Ujiie,Akane Ito,Nana ,Noko Aoki ,Masahiro Kitada	Ectopic epipericardial fat necrosis: a case report	J Surg Case Rep .2024 Jun 28;2024(6):rjae432.	2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 吉野 流世, 中坪 正 樹, 氏家 菜々美, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正 博	HER2 陽性乳癌に対するフ ルオロウラシル・エピルビ シル・シクロホスファミド による術前化学療法の効果 の検討	第 125 回日本外 科学会学術集会	2024.4
2) 田辺 裕子, 柏原 康 佑, 木川雄一郎, 平 成人, 岩谷 胤生, 下 妻晃二郎, 大谷 彰一 郎, 吉波 哲大, 渡邊 純一郎, 柏葉 匡寛, 渡邊 健一, 北田 正 博, 阪口 晃一, 相原 智彦, 向井 博文,	HER2 陰性転移性乳癌にお ける 1 次・2 次治療として のエリブリンと S-1 の HRQOL を比較する無作為 化第 III 相試験	第 31 回日本日 本乳癌学会学術 総会	2023.6
3) 吉野 流世, 中坪 正 樹, 伊藤 茜, 安田 俊輔, 吉田 奈七, 北 田 正博	当院におけるトリプルネガ ティブ再発週癌に対するペ ムブロリズマブの使用経験	第 31 回日本日 本乳癌学会学術 総会	2023.6
4) 伊藤 茜, 中坪 正 樹, 吉野 流世, 安田 俊輔, 吉田 奈七, 北	トリプルネガティブ乳癌早 期再発例の臨床病理学的検 討	第 31 回日本日 本乳癌学会学術 総会	2023.6

田 正博

- | | | | | |
|-----|--|---|-------------------------|--------|
| 5) | 北田 正博、吉野 流世、中坪 正樹、伊藤 茜、安田 俊輔、吉田 奈七 | 再発治療経過で HER2 陽性に転じた luminal type 乳癌の 1 例 | 第 31 回日本日本乳癌学会学術総会 | 2023.6 |
| 6) | 中坪 正樹、吉野 流世、伊藤 茜、安田 俊輔、吉田 奈七、北田 正博
(ア) 吉田 奈七、中坪 正樹、吉野 流世、伊藤 茜、安田 俊輔、北田 正博 | 当院における高齢者乳癌手術症例の検討
肉芽腫性乳腺炎と乳癌が併発していた 1 例 | 第 31 回日本日本乳癌学会学術総会 | 2023.6 |
| 7) | 吉野 流世、吉田 奈七、上小倉 佑機、湯澤 明夏、谷野 美智枝、北田 正博 | 肺転移巣で診断に至った後腹膜平滑筋肉腫の 1 例 | 第 31 回日本日本乳癌学会学術総会 | 2023.6 |
| 8) | 伊藤 茜 | 縦隔内異所性甲状腺腫の一例 | 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会 | 2023.7 |
| 9) | 吉野 流世 | 間質性肺炎合併続発性気胸に対する手術例の検討 | 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会 | 2023.7 |
| 10) | 中坪 正樹 | 甲状腺乳頭癌胸骨転移に対して胸骨切除、チタンプレートによる胸骨再建を施行した一例 | 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会 | 2023.7 |
| 11) | 伊藤 茜 中坪正樹、吉野流世、氏家菜々美、吉田奈七、北田正博、蒔田芳男 | 当院の乳癌症例における BRCA1/2 遺伝子検査の検討 | 第 103 回北海道医学大会
乳癌分科会 | 2023.9 |
| 12) | 吉田 奈七、吉野 流世、中坪 正樹、氏家 菜々美、伊藤 茜、北田 正博 | 乳腺 IgG4 関連疾患の 1 例 | 第 103 回北海道医学大会
乳癌分科会 | 2023.9 |

13)	中坪 正樹、吉野 流世、氏家 菜々美、伊藤 茜、吉田 奈七、北田 正博	自己免疫性溶血性貧血を合併した IgG4 関連呼吸器疾患	第 103 回北海道医学大会 外科・血管外科・胸部外科・小児外科合同分科会	2023.9
14)	氏家 菜々美、吉野 流世、中坪 正樹、伊藤 茜、吉田 奈七、北田 正博、青木 直子	Pneumothorax Ex Vacuo Associated with COVID-19	第 103 回北海道医学大会 外科・血管外科・胸部外科・小児外科合同分科会	2023.9
15)	吉野 流世、中坪 正樹、氏家 菜々美、伊藤 茜、吉田 奈七、北田 正博	若年男性の左乳房に発生した神経鞘腫 (schwannoma) の一例	第 124 回 日本臨床外科学会北海道支部例会	2023.9
16)	中坪 正樹、吉野 流世、氏家 菜々美、伊藤 茜、吉田 奈七、北田 正博、	当院における高齢者乳癌手術症例の検討	第 124 回 日本臨床外科学会北海道支部例会	2023.9
17)	伊藤 茜、中坪正樹、吉野流世、吉田奈七、北田正博、	胸骨部分石灰で切除し得た縦隔内異所性副甲状腺腫の一例	第 124 回 日本臨床外科学会北海道支部例会	2023.9
18)	伊藤 茜、中坪正樹、吉野流世、吉田奈七、北田正博	術前化学療法症例におけるサンプリングを含めたセンチネルリンパ節生検の有用性	第 25 回 SNNS 研究会学術集会	2023.10
19)	吉野流世、中坪正樹、北田正博	Combined Small Cell Lung Carcinoma and Large Cell Neuroendocrine Carcinoma:A case report	第 64 回 日本肺癌学会学術集会	2023.11
20)	伊藤 茜、中坪正樹、吉野流世、氏家菜々美、吉田奈七、北田正博、	当院のトラスツズマブデルクステンカン使用経験	第 85 回 日本臨床外科学会総会	2023.11
21)	中坪 正樹、吉野 流世、伊藤 茜、吉田	肺に発生した IgG4 関連疾患の一例	第 85 回 日本臨床外科学会総	2023.11

	奈七、北田 正博		会	
22)	吉野流世、北田正博、 吉田奈七、安田俊輔、 伊藤茜、中坪正樹	右第4肋骨原発軟骨肉腫に 対する胸壁腫瘍摘出手術・ 胸壁再建	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11
23)	中坪正樹、吉野流世、 伊藤茜、安田俊輔、吉 田奈七、北田正博	甲状腺乳頭癌の胸骨転移に 対して胸骨切除、チタンブ レートによる胸骨再建を施 行した1例	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11
24)	吉野流世、中坪正樹、 伊藤茜、安田俊輔、吉 田奈七、北田正博	左側胸部に発生した乳腺紡 錘細胞癌の1例	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11
25)	安田俊輔、北田正博、 吉田奈七、伊藤茜、中 坪正樹、吉野流世	当院におけるロボット支援 手術における縦郭リンパ節 郭清への工夫とリスクマネ ジメント	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11
26)	氏家 菜々美, 中坪 正 樹, 吉野 流世, 伊藤 茜, 吉田 奈七, 北田 正 博, 青木 直子	若年男性の左乳房に発生し た神経鞘腫(Schwannoma)の 一例	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11
27)	中坪正樹、吉野流世、 伊藤茜、安田俊輔、吉 田奈七、北田正博	眼窩内転移をきたした浸潤 性乳管癌の一例	第85回 日本 臨床外科学会総 会	2023.11

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 北田 正博	新規	基盤研究 (C)	肺癌胸膜播種性病変に対するアミノレブリン酸の蛍光特性を利用した高精度診断法の開発

臨床検査・輸血部

Department of Clinical Laboratory
and Transfusion

I. 所属教員等

臨床検査・輸血部			
教 授	奥村	利勝	
講 師	坂本	央	
助 教	河端	薫雄	
助 教	齊藤	江里香	
助 教	河端	奈穂子	(兼務)
助 教	高橋	裕貴	

II. 研究業績紹介

私たちは大学病院の臨床検査・輸血部として教育や研究にも力を注いでいます。臨床検査医学は基本 19 診療領域に含まれており、旭川医科大学病院は、日本臨床検査医学会の認定研修施設です。奥村利勝部長指導の下、坂本 央副部長（講師）、河端薫雄助教、齊藤江里香助教、河端奈穂子助教、高橋裕貴助教が医学部学生や検査技師養成機関の実習生の教育、医療スタッフや検査技師の院内研修を行い、臨床検査や輸血療法の意義や重要性を伝え、人材養成に注力しています。研究では機器や試薬の性能評価はもちろん、各科の諸先生のご指導を仰ぎ、日常の業務のなかで遭遇する疑問や新しい知見から、臨床検査・輸血に携わる者だからこそできる学術研究を発展させています。

2023 年度は、生理機能検査、特に心エコーや心電図学的指標を用いた臨床研究を中心に学会発表等を行いました。成人ミトコンドリア心筋症の病態や、心アミロイドーシスに対してトランスサイレチン四量体安定化薬による疾患修飾療法と経カテーテル大動脈弁置換術やペースメーカを併用した際の治療効果についての検討を行っています。また、当部門は認定心電図専門士を中心とした技師が心電図所見から医師に緊急連絡する体制を構築していますが、緊急連絡例についての分析を行い、チーム医療セッションにて技師による的確な心電図診断と緊急連絡体制の構築の重要性を発表しています。IFCC 法移行に伴う小児におけるアルカリホスファターゼ基準範囲の評価についての研究は学会誌に掲載され、健康診断受診者における FGF23 と高感度心筋トロポニンとの関連についての研究等も行っています。

これからは疾患の予防、早期診断や鑑別診断、治療効果予測などの診療に役立つ新しい検査法の開発を目指していくことが使命と考えます。安全・安心な医療が求められる一方、医療技術の高度化や高齢化社会は医療を複雑化しています。質の高い医療に貢献するために、検査技術の向上、業務の効率化、チーム医療の柱として役割を果たしてまいります。皆さまに深く信頼される臨床検査・輸血部を目指して、スタッフ一同努力を続けていきますので、ご指導とご支援を賜ります様お願い申し上げます。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 及川貴允、伊藤敦巳、野澤佳祐、藪田弥代、佐渡正敏、坂本央、奥村利勝、藤井聡	IFCC 法移行に伴う小児におけるアルカリホスファターゼ基準範囲の評価	日本臨床検査医学会誌	2023.12

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 藤原和美, 坂本央, 澤田潤, 蓑島暁帆, 西野一三, 後藤雄一, 池田善彦, 畠山金太, 竹内利治, 中川直樹	心不全を契機に診断された成人ミトコンドリア心筋症の一例	第 120 回日本内科学会総会 医学生研修医の日本内科学会ことはじめ 2023 東京	2023.4
2) 藤原和美, 坂本央, 澤田潤, 河端奈穂子, 蓑島暁帆, 西野一三, 後藤雄一, 池田善彦, 畠山金太, 竹内利治, 中川直樹	心不全治療が奏功した成人ミトコンドリア心筋症の一例	第 129 回日本循環器学会北海道地方会	2023.6
3) Naka Sakamoto, Nobuyuki Sato, Shota Tokuno, Yasuko Tanabe, Toshiharu Takeuchi, Naoki Nakagawa, Yuichiro Kawamura	A Case of Transthyretin Cardiac Amyloidosis Requiring a Pacemaker after Tafamidis Treatment	第 69 回日本不整脈心電学会学術集会	2023.7
4) 及川貴允, 野澤佳祐, 藪田弥代, 和	人工括約筋埋め込み術後のウロダイナミクスによる下部尿	第 30 回日本排尿機能学会	2023.9

- 田直樹, 橘田岳也, 路機能評価
柿崎秀宏
- 5) 野澤佳祐, 及川貴允, 西中麻里奈, 吉野寛隆, 田丸奈津子, 高橋 希, 伊藤敦巳, 佐渡正敏, 坂本 央, 奥村利勝 当院臨床検査・輸血部による病棟血液ガス分析装置の精度管理業務への取組み 第 55 回日本医療検査科学会 2023.10
- 6) 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 及川貴允, 西中麻里奈, 吉野寛隆, 高橋 希, 佐渡正敏, 藤井 聡, 坂本 央, 奥村利勝 健康診断受診者における FGF23 と高感度心筋トロポニンとの関連 第 55 回日本医療検査科学会 2023.10
- 7) 鈴木勇太, 坂本 央, 豊嶋更紗, 木谷祐也, 蓑島暁帆, 田邊康子, 竹内利治, 植田光晴, 佐藤伸之, 中川直樹 重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術後に疾患修飾療法を導入した高齢アミロイドーシス症例 日本老年医学会第 34 回北海道地方会 2023.10
- 8) 伊藤敦巳, 野澤佳祐, 及川貴允, 西中麻里奈, 吉野寛隆, 高橋 希, 佐渡正敏, 藤井 聡, 坂本 央, 奥村利勝 健康診断受診者における FGF23 と高感度心筋トロポニンとの関連 第 63 回日本臨床化学会 2023.10
- 9) 鈴木勇太, 坂本 央, 徳野翔太, 木谷祐也, 蓑島暁帆, 中川直樹, 竹内利治 重症大動脈弁狭窄症に心アミロイドーシスを合併した 2 症例 第 299 回日本内科学会北海道地方会 2023.11
- 10) 藪田弥代, 渡辺愉美, 田中希実音, 吹浦菜緒, 山本大地, 佐藤多嘉之, 佐渡正敏, 奥村利 細胞形態による鑑別が困難であった T 細胞性リンパ腫の 1 例 第 95 回北海道医学検査学会 2023.11

勝

- | | | | |
|---|--|-----------------------|--------|
| 11) 伊藤栄祐, 阿部剛
大, 佐藤望有, 鷓
野正和, 小林雅弘,
齊藤江里香 | 下肢動脈バイパス術に使用す
る自家静脈グラフトの術前評
価 | 第 1 回北海道静脈フ
ォーラム | 2024.1 |
| 12) 笹木理恵, 坂本
央, 西中麻里奈,
小林朝香, 二階堂
麻悠子, 伊藤栄祐,
河端奈穂子, 齊藤
江里香, 中川直樹,
奥村利勝, 佐藤伸
之 | 心電図記録解析の時点で緊急
対応を可能とするチーム医療
構築の重要性 | 第 88 回日本循環器
学会学術集会 | 2024.3 |

Ⅶ. 科研費採択状況

手術部

Department of Surgical Center

I. 所属教員等

手術部

准教授	林 達哉
准教授	黒澤 温
講師	小野寺 美子 (兼務)

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
	耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の周術期		
1) 林 達哉	感染症予防対策	外科	2023.4
2) 高原 幹、林 達哉	口腔・咽喉頭の感染症/炎症	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2023.4
3) 林 達哉	みみを診る—鑑別診断のポイントと治療戦略—	ENTONI	2023.5
4) 林 達哉	modified Killian 法	日本気管食道科学会会報	2023.10

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Iwasaki H, Takahoko K, Matsui T, Takada Y, Takahashi Y, Sugawara A, Kurosawa A	The impact of electrosurgical devices on electromyography-based neuromuscular monitoring during abdominal laparotomy: a case series.	J Clin Monit Comput.	2023.8

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 林 達哉	気道感染症の抗菌薬適正使用に関する提言 (改訂版) (ダイジェスト版)	杏林社	2023.7
2) 林 達哉	最新ガイドラインに基づく耳鼻咽喉科疾患診療指針 2024-'25	総合医学社	2023.11
3) 小野寺 美子	【2023のシェヘラザードたち】LiSA 2023年別冊春号	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2023.4

- 4) 上坂 司 小 LiSA 30 巻 4 号
野寺 美子
メディカル・サイエンス・インターナショナル
2023.4
- 5) 小野寺 美子 I 麻酔科医に必要な神経・骨格筋の生理
7. なぜ妊婦は痛みに強いのか？
文光堂
2023.5

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 林 達哉	改定! 小児急性中耳炎診療ガイドライン	第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	2023.4
2) 林 達哉	その抗菌薬選択間違っていますか? 不適切な選択のリスクと適正使用のポイント	神戸地区耳鼻咽喉科医学会学術講演会・臨床セミナー	2023.7
3) 林 達哉	目で診る! 口腔咽頭病変	第 36 回日本口腔咽頭科学会	2023.9
4) 林 達哉	小児急性中耳炎診療の展開と応用 ―ガイドライン改定から見る抗菌薬適正使用の方向性―	第 203 回日本耳鼻咽喉科頭頸部学会 青森県地方部会	2023.12
5) 林 達哉	AMR 対策と上気道感染症: 幸せな関係性構築のための作法	第 2 回三重県感染対策支援ネットワーク AMR 研究会	2023.12
6) 林 達哉	改定: 小児急性中耳炎診療ガイドライン ―新たな展開と応用―	Meiji Seika ファルマ株式会社 Web カンファレンス	2024.2

- | | | | | |
|-----|--|---|--------------------------------------|---------|
| 7) | 小野寺美子 | インストラクター
ハンズオンワークショップ実技3
初心者コース 下肢 | 日本区域麻酔
科学会 第10
回学術集会 | 2023.4 |
| 8) | 上坂 司, 小
野寺美子, 植
田穂隆, 鷹架
健一 | 意識下ファイバー挿管時に超音波ガイ
ド下上喉頭神経ブロックが有用であっ
た気管癌の一例 | 日本区域麻酔
科学会 第10
回学術集会 | 2023.4 |
| 9) | 小野寺美子,
清水知沙, 植
田穂隆, 齊藤
玲那, 上坂司,
矢口陽介 | 緩和的放射線治療に積極的な鎮痛に加
え経静脈的鎮静が必要であり、多職種
連携で完遂できた3症例 | 第28回日本緩
和医療学会学
術集会 | 2023.7 |
| 10) | 岩田千広, 菅
原亜美, 井上
真澄, 佐藤
泉, 小野寺美
子, 牧野 洋 | 20年以上持続した歩行時痛に超音波ガ
イド下 fascia ハイドロリリースが著効
した1例 | 日本ペインク
リニック学会
第4回北海道
支部学術集会 | 2023.9 |
| 11) | 菅原亜美, 小
野寺美子, 岩
田千広, 井上
真澄, 佐藤
泉, 牧野 洋 | 帯状疱疹による広範囲の痛みに対し超
音波ガイド下神経ブロックが有用であ
った1症例 | 日本ペインク
リニック学会
第4回北海道
支部学術集会 | 2023.9 |
| 12) | 飯田慎也, 岩
田達也, 太田
一美, 中村智
美, 佐藤こず
え, 小野寺美
子, 黒澤
温, 林達
哉, 田崎嘉
一, 藤谷幹浩 | ナトリウム・グルコース共輸送体2阻
害薬およびメトホルミンの術前休薬に
向けた取り組み | 第18回医療の
質・安全学会
学術集会 | 2023.11 |
| 13) | 小野寺美子 | コメンテーター
口演24呼吸器外科の麻酔 | 日本臨床麻酔
学会 第43回
大会 | 2023.12 |
| 14) | 渡辺麻由, 小
野寺美子, 黒 | 当施設における術前貧血有病率につい
て:単施設後ろ向き研究 | 日本麻酔科学
会 第70回学 | 2023.6 |

澤 温		術集会	
15) 黒澤 温	座長 セミナー4	令和5年第1 回日本手術医 学会教育セミ ナー	2023.9
16) 竹光美秀, 菅 原亜美, 鷹架 健一, 黒澤 温	側臥位で麻酔導入を行った覚醒下脳腫 瘍摘出手術の一症例	日本麻酔科学 会 支部学術集 会 北海道・東北 支部 第13回 学術集会	2023.9
17) 山縣智尋, 佐 古澄子, 山岸 昭夫, 黒澤 温	挿管困難患者に対する気道所見につい ての情報提供が、他施設での気道確保 に有用であった一症例	日本麻酔科学 会 支部学術集 会 北海道・東北 支部 第13回 学術集会	2023.9
18) 黒澤 温	コメンテーター 一般演題 (e-Poster) 術中合併症1	日本心臓血管 麻酔学会 第28 回学術大会	2023.9
19) 千葉 拓, 佐 古澄子, 高田 優, 田畑宏 樹, 丸山世 理, 山谷修 一, 多田雅 博, 黒澤 温	先天性 QT 延長症候群を合併した HECW2 遺伝子変異を有する小児の麻 酔経験	日本小児麻酔 科学会 第28 回大会	2023.10

VII. 科研費採択状況

放射線部

Clinical Radiology

I. 所属教員等

放射線部

教 授 沖崎 貴琢
教授（病院） 中島 香織
助 教 青木 友希
助 教 野村 健太

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の 名称	発行年月
1) 沖崎貴琢	遠隔画像診断の最新動向と未来 予測 ガイドライン作成にあ たって	臨床画像	2024.2

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の 名称	発行年月
1) Shiro Miura, Atsutaka Okizaki, Hiraku Kumamaru, Osamu Manabe, Masanao Naya, Chihoko Miyazaki and Takehiro Yamashita	Interaction of impaired myocardial flow reserve and extent of myocardial ischemia assessed using ¹³ N-ammonia positron emission tomography imaging on a adverse cardiovascular outcomes	Journal of Nuclear Cardiology	2023.4
2) Kenta Nomura, Michihiro Nakayama, Atsutaka Okizaki	Effects of apitherapy against salivary gland disorder after radioactive iodine therapy for differentiated thyroid cancer	Annals of Nuclear Medicine	2023.5
3) Shohei Yoshida, Tomoaki Nakata, Masanao Naya, Mitsuru Momose, Yasuyo Taniguchi, Yoshimitsu Fukushima, Masao Moroi, Atsutaka Okizaki, Akiyoshi Hashimoto, Takatoyo Kiko, Satoshi Hida, Kazuya Takehana, Kenichi Nakajima	Prognostic Implications of Sarcoidosis Granulomas - Insights From the Multicenter Registry, the Japanese Cardiac Sarcoidosis Prognostic Study -	Circulation Reports	2023.6
4) Yuki Aoki, Michihiro Nakayama, Kaori Nakajima, Masaaki Yamashina, Atsutaka Okizaki	Comparison of pain-relieving effects by number of irradiations, through propensity score matching and the international consensus endpoint	Reports of Practical Oncology and Radiotherapy	2023.8

- | | | | | |
|----|---|--|-----------------------------|---------|
| 5) | Shiro Miura, Atsutaka Okizaki, Osamu Manabe, Chihoko Miyazaki, Takehiro Yamashita | Serial Quantitative Assessment of Myocardial Blood Flow With ¹³ N-Ammonia Positron Emission Tomography in a Symptomatic Patient With Tachycardia-Induced Cardiomyopathy | Circulation : Heart Failure | 2023.8 |
| 6) | Kenta Nomura, Michihiro Nakayama, Atsutaka Okizaki | Benefits of basil tea for patients with differentiated thyroid cancer during radioiodine therapy: A randomized controlled trial | Heliyon | 2023.10 |
| 7) | Sadahiro Nakagawa, Takahiro Uno, Shunta Ishitoya, Eriko Takabayashi, Akiko Oya, Wakako Kubota, Atsutaka Okizaki | Inter- and intra-rater reproducibility of quantitative T1 measurement using semiautomatic region of interest placement in myometrium | PLOS ONE | 2024.1 |

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 渡邊尚史、石戸谷俊太、大屋明希子、戸田雅博、上條那緒子、野村優里菜、緒方美季、野村健太、上枝翔、沖崎貴琢	体内異物の画像診断	第 82 回日本医学放射線学会総会	2023.4
2) 中島香織、山品将祥、青木友希、沖崎貴琢	胸腺上皮腫瘍に対する放射線治療	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
3) 石戸谷俊太、藤谷淳、吉田一平、上枝翔、緒方美季、野村健太、野村優里菜、戸田雅博、大屋明希子、渡邊尚史、沖崎貴琢	FDG 高集積と腫大リンパ節を伴った直腸良性神経鞘腫の一例	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9
4) 戸田雅博、石戸谷俊太、渡邊尚史、大屋明希子、野村優里菜、野村健太、上枝翔、吉田一平、藤谷	肝臓や膵臓病変などの比較的稀な髄外病変を形成した多発性骨髄腫の一例	第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2023.9

- 淳、沖崎貴琢
- 5) 大屋明希子、中山理寛、宇野貴寛、沖崎貴琢 骨シンチグラフィ検査における核医学画像解析ソフトウェアの検討 第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 2023.9
 - 6) 沖崎貴琢 第 9 回全国核医学診療実態調査報告 第 63 回日本核医学会学術総会 2023.11
 - 7) 野村健太、中山理寛、沖崎貴琢 甲状腺癌患者における放射性ヨード内用療法中の有効半減期に関する検討 第 63 回日本核医学会学術総会 2023.11
 - 8) 川本晃史、鹿間直人、斉藤哲雄、高橋健夫、中村直樹、青山英史、中島香織、小泉雅彦、関井修平、江原威、清原浩樹、樋口啓子、萬篤憲、西村岳、江島泰生、大西洋 Quality Indicator を用いて緩和的放射線治療の質を評価した多機関共同研究 日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会 2023.11
 - 9) 野村健太、中山理寛、上枝翔、野村優里菜、大屋明希子、沖崎貴琢 当院における特別措置病室でのルテチウムオキソドトロチド(¹⁷⁷Lu)治療経験 第 36 回日本核医学会北海道地方会 2023.5
 - 10) 吉田一平、野村健太、渡邊尚史、石戸谷俊太、大屋明希子、戸田雅博、野村優里菜、緒方美季、上枝翔、藤谷淳、大竹晋、麻生和信、谷野美知枝、中山理寛、沖崎貴琢 肝腫瘍との鑑別を要した悪性腹膜中皮腫の一例 第 148 回日本医学放射線学会北日本地方会 2023.6
 - 11) 野村健太、中山理寛、沖崎貴琢 I-131 治療に伴う唾液腺機能障害に対し、バジルティを用いた予防効果の検討 第 94 回日本核医学会北日本地方会 2023.10

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 沖崎 貴琢	継続	基盤研究 (C)	胸部 X 線写真上の全自動異常検出及び診断支援システムの開発

病理部

Surgical Pathology

I. 所属教員等

		病理部	
教授		谷野	美智枝
講師		湯澤	明夏
助教		上小倉	佑機
客員講師		山野	三紀
客員講師		青木	直子
客員講師		北村	哲也
客員講師		市原	真

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 上小倉佑機, 谷野美智枝	間質性肺炎 診断へのアプローチ	病理と臨床	2023.7
2) 湯澤明夏, 谷野美智枝	松果体腫瘍	日本臨牀	2023.12

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Yuji Uno, Hiroki Tanaka, Keita Miyakawa, Naoko Akiyama, Yuki Kamikokura, Sayaka Yuzawa, Masahiro Kitada, Hidehiro Takei, Mishie Tanino	Subcellular localization of hTERT in breast cancer: insights into its tumorigenesis and drug resistance mechanisms in HER2-immunopositive breast cancer	Human Pathology	2023.4
2) Sayaka Yuzawa, Tomohiko Michizuka, Rika Kakisaka, Yusuke Ono, Manami Hayashi, Miki Takahara, Akihiro Katada, Yusuke Mizukami, Mishie Tanino	Low-grade papillary Schneiderian carcinoma with TP53 mutation: a case report and review of the literature	Diagnostic Pathology	2023.4
3) Akiko Koizumi,	Two Cases of SMARCA4-	Cureus.	2023.4

- Yukiho Tamura , Deficient Non-small Cell
Ryohei Yoshida , Chie Lung Cancer (NSCLC) with
Mori , Yusuke Improved Performance
Ono , Mishie Tanino , Status (PS) after Treatment
Yusuke Mizukami , with Immune Checkpoint
Sasaki Takaaki Inhibitors (ICIs).
- 4) Takuma Goto, Hiroki The Effectiveness of the Cancers (Basel) 2023.5
Sato, Shugo Combination of Arterial
Fujibayashi, Infusion Chemotherapy and
Tetsuhiro Okada, Radiotherapy for Biliary
Akihiro Hayashi, Tract Cancer: A Prospective
Hidemasa Kawabata, Pilot Study
Sayaka Yuzawa,
Syunta Ishitoya,
Masaaki Yamashina,
Mikihiro Fujiya
- 5) Yoshino Ryusei, Surgical Treatment of Cureus. 2023.10
Yoshida Nana, Ujiie Secondary Pneumothorax-
Nanami, Ito Akane, Complicated Interstitial
Nakatsubo Lung Disease.
Masaki, Tanino
Mishie, Kitada
Masahiro
- 6) Yoshino Ryusei, The Add-On Effect of Cureus. 2023.11
Yoshida Nana, Ujiie Fluorouracil, Epirubicin, and
Nanami, Nakatsubo Cyclophosphamide
Masaki, Tanino Regimens for Neoadjuvant
Mishie, Kitada Chemotherapy in Human
Masahiro. Epidermal Receptor 2
(HER2)-Positive Breast
Cancer: A Single-Center
Retrospective Study.
- 7) Shimazaki Ryotaro, Successful Multidisciplinary Curr Oncol 2023.12
Hagiwara Masahiro, Treatment with
Tani Cshikayoshi, Laparoscopic Hepatectomy
Iwata Hiroyoshi, and Adjuvant Therapy for
Takahashi Hiroyuki, Metachronous Solitary

- Fukuyama Marika, Matsuya Taisuke, Imai Koji, Yuzawa Sayaka, Tanino Mishie, Yokoo Hideki
- Hepatic Metastasis after Excision of a Primary Anorectal Malignant Melanoma: A Case Report.
- 8) Kentaro Moriichi, Shin Kashima, Yu Kobayashi, Yuya Sugiyama, Yuki Murakami, Takahiro Sasaki, Takehito Kunogi, Keitaro Takahashi, Katsuyoshi Ando, Nobuhiro Ueno, Hiroki Tanabe, Ayumi Date, Sayaka Yuzawa, Mikihiro Fujiya
- Cardiac sarcoidosis in a patient with ulcerative colitis: A case report and literature review
- Medicine (Baltimore) 2024.1
- 9) Takahiro Sanada, Manabu Kinoshita, Takahiro Sasaki, Shota Yamamoto, Seiya Fujikawa, Shusei Fukuyama, Nobuhide Hayashi, Junya Fukai, Yoshiko Okita, Masahiro Nonaka, Takehiro Uda, Hideyuki Arita, Kanji Mori, Kenichi Ishibashi, Koji Takano, Namiko Nishida, Tomoko Shofuda, Ema Yoshioka, Daisuke Kanematsu, Mishie
- Prediction of MGMT promotor methylation status in glioblastoma by contrast-enhanced T1-weighted intensity image
- Neuro-Oncology Advances 2024.2

Tanino, Yoshinori
Kodama, Masayuki
Mano, Yonehiro
Kanemura

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 谷野美智枝	肺癌診療 Q & A 一つ上を行く 診療の実践 第 4 版 20. 中皮腫の腫瘍マーカーに ついて教えてください. P210- 213.	中外医学社	2023.11

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会 等の名称	発表年月
1) 林真奈実, 湯澤明夏, 上小倉佑機, 青木直 子, 武田智宏, 真田隆 弘, 木下学, 谷野美智 枝	3 歳児の左側頭葉に発生 した線維形成性乳児神経 節膠腫の 1 例	第 112 回日本病理 学会総会	2023.4
2) 湯澤明夏, 林真奈実, 武田智宏, 上小倉佑 機, 青木直子, 成田昌 彦, 紙谷寛之, 谷野美 智枝	慢性大動脈解離から発生 した EBV 陽性びまん性 大細胞型 B 細胞性リンパ 腫の一例	第 112 回日本病理 学会総会	2023.4
3) 上小倉佑機, 林真奈 実, 武田智宏, 青木直 子, 湯澤明夏, 谷野美 智枝	間質性肺疾患診断のため の経気管支鏡下クライオ 肺生検 (TBLC) の臨床病 理学的有用性	第 112 回日本病理 学会総会	2023.4
4) 市村多恵, 市原真, 湯 澤明夏, 岩口佳史, 宮 崎将也, 村岡俊二, 谷 野美智枝, 萩原武	Epstein-Barr virus 関連胃 癌の背景粘膜に高頻度に 認められる微細顆粒状変 化に関する検討	第 112 回日本病理 学会総会	2023.4
5) 武田智宏, 湯澤明夏, 林真奈実, 上小倉佑	下部消化管穿孔 102 例の 再検討からみる	第 112 回日本病理 学会総会	2023.4

	機, 青木直子, 谷野美智枝	Segmental absence of intestinal musculature の特徴		
6)	秋田谷悠佑, 林真奈実, 上小倉佑機, 武田智宏, 青木直子, 湯澤明夏, 谷野美智枝	悪性腹膜中皮腫における組織学的グレードの有用性の検討	第 112 回日本病理学会総会	2023.4
7)	林真奈実, 湯澤明夏, 上小倉佑機, 青木直子, 武田智宏, 真田隆弘, 木下学, 谷野美智枝	ALK 融合遺伝子陽性の Desmoplastic infantile ganglioglioma の一例	第 41 回日本脳腫瘍病理学会学術集会	2023.5
8)	湯澤明夏, 青木直子, 林真奈実, 上小倉佑機, 山野三紀, 武田智宏, 谷野美智枝	腹腔内巨大嚢胞性病変の一例	第 202 回日本病理学会北海道支部学術集会	2023.8
9)	秋田谷悠佑, 林真奈実, 上小倉佑機, 水上奨一朗, 青木直子, 山野三紀, 湯澤明夏, 谷野美智枝	当院における腹膜中皮腫の臨床病理学的検討 (続報)	第 4 回日本石綿・中皮腫学会学術集会	2023.9
10)	上小倉佑機, 林真奈実, 水上奨一朗, 青木直子, 山野三紀, 湯澤明夏, 志垣涼太, 谷野美智枝	膠原病に伴う間質性肺疾患について	第 113 回日本病理学会総会	2024.3
11)	谷口創介, 江藤朋憲, 秋田谷悠佑, 林真奈実, 水上奨一朗, 上小倉佑機, 青木直子, 山野三紀, 湯澤明夏, 谷野美智枝	医学生の病理に対する意識調査	第 113 回日本病理学会総会	2024.3

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 谷野 美智枝	継続	基盤研究 (C)	肺がんの背景肺に潜むゲノム・エピゲノム異常の徹底的マッピングによる発がん

集中治療部

Surgical Pathology

I. 所属教員等

集中治療部

准教授	小北直宏
助教	黒嶋健起
助教	國岡信吾
助教	吉田奈七

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 井尻 えり子、和知修太郎、丹保 亜希仁、小北直宏	重症熱傷患者の疼痛管理の経験	日本ペインクリニック学会誌	2023.6
2) 岩原 素子、堀越 佑一、西浦 猛、藤田 智	雪への埋没を契機に発症した陰圧性肺水腫 症例報告	日本集中治療医学会雑誌	1905.7
3) Tatsuki Kuroshima, Satoshi Kawaguchi, and Motoi Okada*	Current Perspectives of Mitochondria in Sepsis-Induced Cardiomyopathy	Int J Mol Sci.	2024.3

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 佐藤 寛起、丹保亜希仁、南谷克明、宗万孝次、小北直宏、岡田 基	道北道東における減圧症診療について.	日本集中治療医学会第7回北海道地方会	2023/10
2) 國岡 信吾、黒嶋 健起、佐藤 寛起、難波亮、柏木 陸、吉田有里、丹保亜希仁、小北直宏、岡田 基、紙谷 寛之	大動脈峡部に生じた外傷性胸部大動脈仮性瘤破裂に対し、Zone3 ステンントグラフト治療で救命し得た一例	日本集中治療医学会第7回北海道地方会	2023/10
3) 難波 亮、柏木 陸、	自宅火災にて遅発性の化学	第47回北海道救	2023/11

- | | | | | |
|-----|---|--|-----------------------------|---------|
| | 佐藤寛起, 森 香苗,
黒嶋健起, 川口 哲,
中嶋駿介, 丹保亜希
仁, 小北直宏, 岡田
基 | 性肺炎をきたした1例 | 急医学会学術集
会 | |
| 4) | 岡田 基, 黒嶋 健起,
川口 哲 | 敗血症性心筋症の治療戦略 | 第51回 日本救
急医学会総会・
学術集会 | 2023/11 |
| 5) | 細野 瑛, 中嶋 駿
介, 柏木 陸, 難波
亮, 佐藤 寛起, 黒嶋
健起, 吉田 有里, 川
口 哲, 丹保亜希仁,
小北直宏, 岡田 基 | 若年者における急性薬物中
毒の現状 | 第51回 日本救
急医学会総会・
学術集会 | 2023/11 |
| 6) | 中嶋 駿介, 柏木 陸,
難波 亮, 佐藤 寛
起, 黒嶋 健起, 吉田
有里, 川口 哲, 丹保
亜希仁, 小北直宏, 岡
田 基 | Oncologic Emergency とし
ての免疫関連有害事象 | 第51回 日本救
急医学会総会・
学術集会 | 2023/11 |
| 7) | 小泉 明子, 中嶋 駿
介, 柏木 陸, 難波
亮, 佐藤 寛起, 黒嶋
健起, 吉田 有里, 川
口 哲, 丹保亜希仁,
小北直宏, 岡田 基 | 多発外傷後遅発性に生じた
外傷性胆汁漏の1例 | 第51回 日本救
急医学会総会・
学術集会 | 2023/11 |
| 8) | 岡田 基, 川口 哲,
黒嶋 健起 | 敗血症での心筋代謝障害の
メカニズムと治療戦略 | 第51回日本集中
治療医学会学術
集会 | 2024/3 |
| 9) | 土田 裕樹, 平野 瑞
歩, 定岡 龍輝, 本間
祐平, 佐藤 貴彦, 宗
万 孝次, 小北 直宏,
岡田 基 | High Flow CHDF 条件下に
おける血液浄化装置の加温
性能の比較 | 第51回日本集中
治療医学会学術
集会 | 2024/3 |
| 10) | 井尻 えり子, 難波 亮,
佐藤 寛起, 國岡 信吾, 黒
嶋 健起, 川口 哲, 中嶋 駿 | ICUにおける壊死性軟部組
織感染症に対する外科的処
置時の鎮静・鎮痛 | 第51回日本集中
治療医学会学術
集会 | 2024/3 |

介,丹保 亜希仁,岡田
基, 小北 直宏

- | | | | | |
|-----|---|---------------------------------------|------------------------|--------|
| 11) | 佐藤 寛起,丹保 亜希仁,安藤 玲,山本 昌代,小北 直宏,岡田 基 | スリーププロファイラー 2 (LE RTA) により睡眠を評価した 1 例 | 第 51 回日本集中治療医学会学術集会 | 2024/3 |
| 12) | 國岡 信吾,黒嶋 健起,井尻 えり子,筒井 真博,川口 哲,中嶋 駿介,丹保 亜希人,小北 直宏, 岡田 基, 紙谷 寛之 | 当院における外傷性大動脈損傷に対するステントグラフト治療の成績 | 第 51 回日本集中治療医学会学術集会 | 2024/3 |
| 13) | 阿部 愛,佐藤 寛起,丹保 亜希仁,小北 直宏,岡田 基 | 複数病態による重症呼吸不全に肺超音波を利用した 1 例 | 第 74 回日本救急医学会関東地方会学術集会 | 2024/3 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 岡田 基	継続	基盤研究 (C)	敗血症の心筋代謝制御にかかわる β 3 受容体とスフィンゴシン 1 リン酸の役割
2) 中嶋 駿介	延長	若手研究	新規 SNP に基づく SGLT2 阻害薬による NASH 個別化医療の開発
3) 川口 哲	再延長	若手研究	敗血症性心筋症における β 3 アドレナリン受容体の誘導型 NOS 調節機構の解明

周産母子センター

Center for Maternity and Infant Care

I. 所属教員等

周産母子センター			
教 授		長屋 建	
講 師		岡本 年男	
講師 (学内)		金井 麻子	
助 教		横浜 祐子	
助 教		吉澤 明希子	
助 教		二井 光麿	
助 教		水崎 恵	

II. 研究業績紹介

周産母子センターは産婦人科の産科部門と小児科の新生児部門が共同して運営しているため、各部署で独立した研究活動をしている。また、大学診療部門として学会発表や論文は主に臨床研究に重点を置いている。

産科部門では2名の臨床遺伝専門医が周産期における遺伝診療に関する研究を継続しており、さらに金井助教は周産期救急にも力を入れて国内において精力的に活動している。

新生児部門では、岡本講師がダウン症候群に見られる一過性骨髄異常増殖症に関して「乾燥臍帯を用いた GATA1 遺伝子解析-TAM の診断スコアリングシステム構築」をテーマに文部科学省科学研究費を獲得し研究を継続している。新生児期に臨床的には一過性骨髄異常増殖症と診断が付けられなかった子ども達の将来的な巨核芽球性白血病の発症リスクを、乾燥臍帯の G A T A 1 遺伝子バリエーションを検出することで予測することを目標としている。

二井助教による早産児における鉄代謝の研究が、旭川医科大学小児科学教室における優秀研究に与えられる吉岡賞を獲得した。今後、早産児の鉄利用がうまくいかない原因を探るべく研究を継続している。

長屋は母乳育児や医療的ケア児の視点から、周産期における様々な要因が母子に与える影響を調査報告している。

道北道東地区の高度周産期医療を提供する周産期母子医療センターとして、臨床的な研究論文や発表を継続的に行い、臨床面だけでなく研究面においても地域における役割を果たしている。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年
1) 岡本 年男	異常値を見たらどう動く？新生児の血液ガス検査 厳選！まず押さえてほしい知識編 ③ 酸塩基平衡と代償	with NEO	2023.8

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年
1) 横浜祐子	先天性筋強直性ジストロフィー 1 型の患児の確定診断をめぐり両親への対応に苦慮した事例	遺伝子医学	2023.7
2) 土川 恵, 水崎 恵, 佐藤 湊斗, 石川 雄大, 林 なつき, 板橋 彩, 上田 あかね, 市川 英俊, 横浜祐子, 高橋 知昭, 片山 英人, 加藤 育民	当院における RRSO の検討	北海道産婦人科学会誌	2024.3
3) Miyazawa T, Arahori H, Ohnishi S, Shoji H, Matsumoto A, Wada YS, Takahashi N, Takayanagi T, Toishi S, Nagaya K, Hasegawa H, Hayakawa M, Hida M, Fukuhara R, Yamada Y, Kawai M, Takashi K, Wada K, Morioka I, Mizuno K	Mortality and morbidity of extremely low birth weight infants in Japan	Pediatr Int	2023.1
4) Imanishi R, Nakau K, Shimada S, Oka H, Takeguchi R, Tanaka R, Sugiyama T, Nii M, Okamoto T, Nagaya K, Makita Y, Yanagi K, Kaname T, Takahashi S	A novel HECW2 variant in an infant with congenital long QT syndrome	Hum Genome Var	2023.6
5) 泉健吾, 三好雄大, 杉山達俊, 青山藍子, 二井光麿, 岡本年男, 長屋建	乳頭筋断裂により重度三尖弁閉鎖不全を合併した動脈管早期閉鎖の一例	日本周産期・新生児医学会雑誌	2023.5

- 6) 水野克己, 飛弾麻里子, 大西 聡, 荒堀仁美, 落合正行, 久保井徹, 佐藤義朗, 高橋尚人, 戸石悟司, 長屋 建, 福原里恵, 松本 敦, 宮沢篤生, 山田恭聖, 山田洋輔, 和田友香, 日下 隆, 東海林宏道, 森岡一朗 小児科研修プログラムにおける新生児研修に関するアンケート調査 2022 日本小児科学会 雑誌 2023.5
- 7) Mitsumaro Nii, Toshio Okamoto, Tatsutoshi Sugiyama, Aiko Aoyama, Ken Nagaya Reticulocyte hemoglobin content changes after treatment of anemia of prematurity FAOPS2023 (The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies) 2023.4

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年
1) 横浜祐子	妊娠初期の膣分泌物細菌培養検査で B 群溶血性レンサ球菌陽性者は妊娠後期に至るまで保菌しやすいのか	日本産婦人科学会	2023.5
2) 横浜祐子	18Torisomy と 9T r i s o m y 児の死産を連続した 1 例	北海道出生前診断研究会	2023.10
3) 金井 麻子	今後の北海道の周産期医療体制について	第 20 回北海道周産期談話会	2023.7
4) 金井 麻子	産科出血に対して子宮動脈塞栓術を行った 30 例の検討	第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023
5) 金井 麻子	当学の遺伝カウンセリング数の推移	第 24 回北海道出生前診断研究会	2023.10
6) 水崎 恵	当施設で経験した卵巣カルチノイドの 2 症例	第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会	2023.4

- | | | | |
|--|--|------------------------|---------|
| 7) 水崎 恵 | 卵巣原発カルチノイドの 3 症例 | 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 | 2023.7 |
| 8) 岡本年男、高橋健太、杉山達俊、青山藍子、二井光麿、福井晨介、櫻井由香里、鳥海尚久、更科岳大、長屋建 | 血清 α -fetoprotein 上昇を伴う肝良性腫瘍を合併した 18 トリソミーの 1 例 | 第 126 回日本小児科学会 | 2023.4 |
| 9) 長屋建、高橋健太、杉山達俊、青山藍子、二井光麿、岡本年男、佐藤敬、白井勝 | コロナ禍における妊娠、出産、育児に対する母親の意識—旭川市の 1 歳半健診でのアンケート調査 | 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会 | 2023.7 |
| 10) 岡本年男、高橋健太、杉山達俊、青山藍子、二井光麿、中村英記、長屋 建 | 一過性骨髄異常増殖症 14 例の臨床像 | 第 67 回日本新生児成育医学会 | 2023.11 |
| 11) 杉山達俊、長屋建、岡本年男、二井光麿、青山藍子、高橋健太、山木ゆかり、土田悦司、野原史勝、佐藤敬、白井勝 | コロナ禍における NICU での親子への制限が与える影響—アンケート調査から | 第 20 回北海道周産期談話会 | 2023.7 |
| 12) 二井光麿、高橋健太、杉山達俊、青山藍子、岡本年男、長屋建 | アンジオテンシン II 受容体拮抗薬内服母体から出生した新生児例 | 第 44 回道北小児科懇話会 | 2023.12 |

Ⅶ. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 岡本 年男	継続	基盤研究 (C)	乾燥臍帯を用いた GATA1 遺伝子解析-TAM の診断スコアリングシステム構築

経営企画部

Management Planning

I. 所属教員等

	経営企画部	
教 授	沖崎 貴琢	(兼務)
准教授	谷 祐児	

II. 研究業績紹介

経営企画部では、病院における病院情報システムの管理、企画、運営などのほか、病院管理及び病院経営に関する支援業務を行っております。研究においても、これらの業務に関連する情報セキュリティや医療情報リテラシー、医療情報システムの構築やそれらの利活用といった病院情報システムに関する研究をはじめ、病院情報システム内に蓄積される様々な診療データや業務データの利活用に関する研究、病院経営や病院管理に関する研究をおこなっております。また、これらの研究は、経営企画部単独での研究はもちろんのこと、本学他診療科や講座、他大学との共同研究も積極的に進めており、それらの成果は関連学会での発表や講演、論文投稿等により公表しております。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 原瀬正敏, 谷祐児, 坂野隆明	放射線部門におけるサイバーセキュリティへの対応	Itvision No.50	2024.3

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Kazuki Ohashi, Toshiya Osanai, Kyohei Bando, Kensuke Fujiwara, Takumi Tanikawa, Yuji Tani, Soichiro Takamiya, Hirotaka Sato, Yasuhiro Morii, Tomoki Ishikawa, Katsuhiko Ogasawara	Optimal allocation of physicians improves accessibility and workload disparities in stroke care	International Journal for Equity in Health Vol.22 No.233 P1-9	2023.11
2) Kazuki Ohashi, Toshiya Osanai,	Access to mechanical thrombectomy and ischemic	Frontiers in Neurology Vol.14	2023.9

Kensuke stroke mortality in Japan: a P1-10
 Fujiwara, Takumi spatial ecological study
 Tanikawa, Yuji
 Tani, Soichiro
 Takamiya,
 Hirotaka Sato,
 Yasuhiro Morii,
 Katsuhiko
 Ogasawara

- 3) 谷 祐児 DWH を利用した電子カルテ端末による通知システムの開発 Mumps Journal of M Technology Association Japan Vol.30 2023.4

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 谷 祐児	医用画像部門に於けるセキュリティ対策	第 43 回医療情報学連合大会 共同企画シンポジウム	2023.11
2) 谷 祐児	ヘルスケアでのデジタル変革における課題	第 43 回医療情報学連合大会 ランチオンセミナー	2023.11
3) 谷 祐児	医療情報に必要な医療経営の視点	日本放射線技術学会 2023 年度 医療情報 Evening Webinar	2023.8
4) 谷 祐児	放射線技術学の視点からの医療経営と医療情報システム	日本放射線技術学会 2023 年度 医療情報 Evening Webinar	2023.9
5) 谷 祐児	医療機関から見た働き方改革に求められる勤怠管理システム	北海道医療情報技師会第 18 回勉強会	2024.1
6) Y Tani, T Hayashi, T Iwata	Effectiveness of leakage prevention system in	MEDINFO2023	2023.7

communicating important
diagnostic information

VII. 科研費採扱状況

臨床研究支援センター

Clinical Research Support Center

I. 所属教員等

臨床研究支援センター

教 授	松本 成史	(兼務)
教 授	西條 泰明	(兼務)
教 授	伊藤 俊弘	(兼務)
教 授	田崎 嘉一	(兼務)
教 授	本間 大	(兼務)
准教授	谷 祐児	(兼務)
助 教	神山 直也	
助 教	眞鍋 貴行	

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Takayuki Manabe, Kuninori Iwayama, Masayuki Chuma, Yoshikazu Tasaki and Seiji Matsumoto	The effect of concomitant usage of analgesics on immune checkpoint inhibitor related interstitial lung disease	in vivo	2023.5

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) 畑山幸恵、眞鍋貴行、堀 康子、近藤夕子、小川真澄、谷 香苗、佐藤幸、横山真利子、結城和美、松本成史	逸脱ワーキング活動の実践から見えた当院の傾向と課題	第 23 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議	2023.9

- | | | | | |
|----|---|--|----------------------------|---------|
| 2) | 神山直也, 吉田幸恵, 広田沙織, 岡崎愛, 浅野健人, 菅野仁士, 大塚俊昭, 筒泉直樹, 上村尚人, 松山琴音 | Quality by Design による臨床試験の実践に向けた課題分析～研究者・支援者を対象とした Focus Group Interview より～ | 第 23 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 | 2023.9 |
| 3) | 岡崎愛, 神山直也, 吉田幸恵, 広田沙織, 浅野健人, 菅野仁士, 大塚俊昭, 筒泉直樹, 上村尚人, 松山琴音 | 研究者・支援者の共通理解による Quality by Design の実装に向けたリスク管理表の提案 | 第 44 回 日本臨床薬理学会学術総会 | 2023.12 |
| 4) | 松山琴音, 神山直也, 岡崎愛, 広田沙織, 浅野健人, 菅野仁士, 大塚俊昭, 筒泉直樹, 吉田幸恵, 上村尚人 | Quality by Design を用いた研究計画立案及び実装を可能とする研究支援体制構築に向けた実施計画書作成支援ツールの作成 | 第 44 回 日本臨床薬理学会学術総会 | 2023.12 |
| 5) | 吉田幸恵, 神山直也, 広田沙織, 岡崎愛, 浅野健人, 菅野仁士, 大塚俊昭, 筒泉直樹, 上村尚人, 松山琴音 | 研究者・支援者を対象とした Focus Group Interview を用いた Quality by Design の実践に向けた課題分析(2) | 日本臨床試験学会 第 15 回学術集会 総会 | 2024.3 |
| 6) | 松山琴音, 岡崎愛, 神山直也, 吉田幸恵, 菅野仁士, 広田沙織, 浅野健人, 筒泉直樹, 大塚俊昭, 上村尚人 | 研究者・支援者の共通理解による Quality by Design の実装に向けたリスク管理表の提案 (第 2 報) | 日本臨床試験学会 第 15 回学術集会 総会 | 2024.3 |

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 神山 直也	新規	基盤研究 (C)	医療職経験のない臨床研究支援専門職がアカデミアで直面する困難さの分析

遺伝子診療カウンセリング室

Department of Genetic Counseling

I. 所属教員等

遺伝子診療カウンセリング室

教授	蒔田 芳男	
教授（病院）	北田 正博	（兼務）
准教授	田邊 裕貴	（兼務）
講師	鈴木 滋	（兼務）
講師（学内）	金井 麻子	（兼務）
助教	横浜 祐子	（兼務）

II. 研究業績紹介

遺伝子診療カウンセリング室では、①小児期発症遺伝性疾患、②出生前診断、③成人発症遺伝性疾患、④家族性がんなど主に4領域に関わる遺伝カウンセリングと遺伝学的検査選択提出の業務を扱っています。臨床遺伝専門医制度における研修施設としての認定も受けており専攻医の養成も担っております。

この4領域には含まれない「希少・未診断疾患」と呼ばれる分野に関しては、道北・道東地域の拠点病院として2015年からAMED主導の研究プロジェクトに参画しております。この「希少・未診断疾患」というのは、どの診断カテゴリーにも合致せず診断に至ることができない疾患を意味しています。これらの疾患を対象とするAMED主導のプロジェクトが「Initiative on Rare and Undiagnosed Disease」であり略して「IRUD」と呼ばれるものです。このプロジェクトでのゲノム解析能力は、当初のエクソームから現在で全ゲノムに移行しており、自前での解析技術が無くても日本での最先端技術を患者さんに提供することが可能です。このプロジェクトでの当カウンセリング室との共同研究は、学内（小児科、腎臓内科、血管外科、眼科）、学外（道立旭川子ども総合療育センター、富良野協会病院、遠軽厚生病院、市立釧路総合病院、旭川厚生病院）と広がっており、その成果は2022年度末に学内講演会としても公開されています。

また家族性がんに関わる患者さんやその家族、医療従事者への支援活動にも力をいれており「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展の開催や遺伝性乳がん卵巣がん当事者会である特定非営利法人クラヴィスアルクス理事長の太宰牧子さんを迎える公開講演会なども企画開催しております。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 蒔田芳男	専門職を養成するプログラムはどのように構成されているか？	日本遺伝カウンセリング学会誌	2023.12

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) 横浜祐子, 蒔田芳男, 長屋 建, 澤田 潤, 加 藤育民	先天性筋強直性ジストロフィー 1 型の患児の確定診断をめぐり 両親への対応に苦慮した事例-根 治的治療法がない疾患の発症前 診断につながる可能性への配慮	遺伝子医学別冊	2023.7
2) 西川典子, 蒔田芳男, 青木大芽, 柳久美子, 要匡	AFG3L2 遺伝子の病的バリエ ーションによる両眼視神経萎縮 (OPA12) の 1 例	臨床眼科	2024.3
3) Tanabe H, Ijiri M, Takahashi K, Sasagawa H, Kamanaka T, Kuroda S, Sato H, Sarashina T, Mizukami Y, Makita Y & Okumura T	Genomic insights into familial adenomatous polyposis: unraveling a rare case with whole APC gene deletion and intellectual disability	Human Genome Variation	2024.3

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 総編集：山本佳世乃, 井本逸勢, 山田崇弘、監修：蒔田芳男	遺伝カウンセリング 標準テキスト	診断と治療者	2023.10

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講 演会等の名称	発表年月
1) 田邊裕貴, 井尻学見, 笹川穂の花, 鎌仲知 美, 黒田祥平, 水上裕 輔, 蒔田芳男, 奥村利 勝	がん遺伝子パネル検査では指摘さ れずマイクロアレイ染色体検査で 診断しえた APC 遺伝子欠失を伴 う家族性大腸腺腫症進行大腸癌の 1 例	第 29 回日本 遺伝性腫瘍学 会学術集会	2023.6
2) 蒔田芳男	専門職を要請するプログラムはど のように構成されているか	第 47 回日本 遺伝カウンセ リング学会学 術集会	2023.7

- | | | | | |
|----|--|--|-------------------------|---------|
| 3) | 笹川穂の花,田邊裕貴,水上裕輔,鎌仲知美,蒔田芳男 | 当院におけるがん遺伝子パネル検査で検出された PGPVs の確認検査実施率の検討 | 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 | 2023.7 |
| 4) | 西川典子,蒔田芳男,青木大芽,柳久美子,要匡 | AFG3L2 遺伝子変異による両眼視神経萎縮(OPA12)の 1 例 | 第 77 回日本臨床眼科学会 | 2023.10 |
| 5) | Saito S, Suzuki S, Kamiyama T, Kokumai T, Furuya Akiko, Taketazu G, Makita Y, Takahashi, S | Development of isolated nephrogenic diabetes insipidus in a girl with contiguous gene deletion involving AVPR2 and L1CAM . | 日本人類遺伝学会 68 回大会 | 2023.10 |
| 6) | Igarashi A ,Makita Y ,Yanagi K, Hidai T, Omata M, Aoki T, Iida T, Kobayashi N , Abe Y , Satou K, Matsubara Y, Kaname T | Novel deletion and splice-site variant in the ADAMTS3 gene found in patients with Hennekam syndrome | 日本人類遺伝学会 68 回大会 | 2023.10 |
| 7) | 横浜祐子,蒔田芳男,岡秀治,土川恵,石川雄大,中西研太郎,吉澤明希子,金井麻子,加藤育民 | 18トリソミーと9トリソミー児の死産を連続した1例 | 第25回北海道出生前診断研究会 | 2023.12 |
| 8) | 金井麻子,土川恵,石川雄大,中西研太郎,吉澤明希子,横浜祐子,加藤育民,笹川穂の花,蒔田芳男 | 当学の非侵襲性出生前遺伝学的検査再開後の出生前診断数の推移 | 第25回北海道出生前診断研究会 | 2023.12 |
| 9) | 五十嵐ありさ,蒔田芳男,柳久美子,比田井朋美,小俣牧子,青木大芽,飯田貴也,小林奈々,阿部幸美,佐藤万仁,松原洋一,要匡 | Hennekam リンパ管拡張症-リンパ浮腫症候群の新しい病的バリエーションと発症メカニズム | 第46回日本小児遺伝学会学術集会 | 2023.12 |

- 10) 芳賀俊介,岡野聡美, KIF1A 遺伝子 de novo バリエント 第 42 回日本 2024.3
木村加弥乃,福田郁 を認めた痙性対麻痺 30 の 1 女兒 小児神経学会
江,宮本晶恵,田中肇, 例 北海道地方会
蒔田芳男

VII. 科研費採択状況

透析センター

Dialysis Center

I. 所属教員等

透析センター

准教授 中川 直樹

講師（学内） 松木 孝樹

II. 研究業績紹介

透析センターでは、ハイリスク患者の血液浄化療法に従事しつつ、医師のみならず、臨床検査技師、看護師等の多職種で精力的に学会発表および論文発表を行っている。

中川直樹センター長を中心に、ファブリー病やネフローゼ症候群に関する報告を行っている。ファブリー病における効率的なスクリーニング方法や尿中のアルブミン排泄量が正常でも尿中の桑の実細胞がみられるという2例の姉妹のケースを報告し、尿沈渣検査の重要性を報告した (Mol Genet Metab Rep. 31:100874, 2022)。また、COVID-19 ワクチン後に発症または再発するネフローゼ症候群に関する全国調査を行い、COVID-19 ワクチン接種後にネフローゼ症候群が生じる可能性を報告した (Clin Exp Nephrol. 26:909-916, 2022)。

松木副センター長は第43回日本アフェレシス学会において、クライオフィльтраーションが著効したクリオグロブリン血症性糸球体腎炎の一例を報告した。

III. 総説・解説

IV. 論文

V. 著書

VI. 研究発表

VII. 科研費採択状況

医療安全管理部

Department of Medical Safety Management

I. 所属教員等

医療安全管理部

教授 松本 成史

准教授 林 達哉

准教授 岩田 達也

II. 研究業績紹介

医療安全管理部では、日々発生するインシデント、医療事故に対して、原因究明の調査とそれに基づく改善策の立案やその評価を行っており、その調査手法、改善策の評価、実績について、他施設の参考と思われる内容の発表活動を国内外の学会にて行っております。また毎年行っている病院全部署を挙げての「各部門における安全への取り組み」は、2001年よりコロナ禍でも中止することなく継続して行っておりますが、これは厚生労働省の医療安全文化ベストプラクティス賞受賞を始め、数々の受賞歴があり、厚生局の医療監視や特定機能病院における相互のピアレビューにおいても毎年高い評価をいただいております。院内における医療安全文化の醸成と医療の質向上に貢献する研究活動となっております。安全への取り組みの特に優れた演題については、毎年3演題程度を医療の質・安全学会にて発表を行っていただき、当院での取り組み実績を学外へ発信するとともに、部署においては医療安全に関するモチベーションの向上に寄与しております。また当院でベンチャー企業と共に新規開発した重要診断情報伝達漏れ防止システム（AiR: AMU Information Rescue）は、稼働開始後も細かなアップデートを重ねており、国立大学病院を含む他病院より問い合わせが相次いでおり、各病院間でそれぞれ異なる運用を行っている画像・病理の未読未説明防止システムの標準化に寄与するものとなっております。

III. 総説・解説

IV. 論文

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演 会等の名称	発表年月
1) 太田 一美、中村 智 美、石坂 貴光、飯田 慎也、岩田 達也、林 達哉、藤谷 幹浩	エスカレーターでの転倒防止 のための取り組み	第 18 回医療の 質・安全学会	2023.11

- | | | | | |
|----|---|---|-----------------|---------|
| 2) | 山澤 健蔵、竹田 弥穂、齊藤 容加、佐藤 潤也、鈴川 愛理花 | 転倒転落予防へのアセスメント・意識向上に向けたKYTの導入 | 第 18 回医療の質・安全学会 | 2023.11 |
| 3) | 飯田 慎也、岩田 達也、太田 一美、中村 智美、佐藤 こずえ、小野寺 美子、黒澤 温、林 達哉、田崎 嘉一、藤谷 幹浩 | ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害薬およびメトホルミンの術前休薬に向けた取り組み | 第 18 回医療の質・安全学会 | 2023.11 |
| 4) | 吉田 光一、山本 譲、飯田 慎也、菅谷 香緒里、野原 宗一郎、中馬 真幸、田崎 嘉一 | 情報技術を活用した調剤・鑑査支援システム導入効果の検討 | 第 18 回医療の質・安全学会 | 2023.11 |
| 5) | 上北 真理、丹保 亜希仁 | 特定行為の実施におけるスキルチェックの必要性について | 第 18 回医療の質・安全学会 | 2023.11 |

VII. 科研費採択状況

薬剂部

Pharmacy Department

I. 所属教員等

薬剤部			
教授	田崎 嘉一		
准教授	中馬 真幸		
助教	神山 直也	(兼務)	
助教	眞鍋 貴行	(兼務)	
客員教授	粟屋 敏雄		
客員講師	田原 克寿		

II. 研究業績紹介

薬剤部では、様々な疾患に対する治療薬の「有効性と安全性を評価する」研究を展開しており、医薬品の適正使用を推進するエビデンスの創出を目指している。特に、① 難治性神経変性疾患 (パーキンソン病) に対する治療薬開発、② 感染症治療薬に対する安全で効果的な治療法の確立、③ 薬剤師業務に対する評価などのテーマに注力している。研究には、疾患モデル動物や培養細胞を用いた基礎研究、臨床検体や医療情報を活用した臨床研究と様々な手法を用いており、テーマや特性に応じて複数の手法を組み合わせ研究を展開している。2023年度は、論文発表7回(国際誌6報、国内誌1報)、学会発表15回(国際学会2回、国内学会13回)を行った。①のパーキンソン病に対する研究では、慶應義塾大学との共同研究により、病態の進行を抑制する新規化合物を取得した。申請していた特許が承認され、治療薬としての開発を継続している。②の感染症治療に関する研究では、進展著しい「医療ビッグデータ解析」を積極的に活用している。抗MRSA薬のバンコマイシンによる腎障害を併用薬が与える影響について (Bando T, Chuma M et al, Acta Medica Okayama) について、徳島大学、岡山大学との共同研究を行い、論文発表した。この医療ビッグデータは、免疫チェックポイント阻害薬など他の薬を対象とした解析にも適用し成果が得られている (Manabe T et al, In Vivo)。③の薬剤師業務に関する研究では、薬局との共同研究により、薬局薬剤師の疑義照会が、薬剤性腎障害の悪化を抑制することを明らかにし、論文発表を行った (渡邊大貴, 田崎嘉一ら, 医療薬学)。患者アウトカムに踏み込んで、薬局薬剤師の疑義照会の効果を示したのは、本邦初であり、この内容は薬事日報 (2023年9月27日) に掲載された。

今後も、医薬品に関する諸問題を解決する研究を精力的に展開し、他機関との共同研究も積極的に取り入れながら、継続的に成果を発信していく予定である。

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年月
1) 飯田慎也, 田崎嘉一	身につく! 検査値のチカラ 検査値, 活かしてみました③「カリウム」	薬局 74(9):35-39, 2023.	2023.9

- 2) 神山直也 「分散型」臨床試験 ファルマシア 2023.9
(DCT)が医薬品開発の新 59(9):871-871,
時代を牽引する 2023.

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Manabe T, Iwayama K, Chuma M, Tasaki Y and Matsumoto S	The effect of concomitant usage of analgesics on immune checkpoint inhibitor-related interstitial lung disease.	In vivo, 2023, 37(3):1260-1265.	2023.5
2) Bando T, Chuma M, Hamano H, Niimura T, Okada N, Kondo M, Izumi Y, Ishida S, Yoshioka T, Asada M, Zamami Y, Takechi K, Goda M, Miyata K, Yagi K, Izawa-Ishizawa Y, Azuma M, Yanagawa H, Tasaki Y, Ishizawa K.	Concomitant Use of Multiple Nephrotoxins including Renal Hypoperfusion Medications Causes Vancomycin-Associated Nephrotoxicity— Combined Retrospective Analyses of Two Real-World Databases.	Acta Medica Okayama	2023.12
3) 渡邊大貴, 神山直也, 和嶋孝明, 田尾明洋, 安達理恵, 松野明香, 佐藤美峰, 八木真砂子, 千葉薫, 田崎嘉一	臨床検査値に基づく薬局薬剤師からの疑義照会が患者アウトカムに与える影響	医療薬学, 49(9):331-338, 2023.	2023.9

- 4) Niimura T, Zamami Y, Miyata K, Mikami T, Asada M, Fukushima K, Yoshino M, Mitsuboshi S, Okada N, Hamano H, Sakurada T, Matsuoka-Ando R, Aizawa F, Yagi K, Goda M, Chuma M, Koyama T, Izawa-Ishizawa Y, Yanagawa H, Fujino H, Yamanishi Y, Ishizawa K. Characterization of Immune Checkpoint Inhibitor-Induced Myasthenia Gravis Using the US Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System The Journal of Clinical Pharmacology, 63(4):473-479, 2023.
- 5) Satoru Mitsuboshi, Hirofumi Hamano, Takahiro Niimura, Aya F Ozaki, Pranav M Patel, Tsung-Jen Lin, Yuta Tanaka, Ikuya Kimura, Naohiro Iwata, Shoya Shiromizu, Masayuki Chuma, Toshihiro Koyama, Yoshihiro Yamanishi, Yasunari Kanda, Keisuke Ishizawa, Yoshito Zamami. Association between immune checkpoint inhibitor-induced myocarditis and concomitant use of thiazide diuretics International Journal of Cancer, 15;153(8):1472-1476, 2023.

- 6) Tsujinaka K, Izawa-Ishizawa Y, Miyata K, Yoshioka T, Oomine K, Nishi H, Kondo M, Itokazu S, Miyata T, Niimura T, Sato M, Aizawa F, Yagi K, Chuma M, Zamami Y, Goda M, Ishizawa K. Angiogenesis inhibitor-specific hypertension increases the risk of developing aortic dissection, Angiogenesis inhibitor-specific hypertension increases the risk of developing aortic dissection. *Biomedicine & Pharmacotherapy*, 167:115504, 2023.
- 7) Satoru Mitsuboshi, Hirofumi Hamano, Yurika Kuniki, Takahiro Niimura, Masayuki Chuma, Soichiro Ushio, Tsung-Jen Lin, Jun Matsumoto, Tatsuaki Takeda, Makoto Kajizono, Yoshito Zamami, Keisuke Ishizawa. Proton Pump Inhibitors and Rhabdomyolysis: Analysis of Two Different Cross-Sectional Databases. *Annals of Pharmacotherapy*, 57(11):1255-1263, 2023.

V. 著書

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
6) 中馬真幸, 田崎嘉一	抗菌薬の適正使用を意識した敗血症診療ガイドラインの活用	第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会 第 71 回日本化学療法学会学術集会 合同学会	2023.4
7) 山本譲	補助員活用と調剤機器更新による部内タスクシフト	第 70 回北海道薬学大会	2023.5

- | | | | | |
|-----|--|--|--|---------|
| 8) | 菅谷香緒里, 神山直也,
眞鍋貴行, 山本讓, 中馬
真幸, 田崎嘉一 | 院内製剤 10%リドカイン
ゲルの有効性と安全性に
関する後ろ向き観察研究 | 第 16 回日本緩和
医療薬学会年会 | 2023.5 |
| 9) | Koichi Yoshida, Joe
Yamamoto, Masayuki
Chuma, Yoshikazu
Tasaki | Introduction of IT system
for dispensing inspection
support significantly
reduces dispensing errors
and improves patient
safety | Forbidden City
International
Pharmacist
Conference | 2023.7 |
| 10) | Chuma M, Goda M,
Zamami Y, Takechi K,
Hamano H, Ishida S,
Niimura T, Kondo M,
Bando T, Izawa-
Ishizawa Y, Tasaki Y,
Ishizawa K | Identification of
prophylactic drug for
vancomycin- associated
nephrotoxicity using big
data analysis | 19th World
Congress of Basic
& Clinical
Pharmacology
(WCP2023) | 2023.7 |
| 11) | 久保靖憲, 山本讓, 眞鍋
貴行, 中馬真幸, 高橋裕
之, 今井浩二, 松野直
徒, 横尾英樹, 田崎嘉一 | 生体腎移植患者における
タクロリムス血中濃度と
体組成の相関関係 | 第 49 回日本臓器
保存生物医学会
学術集会 | 2023.10 |
| 12) | 寺川央一, 中馬真幸,
都築仁美, 寒藤雅俊,
吉田祐花, 上杉紘一,
眞鍋貴行, 神山直也,
岩山訓典, 山本讓, 田
崎嘉一 | 小児発熱性好中球減少症
に対するアルベカシンの
有効性と安全性の検討 | 第 33 回日本医療
薬学会年会 | 2023.11 |
| 13) | 上野裕大, 眞鍋貴行,
新田悠一郎, 岩山訓
典, 神山直也, 小野尚
志, 山本讓, 中馬真
幸, 田崎嘉一 | メンケス病治療薬である
ヒスチジン銅院内製剤の
家庭内長期保管条件の検
討 | 第 33 回日本医療
薬学会年会 | 2023.11 |
| 14) | 新田侑生, 中馬真幸,
新田悠一郎, 眞鍋貴
行, 神山直也, 岩山訓
典, 山本讓, 小野尚
志, 田崎嘉一 | 有害事象自発報告データ
ベースを用いた抗がん剤
関連眼障害における転帰
および発症時期の解析 | 第 33 回日本医療
薬学会年会 | 2023.11 |

15) 山本讓, 田崎嘉一	パーキンソン病薬物治療における薬物動態関連遺伝子情報応用の検討	第 33 回日本医療薬学会年会	2023.11
16) 飯田慎也, 岩田達也, 太田一美, 中村智美, 佐藤こずえ, 小野寺美子, 黒澤温, 林達哉, 田崎嘉一, 藤谷幹浩	ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害薬およびメトホルミンの術前休薬に向けた取り組み	第 18 回医療の質・安全学会学術集会	2023.11
17) 吉田光一, 山本讓, 飯田慎也, 菅谷香緒里, 野原宗一郎, 中馬真幸, 田崎嘉一	情報技術を用いた調剤・鑑査支援システム導入効果の検討	第 18 回医療の質・安全学会学術集会	2023.11
18) 岩山訓典, 上野伸展, 眞鍋貴行, 菅野諒太, 石川良太, 山本讓, 安藤勝祥, 藤谷幹浩, 田崎嘉一	炎症性腸疾患の薬物療法の質向上を目指した薬剤師外来の効果	第 14 回日本炎症性腸疾患学会学術集会	2023.12
19) 中馬真幸, 合田光寛, 座間味義人, 濱野裕章, 武智研志, 石田俊介, 坂東貴司, 新村貴博, 近藤正輝, 石澤有紀, 田崎嘉一, 石澤啓介	ステロイドはバンコマイシン関連腎障害を予防するービッグデータ解析・基礎研究・臨床研究の統合による検討ー	第 44 回日本臨床薬理学会学術総会/第 97 回日本薬理学会年会	2023.12
20) 岩山訓典, 眞鍋貴行, 大滝康一, 岸部麻里, 本間大, 田崎嘉一	リンパ球・単球比は、掌蹠膿疱症に対する抗菌薬の治療効果を反映する	第 44 回日本臨床薬理学会学術総会/第 97 回日本薬理学会年会	2023.12

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
田崎 嘉一	継続	基盤研究 (C)	継続パーキンソン病進行抑制薬の臨床開発候補化合物取得
中馬 真幸	新規	基盤研究 (C)	ビッグデータの融合解析を基盤にした尿管保護薬の開発

国際交流推進センター

Center for Promotion of
International Exchange

I. 所属教員等

国際交流推進センター
教授 東 信良
教授 本間 大

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

著者氏名	題目	学会誌等の名称	発行年
1) <u>本間 大</u> 、 野崎尋意	乾癬治療のターゲット～IL-17 および関 連サイトカインを中心とする乾癬病態	皮膚科	3, 735- 742. 2023
2) <u>本間 大</u>	患者ニーズを考慮した乾癬診療	日本臨床皮膚科 医会雑誌	39, 684- 685. 2023

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年
1) 橋本喜夫、小松成 綱、 <u>本間 大</u>	重症円形脱毛症に対するトリア ムシノロン内服療法 ：当科 15 年間での 30 例の治療 成績	皮膚科の臨床	65, 591- 594, 2023
2) 橋本喜夫、小林孝 弘、小松成綱、 <u>本 間 大</u>	難治性円形脱毛症 48 例に対す る局所免疫療法 ：当科 15 年間の SADBE 療法の 治療成績	皮膚科の臨床	65,1090- 1095, 2023
3) <u>本間 大</u>	多様性（巻頭言）	皮膚科の臨床	66, 139- 140, 2024

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年
1) <u>本間 大</u>	今日の治療指針 2023 年版：凍瘡:分担	医学書院	2023
2) <u>本間 大</u>	皮膚疾患初期対応マニュアル：汗疱： 分担	日本医事新報社	2023

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等 の名称	発表年
-------	----	------------------	-----

1)	本間 大	On PALETT 教育セミナー『乾癬性関節炎の診療』	第 113 回 日本皮膚科学会総会	2023 年 6 (横浜)
2)	本間 大	コメディカルシンポジウム『皮膚科外来診療のキホン』	第 39 回 日本臨床皮膚科医会 学術大会	2023 年 6 (札幌市)
3)	本間 大	シンポジウム『乾癬：結局、どうしていますか？』	第 39 回 日本臨床皮膚科医会 学術大会	2023 年 6 (札幌市)
4)	本間 大	乾癬教育プログラム・J-PEARLS ~長期的な視野で考える~多様化する患者ニーズとその対応	第 38 回日本乾癬学 会年次集会	2023 年 8 (東京)

VII. 科研費採択状況

地域共生医育センター

Center for Integrated Medical Education
and Regional Symbiosis

I. 所属教員等

地域共生医育センター
教 授 牧野 雄一
教 授 山根 由起子
助 教 福浦 愛

II. 研究業績紹介

地域共生医育センター（設立時の名称は医育統合センター）は、平成31年4月10日、社会の急速で多様な変化に対応して質の高い医療を提供できる人材を養成するため、入学センター、教育センター、卒後臨床研修センター、専門医育成・管理センターの連携を強化し、入学から専門医育成に至る一貫した教育指導体制を一層充実させることを目指して設立されました。また、特に北海道の地域医療の現状の変化、住民や行政からの医療ニーズの多様化などについて、国や北海道が主導する地域医療構想の実現、医師偏在の解消を軸とする医療提供体制改革を推進する地域医療支援体制を構築するとともに、支援対象地域を医療人育成・教育の学外拠点として機能させる、すなわち地域と共生する医療人の育成を任務としています。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Fujio Kakuya, Ryuta Terao, Hikaru Onoda, Hitoshi Okubo, Hiroaki Fujiyasu, Fumie Inyaku, Ai Fukuura, Toshio Arai, Takahiro Kinebuchi	Epidemiology of endemic human coronavirus infection during the COVID-19 pandemic	J Infect Chemother	2023.11

V. 著書

VI. 研究発表

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
牧野 雄一	新規	基盤研究（C）	低酸素応答性転写因子が関わる肺高血圧症と肺血管リモデリング異常の分子病態の解明

インスティテューショナル・リサーチ室

Institutional Research Office

I. 所属教員等

インスティテューショナル・リサーチ室

教 授 松本 成史 (兼務)

講 師 井上 裕靖

助 教 笠茂 紗千子

II. 研究業績紹介

本室のインスティテューショナル・リサーチ(IR: Institutional Research)とは、大学等の教
学を中心とした「"機関"研究」と定義される。現在、最も広く使われている定義としては
"Institutional research is research conducted within an institution of higher education to provide
information which supports institutional planning, policy formation and decision making. (Joe L.
Saupe 1990)"があり、"機関"の計画選定、政策形成、意思決定の支援のための情報提供を
目的として、高等教育"機関"内で実施される調査研究を指す。このように IR 室では本学"
機関"に関する情報を取り扱い、執行部への報告目的の分析・研究を主に行っている。一
方、本学の IR 室では、日頃の IR 業務に係る調査研究のみならず、全教員が各々の専門分
野を持っており、研究者でもある各教員自身のテーマに関する研究活動も尊重している。

本年度は北海道 FDSFD フォーラムにて、「ポストコロナの学生支援」をテーマに、ポス
トコロナ時代における学生支援は教職員への支援とセットで考えていく必要性について発
表した。査読誌は3誌受理され、1誌目の The Asia Pacific Scholar では、大学における従来
の「教育と研究」の役割に対する「社会貢献」の意味に関して検討している。2誌目の医
学教育では、卒業生調査を通して医師の新型コロナウイルスに関する経験を調査した。調
査結果を基に、医師の経験や知識がパンデミック時にどのように活かされ、またどのよう
な課題が浮き彫りになったかを明らかにした。3誌目の大学入試研究ジャーナルでは、医
学科におけるアドミッションポリシーの実態を明らかにすることを目的とした研究の結果
について報告した。この研究では、医学部入試における選考基準や方法、求められる学生
像についての現状を詳しく分析した。

このように IR 室では本学における教育、研究・社会貢献に関し、国内のみならず海外
からの情報や議論を広く収集、把握した上で研究発表、論文投稿を積極的に行い、本学に
おける"機関"研究の推進に寄与している。

Ⅲ. 総説・解説

Ⅳ. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Sachiko Kasamo, Satoshi Ozeki, Hiroyasu Inoue & Seiji Matsumoto	Expanding social contribution of medical schools: One perspective from a regional medical university in Japan.	The Asia Pacific Scholar.	2023.7
2) Satoshi Ozeki, Hiroyasu Inoue, Sachiko Kasamo, Seiji Matsumoto	What Implications can be Drawn from Physicians' Experiences During the COVID-19 Pandemic for Continuing Education.	医学教育	2023.12
3) 大関智史、松本成史	医師養成課程における「求 める学生像」の実態調査 ーテキストマイニングの手 法を用いてー	大学入試研究ジ ャーナル	2024.3

Ⅴ. 著書

Ⅵ. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講 演会等の名称	発表年月
1) 井上裕靖	ポストコロナの学生支援は教職員支援と セットで考える	北海道 FDSD フォーラム	2023.9

Ⅶ. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 大関 智史	延長	若手研究	医師養成の医学部における教員評価制度の実証 的な比較研究

研究技術支援センター

Research Technology Support Center

I. 所属教員等

研究技術支援センター
教 授 川辺 淳一
教 授 松本 成史
教 授 高澤 啓
准 教 授 伊藤 拓哉
講 師 笹島 仁
講師（学内） 宮園 貞治

II. 研究業績紹介

III. 総説・解説

IV. 論文

V. 著書

VI. 研究発表

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 伊藤 拓哉	継続	基盤研究 (C)	胎子自律神経活性に着目した三種混合薬による妊娠マウス麻酔の最適化
2) 笹島 仁	継続	基盤研究 (C)	ミトコンドリアストレスが誘導する鉄依存的ドーパミン神経変性の克服
3) 宮園 貞治	再延長	基盤研究 (C)	幼少期ストレスによる精神・身体変容の性差を生み出す脳内神経基盤の包括的理解

先進医工学研究センター

Advanced Medical Engineering
Research Center

I. 所属教員等

先進医工学研究センター
教 授 武輪 能明
准 教 授 井上 雄介
講 師 寺澤 武
助 教 佐藤 康史

II. 研究業績紹介

先進医工学研究センターは、2020年1月に医工学の知識を基に最先端の医療機器の開発や革新的な治療技術の発案を行う拠点として設立されました。

主要研究の一つは、組織工学的手法によって作製する心臓弁の開発です。現在使われている2種類の人工心臓弁（機械弁と異種生体弁）以外の第3の人工弁として自己組織由来の生体弁を開発していますが、他の研究とは違い、皮膚の下などの患者さん本人の体の中で弁を形作る鋳型を入れて体が異物を包み込むカプセル化反応を用いて弁組織を作製し、鋳型のみを取り除いて傷害された心臓弁の部位に移し替える方法を考案し開発しています。今年度は、「官民による若手研究者発掘支援事業（社会実装目的型の医療機器創出支援プロジェクト）」および「科研（基盤B）」の研究費を獲得し、小児の先天性心疾患の根治術後の肺動脈弁疾患に対する経カテーテル的留置用金属ステント付き自己組織心臓弁について、企業と共同で形状記憶合金による自己拡張型ステントを試作改良し、鋳型と共に大動物の皮下に埋め込んで自己組織弁を作製し、肺動脈弁位に留置するなど開発を進めました。

もう一つの主要研究は、体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた新規呼吸不全治療法の開発です。最近問題となった新型コロナ肺炎の患者が重症化しECMO装置を用いて治療している場合に、懸案となった生存率と重症ベッドの不足を減らすために患者の気道から薬剤を注入して積極的に治療する方法を開発するという画期的な研究です。昨年度に確立した、大動物（成ヤギ）による重症呼吸不全モデルに、抗炎症薬であるメシル酸ナファモスタットを経気道的に投与するほかに、今年度は全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の治療薬であるシベレスタットナトリウムを投与した際の効果について研究を進めました。

2つの主要研究の他に、新たな医療機器の開発や、革新的な治療技術の発案および人工心臓や人工肺を用いた特殊循環の病態生理の研究等を行っています。

旭川発世界的レベルの医療イノベーションを目指しています。より質の高い移植医療を提供するために研究開発を進めています。

III. 総説・解説

IV. 論文

著者氏名	題目	掲載誌等の名称	発行年月
1) Takewa Y., Inoue Y., Terazawa T., Sato Y.	Investigation of the possibility of substituting an autologous biological heart valve for various valve diseases	The International Journal of Artificial Organs	2023.8
2) Inoue Y., Sato Y., Terazawa T., Yamada A., Takewa Y.	Development of an aggressive therapy to administer drugs directly into the trachea to improve survival and achieve early weaning of patients on ECMO	The International Journal of Artificial Organs	2023.8
3) Terazawa T., Kondo A., Arakawa T	Introduction of "Toy-Creation Contest" in CAD/CAM/CAE Education and Verification of Educational Effectiveness Using Bayesian Networks	Int.J.Innov.Comput.Inf.Control.	2023.10

V. 著書

著者氏名	著書名	発行所	発行年月
1) 高塚伸太郎、西村生哉、井上雄介	医療従事者のための基礎物理学	コロナ社	2024.2
2) Yusuke Inoue, Tomoyuki Yokota, Yoshiaki Takewa	Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare	Springer Nature	2024.1

VI. 研究発表

発表者氏名	題目	発表学会・講演会等の名称	発表年月
1) Takewa Y, Inoue Y,	Investigation of the possibility of substituting an autologous	第 49 回欧州人工臓器学会大会	2023.8

	Terazawa T, Sato Y.	biological heart valve for various valve diseases	&第 23 回世界 人工臓器学会大 会	
2)	井上 雄介,佐藤 康史,寺澤 武,武 輪 能明	ウイルス感染症などに起因する重 症肺炎に対する ECMO 装着下で の経気道的治療法の開発	第 61 回日本人 工臓器学会大会	2023.11
3)	岡本英治, 矢野 哲也, 関根一光, 井上雄介, 自石 泰之, 山家智之, 三田村好矩	超小型軸流血液ポンプ用磁性流体 軸シールの高速回転下における性 能評価	第 61 回日本人 工臓器学会大会	2023.11
4)	Inoue Y., Sato Y., Terazawa T., Yamada A., Takewa Y.	Development of an aggressive therapy to administer drugs directly into the trachea to improve survival and achieve early weaning of patients on ECMO	49th ESAO- IFAO Congress	2023.9
5)	土方亘, 島中晃 平, 藤原立樹, 櫻 井啓暢, 大内克 洋, 井上雄介	磁気浮上インペラの円軌道加振を 用いたポンプ内血栓予防一加振条 件の最適化一	日本定常流ポン プ研究会学術集 会 2023	2023.11
6)	佐藤 康史, 寺澤 武, 井上 雄介, 武輪 能明	体内組織工学プロセスによる新し い自己組織人工心臓弁の開発	第 75 回日本生 物工学会大会	2023.9
7)	寺澤 武, 佐藤 康 史, 井上 雄介, 永吉 智紀, 山田 健人, 紀本 直, 山名 智尋, 堀江 風花, 武輪 能明	AI を用いた数理最適化演算と流体 -構造連成解析による至適心臓弁形 状モデリング手法の開発	第 61 回日本人 工臓器学会大会	2023.11
8)	寺澤 武, 佐藤 康 史, 井上 雄介, 永吉 智紀, 中西 修一, 辻 雅之, 山崎 洸生, 白木 秀幸, 武輪 能明	圧電性ポリ乳酸材料の荷電性が生 体内形成組織の物性に与える影響	第 61 回日本人 工臓器学会大会	2023.11
9)	寺澤 武, 佐藤 康 史, 井上 雄介,	生体内で形成される組織工学心臓 弁グラフトの至適形状探索	日本再生医療学 会第 3 回科学シ	2023.11

	永吉 智紀, 武輪能明		ンポジウム	
10)	一宮 光悦, 寺澤武, 荒川 俊也	敵対的生成ネットワークによる人工病理画像が深層学習の組織検出精度に与える影響	第 112 回日本病理学会総会	2023.4
11)	Yasushi Sato, Takeshi Terazawa, Yusuke Inoue, Kensuke Takamatsu, Kunihiro Ota, Yoshiaki Takewa:	Development of autologous tissue-derived artificial heart valve combined with stent for the transcatheter pulmonary valve implantation	7th Annual Congress of the Asia-Pacific Society for Artificial Organs (APSAO)	2023.9
12)	佐藤康史、寺澤武、井上雄介、武輪能明	生体内組織形成術による組織再生能を有する自己組織由来人工心臓弁の開発	日本再生医療学会第 3 回科学シンポジウム	2023.11
13)	佐藤康史、寺澤武、井上雄介、武輪能明	ステンレス製皮下植え込みデバイスが生体の組織形成に与える影響	第 61 回日本人工臓器学会大会	2023.11
14)	Yasushi Sato, Takeshi Terazawa, Yusuke Inoue, Yoshiaki Takewa	Development Of Transcatheter Implantable Autologous Tissue-engineered Artificial Heart Valve For Congenital Heart Disease	HVS2024	2024.2

VII. 科研費採択状況

研究代表者	採択	種目	研究課題名
1) 武輪 能明	継続	基盤研究 (B)	成長する自家組織由来経カテーテル心臓弁の開発研究
2) 寺澤 武	継続	若手研究	生体内で形成された大動脈弁移植用組織体の計算流体力学的手法による形状最適化
3) 佐藤 康史	継続	若手研究	生体反応を利用した活性型高機能幹細胞回収技術の開発と細胞治療への応用